

実践女子大学図書館
山岸文庫蔵本奥書識語編年集成

横井 孝

緒言

「先年『黒川文庫目録【新版】^①』を編んだ際、諸処に分蔵されるに至った当該文庫の包括的研究としては柴田光彦『黒川文庫目録 索引編』（青裳堂書店、二〇〇一年九月刊、所収）、実践女子大学蔵黒川本については本学の図書館学課程教授であった永田清一の「黒川文庫」（『実践女子大学文学部紀要』第二三集、一九八一年三月）があり、作業を進めてゆくうえでの指標になった。特に永田論稿は稀覯でもあり、有益でもあろうと判断されたので、ご遺族の了承を得て前記『目録』に再録した。

一方、実践女子大学図書館所蔵個人コレクションで最も大きなものである山岸徳平博士の旧蔵書——「山岸文庫」については、戦前に制作されていた博士自身の手になる目録は、蔵書そのものとともに戦火に遭って「椎名町の寓居で、すべて冷灰と化してしまった^②」。その後、孜々として収集された古典籍は、実践女子大学図書館に移された時に、リストアップされたが、蔵書管理のためにつくられたものではないために、外部に披露できる体ものではない。現在、図書館内部で目録づくりが進行中であり、昨年（二〇一七年）二月に「日本漢詩文・儒学篇」が刊行され、本年三月には「仏書・儒学補遺篇」が刊行されることになっているが、全体の完成には相当な日時を必要とする状況であり、かつ、図書館事務方によれば、出納用を主な目的として作成したというが、書誌情報など満足のゆくものではない。したがって、総合的な論稿もいまだ存せず、研究機関として昨今重視される社会的貢献の要目も十分果たしているか疑問なしとしない、という問題があった。

蔵書目録に関して、加藤昌嘉がおもしろい話題を提供してくれている。⁽³⁾

かつて、三田村雅子が文芸雑誌『新潮』に「〈記憶〉の中の源氏物語」を連載していた時、その第一四回「伝伏見院筆」源氏拔書の意味するもの」(二〇〇五年八月)の冒頭に、

高松宮家に伝来してきた数多くの和書は、二十年前に国立歴史民族博物館に入ったまま、目録も作られず、長くその存在を忘れられてきた。⁽⁴⁾

と書いた。これに対し加藤は、高松宮家本が既に博物館のホームページ上で検索できること、一部は叢書として公刊されていること、さらに共同研究もなされていた事実をあげ、三田村の発言が「文字どおり〈記憶〉違いか、さもなければ勉強不足に基づく妄言」と評し、その後当該博物館と国文学研究資料館の連繋展示(うたのちから)において高松宮家本一五〇点が展示されたことをもって、「恐らくは三田村氏も、両館を訪れ溜飲を下げたに違いなく、今もその図録を熟読玩味されていることだろう」と皮肉を効かせる。

ただし、その一方で加藤は「ことほどさように、「どの機関がどういう典籍を所蔵しているか」という情報はなかなか世間に広まらぬもの」ともいい、さらに「所蔵コレクションの書誌調査・目録編纂を「研究ではない」として軽視する向き」があることを指摘する。稿者よりも二〇年余も若い世代の加藤ですら、これを「近年」のこととしているが、露骨に口には出されることはなかったものの、実は牢固としてずっと底流のごとく研究者の間で持続されてきた信念だったのではないか。稿者たちが先年の『目録』を企図した折にも、「不学非才の者が目録に手を出すべきではない」という意味合いの忠告を、敬愛する老大家から頂戴したこともあったし、稿者若年の折にも「目録づくりは業績にならない」と直言する同世代の研究者がいた。同様の経験をもつ方も少なくなからう。

しかし、黒川文庫の目録を作成した時にも明言したことではあるが、「ひろく情報を共有財産とし、さらに識者に

諮ることによって補完を果たしてゆ⁽⁵⁾くためにも、まず叩き台となる目録の類は必要なのである。そうでないかぎり、右のような通念がこの業界にある間、いつまで経つても目録は陽の目を見ないことになる。ごくごく狭い仲間のなかの事情通のみが、かろうじてその一部を利用できるだけなのだ。コレクションが法人の資産である以上はそれなりの限界がないではないが、文化財として保存するためには公共の財産として認知せしめる努力が必要であろう。あえて苦言を呈するならば、これまでの関係者にはこうした見地での熱意も努力もなかった、結果して怠慢であった、という批判を甘受しなければならぬ。もちろん現役の職員である稿者の責任を最も重しとすべきであろうが。

今回、その責の一端を補うため、山岸文庫本の書誌データのなかから特に識語・奥書等を抜き出し、山岸徳平博士の研究態度と文庫形成の様相を一覧してみた。

山岸文庫本のいづれかでも調査された方であれば、山岸本のかんりの書冊に山岸博士による奥書・識語・覚書がこざれていることは周知の事実ではあるまいか。それこそ「事情通の間」のことではなかろうが。本誌でも山岸本関連の論稿には、書誌情報のなかに盛り込まれていたはずである。それらは、あるいは単に当該書の購入の記録であることもあり、当該書の諸本についてのメモであったり、当該書を入手したころの所感であったり、と多岐にわたる。一学究の研究の記録というだけでも興味が尽きないが、かならずしもそればかりではない。それらは総合すれば、おのずと昭和という時代の国文学研究史の趣を呈している。総体としては「記録」であり「資料」でもあり、かつまた学非才の稿者などへの「教材」でもある。埋没させるには惜しい資料である。文庫全体を俯瞰することのできる目録や収録の公刊、あるいはそれらによる総合的な研究に至るまでまだしばらく時が必要であろうから、限定的ではあるが、その間の繋ぎの役割をも期待できるのではないかと思う。活用方法の模索として、私に最近いくつか試みたことがある⁽⁶⁾。参照をお願いしたい。

本緒言末に、参考のため、「奥書」の例をごく一部だが、参考に供したい。資料類で写真のない稿は、信用するに値しないと思うからである。

注

- (1) 『実践女子大学図書館所蔵 黒川文庫目録【新版】』（文芸資料研究所、二〇一一年三月刊）。
- (2) 山岸徳平「著作集のあとに」（山岸徳平著作集Ⅴ『説話文学研究』有精堂、一九八二年一〇月刊）、四九三頁。
- (3) 加藤昌嘉「連繫展示（うたのちから）を終えて」（『The Humanities Review』論壇 人間文化）第一号、二〇〇七年三月）。以下の引用は、一五〇～一五一頁参照。
- (4) 三田村雅子「〈記憶〉の中の源氏物語」第一四回「伝伏見院筆『源氏拔書』の意味するもの」（『新潮』二〇〇五年八月）、二七四頁。なお、同連載は後日『記憶の中の源氏物語』（新潮社、二〇〇八年二月刊）に纏められ、高松宮家に伝来してきた数多くの和書は、二十年前に国立歴史民族博物館に入った。（二二二頁）と改め、連載時の「まま、目録も作られず云々」は削除された。但し、参考文献目録には、加藤の力の字もない。皮肉たっぷりの加藤と、無視した体の三田村と、この応酬は外野には面白い。
- (5) 注(1)『目録』緒言「実践女子大学の古典籍と黒川文庫」、四頁。
- (6) 別稿として、「山岸徳平博士の現写本考——実践女子大学図書館山岸文庫蔵本識語編年資料から」（『実践国文学』第九一号、二〇一七年三月）、「山岸徳平博士の物語研究一斑——実践女子大学図書館山岸文庫蔵本奥書識語編年資料から」（『実践国文学』第九二号、二〇一七年一〇月）などを参照されたい。家族や教え子たちに臨模させた現写本が数多いことも山岸本の特徴のひとつであるが、そこには豊富な奥書・識語があつて、書写や校合のころの博士の研究の進展や身辺の状況・感懐が読み取れることを指摘した。また、「山岸徳平博士の『源氏物語』研究一斑——実践女子大学図書館山岸文庫所蔵本の識語調査から」（二〇一七年六月一〇日、中古文学会関西西部会、於大阪府立大学）でその一部を口頭発表した。

〔写真一〕『遺塵和歌集』（山岸三六一〇）奥書

遺塵和哥集 一卷 圖書寮本也
 靈元天皇御宸筆者也 題發亦同矣
 無射既望借臨見後到鶴岡八幡見流騎馬神文
 如倒李入夜飯來一添後字六葉了半夜雨色潛
 々十七日曜有雨又風火々散髮密沍沍木竹拍
 圍主人問昔有筆集約十後四時半之訪問云云
 午後到竹拍園見昔有筆抄錄余期書字之款葉
 卷三一冊而已精查而五時廿分許去途中過大塚
 研究室飯未卷三三葉之書字焉他皆寄於家中
 中者也十八日少雨復曇所在立家雨之由涼氣漸
 至有三省堂之會 夜回家送書字全四葉許書
 字十九日火 廿日水 廿一日木 廿二日金 廿三日土 聖島雨
 無時有之半夜十重全書之 廿四日快晴矣涼矣
 午後一時了 午前中有未寄字匣屋未矣
 昭和十一年秋季皇冕祭之日
 山岸迪合識

〔写真二〕『五代簡要』（山岸三八五五）奥書

五代簡要 一卷 彰考館藏本也
 今年八月廿九訪彰考館依囑騰寫
 不書日多紙數今日漸送來矣乃記其由
 者也
 昭和十六年十月廿六日夜 岸迪合
 今日與子習院運動會
 後恒例而余老六哩受無疲勞云
 同年十月下旬於圖書寮
 製本了了

細川護身氏控六 出齋公筆ノモノ在ナリ
 長持者号 午卯廿六ノ六印
 出齋公 上下五行簡安 上齋公
 上清少納言批字子
 一冊 大和物語 也定新筆
 則書言文籍之内蔵神林三ノ天
 吉吉花押

昭和十五年十一月牛渡 於細川護身氏控
 根所ノ轉字因氏之控 右其内五代簡要開
 係之記載也
 今不載于此圖書庫藏書解說目錄中 展落報
 五ノ 昭和十五年十月五日有記之 岸迪合識

20716

楢葉集

(東寺本者下卷)
前田家角上卷也
一卷 東寺圖書室館藏本也

臣 橘氏轉字本 書字了

于前中 揮毫
若者也 考迹
昭和三十五年 七月十三日記之

岸 廻人 記

昭和二十七年九月二十二日二十四日兩日

東京文理大國語國文学會舉行 偶見石井氏借覽
楢葉集而 二十四日夜借覽 書字 五十五葉為葉下
完本者也

九月三十日 夜若千葉書字

二十五日 夜中 猶三葉殘

二十二日 家内風氣 瀧川氏未訪 夜竹園未訪

二十七日 順宮御茶合 於侍從職之 前 御堂
主人

二十八日 於竹園中 書字 四葉殘

二十九日 朝余 書字 一校了

昭和二年 三月四日 二十九日 朝湯之

春雨夜々行書陵部 見慶融筆本轉字正應三年
拾遺集書陵部藏慶融本之轉字本同一而高
松宮家三代集中之拾遺集同系本也
但現在家古字拾遺集收 價格拾六兩也云

一覽了 購入手筈 嗣後一條亭以後至 高倉亭
皇后 女御 閑徑之事蹟矣

楢葉集 自卷一上卷 在前田公家尊經閣 之他日
書字者也 昭和三十九年 二月廿日夕記之

岸 廻人 識

例言

本稿は、実践女子大学図書館山岸文庫所蔵本のうち、山岸徳平博士の筆による奥書・識語をとりあげ、書目ごと編年体で表示したものである。「山岸徳平博士の筆による奥書・識語」とするのは、博士以外の筆になる識語——たとえば、博士の意を体して書写・校合した旨の教え子等の識語等も、当該文庫本にはまみ見出すことができるからであり、ここではそれらを除外することとした。特に、岩波書店・日本古典文学大系『源氏物語』の本文校訂をする際の調査の一環であろうか、各地の文庫の写本を閲覧し、その本文を校合するために『湖月抄』等に書込をした際の鉛筆書ものは、博士の研究活動に密接に関連するものではあるが、上記の方針に従って省略することとした。表示するにあたって、以下のごとくに纏め、掲示した。

- 1 各項目は、年（元号・西紀）／月日・書名・識語の順に掲げた。年月日については、識語内に調査・書写・校合の各年号が混在する場合があるが、書写記事を優先して当該の日付の箇所に位置せしめた。
- 2 書名は、題簽名などをおもに通称などを記した場合もある。活字本・複製など古典籍類でないものも、識語のあるものはなるべく拾い上げることとした。それらについては、奥付等を付記し、古典籍と分別できるように注意した。
- 3 識語は、山岸徳平博士の筆跡のものを採り、当該書目の諸本等についての覚書は識語に接続するものはなるべく掲載し、紙幅を大きく採るものは省略した場合がある。また、山岸文庫に蔵される過程において、意味のある他者の識語も掲示することとした。

斜線／は、改行を示す。上向き二重カギ』は、改丁または丁の表裏の移りを示す。

また、朱書・墨書の差異、ミセケチ・傍記等については、煩雑ではあるが、へゝ内に注記した。丸括弧パーレンはしばしば山岸博士の識語内に見られるため、稿者の注記には用いていない。

4 識語の記載位置は、区別する必要のある場合はそれを明記し、書冊の(一冊のうちの)末尾(奥)の場合はいちいち示さず省略した。

文芸資料研究所では、その当初の仕事として永らく山岸文庫の調査作業にあたり、詳細な書誌カードを作成してきた。本稿はそれらに依拠すること大きい。但し、その作業は多年にわたり、カード作成者も指導的立場の職員も多人数が関わってきたために、作業方針が一貫しておらず、不十分なところが少なくない。今回あらためて調査し直さざるをえないところも少なくなかった。但し、稿者のそれは忽卒の所業であり、過誤・遺漏があろうことも十分に予測される。あくまでも目録類の常として、暫定版として取り扱われることを切望する。

大正二年癸丑(一九一三)

| | | | |
|------|----------|------|-------------------------------------------------------------------------------------------|
| 7月上旬 | 狭衣(狭衣物語) | 一二三八 | 〈系図の冊〉承応三年秋／紀元二千三百十三年／後光明天皇の代 家綱將軍の代／はやくき月日のなかれなるかも／大正二年夏七月／紀元二千五百七十三年。〈句点ママ〉／伊比るの里にて山岸徳平 |
| 夏 | 古今和歌集 | 五三九一 | 〈下紐の冊〉天正十九年三月九日紀元二千五百七十三年山岸徳平 ／〈表紙見返〉古今和歌集一卷／大正二年夏／ 内野村若杉伯母より ／ 岸廼舎 |

大正三年甲寅(一九一四)

| | | | |
|---|------|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 秋 | うつら衣 | 一〇四八 | 〈上冊〉大正三年／岸廼舎 〈下冊〉鶉衣(正篇)〈丸括弧ママ〉三卷／同続篇 三卷／同拾遺 三卷 尾張名古屋東壁書房版／同拾遺(後篇二上中／拾遺一下)三卷 巴人亭主人序 葛屋版／以上四部十二巻板本有也、此二巻 板本ノ正篇ニアタルモノ也／板本ヲ以テ写シ取レルモノナル事矣 大正九年十一月二日以松井氏蔵本／附記 岸廼舎／大正三年秋／岸廼舎 |
|---|------|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

大正四年乙卯(一九一五)

| | | | |
|-----|----------|------|-----------------|
| 5月 | 愚秘抄 | 一六〇 | 大正四年五月／ 岸廼舎／ 蔵書 |
| 11月 | 新撰和歌集 | 五九五八 | 大正四年十一月小石川 岸廼舎 |
| | 土御門院御製百首 | 五九二四 | 大正四年 求之 |
| | 水天宮御利生記 | 一九八七 | 大正四年／岸廼舎 |

大正五年丙辰(一九一六)

| | | | |
|-------|-----------|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1月15日 | *東仙詩鈔 | 九〇四 | 〔坤〕卷表見返寄宿舍棄古本如土芥／我請圖書委員齋敷部／僅敷部之書於我有太牢之滋／矣 因記之云爾 大正五年一月十五日／岸廼舎 〔明治31年1月2日 著作者・竹内貞 発行元・裳華書房〕 |
| 3月27日 | 萬葉集佳調 | 三九〇〇 | 大正五年三月廿七日夜／恩師十三四才の頃万葉集佳調をよみそらにお／ほえてか、れしとなん。あゝこの夜。我 |
| 4月 | *安德天皇潜行遺蹟 | 二七三五 | 大正五年四月／岸廼舎 〔編述者・高山昇／発行所・皇典講究所印刷部〕 |

大正六年丁巳(一九一七)

| | | | |
|--------|--------|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 11月26日 | 極彩色娘扇 | 一〇〇一 | 大正六年十一月〔廿〕補入／六日／佐々文學博士火葬之日／代々幡の野辺の煙のほる／行へもしらす心はまどふ〔落書か〕／徳川文學には淨瑠璃も重要な地位に有る／丸本を読みなれておくことも必要だ／佐々博士の言葉也 |
| | 義仲勲功図会 | 一二二五 | 義仲勲功図会五卷／内野村 藤田家旧蔵本也／追憶則／大正五六年交／入手歟 |
| | 義経記 | 一二〇八 | 元禄二年版ノ再版本之版式同一也／義経記欠本 大正中期中入手本也／内野村藤原田蔵本也 |

大正八年己未(一九一九)

| | | | |
|------|--------|-----|-------------------------------------|
| 3月2日 | 義経勲功圖會 | 五八二 | 義経勲功圖會前編五冊／大正八年二月盡／岩田九郎君寄贈／三月二日 岸廼舎 |
|------|--------|-----|-------------------------------------|

| | | | |
|--------------|---------------------|------|----------------------------------------------------------------------------------------------|
| 4月 | 深秘口伝集 下 (石見女髓脳上) | 二四七 | 〔上冊〕深秘口伝集二冊石見女髓脳同書也／石見女髓脳 坊間希有也 言痛髓脳也／本書誤附上下矣／ 昭和十四年夷則既望日識之／岸廻舎 〔下冊〕大正八年孟夏於牛込柳街求焉／岸廻舎 |
| 6月21日 | 明倫歌集 | 九一八 | 〔第一冊表見返〕寄贈／大正八年六月廿一日／東京女子高等師範学校／図書館 廃棄本中より／岸廻舎 |
| 8月上旬 | 出定後語 | 二〇三三 | 仲基 通称 道明寺屋吉兵衛 大阪之書肆也。師事于〔補入「宮家萬年」〕／而学陽明月、著「説敵」破 儒及諸氏矣。萬年ハ石庵、観瀾ノ弟也 赤川本之内 二冊／ 大正八年八月上浣／山岸蔵書 |
| 10月17日 | 狂文章戯範笑林 | 四八七九 | 大正八年十月神嘗祭日／岸廻舎 |
| 11月14日 | 枕草子春曙抄 | 四二六 | 〔墨書〕大正八年十一月十四日お茶の水にて／前日夏蔭書入本ニ依リテ讀了 〔鉛筆書〕大正十年六月十三日／佐々木信綱氏古本（飛鳥井雅資手写本）〔丸括弧ママ〕を以て一覽するに順序ちがへり |
| 大正九年庚申（一九二〇） | | | |
| 9月13日 | 魏武帝註 孫子 | 四四二八 | 大正九年九月十三日於本郷 岸廻舎 |
| 11月22日 | *日本楽府 | 一二七〇 | 本書多誤植、聊訂誤字／施頭註者也／ 大正九年十一月廿二日誕辰の夜、〔読点ママ〕／岸廻舎 〔明治43年2月5日発行／印刷所・三協印刷／発行所・文学書院〕 |
| 12月17日 | 松竹梅女水滸伝 | 五四七 | 合巻、巻中二、三葉脱落あり／三馬の合巻なり／大正九年十二月十七日／岸廻舎 |
| 12月25日 | 日記故事大全 （冊本） | 四五八五 | 〔第九冊〕常磐津八部綴大正九年十二月十七日 岸廻舎 〔第一四冊〕大正九年十二月十七日 岸廻舎 大正九年大呂二十五／岸廻舎 |

大正一〇年辛酉(一九二二)

| | | | |
|-------|------------|------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 5月4日 | *註釈 山上憶良歌集 | 五二〇六 | 〔青ペン書〕大正十年端午の前日／岸廻舎 〔明治43年10月1日／著作者・井上頼文／発行所・会通社〕 |
| 6月13日 | うつつほ物語 | 一一七〇 | 此本或綴一冊分有／書于標紙上下者。／同一書之 大正十年六月十三日／岸廻舎 |
| 8月 | とりかへはや | 一二四五 | 取替婆也 五冊 無奥書等者也／大正十年孟秋於本郷／求焉 中村善七店也 ／別有字津保写本矣 高價／当時堵大唯購本書而已／於礪川区白山殿街僑居 識之／岸廻舎〔丁移〕 |
| 10月 | 燈前夜話 | 四五七七 | 取かえは也物語 写本多多有焉古本既湮滅乎／松井本／図書寮本／内閣本／ 彰考館本／会津図書館本卷四欠 大正十年秋十月求焉／岸廻舎識 |

大正一一年壬戌(一九二二)

| | | | |
|--------|----------------------------|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1月10日 | *古今狂詩大全 (東洋文芸全書 第八編) | 一七六〇 | 〔青ペン書〕大正十一年大簇旬／本郷白山上にて／岸廻舎 〔明治23年10月31日出版 編輯兼発行者・弓場重光 発行所・博文館〕 |
| 3月2日 | 和漢故事談 | 三三三二 | 和語連珠(和漢故事語)五冊今為一冊也／／大正十一年三月二日／岸廻舎 |
| 6月27日 | 手枕 | 一一三二 | 大正十一林鐘廿七日／岸廻舎 |
| 11月21日 | 石橋山根元記 | 一〇九七 | 春英 勝川氏、春章之門人 九德齋ト号ス、文政二年歿、五十八歳 宮原方 ／／石橋山根元記、一冊 南柚笑楚満人著／大正十一年壬戌十一月廿一日於 本郷求／岸廻舎／此書絵本根元石橋山記ト標題シテ／上中下三冊ノ物也 上・ 九枚マデ／中・十七枚マデ／下・廿五枚マデ |
| | 源平軍物語 | 一〇九八 | 源平軍物語一冊 南柚笑楚満人著／北尾政美、通称ハ鋏形蕙齋、始メ北尾重 政／ニ学ビ後谷文晁ノ門ニ入ル、文政七年歿ス／／大正十一年十一月廿一日 於本郷求／岸廻舎 |

大正一三年甲子(一九二四)

| | | | |
|-------|------------------------------------|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 5月26日 | 方丈記(略本系長享本の現写本) | 三四九四 | 異本方丈記一冊 珍書同好会贈写 / 刷ヲ書写ス。大正九年七月橋本進吉氏 / 以右為底本更校水戸彰考館藏本 / 而書加 異同終矣 / 余借得橋本氏本書写于晚春燈下 / 草忽也 / 大正甲子十三年蕤賓二十有六 / 於本郷駒込橋居 山岸廻舎誌 / 駒込吉祥寺前於養昌禪寺仮寓 |
| 6月25日 | 伊勢物語考異 | 一一五一 | 大正十三年 林鐘廿五地久節之日求之 / 岸廻舎 |
| 7月 | 桜陰腐談 | 三三二五 | 〈表見返〉桜陰腐談卷一、〈読点ママ〉卷二即上下完本也 / 大正甲子夷則求干本郷街之書肆 / 岸廻舎 |
| 8月 | 拾遺抄(群書類從第四百四十六和歌部一) | 五三 | 大正拾參年八月 / 岸廻舎 |
| | 讚岐典侍日記(群書類從卷三三二二日記部三) | 四五九 | 彰考館藏無名物語写本二卷 讚岐典侍日記也 / 奥云 / 文庫開基 / 法橋宗茂 / 右無名物語以鹿島文庫古写 / 本写之 文政四年八月松之舎主人 / 大正十三年 南呂 / 岸廻舎 |
| | 弁内侍日記(群書類從卷三三二二上日記部四) | 四六〇 | 大正拾參年南呂 / 岸廻舎 |
| | 玉造小町子將衰書一 / 新猿樂記九(群書類從第三百三十六文筆部十五) | 五〇三 | 大正拾三 ^甲 南呂 / 岸廻舎 |
| | 後篇古實今物語 | 五三三 | 大正十三年南呂 / 岸廻舎 |

| | | | |
|--------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 8月 | 多武峯少将物語 鳴門中将物語 語(群書類従第 四八二) | 一二四八 | 大正拾三年八月 岸廼舎 |
| 時秋物語 今物 語(群書類従第 四八三雜部三八) | 一二六七 | 大正拾三年八月岸廼舎 | |
| 国歌集 | 三二四三 | 〔朱書〕増補國華集二冊作者未詳也／ 〔墨書〕大正十三 ^甲 子龍舎南呂／於朱込求 岸廼舎 | |
| 歌合(一五冊) | 三九六 | 〔朱書〕歌合虫喰本取雜一括／九条家蔵本也／大正十三年秋黒門町廣田にて／ 求之。甲乙トアルハ二冊アリシモノナリ。一部ハ／小川寿一二与ヘタリ | |
| 頭書一言芳談抄 | 二四九一 | 大正十三年秋 岸廼舎 | |
| うた、ね (前田家本の現写 本) | 三五一七 | 右者前田侯所蔵宇多々祢一帖之写也／前田侯本枕本而紙数墨付三十八葉影写 ／本也表紙有松雲公書付／予訪前田家四度日 夷則廿一晴 黄鐘廿一微雨／ 蕭々大呂三晴 同旬日雨後晴色和煦 倉／卒而書写畢于時午後三時半也／ 本朝 書籍記増補云うた、ね阿仏尼作／ 宇多々祢一冊在伊勢神宮文庫 他日／ 得機須校合者也／ 大正十三年大呂旬日於小石川大塚窪町／ 之僑居識之夜 沈々兮 岸廼舎 | |

大正一四年乙丑(一九二五)

| | | | |
|------|--------------------------|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2月下旬 | 堤中納言物語 (書陵部本の現写 本) | 三三二五 | 異本堤中納言「言」脱か、ママ物語 写本一卷 旧清水浜臣蔵本也／蔵于宮内 省図書寮／大正十四年三月令高野孫三郎氏書写畢頗存原／本之趣矣 五月 七日於図書寮一校了／岸廼舎／異本堤中納言物語一卷別在靜嘉堂文庫以他日 須／校合者也 大正甲子蕤賓第七日 岸廼舎又識／同一系統本在無窮会 右 三本殆無異同矣／ 昭和二竜集丁戌夾鐘下浣／ 於小石川大塚窪町僑居 又識岸廼舎 |
|------|--------------------------|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

| | | | |
|-------|-------------------|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 5、6月 | 秋津島物語 | 三四五〇 | 秋津島物語一卷模写桂宮本也此書／疑一卷而已歟／恐末葉二三脱落歟／大正十四年五六月之交高野孫二郎氏書寫於／湘南鎌倉焉 同年夷則七月十七日於礪川橋居一校了 岸廼舍識 |
| 6月上旬 | 更級日記(御物本の影印本) | 三五二三 | 大正十四年林鐘上浣 玉井氏より／ 岸廼舍 |
| 6月 | 秘藏録 (姉小路式) | 一五四 | 光淳者坂將曹、烏丸墨(ミセケチ「卜」傍書)山翁之門而蜀山人少年時代／學和歌于斯翁矣。事洋于蜀山之隨筆禁之塵也／ 岸廼舍 天仁遠波秘伝抄即姉小路式也／倭歌秘藏録与姉小路式大同而聊有出入／手尔於葉抄省略姉小路式中之「可」の上に「之」重ね書き「口授条々矣／右三書姉小路式而各々有多少之差而已／ 大正十四年六月 岸廼舍 |
| 10月3日 | 義経記 (書陵部本の現写本) | 一二一〇 | 大正十四「八」の上「四」重ね書き「年六月之交与柳谷武夫氏同道／訪楠田家而受領義経記及茶器辨玉集矣、〈説点ママ〉 |
| 10月上旬 | こけ衣・卷一 | 三三三三 | 大正十四年十月三日高野孫二郎氏／於鎌倉書寫畢／原本宮内省圖書寮藏寫本也／岸廼舍記 |
| 10月下旬 | 酒典童子物語 | 二二九一 | 大正十四年十月上浣／為久邇宮邦英生殿下游泳御卒業記念識／岸廼舍 |
| 10月 | 三王外記 | 二七六八 | 憲王常憲院綱吉 文王文照院家宣 有章院家継／／三王外記三卷太宰春台撰也、或曰洪井大室撰／歟、訊洋子／／ |
| 秋 | 古孝子伝 | 四五一六 | 大正十四年十月下浣／琳琅閣書林にて求む／岸廼舍識 |
| 11月 | うたふくろ(歌袋) | 三八八四 | 〈包紙〉大正十四年十月／岸廼舍 |
| 秋 | 源平盛衰記図会 | 一一三一 | 大正十四年秋／牛込柳街にて |
| 11月 | 日本靈異記 | 一三三三 | 日本国現報善惡靈異記上中下 三卷、類従本也／大正十四龍集黃鐘 岸廼舍 |

| | | | |
|-------|------------------------------------------------------------------------------|------|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| 6月24日 | (本) 松しま日記 (書陵部本の現写) | 三三二二 | 大正十五年林鐘中澗於學習院別寮／書写畢／宮内省図書寮本松島日記一冊／九行二十五字許之本 墨付八枚半別／在奥書／大正十五年林鐘廿四 一校了 |
| 4月30日 | 解 仏説阿弥陀經要 | 二二二二 | 大正十五年仲呂晦於本郷／岸廻舎 |
| 4月中旬 | (本) 新撰髓腦 和歌 秘々 和歌九品 八代集秀歌 毎月抄 金玉集 海士手子良集 三牀和歌 堀河 院艶書合(△白綴) | 一一三二 | 新撰髓腦以下八「八」朱でミセケチ「九」朱傍書部抄也故今仮名九「九」朱でミセケチ「一〇」朱傍書部抄爾云／大正十五年丙寅仲呂中澗於本郷求／岸廻舎 |
| 1月14日 | 弘安源氏論義 | 一一三九 | 〔朱書〕大正十五年一月十四日〔以〕補入宮内省図書寮本一校了／図書寮本与類従本全同矣無異同之／大正丙寅大簇十四、岸廻舎記／／大正十四年無射欲書記源語研究之初期求于本郷／岸廻舎識 |
| 1月3日 | *青蓮歌集 | 三八〇六 | 〔包紙裏〕青蓮院宮御家集 一卷／大正十四年冬十二月／久迩宮家より賜る／／呉竹のよ、にしけりて深みとり／竹の園生よいやさかえませ／大正十五年一月三日 |

大正一五年／昭和元年丙寅(一九二六)

| | | | |
|--------|--------|-----|----------------|
| 12月19日 | むし歌合評判 | 三八七 | 大正十四年大呂十九求 岸廻舎 |
|--------|--------|-----|----------------|

| | | | |
|--------|---------|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 7月19日 | 阿佛吾妻くたり | 三五二五 | 阿佛吾妻下一冊中型本九行二十乃至二十一字／本文二十六葉冊子也 卷末有考證不知／大進匡聘何人矣／右藏干圖書寮有松岡本之標 流／布十六夜日記異本云云說要一考／予際学期末多忙際急遽書写、秀／第不動如意文字草卒粗雜也／大正十五年七月十九日書写畢／於大塚橋岸廼舎／（以下朱書）同年大呂五日於學習院別寮一校了／岸廼舎再識／／於三条西伯爵家製本者也 |
| 10月 | 真名伊勢物語 | 一一六二 | 大正十五年 應鐘中浣／岸廼舎 |
| 12月18日 | *藻屑物語 | 三四〇五 | 〔青ペン書〕大正十五年大呂十八／岸廼舎 〔明治29年1月10日発行〕編纂兼発行者・慶養寺住職 浅野良應〕 |
| | 義経記 | 一一〇八 | 元禄二年版ノ再版本之版式同一也／／ 義経記欠本 大正中期入手本也／内野村 藤屋旧蔵本也 |
| | 齋東俗談 | 三二二四 | 大正末年牛込柳街にて／求めたる書の中なり |

昭和二年丁卯（一九二七）

| | | | |
|-------|---------------|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2月6日 | 田上集（書陵部本の現写本） | 三七二七 | 田上集 写本 一卷 図書寮蔵本也／右一卷歌集歌員八十首〔補入〕俊頼之集〔四字赤傍線〕也／昭和二年姑洗〔二字ミセケチ右傍書〕夾鐘〔高野孫二郎書〕〔補入〕〔写〕于近／衛第一聯隊兵舎焉／大正天皇御大葬前日於小石川橋舎一校了／原本者桂宮本歟／ 昭和二年二月六日／岸廼舎識 |
| 5月上旬 | 仏説百喻経 | 二一八三 | 〔朱書〕昭和三年三戌辰重陽之日神宮文庫本一校了、／神宮文庫本昔邑井敬義蔵本也、与宮内省本比較／殆无差異也 今以序聊書附者也。〔句読ママ〕／十行本墨附十三葉 溽暑如夏 岸廼舎又識 |
| 5月30日 | 棕隠翁嵯峨小稿 | 九八五 | 〔墨書〕高松宮家 又蔵田上集二部矣／田上集一卷 源俊頼之集而非経信〔補入〕之〕集也／歌書綜覧誤為経信之集矣 大正之翌 昭和二竜集丁卯蕤賓中浣／上田博士送別之夜於本郷求 岸廼舎 〔別紙貼付〕棕隠翁嵯峨小稿／合一冊／昭和二年五月三十日 |

| | | | |
|--------|----------------------|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 8月11日 | *新葉和歌集 | 三六〇〇 | <p>〔朱筆〕昭和二年南呂十一日以圖書寮古写本一校了／昭和二竜集卯南呂十九日一校了〔以〕補入〔圖書寮古写本〕此書誤植鮮少也有朋堂文庫誤植甚多不可憑岸廼舎〔明治四十四年十月廿五日発行／編輯兼発行者・大日本歌道奨励会出版部／右代表者・大町壯〕</p> |
| 8月中旬 | 原中最秘抄 | 三二二八七 | <p>〔上巻〕原中最秘抄 上巻 以 前田家本之伝写本書写畢／右伝写本者誤字不鮮 須他日得善本〔而〕補入 校合者也／昭和歲次丁卯南呂中浣令少女兒書写畢／〔于〕補入〔岢秋風律呂寒蟬告新涼唧々陰虫声似促／親燈焉 岸廼舎〕</p> <p>〔朱書〕陽名介之条所引源中最秘抄〔中秘抄〕ミセケチ〔氏談義〕〔右傍書〕者扱于三条西家藏本也／〔墨書〕丁卯八昭和二年ナリ</p> <p>〔下巻〕原中最秘抄 下巻 如所言于前巻矣／昭和竜輯戊辰姑洗上浣倉卒書写畢／以家中女子書写了于烟霞遠近柳眼猶眠矣／岸廼舎</p> |
| 8月31日 | あこきのさうし | 三三六一 | <p>于岢昭和竜集乙卯南呂晦也焮風颯々／于窗前神路山上時正初穠也余在／神宮文庫而倉卒影写焉夕暉／微而聞窓外蕭殺之声而已</p> |
| 9月30日 | 袋法師絵詞 (書陵部本の現写本) | 三三八七 | <p>袋法師絵詞一卷以圖書寮藏本／書写畢／称殿居囊冊子一卷〔稀有〕補入稀有流布於坊間者矣／〔構想類焉〕ナミ字補入予書写于燈下〔窗外〕補入陰虫切々秋霖蕭々矣／昭和竜集丁卯無射晦／於荒井僑居／岸廼舎識</p> <p>袋法師拔画 写本一冊 在神宮文庫</p> |
| 10月17日 | 種玉菴宗祇伝 | 二八〇〇 | <p>種玉菴宗祇伝一冊圖書寮藏本也／昭和二竜輯丁卯応鐘下浣書写畢／合都紫書写一部畢矣 応鐘念有七日識／以念又八日一校了 岸廼舎</p> <p>〔朱書〕昭和歲次戊辰〔補入〕姑洗七得閑以朱聊書付者也 于岢春光和照 谷風習〔補入〕々々／岸廼舎</p> |
| 12月15日 | 行尊大僧正集 (書陵部本の現写本) | 三七三〇 | <p>行尊大僧正集異本蝴蝶装枕本一冊／圖書寮藏本也／昭和龍集〔右傍書〕二年丁卯大呂望影写畢／同下浣一校了／岸廼舎識／別在行尊大僧正集／他日須可書写者也</p> |

| | | | |
|-------|---------|-----|----------------|
| 12月中旬 | 和歌古語深秘抄 | 一四八 | 昭和歲次丁卯大呂中浣／岸廻舎 |
|-------|---------|-----|----------------|

昭和三年戊辰(一九二八)

| | | | |
|-------|----------------------|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1月3日 | 源氏小鏡(慶安版) | 八四七 | <p>〔上卷前見返〕昭和^{龍集}戊辰大簇三／西京にて求 河原町通、其中堂／岸廻舎 〳〵圖書寮藏源氏の註小か、み卜対校ス 〔上卷1ウ〕〔朱書〕以圖書寮本源氏註小鏡校合矣与版本有異同〳〵又以寮本補卷 首一枚〔墨書〕。圖書寮写本亦同系而本文稍〔有〕補入〳〵出入、今模写卷首一枚、 処々以朱校合焉〳〵 〔鉛筆書補入〕〔後二〕「源氏の註小か、み」影写シタレドモ人ノタメニ借り失 ハリタリ。昭和二十二年三月記之)</p> |
| 1月中旬 | 種玉編次抄 (書陵部本の現写本) | 三二九一 | <p>種玉編次抄写本一卷 宮内省圖書寮藏本也令家中女子書写之〳〵昭和三年龍集 戊辰大簇中浣起毫同年二月上澣書寫畢〳〵立春之後二日一校了 寒月照庭雪朔 風渡寒〔寒〕字ミセケチ「疎」字右傍書〳〵林ノ于時夜漏沈々重三更矣 岸廻舎識 〳〵柳原子爵本一冊有之〳〵如此之表紙皆囑于三条西家〳〵製本者也</p> |
| 2月8日 | 源氏物語積(源氏積)(書陵部本の現写本) | 三二八一 | <p>源氏物語積 写本一卷 圖書寮本之缺本、〔読点ママ〕〳〵〔欠〕補入〳〵濡標之 卷以下矣 前田侯爵家藏源氏積一本矣他日須〳〵補缺書寫校合也〳〵昭和 三年歲次戊辰夾鐘朔起筆 同 立春之翌日擱毫矣〳〵同年二月八〔八〕朱書〳〵日 一校了於目白學習院〔於目白學習院〕朱書補入〳〵 岸廻舎</p> |
| 2月28日 | 小野篁集 (書陵部本の現写本) | 五二二二 | <p>小野篁集一卷 以宮内省本書写〔影写也〕傍書〳〵篁日記之名称見干河海抄 花鳥餘情矣〳〵而不知其所在事茲有年幸〔得〕補入〳〵右一卷囑ノ東高師川瀨氏終 影写焉此書与信生ノ法師集同裝禎也文字又同筆歟〳〵古人曰事在勉彊而已 日 月逝矣我与事〔我与事〕ミセケチ科ノ不我延云旃勉哉〳〵昭和三年戊辰二月廿 六日夜ノ岸廻舎識〳〵二月廿八日一校了〳〵〔以下朱書〕五年南呂中浣以朱一校書 入畢</p> |

| | | | |
|-------|--------------------------|--------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2月下旬 | 行尊大僧正集 (書陵部本の現写本) | 三七三二 | 行尊大僧正集 一卷／右宮内省図書寮蔵本也／昭和三年戊辰二月下浣令家／中女子書写畢／ 《朱書細字》同姑洗下浣一校了於図書寮(四字ミセケチ)／岸廼舍／以一本再校了、／右一本図書寮本古写者也 称イ本而(某字に重ね書き)書付者也 |
| 2月 | 古今集考異 (書陵部本の現写本) | 三八七六 | 古今集考異 貞應嘉禄本 一冊 宮内省本也／右一冊智仁親王御親翰也、昭和歲次戊辰孟春／得閑影写親翰本畢、御本文字如流水、不甚易、讀矣、／于時日通桑榆、四顧將曖々、呵毫倉卒書写直(直)ミセケチ而速刻、以朱一校了、夾鐘念有六、岸廼舍識(説点は朱筆) |
| 3月15日 | 經正朝臣集 (書陵部本の現写本) | 三七四九 | 經正朝臣集一冊以図書寮本書写畢／昭和三年弥生望の夜書写畢／岸廼舍 |
| 3月中旬 | 源氏男女装束抄 | 三二九五 | 昭和三年三月中浣以西下経一氏写本書写焉／原本書体不整処少々有焉以善本可校合者也 |
| 3月20日 | みあれの宣旨集 | 三七二二 | 昭和竜集三姑洗二十日囑川瀨氏書写畢／以(補入「无」)類本校合(補入「至」)難矣矣／卷首少々余書焉／岸廼舍 (製本于三條西伯爵家(丸括弧ママ)) |
| 4月2日 | 惟成弁集 (現写本) 続世継(今鏡) | 三六八八 一一八七 | 惟成弁集 右筆之本書写畢 桂宮本云云三行字書 坊門局歌集切三首／昭和三年三月廿日令家中小女書写畢 以無類本不能校合之 岸廼舍 《卷之一》(朱書)昭和三年四月二日一校了 《卷之二》(朱書)昭和三年四月三日一校了 《卷之三》(朱書)昭和三年四月三日春雨浪々兮 《卷之四》(朱書)昭和三年四月四日一校了 夜月皎兮九時也 《卷之五》(朱書)昭和三年四月五日一校了 《卷之六》(朱書)昭和三年四月六日午後三時五十分一校了 |

| | | | |
|-------|--------------------------|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 4月2日 | 続世継(今鏡) | 一一八七 | <p>〔卷之七〕《朱書》昭和三年四月七日正午一校了</p> <p>〔卷之八〕《朱書》昭和三年四月七日午後五時半一校了</p> <p>〔卷之九〕《朱書》昭和三年四月八日灌仏会十一時半</p> <p>〔卷之十〕《朱書》昭和三年仲呂灌仏会之日午後二時十五分一校了</p> |
| 6月13日 | 本朝七武 | 二八〇八 | 昭和三年林鐘念三／岸廻舎 |
| 6月23日 | 出雲国造神寿後 釈 | 一九六五 | 昭和三年林鐘廿三日 |
| 6月下旬 | 真山民詩集 | 二六八 | 昭和竜集戌辰／林鐘下澣岸廻舎我心空 |
| 7月1日 | からものがたり (唐物語提要) | 一一〇四 | 昭和竜集戌辰三夷則朔／於下谷焦門街書肆／岸廻舎 |
| 7月下旬 | 続落窪物語 (神宮文庫本の現 写) | 三三八一 | <p>續落窪 物語 一卷 伊勢神宮文庫蔵本也墨付四十一枚美濃昏也／昭和三戊辰夷則下澣 借覽、次序書写者也 達数年之宿望矣／夷則念九始書写畢(畢ミ七ケチ)南呂朔畢、予書漢詩文兩三枚焉／他悉令家中之地吉書写畢 于時八朔、澣滴声繁破窓前岸廻舎識</p> <p>〔青墨〕八朔之半夜一校了 神宮本者書写中有魯魚焉馬之類／蓋原本〔神宮本之〕補入古写本歟 今当校合説過洪滯誤字不鮮／聊直置者也／八月十六日後半一校了 魯魚之誤不鮮也以無類本雖校讎矣／</p> <p>〔墨〕続落窪物語一卷収蓬蘆叢而 在刈谷図書館可比較者也／ 昭和三年十一月十一日過刈谷一見焉／南葵文庫蔵本有之矣</p> |
| 8月15日 | 西公談抄 | 一五八 | 昭和三五辰八月下澣 新潟にて／岸廻舎 |
| 8月下旬 | 同文通考 | 五九六 | 昭和三五辰八月下澣 新潟にて／岸廻舎 |
| | 風葉和歌集 (神宮文庫本の現 写本) | 三六〇四 | <p>〔丹鶴本／内閣本／刈谷本／彰考館本／京大本 数数稍多者也 記入于家本焉 神宮本 跋萃也 凶書寮本 清水濱臣旧蔵本也〕</p> <p>〔風葉集写本一卷 神宮文庫特種本也内題下有●(マ)／右昭和三五辰南呂下澣</p> |

| | | |
|---------------------------------------------------|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>8月下旬 風葉和歌集 (神宮文庫本の現写本)</p> | <p>三六〇四</p> | <p>借用焉 於越後曾根郎令／書寫畢 原本無序文者也／同無射上澣重陽之日於荒井之橋居一校了／岸廼舍識」</p> |
| <p>9月2日 夢窓国師詠歌 佛国禪師詠歌 (神宮文庫本の現写本)</p> | <p>三七七三</p> | <p>夢窓国師詠歌仏国禪師詠歌 一冊 神宮文庫本也／昭和竜集三戊辰南呂中浣書写於叡山下畢／別在天竜寺藏版本稀流布矣 仏国禪師詠歌集〔集〕ミセケチ「詠歌」右傍書者別筆也／昭和三年無射二、夜二更書奥書于時陰虫孳々／鳴声如水流月將隱于半天雲雷鳴遙聞矣／岸廼舍識</p> |
| <p>10月3日 承久記</p> | <p>一二二六</p> | <p>〈承久記刊本一覽、省略〉 昭和四十五年十二月六日朝記之／岸廼舍／承久記有数本、版本亦有二三種矣／／ 昭和三年十月三日／ 牛込山伏丁 岸廼舍</p> |
| <p>古語拾遺節解</p> | <p>一九五五</p> | <p>赴于史料編纂、閱史料稿本而拔萃文亀二季^七月／之条販途過琳琅閣求数本矣／ 昭和三年拾月三 岸廼舍</p> |
| <p>創学校啓</p> | <p>五一〇一</p> | <p>昭和三年応鐘廿五日</p> |
| <p>10月下旬 六家集</p> | <p>一〇七</p> | <p>「六家集拾八冊／山家集二 長秋詠藻二／拾遺愚草四 月清集二／壬二集三 拾玉集五」</p> |
| <p>田舎莊子</p> | <p>四七三</p> | <p>「今缺山家集二冊而／拾六冊也／岸廼舍」</p> |
| <p>和漢名物茶入之記</p> | <p>八二八</p> | <p>「昭和三年十月下浣於牛込柳街求焉／追懷祖母六周忌辰也陰虫切々夜沈々兮」</p> |
| <p>土佐日記 (群書類従卷第 三百二十七)</p> | <p>四六五</p> | <p>昭和竜集戊辰黄鐘三、宗祇史料調査販途。於林琅閣求焉、</p> |
| <p>月詣和歌集補</p> | <p></p> | <p>昭和三黄鐘三／岸廼舍</p> |

| | | | |
|--------|------------|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 11月25日 | 売卜先生糠俵後篇 | 五一九 | 昭和三年十一月廿五日／岸廼舍 |
| | 桜雲記 | 九四五 | <p>〔元裏表紙〕昭和三年十一月廿五日／岸廼舍</p> <p>〔飯裏表紙見返〕昭和三年十一月廿五日／ 於牛込柳街求 岸廼舍／ 此外宇治拾遺等拾部也</p> |
| | 岩屋の草子 | 一二六二 | <p>岩屋の草子二部合綴之／昭和三年十一月廿五日／岸廼舍</p> |
| | 源氏古鈔（源語古鈔） | 三三二八三 | <p>〔前遊紙〕〔墨書〕書陵部藏伝公条筆奥入与本書全同本文也／本書者 公条筆本又其系本文之書写也 不〔不〕ミセケチ 不〔不〕補入 一字也／昭和四十六年八月二日三日兩日出張書陵部而校訂了／岸廼舍識</p> <p>抹消〔二字、墨点・朱点〕本文中朱書之校訂〔朱点〕 則本書写／公条筆本〔全補入〕同一本文也矣 八月三日夜記之</p> <p>〔朱書〕以朱罫者悉定家筆本奥入也</p> <p>〔墨書〕余昭和廿四年秋冬之候、通於上野博物館、定家自筆本奥入与本書／校訂、朱書校訂者悉定家自筆奥入之本文也、従來為伝公条筆本／所書陵部購入矣、然該本与定家自筆〔定家自筆〕ミセケチ「源語古鈔」右傍書本、同文也矣、故抹消朱書全／部不可令〔悉〕補入生墨書全部者也 伝公条筆本〔元來〕補入無題名者也、</p> <p>〔後遊紙〕〔朱書〕源語古鈔 古写一卷神宮文庫秘本也余密々借覽之序書写者也</p> <p>／ 昭和三〔戊〕辰 歲次十一月廿日始書写同廿六日書写畢 余少々書 詩文矣</p> <p>／ 〔墨書〕源語古鈔原本逸題簽、後人漫題曰源語古鈔非原名也蓋／不知源氏物語奥入者也 一村翁記源氏古鈔 只以源語為源氏而已</p> <p>／ 〔朱書〕 昭和竜輯己巳四年三月下浣一校了 催華微雨浪々矣 新加朱書便于閱覽者也</p> <p>〔挟み込み紙片〕〔墨書〕昭和三〔戊〕辰 歲十一月廿六日書写了／源語古抄十一月廿日始書写／神宮文庫本也</p> |
| 11月下旬 | 佐倉夢物語 | 一三三二二 | <p>昭和三年戊辰年孟冬十一月下浣／岸廼舍藏書</p> |

| | | | | |
|--------------|-----------------------------------------------|---------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------|
| 1月 | 東籬紀行 実字解 | 四八二八 | 昭和四己巳年大簇五 | 定直之紀行今逸題簽假名東籬／紀行者也見蕉翁奥細道者須參／看也／昭和四年孟春／岸廻舎 |
| 1月5日 | 音訓国字格 江戸紫真実録 隅田河鏡池伝 | 六五五 一三二一 二一六〇 | 昭和四己巳年大簇五 昭和竜集己巳年大簇五 昭和四己巳年大簇五 | |
| 昭和四年己巳(一九二九) | | | | |
| 冬 | 古今集童蒙抄 | 一三〇八 | 昭和三年秋／牛込柳街にて求之／岸廻舎 可有書写之／誤脱歟 昭和三年冬／岸廻舎識／資直 | |
| 秋 | 能花傳書 花傳抄 | 四〇二七 四〇二八 | 花傳書二冊／八卷本抄出也／／ 昭和三年秋／牛込柳街にて求む／岸廻舎 | |
| 11月下旬 | 注 円光大師御詠諺 方丈記 (略本二種・広本 一種の現写本合 冊) | 四九八三 三四九六 | 昭和三年黄鐘下流／岸廻舎 〈六丁ウラ〉(朱書)和習漢文之方丈記一卷与彰考館本同系也故又国文研究室同本焉／(墨書)昭和三年夷則二旬霖雨浪々如微雨矣 岸廻舎識／翌日一校了 〈二六丁ウラ〉(墨書)昭和三年夷則廿三令家中女子書写畢／霖雨浪々闇雲低迷宛然如梅雨之日矣／岸廻舎識／(朱書)翌日一校了／(墨書)夷則二十九日以藍一校了／ 驟雨一過夕暉残樹梢寒蟬送暑氣矣／朱ハ(二字分空白)本ナリ／藍ハ(二字分空白)本ナリ以上 二本合綴为一冊、 〈奥遊紙オモテ〉(朱書)の諸本系統図、略 (墨書) 昭和竜輯戊辰参年夷則念日／微雨浪々兮 於荒井僑居識焉(朱書)翌日一校了／(墨書)岸廻舎／ 前半書写於洛東叡山下／小野里焉(焉)ミセケチ「写」石傍書 | |

| | | | |
|-------|---------------------|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 3月24日 | 狂歌 太郎殿犬百首 | 三九八四 | 昭和戊辰三南呂囑於高師学生新田氏／書写畢新田氏者長距離走士也全版／于郷之日來留守蝸居閑揮筆遂終書／写矣／同九月既望一校了加朱点畢岸廼舎／昭和四己巳年姑洗下浣一校了返却高師本矣／他日宜再研者也岸廼舎 |
| 3月下旬 | 仙源抄 (現写本) | 三二八九 | 昭和戊辰三南呂囑於高師学生新田氏／書写畢新田氏者長距離走士也全版／于郷之日來留守蝸居閑揮筆遂終書／写矣／同九月既望一校了加朱点畢岸廼舎／昭和四己巳年姑洗下浣一校了返却高師本矣／他日宜再研者也岸廼舎 |
| 3月 | 蜻蛉日記 (神宮文庫本の現写本) | 三五〇四 | 〔朱書〕右蜻蛉日記三卷 神宮文庫藏本也／以序書寫者也／ 於昭和四年 晚春燈下記焉／岸廼舎／／〔墨書〕慶徳如松本也矣 以藍校勘者邨田橋彦本歟／村田橋彦一春門〔此人ハ〕補入〔石川依平／等之学友也〔丸括弧ママ〕〕校合以朱多之者 契沖／墨 士清／藍 〔若沖〕ミセケチ 士清以後也士清之注要評セル処アリ／以藍校勘者恐邨田本歟〔昭和四年夷則／書識之者也〕〔丸括弧ママ〕／／從昭和四竜集己巳仲呂中浣至蕤賓上澣書写了／神宮文庫本也福田親康氏書写也／福田氏 熊本之人而〔今茲〕補入 卒高師研究科矣／／五月十五日以墨書入畢／ |
| 4月上旬 | 源氏物語奥入 | 三二八二 | 〔朱書〕五月廿二日以朱一校了／ |
| 4月14日 | 曆林問答集 | 四一〇三 | 〔藍墨〕五月廿三日以藍一校了 自書写至校合要約一ヶ月半矣 |
| 4月14日 | 集 (俳諧七部集)句 | 一〇一四 | 〔朱書〕昭味竜輯己巳四年仲呂廿八日一校了／四月上澣起毫同中浣以後囑高師研究科卒業生／福田氏書字畢氏新田氏之知音而熊本之人也／家中女子少々書書卷首全聊書漢文他悉福田氏筆之 |
| | | | 〔下卷裏見返〕昭和四己巳歲 仲呂上浣／新潟市本四街にて購求／岸廼舎 |
| | | | 〔下卷裏表紙裏〕四月五日訪視学官〔于〕補入 縣廳／飯途訪櫛君俱遇 書肆／求章注国語及曆林問答矣／／四月春寒不見梅／呉山白雪春未回 |
| | | | 昭和四年四月／十四日／於牛込購求 |

| | | | |
|-------|----------------------------------------|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 5月7日 | 四十二の物あら そひ 建保職人 歌合 正盛公を 悼み奉る詞 | 一二七一 | 四十二の物争文未欠／建保職人歌合／正盛公を悼み奉る詞／昭和竜輯四已巳 ／蕤賓七 岸廼舎 |
| 6月10日 | 曾我物語絵巻 術集 | 一三四〇 | 昭和四年五月七日 牛込柳町にて 〈朱書〉曾我物語 絵巻の詞 二巻也／／ 昭和龍集已巳林鐘旬日／於文行堂 |
| 6月上旬 | 越部禪尼消息 | 一一六 | 〈朱書〉俊成卿〈有〉補入子女〈子／女〉に転倒符 十一人就〈中〉補入年少 〈年〉ミセケチ者承明門院中納言而世〈所〉補入謂／俊成卿女、以歌有名一 字虫損〉〈説〉補入越部禪尼消息〈熟〉補入按越／部禪尼即承明門院中納言 也／／ 昭和竜集已巳林鐘上浣／岸廼舎 |
| | 關城書 吉野御 事書案 上月記 | 二七四三 | 〈朱書〉昭和竜集已巳林鐘上浣 |
| | 方丈記 (中原本の現写 本) | 三四九一 | 方丈記等一卷、久留米花畑之人中原氏蔵／ 略本也／ 余借覽焉林鐘三、四両 夜書写畢／ 異本方丈記也 卷未付解脱上人語法然上人／ 伝大土云録焉／ 昭和四年林鐘上浣識之／岸廼舎 |
| 6月30日 | 全 簞簞内伝諺解大 | 四一三八 | 昭和四年林鐘晦求焉 |
| 7月6日 | 紹巴道乃記 | 三五三一 | 昭和四年己巳五月晦六月朔／不慮之外見紹巴自筆本而／西園寺家本也／卷子 高四寸〈三分〉補入許 紙三寸八分許／軸水晶／無外題／不堪感興自馳禿毫 有写也昨今／二ヶ夜終功 岸廼舎／ 〈朱書〉林鐘二日以朱一校了／此紀行卷首〈少々〉朱書補入缺。「去年」など の文字ありしか。併記 岸廼舎 |

| | | | |
|-------|---------------------|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 7月6日 | 紹巴道乃記 | 三五三一 | 〔墨書〕右一卷者紹自筆無相違者也前半ハ兩吟千句後半ハ書狀〔ト筆致全ク同一ナリ〕左傍書／六月下旬於高輪毛利候邸編輯室比較対較以／左ニ書矣 曰兩吟千句曰臨江齋紹巴狀／兩吟千句 十卷 自卷一至卷五紹巴自筆／自卷六至卷十昌叱自筆也／奥書曰〔奥書七行省略〕〔奥書の続き五行省略〕／臨江齋紹巴〔書〕補入 狀 長府毛利子藏也 八月十七日附及本文中／二、七十一歳ノ文アリ、／異国御在陣云々／拜呈毛利七郎兵衛尉殿／人々御中／右昭和四年夷則六日識之 岸廼舎 |
| 7月9日 | 方丈記 〔略本系延徳本の現写本〕 | 三四九五 | 右一卷異本方丈記 東大文科大学国語研究室旧蔵本也 大正地震災之日東大書舎尽版于鳥有而／典籍拳為灰燼矣 明治四十四年十月下浣／長氏書〔写〕補入〕斯卷僅止原型者也 余借覽斯卷／于松浦氏得閑一読遂令家中少女影写者也尔云／昭和四年夷則九、霖雨霽後夜／岸廼舎識 |
| 7月15日 | 伊勢物語（武田本） | 一一六一 | 伊勢物語 古寫本一帖／大正四年十一月三日求于本郷通焉一度附表昏装幘／却失古色矣 故再改粘葉裝存者也／昭和四年夷則中元之日 岸廼舎識／大正心鐘也／岸のや |
| 7月中旬 | 天満宮御傳記略 | 五〇九〇 | 昭和四巳孟秋中浣／岸廼舎 |
| 7月 | 源氏男女裝束抄 | 一一三五 | 昭和竜集己巳孟秋 |
| 7月下旬 | 扶桑蒙求 | 四〇八一 | 昭和四年孟秋下浣 |
| 8月上旬 | 増鏡 | 三四四九 | 昭和四年南呂上浣／岸廼舎 |
| 8月中旬 | 旧注蒙求 | 四四八五 | 李澣之蒙求一卷写本（卷上一冊）在圖書寮焉／補注蒙求／純正蒙求／藝林蒙求／十七史蒙求／皆讀模于李／澣者也／／昭和四年南呂中澣／岸廼舎 |
| 8月 | 五元集註 | 一〇三三 | 此一冊五元集註也 不知作者／何人焉 註止于秋部 雨後之條／稿本雖然有可見者 又以可／参考矣 余偶見之神田街書林 而求乎一説徳不鮮少／昭和四竜輯己巳仲炆於／東都西郊荒井橋居／岸廼舎識 |

| | | | |
|-------|----------------------|--------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 8月 | 伊勢物語闕疑抄 | 一一四六 | 闕疑抄之版本有二本矣／慶長版与寛永版也／卷一缺本合綴／昭和四年南呂岸 廼舎 |
| 9月4日 | 酒顛童子退治記 明德記 | 一二九二 二七四四 | 昭和竜集己巳南呂〔破損〕 昭和二年無射四／岸廼舎 |
| 9月9日 | 蒙求 〔書陵部本の現写 本〕 | 四四八一 | 〔四一才〕蒙求一卷 上冊 以圖書寮本書寫畢／下冊缺本也／千時昭和四年 無 射九、夜二更也／ 秋雨蕭々虫切々々／ 南呂中浣起毫一旦飯省、後復揮筆書 写了／李瀚之原著當比矣 按謙宜之書写〔之補入〕底本者卷子乎／岸廼舎識 〔四二才〕〔ヲコト点図等略〕／昭和四己巳九月旬於荒井僑居記事／岸廼舎 〔四二ウ〕昭和十六年九月五日夜於研究室識之／正午後七時也 空腹々々。／ 〔文理大研究室〕〔丸括弧ママ〕〔猪苗代謙誼〕の覚書、略 |
| 9月11日 | 訓詁示蒙 | 一八〇二 | 〔朱書 昭和四年九月十一日 岸廼舎 |
| 9月18日 | 菅家文章 | 五〇四 | 昭和四年九月中浣中秋之日／月光如水蘆花白〔雲〕ミセケチ〔白〕右傍書〕往事 一時浮月中 岸廼舎 |
| 9月中旬 | 仮名字抄 | 六〇一 | 昭和四年九月中浣 |
| 9月中旬 | 雅言仮字格 | 六〇三 | 〔朱書 昭和四己巳無射中浣 |
| 9月下旬 | 沙石集略抄 | 一三六四 | 昭和四年九月下浣 岸廼舎 |
| 9月 | 本朝文粹 | 一四三五 | 昭和四年無射下浣／岸廼舎 |
| 9月 | 五節句飭付口伝 | 五三六六 | 〔表見返〕 稲垣氏ハ子爵ニテ／ 志摩の藩主ナリ／ 喰積ハ学習院学生、稲 垣君ニ聞カレ／タルコトアリ何故ニク言フカト。／岸廼舎 〔裏見返〕五節句飭付口伝一卷／昭和四年九月／岸廼舎 |
| 10月2日 | 狭衣下紐 | 三三二三 | 〔上卷 狭衣下紐以紹巴自筆本書写焉／昭和四年九月下浣岸廼舎 〔下卷〕狭衣下紐四卷上下二策以法橋紹巴自筆本書寫畢／皇太后宮大夫入江朝 臣之本也／昭和四竜輯己巳十月二日／第五十八回式遷宮祭夜書写了／風塵来 往吾自老岸廼舎識／他日須比校神宮文庫者之 |

| | | | |
|--------|-------------------------|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 10月9日 | 多田民治集（忠通集） （桂宮本の現写本） | 三七三四 | 法性寺閔白忠通集一卷 <small>以國書寮本（桂宮本）書寫畢</small> ／公任家集之類而非自撰集也 從者撰乎但集／可信賴者也 集中有万葉風矣忠通亦誦万／葉集也／ 昭 and 四年十月四日起毫同九日擲筆／ 同月十二日以墨一校了 岸廼舍／ 田多民治集二部在國書寮、／／ 法性寺閔白御集一卷在類從百卅三／今鏡卷中 三笠松菊露在忠通之伝／陽明世伝之中有忠通筆蹟可見者也 |
| 10月上旬 | 方丈記（異本國文研究室本） | 三四九三 | 異本方丈記一卷旧森本而國文研究室／本也二三氏轉写焉余偶借得松浦氏本孟冬書写者也原本惡筆也任原本書／写年／昭和二二竜輯己已應鐘上浣／於荒井僑居岸廼舍識 |
| 10月15日 | 絵入源氏小鏡 | 八四六 | 昭和四年応鐘望繡修焉／岸廼舍 |
| 10月中旬 | 連歌書 | 九九一 | 紹巴連歌書 一冊 紹巴自筆也／紹巴自筆 臨江齋書狀 毛利子爵藏／全 両吟千句 毛利侯爵藏／全 連哥新式注 右同断／全 狭衣下紐 入江子爵藏／全 紹巴道之記 西園寺家藏／右筆跡書風 与本書無差者也／ 昭和四竜集己已應鐘中浣／於「於」補入 東都西郊外荒井僑居 岸廼舍識 |
| | 狂歌初心抄 | 三九八三 | 昭和四年十月中浣／岸廼舍 |
| 11月6日 | 水滴色葉類聚鈔 | 三三二九八 | 水滴色葉類聚抄 一卷／予嘗見三条西家藏本矣、今以宮内省本／書写畢 十月十一日起毫／ 十一月二日擲筆／ 昭和四竜集己已 黄「応」に「黄」重ね書き 鐘六 岸廼舍 記／三条西家本 美濃幣四分一之平大也 |
| 11月9日 | 似雲歌集 | 八九七 | 〈表見返〉似雲歌集一卷 為羽倉信一郎氏所贈矣／ 昭和四年十一月九日／岸廼舍識／ 年浪草拔萃也／ 昭和廿參年七月五日記之／岸廼舍／ 年浪草二十卷有之 |
| | 和翰集要 | 五二五六 | 和翰集要在國書寮一本焉／昭和四年十一月九日／岸廼舍 |

| | | | |
|--------|---------------|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 11月14日 | 酌并記 | 二九八二 | 昭和四 ^竜 集黄鐘十七日午後訪新保一村販途偶牛込／柳街〔補入〕之〕書肆而求書矣該書肆此日止痕也 |
| 11月23日 | 手尔於葉抄 | 一五三 | 今仮為上下二卷而已／昭和四年十一月廿三日於神田求焉 |
| 11月 | 拾花集 | 九七四 | 拾花集四卷／不知何人之著／連歌師流述作乎／昭和四黄鐘求焉 |
| | 緋白往生伝 | 二〇八五 | 昭和四年十一月／岸廼舎 |
| 12月3日 | 江帥集（書陵部本の現写本） | 三七二五 | 江帥集 一卷 以圖書寮本写焉／昭和四年黄鐘下浣〔右傍書〕二十二日也〕起毫 大呂上澣〔右傍書〕三日也〕書写畢／同大呂中浣〔右傍書〕十九日也〕一校了 岸廼舎識／他无類本者也／堀河集〔朱書小字〕高松宮家ニアリ〕／周防内侍／白河、堀河院御即位之歌／詩人之〔の〕の上に〔之〕重ね書き〕歌二／分部類〕／〔朱書〕匡房 万葉集次点之人也／故集中有万葉調及万葉詞句之歌矣／田多民治集江帥集等 万葉研究家／之和歌 又 興味森々也／昭和八年七月三日朝書付者也／岸廼舎 |
| 12月上旬 | 忍音物語 | 一一八一 | 志能比祢物語 一卷 古写本 <small>（大阪市鹿田より求め）</small> 〔丸括弧ママ〕／右与丹鶴叢書〔本〕補入〕略同、〔読点ママ〕但有弓尔平者之異同矣／和歌色葉集上云、世継、忍音彼様之物語云云、八雲御抄卷一奥云、忍祢／月詣集第五 物語の業による恋といふことをよめる 藤原伊綱／濡れ衣とふ人あらはいふへきに色にそしるき忍音の袖／古物語類字抄云、真本は伝らずと云云／阿波文庫本 二卷 奥云、文政五年壬午十一月以等光寺本写之〕神宮文庫本 一卷／静嘉堂文庫本 一卷 北村湖春筆／内閣文庫本／松井博士本 一卷 正木千幹自筆書入 一卷 書入本、／圖書寮本 丹鶴本也／異本無之、物語也、昭和四年大呂上浣岸廼舎識 |
| 12月14日 | 萬代和歌集 | 七六 | 秋風抄の序にも万代集のことあり 丹鶴叢書本与是同本也 昭和四年 大呂幾望 岸廼舎 |
| 12月28日 | 首書土佐日記 | 四四七 | 昭和四年大呂廿八日／岸廼舎 |
| | 闕疑抄（九条家本の現写本） | 一一四七 | 闕疑抄二冊合本 九條公爵家旧蔵本也／慶長版本流布鮮少也 昭和四年大呂晦 岸廼舎 |

昭和五年庚午(一九三〇)

| | | |
|-----------------------------|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>1月上旬 四十二物諍</p> | <p>四三二〇</p> | <p>四十二物諍一軸未吉家藏本也／昭和四年冬十二月借覽一見後写了／於學習院圖書館書寫焉／昭和五年一月上旬記之 岸廼舍識</p> |
| <p>熊野本地 (杭全神社本の現写本)</p> | <p>四三二二</p> | <p>熊野本地 一軸 杭全神社藏本／ 昭和四年大呂借覽翌五年大簇上浣書寫焉／ 甦草子 四十二物諍 熊野本地 三部同時借覽也／岸廼舍識</p> |
| <p>1月19日 平仲物語</p> | <p>三二六三</p> | <p>平仲物語 伝冷泉為相筆粘葉六半／ 本一帖靜嘉堂文庫秘本也／ 予昭和二年秋十一月影寫卷首四葉／ 于同文庫後雖有遂書寫之志來／ 往風塵殆無閑日未果素志矣／ 偶旧臘借得川瀨氏(補入)之(影寫本今茲孟／ 春終書寫之功者也 行数字数全／ 同原本矣 (二月十三日起毫／ 同十九日擱筆)／ 昭和五年一月十九日 岸廼舍識</p> |
| <p>甦草子</p> | <p>三三九六</p> | <p>甦草昏一軸 二重箱入古寫／ 大阪市住吉区平野新町五丁目／ 長寶寺什物也 永正十年八月之写也／ 右一軸初袋綴也後改為卷子乎／ 昭和五竜集庚午年大簇中澣書寫畢／ 岸廼舍／ 十二日 雪降學習院圖書館寫十四葉／ 十八日 晴 於同処寫十四葉／ 十九日 晴風霽發於同処写了。雪中送亡父之葬恰二周年也／ 越後西蒲原郡卷町某甦生之話予嘗聞之于／ 母矣曰卷町千佛堂之大仏 (前大地藏ササ(菩薩)略字体)左傍書 (導)補入某婦於明界云々) 昭和五年仲呂既望一校了仮名遣 語彙等聊書付者也(以下略) (朱書)昭和五年仲呂廿一、高輪御殿送高松宮御渡欧版來／ 聊以來傍書畢 數日之功了 岸廼舍識／ 可見仮字文字遣之状。定家仮字遣使用歌人之流而已乎</p> |

也／ 昭和五年南呂 岸廼舍識

〔朱書細字〕平仲物語 本朝書籍目錄仮字之部(朱書補入)有「有」平中日記一卷／ 河海抄所引立ちてゆく之歌(朱書補入在)貞文日記云云(横柱卷又引二項矣) (丸括弧ママ)／ 故案貞文日記平中日記同書而平仲物語也

| | | | | | | |
|-------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------|
| 3月30日 | 3月26日 | 3月上旬 | 3月6日 | 2月23日 | 2月16日 | 1～4月 |
| 現写本 (刈谷図書館本の はにふの物がたり) | 全図 文政新刻 国郡 | 本 (九条家本の現写 本) | 方丈記 | 歌合(六冊) | 堤中納言物語 (神宮文庫本の現 写本) | 保元物語 (学習院本の現写 本) |
| 三三九三 | 三〇二四 | 三四六一 | 三四九二 | 三九七 | 五六三二 | 三四五五 |
| 岸廼舎 生物語一卷内題ハニフ物語 前田家蔵本有焉／昭和五年三月卅日於荒井儒居 | 波尔布乃物語一卷 参州刈谷図書館本也／昭和五年三月囑加藤氏書写畢／丹 岸廼舎 昭和五年三月下浣／復興祭之日 ^共 美術倶楽部ニテ／岸廼舎 | 平治物語三冊 九條公爵家旧蔵本也／不分区節事項簡少又一異本也／参考平 治物語所引諸本皆与本書異矣／昭和五年三月上浣岸廼舎／保元、平治 物語 <small>琴平神社蔵本六冊 与本書同原也</small> | 方丈記略本一冊以小川氏蔵本有写者也／昭和五年三月上浣地久節之日書写畢 ／岸廼舎識 | 〈秋十五番歌合〉歌合〔部〕補入類ノ中 ^{卷廿八・廿九} 卅六冊也／歌合部類卅七冊 有之 類本稀也／／ 昭和五年二月廿三日 於大屋書店求之／岸廼舎／ 歌合部類／天保八年版本別有之 | 正義識 ^印 一校畢／ 本文者愚弟正道之影写也／ 于時／ 昭和十一年一月十日記 堤中納言物語一卷 慈延上人頭書神宮文庫本也／ 昭和五歲次庚午二月上浣 借覽焉以序書写者也／ 神宮文庫本天王寺明静院本也転写云 明静／ 院本 今不知其所在也／ 昭和五年二月既望写畢一校了／岸廼舎識 | 保元物語 三卷 九条家旧蔵本也／ 昭和五年春及孟夏詭人書写畢／岸廼 舎 |

| | | | |
|-------|----------------------|-----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 3月31日 | 松浦宮物語 (書陵部本の現写本) | 三三二六 | 松浦宮物語 三冊 以図書寮本書写畢／昭和五庚午孟春詠數子令影〔写字の上に「影」重ね書き〕写畢 岸廼舎／左夜衣我身尔迪姫君及風葉集皆同時也／昭和五年三月卅一日識之 |
| 3、4月 | 保元物語 (九条家本の現写本) | 三四五五 | 保元物語三卷九條家旧藏本也／昭和五年春及孟夏詠人書写 岸廼舎 |
| 4月28日 | 住吉物語 (神宮文庫本の現写本) | 三三三九 | 住吉物語 上下 一冊 以 伊勢神宮文庫本書写焉／大型古写本也／憶昔昭和二大簇余過神宮文庫閱覽此書矣／後有書写之志 今茲沽洗三月下澣借覽以序／果志者也 昭和五竜輯庚午仲呂念有八識焉／岸廼舎／〔朱書〕住吉物語異本頗多不可悉比較也／〔墨書〕住吉物語在香木園文庫他日須一覽者也 |
| 4月下旬 | 風葉和歌集 (書陵部本の現写本) | 三六〇五 | 風葉和歌集 十八卷 二冊 以宮内省本書写畢／原本清水浜臣藏本也 今分冊為四冊者也／昭和五年仲呂下澣 岸廼舎／丹鶴本 流布本多此系也／内閣本／京大本 流〔布〕補入／本与此本有異同可補流布本之脱漏者也／彰考館本／昭和六年林鐘中澣以平間氏校合本一校了他日須一覽京／大本而遂校合者也 林鐘既望 朝、岸廼舎識』刈谷本奥書〔一七行省略〕／群書一覽所引奥書同一也／露睡子何人歎可尋／昭和六年六月十六日朝／しるす |
| 4月 | 韻鑑古義標注 撰集(廿一代撰集紀) | 六七四 八〇 | 昭和五年孟夏／岸廼舎 昭和五年孟夏 |

| | | | |
|------|-----------------------------------------------------|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 5月7日 | 吉備大臣物語 (書陵部本の現写本) | 三三五〇 | 吉備大臣物語 一卷 以 宮内省本書写畢 / 昭和五年蕤賓二 春雨浪々松声湿日 / 過圖書寮至内裏述転任之礼 販来書写焉 / 以無類本不可比較也 岸廼舎 / 吉備大臣絵巻往々在坊間矣 此物語之絵敷 松浦(ミセケチ「酒井」右傍書)伯家 / 嘗藏絵巻他日可一覽者也 五月七日識之 / 大日本仏教全書 / 「朱書」江談抄中有吉備大臣話 / 吉備大臣絵巻、 / ボストン博物館ノ美術月報 昭和八年二月号ニ / 此絵巻入手ノ記載有リ可惜 |
| 5月上旬 | 本朝一人一首 | 四七六五 | 五卷今合て為三卷 / 昭和五龍集蕤賓上浣 岸廼舎 |
| 5月中旬 | 熊野御本地 (小川寿一本の現写本) | 三三六八 | 熊野御本地 一卷 以京都小川氏蔵本書写了 / 昭和五年蕤賓中浣 岸廼舎 / 同七年南呂上浣一校了誤字多矣校正多勞也 / 原本亦誤謬不鮮矣 宜參酌杭全神祠 / 藏絵巻也 / 「朱書」同年八月幾望之日 於學習院図書館一校了 / 岸廼舎 / 伍衰殿之刊本右焉 / 「墨書」東京帝国大学文学部国文学科国語研究室藏御 / 衰殿 一軸矣 高五寸許「之一卷」補入、左傍書也、可惜大正大震災時 一 焼失於国語研究室矣云 當時 / 橋本進吉助手示余其古一軸而 是何物歟云 / 余亦當時不全「関」補入知御衰殿矣 昭和七「七」ミセケチ「七」右傍書年五月 / 岸廼舎識 |
| 5月下旬 | 大鏡 (平松家本の現写本) | 三四四一 | 大鏡 三卷以京都帝大蔵 平松家旧蔵本 / 書写者也 古本也 昭和五年蕤賓中浣 / 岸廼舎 |
| 6月上旬 | 本 事 詩 四 方 歌 垣 宗 匠 遺 稿 | 四五七一 九六三 | 昭和五年五月下浣 華笑自筆真顔遺稿也 / 昭和五年林鐘上浣識 |

| | | | |
|-------|------------------------------------------|-----------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 6月上旬 | 松蔭中納言物語 (名古屋圖書館本の現写本) | | 〔第三冊〕悪筆之人書写不更為字体判読困難々々 〔第五冊〕松蔭中納言物語 五卷之中第二卷缺序焉合四冊也／以名古屋圖書館藏詠人書写畢／近來身世匆忙無三余之閑未遂校合者也／昭和五竜輯庚午林鐘上澆／〔於〕補入〕東都局郊荒井橋居識焉／岸廼舎／第二卷 他日補写以可為完結者也／松蔭中納言物語坊間通行者稀觀也余嘗／識前田本及彰考館本矣／ 前田侯本 五冊／彰考館本 二部在焉一者五冊本他二冊本也 |
| 6月14日 | 古今伝授誓紙書 類聚神祇本源 いはでしのぶ (京大本の現写本) | 五四一六 一九三三 三三三三六 | 正親町伯家旧藏本也／昭和五年林鐘上澆 於一誠堂求 岸廼舎 類聚神祇本源／内宮遷坐篇一卷／正親町伯家旧藏本／昭和五年林鐘上澆岸廼舎言はて志のぶ 一卷 京大藏本也／昭和竜集庚午五季林鐘上澆詠人書写了／類本鮮少只見〔藏〕ミセケチ「見」右傍書前田候三條西伯兩家〔藏〕補入各一本而已／昭和五年林鐘幾望 岸廼舎／前田本一卷卷一二 一冊／三条西本／圖書寮本 まふ↓もふ わ↓は／京大研究室 二本有／本文同一也、〔記号、ママ〕 |
| 6月中旬 | 義山雜纂 (学習院本の現写本) | 四五六四 | 李商隱雜纂外三部一卷／以学習院藏本書写畢 詠人字焉六月十六日畢／昭和五年林鐘中澆／岸廼舎／ (朱書)林鐘晦一校了 |
| 6月下旬 | 竹取物語伊左々米言(書陵部本の現写本) | 三二四七 | 竹取物語伊左々米言 一卷 狛諸成作也／以圖書寮本詠人〔横浜之人々也〕左傍書書写畢 頭書及細字／余書焉／于時昭和五年林鐘下澆 陰雨浪々之夜書入畢／岸廼舎 〔宮田氏本〕「池田氏本」與書、省略 以上、昭和九年 立春之日聊〔書〕補入加之者也／岸廼舎 〔朱書〕昭和十一年三月十九日加朱点而 校合畢 岸廼舎 |

| | | | |
|-------|-------------------------|--------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 6月下旬 | 草野物語 (神宮文庫本の現写本) | 三三五一 | 草野物語 一卷 神宮文庫本也 / 昭和五歳仲呂上流借覧以序書写者也 / 本文中在なからへて人の心はいさや川いさわればかり / 恋わたるとも之詠為今上帝御歌矣 / 林鐘下洗霖雨陰々之日於荒井僑居書写畢 / 岸廻舎識 |
| 7月上旬 | 義経記 平家物語 | 一二二一 三四六二 | 義経記八卷合為四冊者也 / 昭和竜輯庚午五夷則上流 岸廻舎 平家物語 十二卷寛永版本也 / (平家流布本諸本の一覽省略) / (万治版刊記の図示省略) / 昭和五竜集庚午夷則上流 岸廻舎 |
| 8月上旬 | 夜乃寢覚 (狩野文庫本の現写本) | 三三三二 | 夜廻寢覚 五卷 東北帝大蔵狩野氏旧本也 / 昭和五年夷則中流借覧詠人書写焉 / 南呂 上流 於荒井僑居識之 / 岸廻舎 / 前田家本 三卷 / 静嘉堂本 五卷 |
| 8月10日 | 夜のねざめ 卷二 (東北大学本の複写本) | 三三三三 | 夜の寢覚 一之下 一冊 東北帝大蔵本五冊之内 / 以陽画感光紙映写畢 / 昭和五年竜集庚午南呂上流 / 岸廻舎識 / 昭和五年夷則中流借覧夜乃寢覚五卷而 / 詠人書写焉 卷五令家中之人写、卷一、二、三、四之中写 / 卷二者女子不熟于細字也 (「女子」補入) 故以感光紙 (別)補入 / 映写 (而)補入 / 備後 / 日之不審者也 八月十日夜記 |
| 8月中旬 | 原中最秘抄 (阿波国文庫本の感光写真) | 三二八八 | 原中最秘抄上下二卷一冊 / 阿波文庫蔵本也借得宮田氏 / 写本而以感光昏映写者也 / 卷首一枚缺矣 / 昭和五竜集庚午南呂中流 / 於學習院識焉岸廻舎 / 宮田氏影写本也 / 阿波本縦八寸六分横七寸鳥子薄葉袋綴也 / 最秘抄完本所在 / 前田家本 / 阿波文庫本 / 金子氏本 / 類従本者抄出也 |
| 8月15日 | 日本風土記 | 三〇二二 | 昭和五年仲秋求焉古本風土記拔萃歟 / 岸廻舎 |
| 夏 | 連歌 | 三二九〇 | 昭和五年夏詠于神奈川人 / 書写者也 能勢氏蔵本也矣 / 伊勢物語連歌一卷 別綴焉 |
| 9月上旬 | 夢の通ひ路物語 (尾州家本の現写本) | 三三五九 | (卷二扉) 昭和五年書写時、写 (ミセケチ「未附写」右傍書) / 表紙裏 (之紙補入) 而 (ミセケチ「原本者」「表紙二」補入) 貼附 (中) 補入 者也矣 / 卷四 / 卷五 同 廿五年八月卅日 / 卷三表紙裏二 / 題字无也云云 |

9月上旬

夢の通ひ路物語
(尾州家本の現写本)

三三五九

〈卷一奥〉夢の通路物語 六冊 尾州家本也 / 昭和五年九月上浣參候富士見町 / 之邸 而始書写者也 此一冊余自揮 / 禿毫影写残暑酷烈流汗淋漓於 / 腹背矣 九月五日十一時半—五時^{十三} / 六日十時—四時^{十一} / 十九日五時写了 岸廼舍識 / 昭和廿五年十日於蓬左文庫一校、 / 〈朱書〉五月廿二日一校了

〈卷二奥〉昭和廿五年五月廿九日卅日於蓬左文庫一校了 / 七月十九日再校於橋居云云 / 〈青墨書〉次日校訂 / 〈朱書〉八月廿四日〔就原本〕補入左傍書三校了 藍点疑問修訂了

〈卷三〉夢の通路物語 三 昭和廿年四月十三日戰災燒尽 / 同廿五年自四月上浣書写 得閑写若干葉至五 / 月八日朝写了 追懷二十年則如夢幻泡影云 / 昭和二十五年蕤賓五月十日浪々初夏夜雨 / 和風而窗前暄云云

／岸廼舍 / 〈青墨書〉八月廿九日朝以藍一校了 / 〈墨書〉八月廿九日十一時二十分於 / 蓬左文庫、一校訂了 / 仲呂六日 / 七日金雨 / 八日 雨 十日 / 十五日〈青墨書〉十八日〈墨書〉二十二日 / 蕤賓二日自朝至夕刻二十四葉

／ 四日木至五時半 殘葉三 / 八日月写了 / 〓九月中浣函書寮製本 十月十三日製本出来持參 / 以下七行中略 / 原稿燒尽、近年身葱忙 / 後日再起稿又難哉、々々、可憫々々 / 〓

此物語注解之事 先年徳川侯依囑有焉 / 余得閑暇 隨時進稿矣 然原稿等悉蒙戰 / 災而不余一物版灰燼了矣 卷三亦燒尽再書写 / 追補、為六卷者也

〈卷四〉夢の通路 六冊 借用來而囑高師生徒境野氏、於家 / 中書写焉 / 去九月以來至徳川邸書写未了 / 分為書写也 / 昭和五年十二月上浣 写了 / 岸廼舍 / 昭和廿五年七月廿一日強風自朝至夕一校了 / 〓 / 〈朱書〉七月廿五日朝於蓬左文庫以來一校了 / 不審若干有之

〈卷五〉卷五 ^{前境野氏} 昭利五年冬十二月下浣 / 岸廼舍 / 昭和廿五年南呂六朝一校了 ^{後島谷部氏筆} 連日雨天今日稍見蒼空 / 〓 / 〈朱書〉八月廿四日 廿五日 兩日於蓬左文庫对校了

| | | | |
|--------------|-----------------------------------------|----------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>9月上旬</p> | <p>夢の通ひ路物語 (尾州家本の現写本)</p> | <p>三三五九</p> | <p>〔巻六〕巻六 <small>卷首余書之</small> 他、鳥谷部氏筆也／ 昭和五年十二月下浣也／ <small>卷二</small>／ 卷三 以感光紙撮影於富士見町徳川研究室、／ 卷四 〔境野氏／境野氏〕二十三日マデ加勢而冬期版省、／ 卷五 〔境野氏／鳥谷部氏〕十二月廿四日—廿六日 写了、 〔廿六日—廿八日〕ミセケチ、／ 卷六 鳥谷部氏 十二月廿六日廿八日 拙宅宿泊而影写也／依頼所三男氏而借覽販宅、年末匆匆間書写也、／ 昭和廿五年七月廿一日黄昏記之 皇子渺々如夢／岸廼舎／廿三日一校溽暑不涉／廿四日続校溽暑無風不涉／八月三日夜一校了、 〔朱書〕八月廿五〔日〕の上に「五」重ね書き、日廿六日兩日午前中於蓬左文庫／ 藍点之部分校了</p> |
| <p>9月中旬</p> | <p>文筆問答鈔</p> | <p>四八二三</p> | <p>昭和竜集庚午無射中浣／岸廼舎</p> |
| <p>10月上旬</p> | <p>根本曾我物語 (元禄五年版)</p> | <p>一三三二一</p> | <p>昭和五年十月上浣</p> |
| <p>10月中旬</p> | <p>三教指帰刪補鈔 よしつね物語 (高木本の現写本)</p> | <p>二〇一九 一一二二</p> | <p>昭和五年十月中浣 於荒井僑居 岸廼舎 義経物語 八卷 以 高木氏蔵本書写畢、判官物語之系也 判官物語昔在東大、／ 図書館矣一曰久世子爵蔵書美濃紙本、一曰花廼舎写文庫本(墨坂十一代主写蔵記) 枕本<small>美濃也</small>、／ 共題法官物語焉、／ 判官物語八冊現存阿波文庫、屋代旧本也<small>枕本</small>、 法官物語<small>久世子爵旧蔵本</small> 与 義経物語比校(本文省略)』 <small>久世本与義経物語相近似也</small> 花廼舎本稍異也、花廼舎本与阿波文庫本相近似者也、(鈎括弧ママ)／ (稿本者花廼舎本系也 昭和四十年八月廿九日朝記之)』 卷八 義経記卷八嗣信京大御弔事之一節無判官物語焉、(本文省略)』 昭和五竜輯庚午黄鐘中浣以書写之序、 聊書付旧稿者也 半夜燈前聽雨声 岸廼舎識</p> |

| | | | |
|--------------|--------------------------------------------------|--------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 11月下旬 | 白雲集 作文大牀・童蒙 頌韵 (群書類従卷百 三十七文筆部十 六) | 二七五 | 《朱書》昭和五年黄鐘下浣(墨書)文行堂二而求 《朱書》昭和五年黄鐘下浣(庚午)岸廼舍 |
| 11月 | 草山集(草山和 歌集) *道風継色紙(複 製) | 三七九二 四一九四 | 昭和五年黄鐘 道風継色紙 昭和五年十一月 |
| 12月上旬 | あぶつの道の記 (正親町家本の現 写本) | 三五二六 | 十六夜日記/阿佛道の記一卷 正親町家旧蔵本也/借覽於倉野氏之序書写者 也/昭和五庚午大呂上浣識焉/岸廼舍 |
| 12月下旬 | 応氏六帖 | 六二四 | 昭和竜集庚午大呂下浣/岸廼舍 |
| 12月 | すみよし物語 連歌 (能勢本の現写本) | 一二四九 三九二〇 | 《朱書》住吉物語絵巻三卷松岡柳子蔵本也徳川初期者也/昭和五年黄鐘晦以住 吉物語絵巻校合了 上巻了/同大呂 《墨書》住吉物語一冊 後藤丹治氏寄贈者也 昭和五年夏詔于神奈川人/書写者也 能勢氏蔵本也矣/伊勢物語連歌一卷 別綴写 |
| 昭和六年辛未(一九三二) | 十二類絵巻 | 一二六一 | 十二支物語一日十二類合戦物語或十二類合戦絵詞/見于柳庵庚子紀行/昭和 六年大簇下浣/岸廼舍 |

| | | | |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1月 | | | 1月下旬 |
| 歌合(現写本) | 継子草子 | 唐鑑 (神宮文庫本の現写本) | 松蔭中納言物語 (東北大本の現写本) |
| 三九五 | 五一七七 | 三四五三 | 三三五六 |
| <p>〔卷一・三二〕の冊</p> <p>〔前見返〕昭和十六年三月下浣以近衛家藏類聚歌合／粗対校了 聊加雌(未でミセケチ「朱」と右傍書)黄者也(朱書鉛筆之上有末者書加也</p> <p>〔卷三奥〕類聚歌合十二ケ度ニ収メタル殿上根合永正六年五月五日／ニ対校シ、朱ニテ書込ム 昭和廿三年十一月九日於研究室にて」(三面分類聚歌合覚書省略)俊忠・只家筆ヨリハ稍細ク雄(一字ミセケチ)筆勢雄動ナルガ如シ、来年二月／国宝トナス予定ナリ、田山 松田両氏同道一覽矣／ 昭和十五年十一月十四日／しるす</p> <p>〔卷六・十〕の冊</p> <p>〔前遊紙〕卷六(以下五行目録省略)／／卷七欠／／ 卷六 一卷近衛家ニ有之</p> <p>昭和十年十二月十三日 校合了</p> <p>〔卷六扉ウラ〕昭和十年大呂十二 於近衛別邸一校了</p> | <p>昭和六竜集辛未大簇下浣於朝倉屋求焉／継子憎説話之継母之／米路古今東西周一轍型也／岸廻舎</p> | <p>〔墨書〕唐鑑 乾坤二卷 以神宮文庫本書写者也／ 昭和六年竜輯辛未孟春下浣(朱書)一月十八日起毫／廿五日終了／〔墨書〕内閣文庫本与神宮文庫本／字数行数同一而書風亦／相似矣／／本朝書籍目録云 唐鏡十卷 茂範卿／現存五卷而已 恐缺本歟／内閣本 五卷、与神宮本同系也 平仮字本也／彰考館本六卷 墨付六十九枚 片仮字本也／ 卷六魏蜀呉ヨリ餘皆恭ニイタル</p> | <p>松蔭中納言物語 五卷 一冊 以／東北帝大蔵本書写畢矣／ 昭和六竜輯辛未大簇下浣(依嘱学習院岡教授／之友人、其人画家云云／案外、文字不熟人也)岸廻舎識</p> <p>此本神谷克禎書写所也／映写不巧緻而失克禎之筆多少、可／纔見 克禎(之)補入(筆風者而已)</p> |

| | | | |
|------|-------------------------|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1月 | 歌合(現写本) | 三九五 | <p>〔卷七扉ウラ〕昭和十年十二月十三日午後二時近衛別邸ニ於テ「一校了」(朱書)近衛本ハ墨モテ合点符ヲ附シ又朱モテ朱ヲ附セリノナルベシノ(墨書)昭和二十六年十月廿八日於上野博物館陽明文庫展有之ノ此第六卷及豊主黒主歌合出陳有之一覽、今昔感淋漓云云ノ黄昏於研究室記之ノ秋雨蕭々終日ノ昭和六年歲次辛未夾鐘「鏡」の旁に重ね書き「鐘」十有三雨雪霏々矣ノ半日之間書写畢者也岸廼舎〔卷十奥〕歌合 六卷 四卷缺 以凶書寮本書写畢ノ昭和六年孟春於家中書写焉ノ岸廼舎ノ同年八月上浣聊書付者也ノ</p> <p>昭和十年秋十日住友家 近衛家京都ニテ供養会アリシトキノ宗尊親王歌合卷近衛家ヨリ出陳アリシ由大阪毎日ニ見エタリノ若シハ此ノ歌合ノ欠卷五・七・九歟(朱書)卷六、ト卷十(朱書)ノ一部ノ右傍書補入ナリキノ十月末介原田氏依頼近衛家中川氏ノ十一月下浣近衛家与島津家姻婚有之ノ十二月上旬閱覽(朱書)无「右傍書補入」差支之通知有之</p> <p>〔墨書〕欠卷之目錄以近衛家之目錄補之ノ 昭和十六年三月廿四日半夜記之畢</p> |
| 2月1日 | 唐鏡 (神宮文庫本の現写本) | 三四五四 | <p>唐鏡 一卷鈔書以神宮文庫藏本書写焉ノ与為氏卿真蹟模本合綴矣ノ昭和六<small>竜</small>年<small>鏡</small>末夾鐘朔畢畢「畢」一字衍か書ノ写之功者也 岸廼舎識</p> |
| 2月下旬 | くさ木のさうし (刈谷図書館本の現写本) | 三三三六七 | <p>草木草紙 一卷 写本ノ三河国刈谷図書館本也ノ昭和五歳二月詭人書写焉ノ二月下浣 岸廼舎識ノ此書与朝顔宮物語同ノ今如原本体裁書了ノ二月三日 依囑同十九日卒業也ノ朝顔露の宮の説 在 島津氏ノ近古小説新纂初輯</p> |
| 3月中旬 | 秋の夜長物語 | 一二六五 | <p>昭和六年沽洗中浣</p> |

| | | |
|----------------------------------------------------|----------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>3月下旬 鳳鳴集 藤原相尚齒会詩 ／詩卷（教家摘 句）</p> | <p>五二九 一四四二</p> | <p>鳳鳴集一卷 昭和六竜集辛未沾洗下流／岸廼舎 〔補入「亜」〕相尚齒会詩 一卷与類従本同本也／摘句一卷与日本詩紀所引之本 有少異矣／ 頗美本也／ 昭和六竜輯辛未三月下澣／岸廼舎識／〔教家〕 系譜、略〕／摘句 元來脱大江隆兼之名歟／ 本朝〔左傍書「日本」〕詩紀所引 本及内閣本俱無隆兼之名焉／十六年八月十八日記之</p> |
| <p>4月上旬 うづら衣 王澤不渴鈔</p> | <p>一〇四九 一七八七</p> | <p>鶉衣二卷正續一冊／昭和六竜輯辛未不慮求之東美俱樂部／鶉衣刊本因南畝太 田覃之推輓通／行于坊間昭和六年仲呂上澣 岸廼舎 〔上冊〕王澤不渴鈔／元和十年古活字本二卷ノ写本、内閣文庫ニアリ／同 积良季寛永十一年刊一冊 無窮会ノ天瀾文庫ニアリ／王沢不渴鈔聞書 二卷二冊日光天海蔵ニアリ 室町写、刊本ノ注卜別ナリキ、 〔下冊〕昭和六年仲呂上澣 岸廼舎</p> |
| <p>5月中旬 *平瀬本源氏物 語「榎柱」(複製 本)</p> | <p>三二七一</p> | <p>〔帙裏〕他に紛れ入りて 徳川林政史研究室にて所在／不明となる、桐つば一 冊／失所在〔三字ミセケチ〕／／ 昭和六竜輯蕤賓／中澣 岸廼舎 〔大正十年三月十五日発行 京都帝國大学文学部蔵版〕</p> |
| <p>源氏物語「蓬生」 「関屋」「薄雲」 〔曼珠院本の現写 本〕</p> | <p>三二七五</p> | <p>〔関屋卷末〕以河内本一校、畹雲本与河内本同矣／則以紹巴筆校合イ本之記 号即是也／右紹巴本中含畹雲本歟 他日可一見者也／ 昭和六年十一月七日 〔於〕補入 徳川侯邸識 〔薄雲卷末〕昭和八年三月卅日 於高松宮邸識之 〔光源氏物語 曼珠院本 三卷 借覽〕 宮田氏写本 詠人書写者也 昭和六年五月中澣／岸廼舎識</p> |
| <p>源氏物語 〔京大本の抄写 本〕</p> | <p>三二七八</p> | <p>光源氏物語抄写本一卷京大本也今以／ 京大転写本写置者也 昭和六年 五月中澣／〔函書寮にて製本す〕〔丸括弧内ママ〕 岸廼舎識 尾州本↓国語研究室本↓京大国文研究室本↓／／〔以下『実隆公記』の引用等 省略〕</p> |

| | | | |
|------|-----------------------|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 6月中旬 | 秋月物語 | 三三六〇 | 秋月物語 三冊 卷一、四五、卷二、三六缺 / 画図 土佐 筆 / 保科先生藏本也 昭和六年三月借覧 / 同五月詠人書写者也 / 昭和六竜輯辛未林鐘中浣。〈句読点ママ〉岸廻舎 |
| 7月下旬 | 住吉物語 (白峯寺本の現写本) | 三三四〇 | 住吉物語 二冊 以讚岐綾歌郡白峯寺本 / 書写畢 二冊本今合綴為一冊者也 / 昭和六年夷則下浣詠人書写焉 / 岸廻舎識 / 昭和六年大呂同七年大簇夾鐘之交 / 愉閑一校了 昭和七年「竜集 / 庚申」割注「二月下浣 / 於目白(某字の上に)白」重ね書き / 学習院図書館校了 岸廻舎 |
| 7月下旬 | すみよし物語 (永正五年本の現写本) | 三三四一 | 住吉物語 二卷 清水氏藏本也 / 該本永正本之転写本也 / 昭和六年九月下浣詠人書写焉 / 岸廻舎 |
| 7月下旬 | 風葉和歌集 | 三六〇五 | 内閣文庫本 半紙本 四冊 / 神宮文庫本 拔書本也 丹鶴系也 / 徳川侯家本 / 松井本 / 黒川本 阿波文庫旧蔵本 〔上卷末 第二卷〕昭和六〔四〕ミセケチ〔六〕重ね書き 林鐘 望 一校了 〔下卷末 第四卷〕風葉和歌集 十八卷 二冊 以宮内省本書写畢 / 原本清水濱臣藏本也 今 分冊為四冊者也 / 昭和五年仲呂下浣 岸廻舎 / 丹鶴本 流布本多此系也 / 内閣本 / 京大本 流〔補入〕布本与此本有異同 可補流布本之脱漏者也 / 彰考館本 / 昭和六年林鐘中浣以平間氏校合本一校了他日須一覽京 / 大本而遂校合者也 林鐘既望 朝、岸廻舎識 〔狩〕と書きかけてミセケチ 刈谷本 奥書〔補入〕如〕左記 / 〔奥書、省略〕群書一覽所引奥書同一也 / 露睡子何人歟可尋 / 昭和六年六月十六日朝 / しるす |

| | | | |
|-------|-----------------------|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 7月下旬 | たまきはる (書陵部本の現写本) | 三五一五 | たまきはる 写本一卷 以圖書寮本書写畢／昭和六年七月下浣詠人書写者也／右本卷末有金沢本之表紙横写矣／金沢本所在不詳也／原〔写〕補入〔本〕(圖書寮本魯魚之誤少々有焉／同年十月三日 一校了)〔建春門院中納言〕「八条院」略歴史料、省略 |
| 8月上旬 | 狭衣歌よせ (小川本の現写本) | 五二〇八 | 狭衣歌よせ 一卷 以小川氏蔵本書写畢／昭和六年八月上浣詠人書写者也／岸廼舎識／流布本狭衣之歌也 自卷一至卷四 |
| 8月下旬 | 玉つくり物語 (陽明文庫本の現写本) | 三三八三 | 玉造物語十五卷(冊) 近衛公陽明文庫本也／今在京大寄託本中呂清水氏／写本轉写者也／詠多々良氏写了／昭和六年南呂下浣合十五冊為三冊矣 岸廼舎識 |
| 9月6日 | 岩屋の草子 | 三三六三 | 右いはやのさうし住吉物語中に／散綴せられしを見出して漸くに／全き形に整へたる也／昭和七年五月十三日書写之功畢／於竹早町寓 高木三吉識／右の書其の後家蔵に歸すよりて此の／つたなき写を山岸先生に捧ぐ 全人識 |
| 9月11日 | 義正記(義正集) | 九三二 | 岩屋草子 一卷 為高木君所贈焉／右一卷錯入於住吉物語〔中〕補入者也 高木／君於本郷街書林一見之際書写／而後購求該書矣乃余受〔本書之〕補入／惠贈／欣躍何堪乎 茲記來歴伝後昆也／昭和七竜輯壬申無射祀皇靈之日 於秋雨窓前識之／窓外遠岫半片雲／三間茅屋送殘生 岸廼舎 |
| 9月下旬 | 住吉物語 (藤井本の現写本) | 三三四二 | 〔朱書〕萬女之名見于書焉／木草物語作者同人歟可考者也／昭和六年九月十一日岸廼舎 |
| | 小野篁集 (彰考館本の現写本) | 五二二三 | 住吉物語 一卷 藤井紫影博士蔵本也／以清水氏転写書写畢／昭和六年無射下浣詠人映写者也／岸廼舎 篁物語一卷 彰考館本也／借得宮田氏映写本而転写者也／昭和龍集辛未無射下浣詠人写焉／岸廼舎／小野篁集一卷余別蔵之爾云 |

| | | | |
|-------|--------------------------|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 10月上旬 | 伊勢物語髓脳 (神宮文庫本転写本の現写本) | 三二五四 | 伊勢物語髓脳 一卷 神宮文庫本也 / 以宮田氏本転写了 詠人者也 / 昭和竜集辛未六応鐘上流 / 岸廼舍 / / (後記補入) 村井本与内閣文庫本同者也 |
| | 伊勢物語髓脳 (神宮文庫本現写本の転写) | 三二五五 | 伊勢物語髓脳 一卷 神宮文庫本也 / 以神宮本之転写本書写畢 / 昭和六年十月上流詠人書写者也 / 岸廼舍 / / (後記補入) 承応二年本与刈谷文庫本同者也 |
| | 芥川草紙(住吉物語)(芥田氏本の現写) | 三三四九 | 芥川草紙一冊 / 以史料編纂掛蔵本転写畢 / 昭和六年十月上流 / 岸廼舍 |
| | 蜻蛉日記 (学習院本の現写本) | 三五〇五 | 蜻蛉日記 三卷 以學習院本書写者也 / 昭和六年十月上流詠人書写畢 / 岸廼舍 |
| 10月下旬 | 東台戦記 | 二七七九 | 昭和六年十月下流 岸廼舍 |
| | 源氏物語不審抄 (東北大本の現写本) | 三二九三 | 源氏物語不審抄 一卷 / 以東北帝大本書写者也 / 昭和六年十月下流詠人書写焉 / 岸廼舍 / 西尾文庫有源氏物語不審抄矣 |
| | 風葉和歌集 (東北大本の現写本) | 三六〇六 | 〈第一冊〉首卷及卷一令綴为一冊者也 / 卷一古写也 〈第二冊〉卷二与卷一書体同一也可見古色矣 〈第三冊〉風葉和歌集 四卷 今合為三卷矣(右傍書「为上中下者也」) / 東北帝大蔵本也 / 昭和六年十月下流詠人書写者也 / 岸廼舍識 / 首卷及卷三同書体也 |
| 11月中旬 | 神代卷風葉集 (宮田本の現写本) | 五〇八二 | 風葉集 一卷 神書也 / 以宮田氏本写了 / 昭和六年十一月中流 / 岸廼舍 |

| | | | |
|--------|---------------------------------------------|--------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 12月中旬 | 浜松物語（浜松中納言物語） （尾上本の現写本） | 三三二六 | 浜松中納言物語 五卷／以尾上柴舟博士本書写者也／尾上本卷四奥云万治三 二月 ^云 ／蓋尾上本 万治本之転写本歟／昭和六竜集辛未大呂中澁／眺〔詠〕の誤りか人書写畢 岸廼舎 |
| 12月23日 | 師輔集 郁芳門院安芸集（合冊・現写本） | 三七二八 | 〔師輔集〕 九條右丞相集 一卷 以凶書寮本書写畢／昭和六年大呂下浣冬至之日／於荒井橋居識之／岸廼舎／九條右大臣師輔集在丹鶴叢書中矣〔安芸集〕 郁芳門院安藝集 一卷／以帝室御本書写者也 別在〔有〕字の「月」部分に重ね書き「在」安藝集／一卷 枕本 一卷矣 同本也／昭和六年大呂下浣得閑書写者也／岸廼舎（以下安芸集に關する覚書一丁半あり、省略） |
| 12月下旬 | 古今和歌集抄（個人蔵本の現写本） | 三五八七 | 古今和歌集抄 十卷／以或家之秘本書写卷一、二及卷十者也／昭和六年九月神田街之書肆北沢来／示本書三冊矣余密々借覽遂書写／畢 不識或家即何某之家也／昭和竜輯辛未大呂下浣識之／岸廼舎／坂将曹之伝余別有調査物矣 |
| 12月 | 異本十六夜日記（川瀬本の現写本） 更科紀行 三冬紀行 （金台寺本の現写本） | 三五二七 三五三五 | 異本十〔六〕補入夜日記 一卷 川瀬氏蔵本也／逸題簽又有翠叢書之貼紙焉／昭和六年辛未大呂詠人而令写筆／岸廼舎／もとの題簽には／阿仏吾妻くたりとありしなるへし。 更科紀行 一卷 信州小諸在 金臺寺什物之／三冬紀行 金臺寺住職文阿上人の自筆云／昭和六年十二月詠人書写畢／岸廼舎 |

昭和七年壬申(一九三二)

| | | | |
|------|------------------------------|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1月7日 | 材和歌集 | 九六六 | <p>〔後見返〕昭和七年一月七日 求焉</p> <p>〔裏表紙〕越後曾根町／岸廼舍</p> |
| 1月上旬 | <p>文鳳鈔 (書陵部本の現写本)</p> | 四八四〇 | <p>文鳳鈔 第三 一卷／以凶書寮藏書写畢／昭和六竜輯辛未仲呂上浣予求閑／隨時書写者也 年々歳々華相似／来往風塵人自老 岸廼舍識／伊勢神宮文庫藏文鳳鈔卷一卷四／二卷矣現存入管見者右三卷而已／別在内閣文庫本須他日補写者也</p> <p>真福寺本文鳳抄<small>自卷一</small> 〇 内卷四、七欠八冊／奥云弘安元年之頃一部／書写畢／此書新写納〔於〕補入官庫者也／昭和七年上月上浣訪書于真福寺</p> <p>〔識語後に押紙〕菁華抄卷第三(以下目録省略)昭和十四年九月十七日午前晴有涼風／以電話問在否佐々木博士御所用不可止／午後四時半頃待來宅云／午後四時訪問而閱覽菁華抄卷三／則粘葉而鎌倉期書写本也 天下／逸品 他無有焉 一覽之後拔萃要点／但伎芸部前文抄出焉 無／奥書及訓点乎他之符矣 故比／于文鳳抄則劣事多少唯珍書／稀觀而已／ 昭和十四年九月廿日雨夜八時半／ 於大塚 文理大研究室／岸廼舍識之</p> |
| 2月下旬 | <p>古今集序存疑 (書陵部本の現写本)</p> | 三八七五 | <p>古今集序存疑 一卷／雅澄自筆原本 在 凶書寮 今以／同寮伝写之他本令書写者也／昭和七年二月下浣 岸廼舍識</p> |
| 3月5日 | <p>歌合時代類聚目録</p> | 五二二二 | <p>歌合時代類聚目録一卷／以凶書寮本書写年／昭和七年沽洗五／半夜燈前憶故人／往時髣髴轉傷心／冷灰炉底數行淚／窓外柝声催哀吟／ 一村翁去月〔玄〕字に重ね書き「月」晦歿矣／越上己之日送葬于谷中／感懷何堪乎 欲漏遺墨先濺淚乃記焉／岸廼舍</p> |
| 4月下旬 | <p>如願法師集 (書陵部本の現写本)</p> | 三七五七 | <p>如願法師集 一卷 凶書寮本也／他無類本故書写者也／昭和七年四月下浣／岸廼舍</p> |

| | | | |
|------|--------------------------------------|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 5月上旬 | 紫明抄 | 三二八五 | 紫明鈔 五卷 圖書寮本也 異本 / 卷一青一卷於大正震災焼亡矣 / 現存 黄 赤 白黒之四卷而已 / 昭和七年蕤賓上浣詭人書写畢 / 岸廼舎 奈良御集仁和寛平御集 一卷 以宮内省本書写 / 昭和七年林鐘下浣得閑映写 者也 / 岸廼舎 |
| 6月下旬 | 奈良御集 仁和 御集 寛平御集 (現写本・三集合 綴) | 三六五二 | |
| 7月上旬 | 判官物語 (義経 記) (岩瀬文庫本の現 写本) | 三四七一 | 《卷一》《朱書》卷一八 <small>卷一</small> 二卷也 / 岩瀬本八田中本、久世文庫《花廼舎文庫》 ミセケチ「久世文庫」傍書本ト同系也 / 《墨書》花廼舎文庫本・阿波文庫本・ 橋本八同系也 / 久世本、田中本、岩瀬本八同系ナリ 《卷二》《墨書》判官物語卷二一 両卷 西尾《市岩瀬》補入 文庫本也 / 今 以宮脇氏写本轉写畢 干時林鐘中浣也 / 同文庫本者卷三以下缺矣《朱書》即チ 内容八卷五以下也 / 《墨書》昭和七年 夷則 上浣 岸廼舎識 / 宮脇本寄贈 《于》補入 都大研究室 於圖書寮製本云云 / 《朱書》西尾本八四冊八卷ナルベ シ |
| 7月下旬 | 住吉物語 (岩瀬文庫本の現 写本) | 三三四三 | 住吉物語 一卷 / 三州西尾文庫本也 / 以高木氏写本轉写畢 / 昭和七年 夷則下浣 / 岸廼舎識 |
| 8月下旬 | 唐物語 (神宮文庫本の現 写本) | 三三三四 | 唐物語 一卷 以神宮文庫本書写焉 / 同文庫 特殊本也 昭和七年夏八月 下浣 / 詭人倉卒書写者也 / 重陽後朝識 / 岸廼舎 / 慶元之頃院御所探訪 事見于好書故事矣 |
| | 海人の刈藻 (書陵部本の現写 本) | 三三三七 | 海人の刈藻 四卷 以宮内省圖書寮本 / 書写者也 寮本四卷二冊也 / 昭 和四年十一月廿一日起毫、卷二詭人也 / 同十二月八日一十卷二畢 / 卷三 卷四兩卷 <small>自十二月三日開毫</small> 家中而写畢 / 卷二洪筆不堪讀 / 昭和七年南呂下浣於学 習院図書館 / 一讀秋霖蕭々萩葦冷 / 《筆硯堆塵》行間に補入 / 回首故山《鑑 澗》ミセケチ 西水畔 / 全村老若 |

| | | | |
|--------|-------------------------------|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 8月下旬 | 源藏人物語 (斑山文庫本の現写本) | 三三六九 | 源藏人物語 異本 以 斑山文庫本書写焉 / 原本逸題簽 書名不明也 / 乃因源 / 藏人之名今仮名焉乎 / 昭和七年八月下旬得少閑書写 / 岸廼舍 / 昭和七年大呂下浣阿波国文庫見淺間之縁起矣 / 此書淺間之縁起也、 / 昭和四十二年五月廿(ミセケチ)「十八」右傍書「日夜翌十九日朝又一読了聊書入 / 者也 今日 天皇陛下 苑遊会、赤坂離宮内云云 / 陛下苑遊会招待 既及三回也 / 十九日午前十一時書焉 / 岸廼舍 |
| 秋 | *古今和歌集(卷十七) (複製本) | 四一九八 | 〈箱書〉昭和七年秋 |
| 11月7日 | 忍辱雜記 | 二〇四一 | 昭和七年十一月七日 / 於奈良求焉 / 岸廼舍 |
| 12月中旬 | 住吉物語 (光蓮寺本の現写本) | 三三四四 | 住吉物語 三卷 枕本也 / 信濃長野市大字 / 西尾張部光蓮寺什也 / 昭和七年大呂中浣 / 詠人令書写畢者矣 / 大呂大晦朝岸廼舍 / 合綴為一冊者也 |
| 12月31日 | 貞敦親王御詠 詠百首和歌 (書陵部本の現写本) | 三七九〇 | 貞敦親王詠 一卷 図書寮藏也 / 昭和七年十一月詠人令書写畢 / 大呂晦於長崎南街之僑居記 / 岸廼舍 |
| | 星巖集 | 一一〇九 | 〈帙裏〉昭和七年西京にて |
| 1月中旬 | 蒙求倭調集 (学習院本の現写本) | 三八二五 | 蒙求倭調集 二冊 以学習院本書写畢 / 昭和八年一月中浣 <small>青本子書写上卷 / 石原子書写下卷</small> / 紀元節之日 岸廼舍識 / 披雲閣 (松平頼寿伯)本、蒙求和歌集上卷一冊 / 精選本也 (以下、蒙求和歌諸本一覽省略) |

昭和八年癸酉(一九三三)

| | | | |
|-------|------------------------------|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | 2月9日 宇津保物語考 (巖松堂本の現写本) | 一一七四 | 昭和八年十二月九日借覽巖松堂本／以序書加併校訂者也秋葉旧蔵本／書写粗雜而誤字不少也以墨傍／書便于讀過云爾／岸廼舍識 |
| 3月中旬 | 文正草子 (松井本の現写本) | 三三九〇 | 文正物語二冊 以松井博士蔵刊本書写畢／文正物語刊本別在二種、一曰明曆四年刊也／寛文之刊記蓋改明曆乎、一無刊年記也／昭和八年蕤賓朔岸廼舍識／岩波発兌雜誌文学(国文学講座附録)／載文正物語之事／昭和八年三月中浣詭人書写者也 |
| 3月20日 | 友鏡底廼影 | 三三三一 | 友鏡底廼影一卷以保科孝一先生／蔵写本書写畢分綴而為／上下二卷矣／昭和八年姑浣上浣詭人／映写者也／昭和八年三月二十日識／岸廼舍 |
| 3月下旬 | 懷風藻 (群書類從卷百二十一) | 一四一一 | 〈表紙見返〉天和四年刊本 右ノ如シ／第一枚目ノ裏(表ハ白紙)／星「斗」ミセケチ新射斗波瀾衡山／懷風藻／銅駝坊碧鷄堂繡粹／次頁／「逃聴」：「：」ママ／巻尾／題懷風藻後／日月：「：」ママ／山重頭題／天和四甲子歲正月良辰 銅駝坊書肆長尾兵衛刊行 〈裏表紙見返〉「以松井博士蔵伴直方旧蔵本一校了聊加雌黄者也／昭和六年八月下浣 岸廼舍／余借覽松井博士蔵本而以墨頭書未果朱書矣／偶大須賀氏得閑為余所果朱書、記芳志／謝其勞者也 昭和八年 三月下浣／岸廼舍識 |
| | 右京集(建礼門院右京大夫集) (書陵部本の現写本) | 三七五三 | 右京集 一卷 以図書寮本映写者也／昭和八年三月下浣詭青木子写了／岸廼舍識 |

| | | | |
|-------|--------------------------------|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 5月 | 作文大鉢 作文 (金剛三昧院本の 現写本・合綴) | 四八〇六 | 作文大鉢 及 作文鉢 以 金剛三昧院藏書 / 書写者也 右二冊 高野山図書館寄 / 託中也 / 作文大体異本甚不少也 如左記可最見者也 / 東山御文庫本 / 真福寺本 / 観智院本 / 成實堂本 (朱書) 卷首欠本也 / 類從本者不純而 / 不堪見也 (墨書) 岩瀬文庫本 / 正智院本 / 同 略記 (本) の上に「記」重ね書き / 昭和八年四月詠親王院住武 / 田氏書写者也 / 同年蕤賓中院識 / 岸廼舎 / 昭和九年八月上流 作文大鉢開題脱稿。(句点ママ) 校正二校了 / 八月廿日学習院図書館 |
| 4月下旬 | 清少納言枕草子 | 三四八一 | 枕草子三卷 以久原文庫本書写者也 / 昭和八年仲呂下流詠人書写者也 / 岸廼舎 / 桐箱入、余去大正十年初夏佐佐木信綱先生 / 翁邸見 (書) ミセケチ「見」右傍書 / 久原本、以春曙抄本聊 / 校訂焉、今年、得機借覽而 / 書写者也、読点ママ / 耄及愚翁本世間不為少也 / 岸廼舎又識 |
| 4月13日 | 三宝絵詞 | 三四二九 | 岸廼舎 (上巻) (朱書) 昭和八年無射上流七日一校了 / 加朱点者也 学習院図書館 / (中巻) (朱書) 昭和八年九月九日夜飾磨の漁翁迄校了 / 今日御前 (於) 補入 / 徳川研究室 平瀬本調査整理 / 午後 (於) 補入 / 学習院二哩余競走残景酷烈 / 夜校訂虫声響々天 / (墨書) 無射十日午前一校了 落合町祭礼也 / 鼓声 / 殷々響 青空 (露) 左傍書 / 白雲飛 / 岸廼舎識 / 妙達和尚記 / 今昔物語卷 / 十三第十三話ニアリ 続類從二毛蘇生記ヲノス (下巻) (墨書) 三宝絵詞 三卷 以京大國文研究室本 / 書写畢 原本国宝也 / 為国宝 / 以前書写者即是京大國文研究室 / 本也 昭和竜輯癸酉仲呂中 / 流借 / 覽之序書写者也 / 昭和八年蕤賓中瀚識焉 / 岸廼舎 / 青木氏外石原氏等 / 周 / 旋書写 (丁裏メモ略) (朱書) 昭和八年九月十一日夜六月迄校了、陰虫切々 / 夜気冷也半夜置レ筆、 / 九月十二日朝於学習院図書館 / 館 一校了矣 / 以 / 他本須更校訂点不少乎 / 文体 誤報 宗教意識等他日 / 可究明者也 / 大鏡作 / 者亦真于本書処如 / 有之 / 昭和八年無射十二 / 於学習院 岸廼舎識 |

| | | | |
|-------|-----------------------------|--------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 5月11日 | 纂図附音増広古 注千字文 | 四三七七 | 昭和八年五月十一日 岸廼舎識 |
| 5月中旬 | 和漢兼作集 主殿集 | 一四五六 三六八五 | 〔表見返〕和漢兼作集 写一、図書寮蔵本也 〔裏見返〕昭和八年蕤賓中流／岸廼舎 主殿集一卷 圖書寮本也／作者不知 尼法師之集歟／昭和八年三月上浣於家中／書写者也 他日須考究／五月中浣書附焉／岸廼舎／四条〔太皇〕補入 太后宮主殿 風雅雜上 〃 信濃 四条太皇太后宮 花山院女御視子 頼忠ノ女 公任ノ妹 〔姉〕の上に「妹」重ね書きナリ／大鏡 頼忠伝 〃 〔ママ〕今一所の姫君は花山院の御時の女御にて四条美也に／尼にておはしますゆめり：御妹の四条美也の后にた、せたまひてはじめて内へ入りたまふに…… |
| 5月20日 | 寛平御時后宮歌 合 〔書陵部本の現写本〕 | 三六二四 | 斑子女王歌合不啻一日而已所謂前番後番其著名者也／恐有別自歌合等坎本書与神宮文庫寛平／中宮歌合異而和哥之重出者有之、蓋非自歌合／安有歌之重出乎／神宮文庫本他日須書写者之 昭和八年五月中流／岸廼舎識 寛平御時后宮哥合 一軸／旧圖書寮本書写者也原本定家／流文字聊有之内容亦可也／昭和八年五月廿日東京高師学生／為余割半日之閑所書写矣感懷何堪乎 於半夜燈前 記之／岸廼舎 卷子本一軸今便宜／為書冊一卷矣 |
| 6月上旬 | 海人の刈藻 | 三三三八 | 蟹の刈藻 卷四 一冊／以高師本書写者之／ 昭和八年六月上浣岸廼舎 |
| 7月7日 | 蜻蛉日記 | 四五四 | 〔第一冊〕昭和八年七月七日／ 大阪より求む焉／岸廼舎 |
| 7月9日 | *日本雜事詩 | 三〇四 | 〔上巻〕昭和八年七月九日於 新宿松屋樓／ 上古籍展覽会 購求焉／ 同 七月十一日午前一読了／岸廼舎識 〔明治13年5月25日 飯島有年・訓点者 早乙女要作・出版人〕 |
| 7月15日 | 古今伝授切紙口 伝条々 〔沼沢本の現写本〕 | 三八七四 | 古今伝授切紙口伝條々一卷 借覽沼沢氏本／而書写者也 村松氏割閑畢書写之功矣／昭和八年七月中元夜識焉 岸廼舎／俗事紛蚊文々筆硯少祥暑氣多 |
| 7月中旬 | 行庵詩草 | 九〇八 | 昭和八年七月中流 岸廼舎 |

| | | | |
|-------|-----------------------|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 7月31日 | 蜻蛉日記 (萩野本の現写本) | 三五〇六 | <p>〔上巻〕蜻蛉日記〔故〕補入 萩野由之博士本也 昭和五年三月於史料篇輯所見焉 欲書写有年、今茲夏扨松井先生 借覽以序 嘱川口氏書写者也 昭和八年七月中浣 岸廼舎</p> <p>〔下巻〕萩野本三冊 契冲手校以前形態也 中下二巻嘱村松氏七月下浣畢書写之功者也 余登于富士山又来往京洛 匆忙中也矣 昭和八年夷則晦 褥暑午後識 岸廼舎</p> <p>〔朱書〕昭和十九年九月四日〔朱書右傍書〕以有 以〔朱ミセケチ〕古新宮城書藏之本 午前中一校了該書之書写不良好、〔説点ママ〕</p> <p>〔墨書〕昭和六年夷則下浣求焉 岸廼舎</p> <p>〔墨書〕卷二缺分以吉沢〔氏〕鉛筆書左傍書 本補之畢 同本ハ新宮城書藏〔左傍書〕ノ印アリ 補入 昭和十年八月上浣</p> |
| 7月下旬 | とりかへばや物語 | 一二四六 | <p>〔朱書〕雅有卿記 佐々木信綱博士藏也 今借写玉井氏写本誂人〔令〕に〔全〕字重ね書きした上にミセケチ令書写 者也 悪筆之人書写不堪読 校正及二日 須誂能筆人也 昭和八年南呂 二、〔於〕補入 学習院 三、荒井橋居 一校了 岸廼舎</p> |
| 8月2日 | 飛鳥井雅有日記 (佐々木本の現写本) | 三五一八 | <p>〔表表紙見返〕不二登山記下題 〓ル方便也乎 岸廼記</p> <p>〔裏表紙見返〕昭和八年八月中浣 余終第五十回登山矣登 山道及頂上之變遷不少也 古人以信仰登山余為 体育意育情育登山矣 山岸德平</p> |
| 8月中旬 | 登富士山記 | 三〇三六 | <p>しくれ 一卷 以久原文庫本写畢 昭和竜輯壬申夷則下浣依頼于 清水氏南呂中澣書写畢 八月廿三日岸廼舎藏 〔朱書〕原本 誤字脱字不鮮也 補入 〔墨書〕昭和八年九月三日落丁一枚補充矣 依属干悪筆之人 而文字難読 困惑々々 岸廼舎識</p> |
| 8月23日 | しくれ (時雨物語) | 三三七四 | <p>〔朱書〕昭和九年一月廿八日於学習院図書館 校訂了 以宮田氏本訂校了也 誤字滿紙落丁不鮮 困却々々 今夜残十葉矣</p> <p>〔朱書〕時雨物語 蓬左文庫本 藤井乙男本 久原文庫本 昭和九年一月卅日午後一校了於学習院図書館</p> |

| | | | |
|--------|-----------------------------|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 8月下旬 | 疊辞訓解 月かけ | 六八五 三三九六 | 昭和八年八月南呂下流／於新宿駅頭夜露店求焉〔末葉二三落丁歟〕岸廻舎 月かけ 六卷 合綴一冊／住吉文庫蔵本也以宮／田氏写本書写畢者也／ 昭和八年八月下流／岸廻舎／他無類本矣／本書之絵在住吉大社御 文庫／貴重図書目録中焉 |
| 9月中旬 | 鳴門中将物語考証 | 三三五二 | 昭和八年九月中流 岸廻舎 |
| 9月24日 | 懐風藻 | 一四一〇 | 〔表見返に押紙〕昭和八年九月廿四日／於学習院図書館記焉 |
| 10月上旬 | 東西蒙求 | 四〇九三 | 余好読蒙求茲有年矣 随求則随／讀焉蔵各種蒙求〔補入〕及〔十数部〕本書憾 不記出典也／岸廻舎識／昭和八年十月上流 |
| 10月13日 | 日本往生伝和解 | 二〇八四 | 〔挟み込み別紙〕往生伝 十五部五十六〔ミセケチ右傍書〕八冊／一、拾遺二 ／二、後拾遺 一／三、新撰 八冊／四、現証 三／五、近世 一／六、緋白 三／七、扶桑 三 一、五／八、南紀 三 三、五／九、淡海 二 一、五／ ／十、拾遺〔專／念〕二／十一、〔諸国／見聞〕近世 十五 八／十二、〔拾 遺／三宝〕感応伝五／十三 勢州 三 三／十四 龍門夜話二／十五 往生全 伝五／ 昭和八年十月十三日夜／学習院図書館寄託／ 十六尾陽往生伝 三冊 卷／一七三河往生験記 三、式、五／○專念往生 伝 三 卷／○遂懐往生伝 二、八〇／一八随問往生記 三 卷／十 年／一月／十五日／購入ス／天竺往生伝 一 |
| 10月中旬 | すみよし物語 （香取神社文庫 本の現写本） | 三三四五 | 住吉物語 二卷 以香取神社本書写焉／余今年孟夏六月廿五日到佐原郷／ 訪佐原女学校長橋本氏同行数輩／命車歴巡名利旧蹟詣〔於〕補入〔香取神 宮〕更一覽文庫堆塵匣中見本書請／官司借覽矣 遂書写〔於家中〕補入者也 ／昭和八年十月中流／岸廻舎識 |

| | | | |
|--------|--------------------------|--------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 10月22日 | 狭衣 | 五二二 | 〔二〕の冊〕鈴鹿本甲与神宮文庫本同〔系〕補入〕矣。近似于流布之本者也。梶井宮本断簡亦同系也。但末二三行異文也故又〕別系歟、雖然断簡之部即与鈴鹿本・神宮本同者也。昭和九年九月廿五日識之。〕鈴鹿本甲与金沢本亦合矣但金沢本以大島本系本文〕校訂補入故有複雑之箇所也。〔四〕の冊〕狭衣〔住吉〕ミセケチ〕物語四卷。以鈴鹿本書写者也。〕原本慶長頃乃至其以前古写本〕也。今茲四月末上洛序借覽而〕秋十月畢書写矣。〕卷一二兩卷詭人。卷三四兩卷。〕於家中書写畢。昭和八年十月中浣霖雨之候也。〕同月廿二日。岸廼舍識 |
| 10月30日 | 草堂雜錄 茶器辨玉集（辨玉集） | 五〇六一 四二二七 | 昭和八年十月卅日。神宮競技打合会之販途於。〕神田街求焉。宋詩之流也。〕岸廼舍大正十五年夏。楠田家之本借覽柳谷氏同道。〕昭和八年秋頂戴焉楠田氏大阪移轉。〕 <small>〔学習院教授〕</small> 柳田武夫周旋。〕丸括弧ママ〕岸廼舍 |
| 秋 | 性靈集 狭衣物語 （松井本の現写本） | 四九五 三三二二 | 奈良ニテ求焉岸廼舍。〕昭和八年十一月上浣。狭衣物語三冊松井博士藏本也。〕卷四缺本。〕圖書寮藏列帖色紙三冊本（卷三欠本）同系也。〕今書寫松井本卷三補圖書寮本者也。〕松井本（卷四缺卷之分）与圖書寮列帖本（卷三缺卷之分）〕全同系也。〕昭和八年十一月廿三日斜陽窗下識焉。〕岸廼舍。〕今茲十一月上浣於家中書写者也 |
| 11月上旬 | すみよし物語 （住吉神社本の現写本） | 三三四六 | 住吉物語。一卷以住吉神社文庫本転写。〕者也。〕列帖装写〔写〕ミセケチ〕本而書写十行木活字本〕者歟。〕今年仲夏借覽宮田氏写本之。〕序書写於家中焉。〕昭和八年十一月廿三日。〕於荒井橋居斜陽窗前識焉。〕岸廼舍 |
| 11月23日 | 曾我物語 | 一三三四 | 〔帙裏〕「曾我物語。大石寺本。 <small>〔御厨巻今日之御殿場也〕</small> 昭和八年十二月二日 |
| 12月2日 | 譯準笑話 | 一八三九 | 昭和八年十二月七日沼澤氏寄与余。〕沼澤氏名龍雄第一高等学校教授也見。〕余集輯邦人之詩文集而。〕喜捨者也。〕岸廼舍識 |
| 12月7日 | 東海道中山道中 細見記 | 三〇七四 | 昭和八年十二月廿六日。〕岸廼舍 |

| | | | |
|--------|-------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 12月29日 | 雅言解 | 六三〇 | 昭和八年十二月廿九日夜／神田街露店にて求む |
| 12月31日 | 曾我物語 (和田本の現写本) | 三四七六 | 曾我物語十二卷 内卷六・七兩卷元来缺之／都合十冊 以 和田氏本書写者也／今茲夏七月下浣借覽而秋十月誦入／終書写之功矣(今含本為六冊。)左脇余白にナミ字で補記) 昭和八年十月廿三日識之／ 岸廻舎／ 和田信二郎氏嘗為津中学校教諭時一日／過和漢書賈々主日古書一荷來於大和圓／成寺未解包裝云云 和田氏乃強令解包／裝見之 曾我物語与庭訓往来(可)補入)最見之書也／曾我物語十冊異本而庭訓往来松永貞徳之父)之筆也云云 右求兩部云云／圓成寺号(予め設けた空格に「忍辱」と補入)山 大和 郡 尼寺也／(二行分空)／曾我物語木活字本十冊 無刊記／義経記木活字丹祿本(八)補入)冊 無刊記／ 右二部昭和八年十二月在一誠堂、主人一夕／招余示焉時日価二部都合阡參四百金也／云云 昭和八年十二月卅一日／ 為備忘識焉者也 |
| 異本悦目抄 | 三六六四 | 異本悦目抄一卷 略本而存原文之面目歟／以松井博士藏本之轉写本書写者也／今年晚秋於家中窃日餘書写云云／ 昭和八年大呂(大)補入)晦之日午後書焉／ 庭前蔽蔽々寒茫鳴(鳴)ミセケチ「夜」右傍書「歲晚回頭業未成」 人事年々多俗宗累 昭和八載今正逝／ 昭和八年十二月卅一日漫連七言廿八字／長崎南町荒井僑居ニテ／岸廻舎識 | |
| 歌林集 | 三八六五 | 哥林集 一卷 以久曾神氏本書写者也／ 世間通行悦目抄而可謂善本歟／江戶初期若其前後書写歟又稍古歟／ 今年中秋以降晚秋之候於家中／ 書写者也／ 昭和八年十二月卅一日記焉／岸廻舎／ 今日午前碧空快晴 午後陰沈冷砭也／ 詣長崎神社謝今年之(之)ミセケチ)無恙矣／ 二兒同伴俱賽于社前、余住於／長崎町既七年也云云(頭書余白に「二兒日昭子六／日和子六也」と細字墨書) | |
| 俳諧深川集 | 一〇三六 | 深川集注解不聞有類本頗稀本也／昭和八年十二月下浣於琳琅閣求焉／岸廻舎 | |

昭和九年甲戌(一九三四)

| | | | |
|-------|-----------------|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1月22日 | 闇夜礫(古今集序吐疑) | 一二三 | 愛知県西尾街八面山房主人石川俊／雄氏岩瀬文庫本により謄写して／贈らる 昭和九年一月廿二日』 〔朱書〕書陵部在自筆本焉、〔読点ママ〕 |
| 1月 | *狂詩眼 | 一七七 | 昭和九年一月／岸廼舎 〔明治29年8月18日発行 印刷所・秀英舎 発行所・団々社書店〕 |
| 2月2日 | 高松宮家蔵 紫式部日記(複製) | 三五〇 | 〔箱書〕昭和九年二月二日 |
| 2月中旬 | 三宝絵詞 | 三四二八 | 昭和九年二月中流求焉岸廼舎 |
| 3月7日 | 増鏡 | 三四四七 | 昭和九年三月七日午後／受東伏見伯之依頼至北沢書店／販途遇巖松堂偶然之増鏡／水鏡乃類求而販矣 流布本也／但村田橋彦自筆可称珍書之／書肆不知之也別有大鏡而／而在武田祐吉氏云 |
| 3月中旬 | 地藏菩薩本願經手鑑 | 二二二八 | 昭和九年姑洗中流／岸廼舎 |
| 3月23日 | 増補卜筮盲節 | 四一四五 | 昭和九年三月廿三日／岸廼舎 |
| 3月24日 | 庭訓往来 | 七五二 | 昭和九年三月廿四日／岸廼舎 |
| 4月30日 | 蒙求和歌(松井本の現写本) | 三八二二 | 〔上巻〕昭和九年蕤賓十九日 於荒井橋半夜偷閑 校訂／同 南呂 六日 於学習院図書館炎暑午後一校了／ 午後七時茅蜩樹上鳴／ 残陽西天清云云／岸廼舎識／送仮名 語法／未へ／人ト／公ケ／昔シ／夜ル／／与法華百座有類者也 要國語學上研究蓋蒙求原本文也 〔中巻〕昭和九年八月八日立秋之日午後於学習院／一校了七時五十分也 天陰溽書如昨汗／溢於手甲陰々■〔茲〕下に「虫」々秋意聊浮聽(ミセケチ)於夜氣／岸廼舎識／昨今俗人來訪繁多雖然転青眸対之也煩雜々々／此本於家中影写余処々書之 書体自〔可〕補入〕歴然矣／ 目白学習院図書館識之者也 |

| | | | |
|-------|-------------------|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 4月30日 | 蒙求和歌 (松井本の現写本) | 三八二二 | <p>〔下巻〕蒙求和歌集 三巻 以 松井博士藏本 / 書写者也 貼紙及朱筆書入 小林百枝 / 翁之筆也 下巻末朱雀筆數葉亦 / 百枝翁補綴皆以証本校訂補綴也 / 今茲三月下浣草源光行伝序借覽 / 焉書写者也 即 初稿本与精選本俱 / 得藏架矣 / 昭和九年仲呂晦 書写畢 / 夜気砧骨微雨霏々矣 / 淑気浮空 / 和氣渡郊蕤賓朔日 / 岸廼舎 / 識之 / /</p> <p>南呂八月上流一校了 / 六日爰暑卷首少々校了 / 七日天陰稍有風午前有來訪日、不果 / 午後〔所補入左傍書殘朱筆之部校了 午後八時二十分也 / 於日白學習院識之</p> |
| 4月下旬 | 唐鏡 (彰考館本の現写本) | 三四五二 | <p>昭和八年五月十二日於學習院圖書館〔余殆為此会也〕右傍記開 / 狭衣会陳列狭衣物語類以其次借覽〔之〕朱書補入 / 書 / 曰高松宮家大鏡繪卷一卷〔曰〕補入 / 彰考館藏 / 狭衣木活字本 同系図〔曰〕補入 / 蓬左文庫藏藤袋 / 冊子繪卷二卷〔曰〕補入 / 伊東子爵家藏真字本曾 / 我物語十卷〔曰〕補入 / 法隆寺藏法華百座一卷 / 及宮内省圖書寮藏狭衣類桂宮本大鏡 / 清少納言枕草子〔曰〕補入 / 鈴鹿氏藏狭衣等甚多 / 矣 余先年〔以〕朱書補入 / 來欲彰考館本唐鏡詳覽〔詳覽〕を〔彰考館〕の前に指示する朱書の転倒符 / 請 / 水戸公借用而当日添へ一字ミセケチ / 錦上添花〔朱書句点補入〕 会后囑于 / 原田氏遂書写之功達宿望者也 / 昭和九年四月下浣終裝潢聊記于卷尾焉 / 岸廼舎 /</p> <p>唐鏡 為氏畢一策 / 松浦伯爵什賈却之際余請于尾州侯 / 為蓬左文庫之有矣 / 〔内閣文庫本 / 神宮文庫本〕同本而俱至卷五而已 / 〔朱書〕唐鏡卷六一冊先年囑于彰考館員書写焉 / 今次書〔写〕朱書補入 / 彰考館本全巻 故寄贈卷六一冊於神宮 / 文庫矣 欲酬多年之恩誼者也 / 昭和童輯八孟夏 / 岸廼舎識 / 唐鏡 / 〔墨書〕斯道文庫論叢 第四集二論考アリ</p> |
| 5月8日 | はしべんけい | 三三三九八 | <p>〔朱書〕橋弁慶一卷 藤井乙博博士藏本也 / 余大正〔昭和〕ミセケチ〔大正〕右傍書 / 七年十一月囑于当時京大法學 / 部在學島岡氏転本文之一部分矣 / 今茲三月語于馬淵氏本書之内容。〔句点ママ〕氏 / 西下之序過清水泰氏請本書転写 / 云云 / 蕤賓五月清水氏送附転写本於馬 / 淵氏 今日馬淵氏來院乃俱一読 / 以訂誤字畢 / 馬淵氏寄与本書よ之架上 / 余欣躍聊記其來由云爾 / 昭和九年五月八日夜 / 於學習院圖書館識之 / 岸廼舎 / 夜一読加朱点考之</p> |

| | | | |
|-------|------------------------|--------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 5月 | *雨奇山人遺稿 | 七六六 | 岸廼舍／昭和九 <small>竜</small> 集 <small>甲</small> 戊蕤賓為／米納津 安樂寺住職所贈 〔昭和5年2月28日 草野滄吉・編輯兼発行者 瀬戸印刷所〕 |
| 6月1日 | 御製心經 金光明最勝王經 大縁起 | 二二〇八 二二三七 | 昭和九年六月一日岸廼舍 昭和九年林鐘朔／岸廼舍 |
| 6月2日 | 源氏之註 芙蓉記 芙蓉園 | 三〇三九 三二九九 | 昭和九年林鐘朔／於神田街求 岸廼舍 源氏物語之註也 无題名矣／以高野斑山博士藏本書寫／旧梶井宮本而出於朝香宮者也／昭和九年蕤賓中浣借覽之／序書寫矣／林鐘上浣二半夜聞雨声／岸廼舍／初音以下欠者歟／続類從所取明翰抄中在 白〔道澄〕梅〔近衛聞書〕：〔…〕ママ等。 |
| 6月上旬 | 伊勢物語連歌 源氏物語抄（現写本） | 三九一九 | 〔伊勢連歌〕奥10才〔伊勢物語連歌〕一卷 能勢氏藏本也〔枕本而梅牧両／吟合綴也〕／昭和三年七月廿三日半夜書寫了／翌日一校了聊書附者也 岸廼舍／続群書類従本省略旁朱而頗惡本也今／得善本 書写者也 余以朱及墨書付勢語／之文歌無／鷲尾中納言者二水記作者歟 末摘花断簡 一卷 以高野辰之博士本／書写者也 建長頃写本歟／異本〔異本〕朱ミセケチ也〔朱書〕梗概本也／〔墨書〕昭和九年林鐘上澣／岸廼舍識 〔朱書〕列帳裝也／ 〔墨書〕原本混〔一字ミセケチ右傍書〕為〕誤今訂正矣／下段之朱数字原本之順序也 |
| 6月24日 | 奥州後三年記 | 一二二九 | 昭和九年六月廿四日 岸廼舍 |
| 7月6日 | 漢故事和詞集 （泊泊舎本の現写本） | 九六〇 | 漢故事和歌集 一冊 以松井本書寫了／昭和九年蕤賓林鐘之間於家中／書写畢 溽暑鬱陶 室如甌中／學期末前 多忙營々 來徑風塵／青春一去 顔色如土 如何無涙／丈夫惜名 虎〔虎〕ミセケチ 豈不留名 岸廼舍 夷則上浣七夕乞巧奠前日也／岸廼舍識 |

| | | | |
|-------|-----------------------|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 7月上旬 | 阿羅野 | 一〇一九 | 阿羅野上／卷六以下欠焉／昭和九年七月上浣 阿羅野下卷／有焉以補之者也 |
| 9月3日 | 浜松中納言物語 (書陵部本の現写本) | 三三二七 | 浜松中納言物語 四卷／以 図書寮本書写畢／昭和九年南呂中浣 於家中／ 図書寮蔵浜松物語三部但以善本写者也／ 清水浜臣本／ 藤波家旧蔵本／ 昭和九年九月三日識之／岸廼舎 |
| 9月上旬 | 現存歌選 | 九四二 | 昭和九年無射上浣 岸廼舎 |
| 9月12日 | 繪入竹取物語 | 一一一一 | 竹取物語 伊佐々米言の朱点を押す者也／昭和九年九月上浣 岸廼舎 |
| 9月30日 | 続本朝俗説弁 | 三二〇三 | 昭和九年九月十二日岸廼舎 |
| 9月4日 | 尾張廼家苞 | 六一 | 昭和九年九月晦 岸廼舎 |
| 10月6日 | 文鳳抄 (和学講談所本の現写本) | 四八四一 | 文鳳抄二卷 <small>卷四</small> 神宮文庫蔵本／ 今茲二月詭人書写畢／ 昭和六年三月下浣 岸廼舎／同卷三「五」の上に重ね書き「三」 一卷在図書寮／余知其所在者僅 右三卷而已／本朝書籍目錄 詩歌部云／文鳳抄 十卷 菅為長卿撰／／昭和 童集辛未沽洗晦一校了 岸廼舎 玉海 文治三年二月九日 <small>此日</small> 内府始有作文事依永久例行之／ 宗頼朝臣 余并内府 兼日承仰催文人等、秉燭人々來臨：「……ママ」／ 儒者ノ中ニ菅原為長 家詞也 兼日承仰催文人等、秉燭人々來臨：「……ママ」／ 菅原為長欲書新古今 アリ／／詩会部類 三卷三冊／和歌会部類五卷六冊／／ 菅原為長欲書新古今 之序「而」補入後京極撰政遮阻之／ 因為長恨「之」補入「弑撰政」云云 但是俗説 不可信也／後京極撰政暗殺蓋如愚管抄記載闕于頼實及卿之二位兼子等者也乎 昭和九年十月四日／内閣文庫林氏本文鳳抄書写之夜聊記之云云／岸廼舎 |
| 10月6日 | 文鳳抄 (和学講談所本の現写本) | 四八四三 | 〔卷九奥〕〔青墨〕昭和廿四年四月十七日午前以旧久我侯本(現、折口本)／校 訂了／〔朱書〕以藍記者皆久我本也 岸廼舎(丸括弧内ママ) 〔卷十奥〕本書存弘安写本之面目者也 如／片仮字／せ 仮字遣夕トキ 其証 也／江戸中期写本也 元禄比歟 文鳳抄 和学講談所本 三冊／ 從昭和九年十月六日夜至翌日初更予自／呵 毫書写者也 同時囑于学生四氏／書写林家本文鳳鈔焉 秋霖連日／气温低下 殆如初冬也 四氏營々協力／一日二夜終書写矣 八日三更夜氣砭人／星斗爛 于於宵漢 霖雲無片影云云／ 昭和九年十月九日 岸廼舎 |

| | | | |
|-------|---------------------------------|----------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 10月9日 | 文鳳鈔 (林家本の現写本) | 四八四二 | 卷八 無朱點者也／昭和九年十月三日起毫／翌朝写了／近日余稍損胃腸而書写／如意不抄加之秋霖鬱悒／心氣暗快云／十月四日 岸廼舎／夜半一時十五分／虫声唧々繞庭門』 卷九 十 欠本／林家本足利末葉之写本歟／卷六卷八之奥有文保二年云／恐文保写本歟 朱点等可参照／者多矣／昭和九年十月九日午後識／岸廼舎』 昭和九年十月六日夜秋霖蕭々揮毫／同八日夜半擱筆／片寄正義 文理天／川口久雄 文理天／森脇一夫 研究科／村松鍾一 高師／予俗事多端少々書写焉其他／家中少々書写加朱点者也／岸廼舎 |
| 10月上旬 | 山田集 御形宣旨集 | 三七二三 | 御形宣旨集 一卷／昭和庚午竜集 大呂下浣／先年写一本而贈松井先生矣／故改映写者也(御形宣旨)に關する覚書類、省略』(御形宣旨集表紙模様写、省略)』(御形宣旨)に關する覚書類、省略』 山田集与御形宣旨集先年書写者也／今茲仲冬合綴焉 昭和九年十月上浣識／岸廼舎／御形集非完本也載(補入「于」)新古今歌不見也 |
| 10月下旬 | おなつ物がたり 仮文字字遣 新撰九品往生人行状絵詞 | 四九一二 六二二七 二〇九二 | おなつ蘓甞物語一冊 安永二年十月刊本也／お夏物語一冊蘓甞物語別本也／昭和九年十月上浣識之／岸廼舎 此一冊寛永版也／昭和九年十月下浣 岸廼舎 |
| 11月2日 | 皇明世説新語 松蔭日記 | 四五五三 四八三 | 昭和九年十月下浣 岸廼舎 松景日記三冊上中下 在大屋書店予周旋而板沢氏求焉／下卷合綴卷三・四矣 頭註殆同本書也／上卷末朱書曰 戊午中元後一日校完精溪碩／中卷 丁巳臘月初三校訂完星谷碩／下卷 ナシ／表紙二有「鶴山楼／図書館」印トアリ 又第一頁二在(ミセケチ「有」右傍書)「津谷口／山藏書」ノ印。／昭和九年十一月二日／夜三更記 |

| | | | |
|--------|-------------------------------|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 11月4日 | 玉藻前物語 | 三三八五 | 狐草紙(玉藻前物語二卷(絵巻)) 松浦家賣立之日有之識/对校之处多漢語矣 云/昭和九年十一月四日 |
| 11月上旬 | 遍照發揮性靈集 傳聞和歌口決 三光院殿添削秋歌 | 四九五 一五六 | 奈良ニテ求焉/昭和八年十一月上浣/岸廼舍 昭和九年十一月上浣/岸廼舍 |
| | 千句 | 九七八 | 昭和九年十一月上浣/於奈良市求焉 |
| | 弥三卷 | 一〇七〇 | 弥三卷一冊/昭和九年十一月上浣/奈良にて求焉 |
| | 荊萱物語 | 三三六五 | 〔表遊紙〕昭和九年十一月上旬京都市河原町ニテ求ム/岸廼舍 〔裏遊紙〕弘法大師明治十五年迄之年数一千四十九年ニ当ル/荊萱往生生從明 治十五年迄八百十五年ニ当ル |
| | 耶蘇始末記 | 五三三九 | 昭和九年/十一月上旬奈良ニテ求メ/芳野宿舍ニテ読ス/岸廼舍 |
| 11月23日 | 作文大躰 (岩瀬文庫本の現 写本) | 四八〇七 | 作文大躰 一卷 岩瀬文庫蔵松/下見林自筆本也/昭和九年十一月十二 日余岩瀬文/庫一覽蔵書之後囑于文庫/主任高木氏而書写者也/十一 月廿三日 朝 落掌乃記由来/云/ 正智院本未見雖然此本与/ 金剛三昧 院蔵作文大躰与(一字ミセケチ)同矣/岸廼舍 |
| 12月10日 | 俳諧今者昔 白 川夜話(雨窓閑 話) | 一〇六九 | 昭和九年大呂旬於神田求焉岸廼舍 |
| 12月上旬 | 詩合(群書類従 卷二二五和歌部 八〇) | 三八一 | 賦池辺池(池)ミセケチ/鶴勅題昭和十年/曙色老松緑 瑤池白鶴栖/昭和 春第十 瑞氣遶皇城//昭和九年大呂上浣 岸廼舍 |
| | 風俗文選 | 四七〇 | 昭和九年十二月上浣於神田求焉/岸廼舍 |
| | 濟北集 | 五一六 | 昭和九年大呂上浣於/神田街求焉/第二卷欠/四冊也/岸廼舍 |

| | | | |
|--------|---------|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 12月上旬 | 滄洲先生詩集 | 一一四八 | 昭和九年十二月上浣 岸廼舎 |
| | 文華秀麗集 | 一四二二 | 文華秀麗集三卷 <small>与九条本凌雲集同承者也 即末云北山子案云云</small> / 昭和九年大呂上浣求大阪鹿田書肆焉 / 岸廼舎 |
| | 本朝蒙求 | 四〇七四 | 卷一 欠本也 / 昭和九年十二月上浣 岸廼舎 |
| | 金鏡管見 | 四四一一 | 昭和九年大呂上浣 岸廼舎 |
| 12月中旬 | 山谷詩集註 | 二五六 | 〈首卷輿〉欠年譜者也 / 昭和九年大呂中浣 / 於神田求焉 |
| 12月31日 | 国史百詠 | 六六五 | 昭和九年大呂晦冒寒夜歩神田 / 過一誠宮而求焉。 岸廼舎 |
| | 旗山集 | 七〇五 | 櫻田北岸曩著瓶花集 / 旗山集其續編也 / 昭和九年竜輯甲戌大呂晦 / 岸廼舎 |
| | 勢語臆斷 | 一一四五 | 昭和九年大呂晦 岸廼舎 |
| | 曾我物語 | 一三三六 | 昭和九年大呂晦用寛永版入画者也合綴為六冊云 |
| | 参天台五台山記 | 三〇七〇 | 参天台五台山記 五冊 <small>自卷六欠本也 至卷八欠本也</small> / 昭和九年大呂晦昌寒雨而過神 / 田 街一誠堂求焉 / 頃日解說成尋阿闍梨母集之間不慮 / 見本書欣躍得加架上昭 和十乙亥大簇三記之 / 卷一二三三三三三七ケ子右傍書「本書」与東福寺同系也卷 六以下欠可憾也』 本書若王子盈源僧正所持本也見 / 北岩倉大雲寺藏本與書則本書 / 之性質判然 者也左錄大雲寺本與書 / 天保辛卯冬応岩座法王之教講菩提道場 / 經疏一日法王出此記命以校正但 第七八 / 卷闕而不存是由原本缺兩卷也又若王子 / 僧正寄此記六卷以求校 訂於余乃誦彼本 / 闕第一二兩卷今補接彼此本各成八卷不 / 亦奇遇哉 乃 对校之管伝写謬誤問有 / 文義不通者焉更借西「一字ミセケ子」勢州西来寺所 藏 / 本校之今本頗有同異故对校訂正卒業』 恭復 王府 / 天保竜集甲 午春二月 法明敬長謹識 / |

| | |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>12月31日</p> <p>參天台五台山記</p> <p>三〇七〇</p> | <p>盈源僧正奥書中之法明比丘者即敬長也／思本書嘗用于大雲寺本校合可几帳可珍／襲者也 盈源僧正之伝等他日可調査也云々／ 昭和龍輯乙亥正月三日／岸廼舍謹識／法王即実相院門主也／卷五永安云云承安云云也</p> |
| <p>12月下旬</p> <p>千字文纂註 清</p> <p>古文字真宝抄</p> <p>書千字文附</p> <p>四〇三七</p> <p>四〇九七</p> <p>四三七八</p> <p>四六四八</p> | <p>女重宝記</p> <p>四〇三七</p> <p>未欠歟／ 昭和九年大呂晦／岸廼舍</p> <p>昭和九年、大呂下浣 岸廼舍</p> <p>書類一冊欠本也 卷十欠也／／昭和九年十二月下浣於一誠堂／為口語研究者也 岸廼舍</p> <p>〈帙裏〉 觀無量寿經一冊／古文真宝之抄十二冊／岸廼舍／昭和四十九年大呂十九日／勉誠社寄贈帙</p> |
| <p>昭和一〇年乙亥(一九三五)</p> <p>1月7日</p> <p>万物故事要決</p> <p>三二〇八</p> | <p>〈第一冊表見返〉万物故事要決八卷不知作者(右傍書「觀勝寺僧也」應仁元年焼亡ス) 但案卷／三、五月生子善惡事條見文永五_辰ヨリ今年／文安二年_{乙丑}訖百七十八年云云之一句、然／則本書文安二年頃述作也作者不知／追可考者也／昭和十年大簇七／ 於荒井僑居識之／ 大田上人良胤也</p> |
| <p>1月</p> <p>芳野本 義經記</p> <p>(松井本の現写本)</p> <p>三四七二</p> | <p>義經記芳野本八冊 松井博士藏本也／昭和十年一月借覽之序書写者也／卷一一月</p> |
| <p>2月中旬</p> <p>和名類聚鈔</p> <p>六八八</p> <p>六九四</p> <p>一二八六</p> | <p>昭和十年二月中浣／岸廼舍</p> <p>於神田三崎街求焉／昭和十年二月中浣／岸廼舍</p> <p>艸廬詩集第三編 自卷一 完／ 昭和十竜集二月中浣 岸廼舍識／艸廬伏見之人仕于彦根井伊侯、其詩以唐風／鳴于海内者也</p> |

| | | | |
|-------|---------|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 5月17日 | 安部仲麿入唐記 | 三四一五 | 昭和十年五月十七日足利学校訪書販途／岸廻舎 |
| 4月21日 | 蘿葉集 | 一〇四〇 | 蘿葉集 一卷 横井也有之句集也〔初稿也〕補入／明和三年九月刊行／昭和十年四月下浣余訪大石寺／大和尚堀日亨阿闍梨池袋常在寺／之途上求焉販來知也有之句集云／四月廿一日 於學習院圖書館／岸廻舎 |
| 4月上旬 | 花帝堂梅百首集 | 四七四三 | 五溪先生信州 郡 人也／／信州別所／／本書水尾村清伝寺藏本也 米納津村旧里正赤川氏夫人〔禎一郎婦人〕鉛筆書右傍書出於清伝寺故赤川氏先代詩〔人補入〕也 故清伝寺藏書多在赤川氏宅／赤川氏既没落 藏書大半〔今補入在余之家云云、昭和十年仲呂上浣〕〔破損一字不明〕之 |
| 3月中旬 | 挙白集 | 八七六 | 〔朱書〕山本春正梓行也／／〔墨書〕慶安三年〔庚寅〕版／圖書寮有三部 八冊本也／内閣文庫二八無シ／〔裏表紙見返〕〔朱書〕楠田氏八柳名武夫名／君ノ知己ナリ／ 一二回柳谷君卜訪／ 問シタリ／〔墨書〕昭和十年姑洗中浣／楠田本也／岸廻舎 作文大躰略記 四八〇八 作文大躰 一部 高野山正智院本也 昭和九年冬十一月上浣余与学生登于高野山入親王院 翌日過圖書館 見表白集 作文 之類 正智院目錄中 有作文大躰 同畧記 乃囑于上田天／瑞書写矣 上田氏同圖書館司書也 今茲三月上浣書写畢 圖書館 員之写也 記來由于卷尾云爾／昭和十年三月中浣 作文大躰 類従本系也 但 方角対之後 人名対与人名何公対之二章脱之 又雜筆大体以下缺之者也 詩文大躰刊本一冊在彰考館、小本而始同作文大躰矣 末附十二月異名等如徳富本也 昭和十六年八月十四日朝記之 |

| | | | |
|-------|-------------------------|--------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 5月中旬 | 簾中鈔 | 三一〇一 | 簾中鈔二冊、中卷元來缺本也他日以良本可書写者也／ 昭和十年五月中浣 岸廼舍／桂氏即越後〔二字虫損〕津町桂氏萬卷樓旧蔵本也 |
| 6月2日 | 狂雲集 *惠慶集〔尊經閣叢刊〕 | 四七二四 三六八三 | 昭和十年五月蕤賓中浣於茗溪女字前／書肆求焉／狂雲集抄出也 岸廼舍 昭和十年六月二日 |
| 6月中旬 | 連歌註 | 三九一八 | 連歌註 一卷 帝室圖書也／ 後人題曰連歌註而已本无題名矣／ 昭和十乙亥仲呂余為見伏見美也本平／ 戸記訪圖書寮借來而令家人書写／ 者也／ 余欲及連歌之研究而未到雖然可參考／ 者隨時蒐集以備他日之資料耳／ 昭和十年林鐘中浣写了／ 同廿一日聊記來由云爾／ 荒井僑居 岸廼舍識 |
| 7月上旬 | 総南詩稿 甲集 紅梅千句 老子特解 | 六四一 九九六 四四一六 | 総南詩稿甲集一卷 不慮求之於櫛川街／大塚窪町不知別〔有〕補入乙集以下不在否／ 昭和十年夷則上浣 岸廼舍 昭和十年七月上浣 岸廼舍 昭和十年夷則二十日／岸廼舍 |
| 8月9日 | とりかへばや | 三三二八 | 取替婆也物語四冊以影写卷二之序写／他卷首尾各一葉為參攷者也／ 昭和十年八月九日夜半識之／岸廼舍 |
| 10月上旬 | 燈前夜話 | 四五七六 | 昭和十年十月上浣 岸廼舍 |
| 11月中旬 | おちくぼ草紙 | 三三六四 | おちくぼ草紙 一冊 芝山家本也／ 從栗田口信豊君借覽而令書写者也／ 昭和十年十一月中浣 岸廼舍識之／ 川角子十一月三日 起毫 余行于闇雲／ 同月十一日余受之聊記來由云云 |
| | 源家長日記 (芝山家本の現写本) | 三三六三 | 家長日記 一冊 芝山家蔵本也／從栗田口信豊君借覽之序書写者也／家長日記別本也多可參照者焉／ 昭和十年十一月中浣 岸廼舍識／ 青木子十一月初三日起筆 余旅行于京阪／ 同月十一日受焉云云 |

| | | | |
|--------|--------------------------------------------------------|--------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 11月中旬 | 古今集三木三鳥考／古今和歌集相伝之密書／和歌極秘伝抄（合冊）（現写本） | 三三七七 | 〔三鳥考奥12才〕古今集三木三鳥考 福井久藏翁本也／昭和十年六月借覧 同十一月上浣詠人／書写者也／家長日記・於ち久保草紙同時也／岸廼舎／しるす 〔相伝密書奥25才〕古今和歌集相傳密書 以福井翁藏本写焉／昭和十一年十一月中浣詠青木氏云云 〔卷末〕和歌極秘傳抄 借覧福井翁本之序／詠青木氏書写者也／昭和十年十一月中浣／岸廼舎識 |
| 11月 | 和歌家傳深密書 | 三八七八 | 和歌家傳深密書 一卷 以福井翁藏本／書写者也 詠田中氏云／昭和十年十一月中浣詠之同下澣写畢 |
| 秋 | 沙石集 | 一三六〇 | 〔第四冊（卷九）〕沙石集 十冊之内六冊欠本也／此本奥付如左記這四集…… 〔…〕ママ／ <small>眞享版</small> ノ如キ文アリテ 正保四曆仲冬吉日／室町通鯉山町 小嶋彌左衛門之／トアリ、昭和十年十一月奈良にて |
| 12月10日 | *新從吾所好 花街篇 源氏物語古註 〔複製〕 古今六帖傍註 （飯島本の現写本） | 三五四六 三二八〇 | 〔大正7年12月25日〕編集者発行者・石川巖・從吾所好社） 〔箱書〕昭和十年十二月十日 〔昭和10年11月10日発行〕古文学秘籍叢刊（第八回配本）古文学秘籍複製会） 古今六帖傍註 一卷 飯島博士秘本也／大村光枝大人著作而其稿本歟可珍重之書云詠人令書写者也／詠北野氏云〔六字後記補入〕／昭和龍集乙亥大呂旬／〔製本、宮内省書寮部ナリ〕岸廼舎識之／ 〔朱書〕昭和丙子三月十五日 於學習院一読／加朱筆者也 水のあわのまで） 〔丸括弧ママ〕／〔墨書、頭部補記〕乙亥／十年也／丙子／十一年也 |
| | 木積集・木積の餘波 | 三七九七 | 〔木積集〕奥）木積集 一卷 源菅磨之歌集也 刊行年月及場所不記之恐松代ノ之刊本歟傳本甚不多稀觀者也 今茲秋明治節之日借覧 松代人／飯島忠夫博士藏書 以序詠人ノ書写者也 川角氏影写之 六帖旁注 藤原歌集等皆飯島博士秘本ノ而不流布於世上者云 昭和十歲次乙亥大呂旬半夜於燈火ノ 聊記来由云爾／岸廼舎識 |

| | | | |
|-----------------------|---------------------|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 12月10日 | 木積集・木積の餘波 | 三七九七 | <p>〔木積の余波〕奥〕木積の余波 一冊 飯島忠夫博士秘本也 / 今茲二月上浣借覽之序書寫者也詭人〔左傍書〕田中氏也〕云 / 昭和十一年三月十八日聊記來由云 / 岸廼舍 / 木島菅磨通称舍人号篠廼舍 終生不語出自 / 故不明父祖俱居翁晚年高足而歌学造詣深 / 文化中以歌道杜松代藩主真田幸專 當時 / 藩士能和歌者悉〔番〕字に「悉」重ね書き菅磨門下也 後辭遍歴 / 諸国專探勝跡擅吟詠 天保七年正月歿江戸 葬高輪安泰寺 所著〔有〕補入 木積集 篠廼舍 / 集 松廼〔之〕ミセケチ 廼〔右傍書〕百枝 松廼百枝 即所謂松代百人一首也 / 〔拋松代町史〕 /</p> <p>木積の余波一卷無類本 松代町史編者亦不知是歟 / 町史不載焉 飯島忠夫博士藏本而已有之 / 松廼百枝亦飯島博士藏之云 / 昭和十一年歲次丙子仲呂中浣 / 於長崎南町僑居識之 / 岸廼舍 / 飯島博士本皆其祖翁勝休 / 之襲藏者也 勝休翁之家系別掲于藤原家 / 集之奥云</p> |
| 12月上旬 | 礪石集 | 一三六九 | <p>昭和十年十二月上浣於神田求 岸廼舍</p> |
| 昭和一二年丙子（一九三六） 1月6日 | 枕草紙 堺本 （金居本の現写本） | 三四八二 | <p>梅林者福住通祐也 又云如松子如種玉菴宗祇伝 / 予章記奥書、松平頼寿伯飛雲閣藏本中 / 有田夜物語矣 予先年依頼より寿伯嗣子頼明 / 君供覽之序書写一本 其本之奥有梅林老 / 夫跋而住〔住〕ミセケチ 又押福住及道祐之朱印 即梅林者 / 道祐之号也 / 昭和十四年三月望記枕草子校訂本解題 / 之序聊書置者也 枕草紙 金居三七氏藏本也 借得 / 宮田氏転写本影写者也 / 鈴鹿本 所謂堺本故〔便宜〕補入 題簽書堺 / 本云爾 / 昭和十一丙子大簇六 岸廼舍識 / 乙亥大呂借覽詭人〔左傍書〕〔詭川角氏〕急遽令書写者也 / 堺本 / 高野班山文庫本 新校類従本載之 / 無窮会本 / 鈴鹿本 無〔清原氏所記〕補入 道巴之奥附也。</p> |

| | | | |
|-------|---------------------------|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1月6日 | 藤原集・鳩の浮巢（大村光枝著作集） | 三八〇九 | 〔藤原集〕奥17ウ〕真田氏系譜 一葉 飯島博士自筆也／答余之問而〔補入〕為所〕書附也 <small>昭和十一年春 四月上浣</small> 〔卷末〕鳩のうき巢 一冊 大村光枝之紀行也／昭和十年十二月下浣借覽于飯島忠夫博士映〔映〕ミセケチ〕／影写者也／昭和十一丙子大簇六岸廻舎識 |
| 1月8日 | 十躰和歌 | 三八五九 | 道濟十躰 圖書寮本也 昭和十一年一月書写者也 以／靈元帝御宸筆映〔映〕朱でミセケチ、〔影〕朱筆右傍記写恐惶々々／昭和十一年一月八日岸廻舎 |
| 1月20日 | 如願法師集（雜歌三卷） （書陵部本の現写本） | 三七五八 | 如願法師集 一卷 圖書寮本也 桂宮本云／昭和十一年大簇上浣余少々書写焉／以後於家中書写畢二日間也／如願法師集先年一卷書写畢／桂宮本以色々之紙綴焉、余浴皇恩渥矣／書写貴本者不鮮豈可〔不〕補入報 皇恩哉／昭和十一年一月廿日夜二更／擊柝声凍寒氣砭手足云／岸廻舎 |
| 1月中旬 | 諷題三咏 | 一七三三 | 〔表見返〕昭和十一年大簇中浣／岸廻舎 |
| 1月26日 | 大鏡 （松井本の現写本） | 三四四二 | 〔上卷〕昭和十一年一月廿六日夜比校于松井本／松井本者烏丸光廣筆云 中巻辺ハ光広也〔但恐非光廣直筆歟〕八字ミセケチ〔中巻辺ハ光広也〕右傍書／見其書体大同于九条家旧藏諸本嘗購入於坊／問者 案九条家之人書写焉 時代即寬永頃／故与光廣之時相叶云 松井本与本写本基于同一底本者歟全相同也〔下卷〕大鏡／ <small>古本聚書分注本也 姫路松平侯旧藏本現在吉田氏者也</small> 〔吉田氏〕に〔澄吉〕鉛筆書傍書／昭和十年十一月月中浣詠人令書写／畢〔小山子〕〔氏〕ミセケチ〔子〕左傍書字也〔丸括弧ママ〕／岸廻舎／烏丸光広筆松井本与本書全同一也／拠于同一底本歟 昭和十一年一月廿六日夜／一校了 |
| 1月下旬 | 崎人詠 | 六八四 | 昭和十一年大簇丙子大簇下浣求／於大阪鹿田書肆 岸廻舎 |

| | | | |
|-------|-------------------|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2月23日 | 堤中納言物語〔富士谷本の現写本〕 | 五六二八 | 堤中納言一冊 松井博士蔵本也 / 二月上浣借覽之序於家中写者也 / 昭和十一年二月廿三日朝 / 岸廻舎 |
| 2月下旬 | 堤中納言物語〔直磨本の現写本〕 | 五六三八 | 堤中納言物語一冊 松井博士蔵日尾蒨山自筆本也 / 荊山弱年〔日〕直磨云云 今茲二月上浣借覽之 / 序書写者也 詠北野氏云云 / 昭和十一年二月下浣 岸廻舎 |
| 2月29日 | 後邨居士詩〔劉後村全集〕 | 二六六 | 昭和十一年二月廿九日 岸廻舎 |
| | 堤中納言物語〔函碕文庫本の現写本〕 | 五六三五 | 堤中納言物語一冊 函碕文庫旧蔵本也 / 今在松井博士架上 二月上浣借覽之序 / 映写者也 詠小山子者也 / 昭和十一年二月廿三日 / 六花續 紛舞窓前之朝 / 岸廻舎識 |
| 3月10日 | 語園 | 三三二七 | 〔表見返〕語園 / 新語園 / 本朝語園 / 見ぬ世の友 / 語園系之書也 / 昭和十一年三月十日夜記之 / 岸廻舎 〔裏見返〕桃花老人 / 一条兼良 / 昭和十一年一月下浣 |
| | 堤中納言物語〔大野本の現写本〕 | 五六二九 | 堤中納言物語一冊 松井博士蔵本也 / 今茲二月中浣借覽之序書写者也 / 原本 大野広城自筆本也 囑川角氏也 / 内閣本 矢野氏本皆同系者云云 / 二月廿三日降雪窓下記之 / 明阿本云云 / 栗色云云有之。朱書之傍以墨一、書者即 / 示原本之栗色者也〔朱書〕 明静院ニ対校シテ、ソノ以外ノ朱ハ明阿本ナリ可見合也 / 昭和十一年三月一日 / 〔墨書〕 墨字之傍以藍書一者 / 元中二年巻物也 内閣文庫本昌平坂学問所之黒印在表紙 浅草文庫本也 / 与松井本同一也 |

| | | | |
|-------|--------------------------------|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 3月18日 | 菅能集 菅万侶 家集 篠屋集 (現写本・合綴本) | 三七九八 | 〔菅麻呂家集〕奥〕菅野集第二冊 飯島忠夫博士藏本也／今茲二月上浣借覽之際詠人映写者也／昭和十一年二月廿三日／岸廼舎 〔卷末奥〕篠屋集一卷 飯島忠夫博士藏本也／今年春二月上浣借覽焉 詠人影写／者也 勝休翁即忠夫博士之祖君云云／好和歌仕松代藩 松代之歌人也／昭和十一年三月十八日識之／岸廼舎 今日午後過神田街松雲堂書買販途〔補入・左傍書〕乗合自動車〕偶逢／忠夫先生問以勝休翁事蹟／先生曰祖父勝休以有職故実仕藩主真田幸貫／就中伊勢流諸式其所最特意也云云／三月十八日夜二更追記備忘云云 |
| 3月中旬 | 四六文章函 古音複字 | 四八二三 六六二 | 昭和十一年三月十八日／岸廼舎 昭和十一年三月中浣 |
| 3月22日 | 古物語断簡（雫に濁る物語） | 三三三二九 | 物語断簡 一卷 朝倉書肆持参于文理大／国文学研究室 予借覽之序令影写者也／不詳書名 後日須究明者也／昭和十一年三月終書写之功聊記一言以／為卷尾之辭云云 三月廿二日二更／岸廼舎 〔薄墨後記〕しづくに濁る物語ナリキ |
| 3月27日 | 近葉和歌六帖 春之部 | 九五七 | 近葉和歌六帖 恐六冊歟／今求春部一冊、他卷須探求者也／昭和十一年三月廿七日／於 黒門街文行堂求之／岸廼舎 |
| 3月30日 | 中島廣足集拾遺 | 九二四 | 本卷無題簽今仮名中島広足集拾遺／昭和十一年三月卅日夜識之岸廼舎 |
| 3月下旬 | すみれの露 | 八七七 | 董の露 一冊 恐完本歟／昭和十一年三月下浣 岸廼舎 |
| 4月5日 | 知覚抄 | 一〇六八 | 〔朱書〕昭和十一年四月五日／目白街にて求之／岸廼舎しるす |
| 4月上旬 | 藤原歌集 鳩のうき巢 (飯島本の現写本) | 三八〇九 | 〔藤原歌集〕奥〕藤原哥集 一卷 飯島博士秘本也／大村光枝大人之集云云 不聞流伝／頗珍稀者也余借覽之序詠人／影写者也 他日須校訂研究云爾詠青木氏者也／昭和十一年十二月十日夜半／岸廼舎主人識之 真田氏系譜一葉飯島博士自筆也／答余之問而為所書附也 昭和十一年春四月上浣 〔鳩のうき巢〕奥〕鳩のうき巢一冊大村／光枝之紀行也／昭和十一年十二月下浣借覽于飯島忠夫博士影写者也／昭和十一丙子大簇六岸廼舎識 |

| | | | |
|------------|---------------------|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 4月下旬 | 三国伝記 | 二〇六四 | 三国伝記 十二冊本之今合為八卷者也 / 昭和竜集丙子仲呂下浣求焉 / 岸廼舎 |
| 4月 | 酒巖童子物語 (松井本の現写本) | 三三七八 | 酒巖童子物語一卷、松井博士蔵本也 / 昭和十一年孟夏書写畢 |
| | 両吟千句註 (松井本の現写本) | 三九二二 | 巖島千句註 松井博士蔵本也 / 借覽之序書写者也 / 余嘗見紹巴昌叱自筆於 / 毛利侯高輪邸矣 / 岸廼舎 / 昭和十一年孟夏囑人書写 |
| 5月5日 9日 | 湖月抄 (不忍文庫本校合) | 三九二三 八五一 | 連歌老葉 一卷 松井博士蔵本也 / 本書末缺者也 他日須書繼者云云 / 昭和十一年 孟夏囑人書写焉 / 同年大呂八霜天寥郭星斗凍 / 岸廼舎 〔蚩〕前見返、屋代弘賢校訂之不忍文庫本〔左余白〕今ハ静嘉堂ニアル鉛筆書補入、松井簡治先生蔵 / 借右本而对校者也 文理大学生諸氏援助也 / 為氏卿本与青表紙本殆無大差云云 〔常夏〕《朱書》昭和十一年五月六日以不忍文庫本一校了 / 山岸 〔野分〕《朱書》昭和十一年五月六日以不忍文庫本一校了 / 山岸 〔行幸〕《墨書》昭和十一年五月六日以不忍文庫本一校了 / 山岸 〔藤裏葉〕《朱書》昭和十一年五月九日以不忍文庫本一校了 〔若菜上・一ウ余白〕《朱書》墨ノ字ハ皆相ナシ又ハ相ト / 記セリ 相ハ為相歟ナホ考 / フベシ、又相ノ字ナキモノモ少シアリ / 《朱書》朱書者〔右傍書、中〕和文字講説所蔵本筆者不知古鈔也〔右傍書、連歌師宗仲筆〕 〔若菜上・奥〕《墨書》昭和十一年五月九日以不忍文庫本一校了 / 山岸 〔柏木〕《朱書》昭和十一年五月九日以不忍文庫本一校了 / 俵一枝 / 昭和十一年五月九日以不忍文庫本一校了 / 山岸 〔竹河〕五月十二日於學習院 以不忍文庫本〔以〕補入墨 / 山岸 〔宿木〕《朱書》昭和十一年五月十二日朱一校了 / 俵 / 五月九日一校了 / 山岸 〔手習〕《朱書》昭和十一年五月五日以不忍文庫本一校了 / 山岸 / 同日以墨一校了 |

| | | | |
|-------|------------------------|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 5月中旬 | 理慶尼の記 | 二七五四 | 理慶尼之記 脱題簽而曰田夜物語後人之誤記也／讚岐高松藩主松平頼寿伯披雲閣藏本云／今茲三月下浣借覽之序 影写者也 黒川通祐／自筆奥書可参照者也／昭和十一年五月中浣識之 岸廻舎 |
| 5月31日 | 大和物語別勘 | 三二六一 | 大和物語別勘一冊松井先生御所藏本也／借覽之序為後日書写之者也／書写之功者愚弟正道之助力亦甚大也／即記其間追記而謝其勞者也 干時昭和十一年五月晦日 正義識 大和物語別勘一冊／季吟門人元隣筆／季吟翁の師命を重みしたる／元隣かまた翁をおろそかに／せず謹みて其書字かくうつし／たる師弟の情あつかりしをみるに／足れり／明治戊戌春夜 田村桑畝囑 閑古庵 片寄氏記念本也 岸廻舎識 |
| 6月 | 志太物語 (松井本の現写本) | 五一七六 | 志太物語 松井本也／昭和十一年六月忽卒書写焉／詠青木氏之 |
| 7月31日 | 珊瑚秘抄 (二条西家本の現写本) | 三二九〇 | 珊瑚秘抄一卷 三條西伯家藏本也／今茲五月蕤賓下浣借覽閑書／写三四葉乃至六七葉 超夷則七月／炎熱如〔在〕補入甌中 身世似追風塵云／昭和十一年七月卅一日午後三時半於／長崎南町僑居識之／岸廻舎／卷首附者原本大而原本影写者也／内題之文字等模原本者也 素寂法師保行而非孝行也即／紫明抄作者保行也 此奥書書可参照者也 |
| 8月中旬 | 錦木(俊頼髓腦) (書陵部本の現写本) | 三八六二 | 錦木 一卷 圖書寮本也 先年一覽云／八月十三日嘉多糸子錦木借覽之序書写了／俊頼髓腦欠本也但有少異可参照者不少云／八月廿日朝忽卒写了 未校／昭和廿一年南呂中浣／岸廻舎識 昭和廿二年十月八日大而会高木氏然後至圖書寮見類聚名義抄／清水谷家藏古写本也恐平安末写本歟 法之部上中云／与観智院本大異、原型当如此歟 為圖書寮之藏本云／帰途訪池上居持帰長景 榎垣 忠岑 檜垣 紫式部 錦木製本云 |

| | | | |
|--------|----------------------------|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 9月上旬 | 回文詩注 | 四六六四 | 〔表見返〕回文詩注／回文詩／寶滔次韻／演雅詩之私注／故事諸書拔萃／九想詩并序／（文体明弁 事分類聚 後 卷十四 旋機圖）／文筆問答抄 卷上 回文詩事） 右合冊之書也緇流之人記歟 昭和初年／求于黒門街文行堂焉／昭和十一年無射／上浣識之／岸廼舎 〔奥〕昭和初年求之歟 |
| 10月15日 | 堤中納言物語 （小山田与清本の 現写本） | 五六三九 | 堤中納言物語一冊 峯問翁旧蔵本也 余数次（借）蔵本于／峯問翁矣 因翁遂為余所寄贈云／ 昭和十一年十月十五日 岸廼舎 |
| 10月24日 | *佐久良東雄歌 集 | 三八〇四 | 昭和十一年十月廿四日 於誠心堂 岸廼舎 〔昭和13年5月18日六版／大久保要顕彰会出版部〕 |
| 11月上旬 | 日本往生極樂記 九条錫杖抄 | 二〇八一 | 昭和十一年十一月上浣／奈良市 森島書店にて |
| | 簞篋抄 | 二二二三 | 昭和十一年／十一月上浣 |
| 11月中旬 | 續鑽石集 | 四一三七 | 〔中巻表見返〕昭和十一年十一月上浣奈良ニテ 卷上欠 共二、 |
| 11月下旬 | 作文十三大躰 （比叡山本の現写 本） | 四八一 | 昭和十一年十一月中浣／京都にて 岸廼舎 作文十三大躰／比叡山真如蔵之本也 囑今井氏／ 昭和十一年十一月下浣書 写畢／岸廼舎識 |
| 12月上旬 | 枕草子 （二条西家本の現 写本） | | 〔上巻〕能因本枕草紙 二巻 三条西伯家蔵本也／ 細川家蔵幽齋本枕草紙之 底本歟云／ 余借覽之序書写者也 時林鐘／中浣 云／ 昭和十一年大呂 八岸廼舎識 〔下巻〕枕草紙 二巻 三条西家蔵能因本也／ 大正十四年冬余与三条西伯嗣 公正氏／校合於春曙抄矣 但巻首少々／爾來有書写之志 今茲林鐘中浣／達 宿望云／昭和十一年大呂上浣／岸廼舎識／〔朱書〕悪筆退転之人書写焉／ 困却々々 |

| | | | |
|--------|-----------------------|------|------------------------------------------------------|
| 12月13日 | 住吉物語 (御巫本の現写 本) | 三三四七 | 住吉物語一卷 御巫氏本也今茲夏借覽焉、片寄氏書写／贈一本于余之机上者也／ 昭和十一年大呂十三日 岸廻舎識 |
| 12月31日 | 萬水一露 | 八四五 | 昭和十一年大呂晦 購求焉／ 岸廻舎 |

昭和二二年丁丑(一九三七)

| | | | |
|-------|---------------------------------------------------------|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1月10日 | 藤六集 寛平御 時中宮歌合 実 方朝臣集 (書陵部本・神宮 文庫本等の現写 本) | 三六二五 | 〔藤六集〕奥 藤六集二冊／余先年以／函書寮本／書写／然為人轉々所借覽遂失所在／可惜々々乃三好氏為余書写一本／所寄贈云云／余之本多注記皆余所調查也三好／氏書写之本無注記殘念々々／昭和十二年孟春下流 岸廻舎 〔歌合〕奥 寛平御時中宮歌合 一卷／右神宮文庫藏本三好氏書写一本為余／所寄贈者也／昭和十二年大簇十日 岸廻舎識／小澤荊菴筆寛平御時中宮哥合一卷在一誠堂／酒井氏以該本一校了／(朱)此十七番歌合亦不審有之 〔実方集〕奥 実方集一卷 神宮文庫本也／從此以前分与類従本同一也 仍今略之不書／不同之部書写之而供研究參考耳云云／本集亦三好氏書写為余所贈者也／昭和十二年大簇上流聊記由来云云／岸廻舎識／他日以函書寮本實方集須對校者也 |
| 1月上旬 | 一乘要決 | 四九八一 | 昭和十二年大簇上流 岸廻舎 |
| 1月25日 | *宮内庁書陵部 藏 金葉和歌集 (複製本) | 三五九六 | 岸廻舎／昭和十二年一月廿五日／書陵部委員會の日 |
| 1月下旬 | 深窓秘抄 (武田本の現写 本) | 三六一八 | 深窓秘抄 一卷 武田博士藏本之転写也／ 武田氏転写佐藤誠實博士藏本者之／ 今茲孟春三好氏書写而寄与者也／ 深窓秘抄与拾遺抄 和歌排列之間有 所相通之所／ 抄即〔為〕補入／公任撰亦宜哉／ 昭和十二年一月下流 岸廻舎／ 吉田敏成所持本一卷即／宗尊親王筆深窓秘抄轉写者歟／ 古筆手鑑八十参照 |

| | | | |
|-------|-------------------------------------|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 3月10日 | 孝感編 | 四五三九 | 昭和十二年三月十日岸廻舎 |
| 3月上旬 | 道成寺靈蹤記 | 二一六四 | 昭和十二年姑洗上流岸廻舎 |
| 3月11日 | 空華和歌集 | 三八二六 | 昭和十二年三月十一日岸廻舎識 |
| 5月30日 | 二十四孝諺解 | 四五三〇 | 書二十四孝ノ序跋ヲ脱シタルモノナリ／昭和十二年五月三十日岸廻舎 |
| 5月下旬 | *鎌倉大草紙脱漏 (足利持氏滅亡記) | 二七四六 | 鎌倉大草子全 写本 ニ添加シテ 共二冊トナス／昭和十二年五月下流 ／岸廻舎 (明治16年8月 〈空欄ママ〉日／出版人・甫喜山景雄) |
| | 続蒙求 | 四五二四 | 昭和十二年五月下流 於文行堂求焉／余蔵続蒙求(朱書補入「日本人ナリ」国 書ナリ)三冊矣 偶見続蒙求分註故／求之 岸廻舎 |
| 6月9日 | 北越奇談 | 三〇四七 | 昭和十二年六月九日於銀座求之／自卷一／至卷六止 |
| 6月上旬 | 医林蒙求 | 四〇七八 | 医林蒙求三冊／卷中欠本也／昭和十二年六月上流／岸廻舎 |
| 6月中旬 | 松下抄(豊原統 秋詠草)(榊原本 の現写本) | 三七八二 | 松下抄一冊 榊原本也(下余白に後記補入「外に鷹司本／静嘉堂松井本 有 之」)／和泉式部集／同 続集／心珠詠藻／右同時借覧者也 詠人書写 畢／昭和十二年林鐘中浣識之／岸廻舎 |
| 6月下旬 | 大鏡 中 (豊田本の現写 本) | 三四四三 | 大鏡中巻豊田氏蔵本也 江戸初期写也／三巻本而上下欠本 嘱松本氏書写者 也／今茲四月到福岡訪伊藤氏之序／豊田氏借覧果数年望矣／昭和十二年林 鐘下流岸廻舎 |
| | 源道成集 大江 嘉言集 (合綴)(酒井本 の現写本) | 三七一七 | 〔道成集奥10ウ〕道成集(田中家二部アリ／前田家二古筆断簡アリ／関戸家・ 木村家断片有之／昭和廿年十二月七日夜記之／木村家断簡ハ今在〔在〕 ミセケチ)国立博物館蔵也)／昭和二十九年十月四日／昭和二十九年十月四 日月曜日午後九条館、左記ヲ見ル／前田家蔵／土佐日記 旧木村家蔵道 成集切一軸／十五番歌合 関戸家蔵道成集切一軸／道成集／平安書道文 化〕／名筆全集へ(へ)ミセケチ)ノ撮影ノタメ借出云 |

| | | | |
|-------|--------------------------------------------|-----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 6月下旬 | 源道成集 大江 嘉言集 (合綴)(酒井本 の現写本) | 三七一七 | 〔卷末〕道成集 嘉言集 以 芦庵自筆書 / 写者也 道成集 余阿禿筆、嘉言 / 集詠人 令書写者也他无類本云 / 両本共酒井氏一誠堂本也五月末日借〔左傍書〕德永氏写也 / 覽焉 / 昭和十二年六月下浣岸廼舍識 / 芦庵本和歌集集成 / 芦庵本當時五百金也佐々木信綱不求、遂久曾神氏求焉云 大江嘉言集一卷在彰考館 無異同 但可対校也 |
| 7月18日 | 新撰六帖題和歌 松戸詠草 *三奏本 金葉 和歌集 〔複製本〕 | 四五 九一〇 | 昭和十二年夷則十八 / 文檢問題會議之版途 岸廼舍 桂谿 / / 昭和十二年七月十八日 岸廼舍 〔箱書〕昭和十二年七月十九日 己云 〔四十八丁ウ〕悦目抄今〔ミセケチ〕近〔右傍書〕代秀歌 合綴題覽箱極秘抄 / 久松氏藏本也 入江氏借覽之序 / 余令人書写畢 異本悦目抄完 / 本歟 德永氏写也 / 昭和十二年六月下浣 / 岸廼舍識 / 原本〔題曰〕補入 鷺箱極秘書〔二字ミセケチ〕抄而已今便宜分 / 題異本悦目抄〔今〕ミセケチ右傍書〔近〕而已云 |
| 7月19日 | 源三位頼政家集 禅林痲葉集 三 条右大臣集 深 養父集(現写本) | 三五九七 | 昭和十二年夷則中浣 / 岸廼舍 〔禅林〕禅林痲葉集 一冊 凶書寮本也以久曾神氏轉写本書写者也 / 別在資隆朝臣集一冊 同集也 / 本文中朱書者以資隆朝臣集校合者也 / 昭和十二年八月三日夜翌日午前書写畢 / 八月四日正午記之 / 岸廼舍識 〔三条〕三条右大臣集一冊 凶書寮本也以久曾神氏轉写 / 昭和十二年七月廿九日夜半書写了 / 岸廼舍 / 三條右大臣贈從一位定方公内大臣藤原高藤公男 / 承平二八四薨五七 / 右三首本集中所見無之 / 本集 侍臣等所撰歎詞書不自撰之体 / 昭和十二年南呂上浣識之 / 岸廼舍 〔深養父集〕深養父集一卷 凶書寮本也以久曾神氏轉写本書也 / 昭和十二年則二半夜、霜雨漸収 / 夜氣清涼也 身世匆忙人自老云 / 岸廼舍識 |
| 7月中旬 | | 二五五 | |
| 8月4日 | | 三六七四 | |

| | | | |
|--------|---------------|--------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 9月上旬 | 一休水鏡 吉野拾遺 | 一一八三 五一四九 | 一休和尚、水鏡一冊／昭和十二年九月上流 岸廼舎識之 本書〈二字補入〉／貞享四年版本複製也。／上下二卷、中〈一字ミセケケ〉、以下卷為中卷別加下卷者也 此下／卷者疑書乎』 昭和十二年九月上流求焉／岸廼舎 |
| 9月中旬 | 伊勢物語愚見抄 | 一一五五 | 昭和十二年九月中流頂戴／木下正中博士藏本 ^云 ／岸廼舎 |
| 10月3日 | 深心院関白集 | 三七六九 | 〈深心院関白集一卷図書寮本之〉行尊大僧正之父藤原基平世謂岡屋兼經之子也 ／研究行尊大僧正之序書写者也行尊大僧正之父基平与深心院関白別人也 時 代異之 ^云 昭和十二年十月三日記之 此書々写昭和三年二月也／深心院関白 藤原基平而岡屋兼經之子也文永五年十月十九日(年廿三)〈丸括弧ママ〉病痢薨 昭和竜輯戊辰姑洗幾望二更関四无声矣 岸廼舎 |
| 11月3日 | 懷風藻 | 一四〇五 | 〈墨書〉昭和十二年十一月三日 岸廼舎 〈朱書〉昭和廿五年五月十七日以尾州家本一校了／午後五時也／岸廼舎 |
| 11月上旬 | 酒呑童子 神国決疑編 | 一九二九 | 昭和十二年十一月上流／於南都求焉 岸廼舎識 岸廼舎／昭和十二年十一月上流於高野山／見本書之写本 ^云 於京都求焉 |
| 11月11日 | 大和言の葉 | 一一 | 昭和十二年十一月十一日／奈良市 大学堂書店／寄贈焉 同店頭在源氏／竹 河卷一卷鎌倉暑気写／異本也 予聊鑑定焉／店主乃贈以 大和言葉／於京 洛三条小橋畔客舎識／岸廼舎 |
| 11月14日 | 新刊和玉篇 | 六九一 | 昭和十二年十一月十四於南都求焉／岸廼舎 |
| 11月 | 雅筵醉狂集 | 三九九〇 | 春／夏／秋／冬／恋／雜／附録／七卷也／／正親町家原版歟 白玉翁ハ／昭和 十二年十一月奈良森島にて求む 公通卿也 |
| 11月中旬 | つれづれの讃 | 四二〇 | 昭和十二年十一月中流求焉／岸廼舎 |
| 11月下旬 | 虞初新志 | 四五六一 | 昭和十二年十一月下流 岸廼舎 |

| | | | |
|--------|----------------|--------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 12月上旬 | 性靈集抄 | 四九八 | 昭和十二年十二月上浣 岸廻舎 |
| 12月31日 | 紫巖譜略 うづら衣 | 二〇七八 一〇四七 | 昭和十二年大呂上浣／窪田本 岸廻舎 鵜衣 一冊 正編未欠者也〔未欠者也〕ミセケチ 上中下也／蜀山人選択以前之本也／昭和十二年 十二月晦 岸廻舎 |
| | 改正 拾遺古徳 伝絵詞 | 二二一一 | 〔卷一表見返〕聖覚ノ十六門記／信瑞ノ一卷伝ノ耽空ノ本朝祖師伝記絵詞／アリ。コレラニ対シテ拾遺(古徳伝)ノトイヘルカ。拾遺古徳伝絵詞 八帖、(卷八欠)粘葉装、奥書ナシ／滋賀県 甲良町湖東アリ養照(右傍書)照寺蔵室町写〔字〕ミセケチ右傍書〔写〕本／(文化財集中地図)〔図〕ミセケチ区特別総合調査報告第十二集参照 〔卷五表見返〕拾遺古徳伝五冊 板本稀観也／昭和十二年丁丑大呂晦求焉／岸廻舎 |
| | 廿四孝或問小解 | 四五三六 | 昭和十二年十二月除夜 岸廻舎 |

昭和十三年戊寅(一九三八)

| | | | |
|------|------------------------|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1月5日 | 古今和歌集 (尾上本の現写 本) | 二二 | 〔前遊紙一才〕嘉禎本古今集(尾上八郎博士蔵本)名古屋図書館本有之／家本有之〕〔三行割書、括弧ママ〕／尾上本奥書別紙加之 〔前遊紙二才〕此本朱点及朱書入以／貞応本者也 〔尾上本模写の別紙奥〕(尾上八郎先生本)〔丸括弧ママ〕／昭和十二年十二月中流文検口述考試日／見嘉禎本 後又借覽之序記奥書也／昭和竜集戊寅大簇五日晴暖／岸廻舎識之／／原本美濃版 小沢菅菴記入少將有之 |
| | 山下水 (書陵部本現写 本) | 三二九七 | 山下水 図書寮本也／昭和十七年十二月下浣借覽／同十八年一月中旬書写者也／御本二十二冊也 欠本／桐壺二冊 帚木 空蟬 夕顔／若紫 末摘花 紅葉賀 花宴／初音 胡蝶 螢 常夏篝火／行幸 若菜二冊 霧 夕欠ナリ／法 御欠ナリ 幻 匂 紅 梅欠ナリ／竹 以上、／今為参考書写一部者也 |

| | | |
|--------------------------------------------------|----------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>3月上旬 如願法師集 (書陵部本の現写本)</p> | <p>三七五九</p> | <p>如願法師集 一卷 百首五十首／圖書寮藏本也<small>以久曾神氏本轉写</small>／昭和十三年三月上浣囑小林氏書写者之／岸廼舍／ 如願法師集三部終書写之功者也／達累畢之宿望矣 三月十八日半夜識之／表題蓋／靈元天皇御宸筆者也</p> |
| <p>3月中旬 傳大納言殿母上集 道綱母集 (書陵部本の現写本)</p> | <p>三六八四</p> | <p>傳大納言殿母上集一卷 圖書寮本也／呂久曾神氏本轉写者也 囑小林氏云云／小林氏者越之後叫加茂人而高師研究／科生也／昭和十三年三月中浣 岸廼舍識／道綱母集 一卷宮内省圖書寮本也／昭和十三年四月中浣詭人書写者也／囑伊吉氏者也 岸廼舍識</p> |
| <p>3月23日 称讚浄土經 大式高遠集 (書陵部本の現写本)</p> | <p>二一八七 三六八七</p> | <p>昭和十三年三月廿三日／春雨浪々寒温不定 「大貳高遠集 一卷 圖書寮藏本也／昭和十三年五月下浣詭人令書写畢／高師研究科中沢氏之／昭和十三年蕤賓下浣／岸廼舍識」 (朱書)「五月卅一日以朱一校了」 「昭和十七年十一月七日(十月ヨリ開始シタリ)於研究室／以墨一読再校了 芦菴本書附者之／芦菴本ハ一誠堂ニアリ」 「和歌の漢詩による影響／漢詩の和歌による影響」(江吏部集／菅家文章)／漢詩人の日本流の読み方と和歌文交渉」</p> |

| | | | |
|-------|-------------------|--------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 5月22日 | 元可法師集五 | 三七七一 | 題簽云／元可法師集五／卷尾云／元可法師撰之云／元可法師集別在焉。題簽所謂元可法師集(補入「五」)云／後人漫名而已。非元可法師之集也。但四季賀別旅／神仏等欠者也。鎌倉末期撰集歟。他日須考究者也。右一冊。借久曾神氏本。一覽後囑人書寫焉(左傍書「高師研究科中沢氏也」)／昭和十三年五月廿二日 岸廼舍識之 |
| 6月上旬 | 石梁遊草 | 七二二 | 石梁遊草卷下 卷上欠一冊／昭和十三年林鐘上浣 |
| 6月15日 | 大東蒙求 | 四〇八〇 | 大東蒙求 三卷 未聞其名 蓋稿本而自筆歟／岸鳳質有嶮谷詩集七卷 青梅之人也／昭和十三年六月十五日 微雨霏々／半夜追蚊聊書付畢 岸廼舍 |
| 6月30日 | 獨夜文庫 | 五一六七 | 獨夜文庫上下二卷 下卷欠 奇々羅金鷄著也／昭和十三年林鐘晦大塚辻町二而求之／岸廼舍 |
| 6月 | *東京銀街小誌 | 四八八一 | 昭和十三年六月／岸廼舍 |
| 7月9日 | 歌仙家集補 (三十六人集補) | 九九 | 〈上卷オモテ見返〉古本仙集ハ西本願寺本ヲサセル也番号ハ西本願寺本ニ從ヘル也／岸廼舍識 〈下卷奥〉學習院圖書館藏三十六人集補与此本全同／昭和十三年夷則九日 岸廼舍 |
| 8月10日 | 將門記 | 二七三三 | 〈押紙〉將門記 一冊 上田博士遺書也／昭和十三年八月五日於函書俱樂部／下見 余囑朝倉文淵堂詔將門記／觀無量壽經 扶桑集 八代集 等／扶桑集不得之 他皆落手矣／仄聞上田博士歿而有借債云云 余乃殊更／求該書而已／越八月八日再訪函書俱樂部求中外抄／朝倉屋乃八月十日午後將來者也 |
| 8月上旬 | *山家心中集 觀無量壽經 | 三七四一 二一八六 | 山家心中集 解簽是 靈元天皇御宸筆也 昭和十三年八月十日 〔昭和6年12月25日發行／貴重圖書影本刊行會〕 昭和十三年南呂上浣於上田万年博士遺書中求之 |

| | | | |
|--------|------------------------|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 8月下旬 | いつくしま (白峯寺本の現写本) | 三三六二 | 〔二三三才〕右いつくしま三卷讚州／綾松山白峰寺の所蔵本也／昭和七年春四月休暇中／秃筆にて十二時間にて『書写了』高橋貞一誌 いつくしま／讚岐綾松山白峰寺所蔵『卷子本三卷／高橋貞一写』 厳島乃本地 三卷 讚岐白峰寺蔵也／高橋氏影写者也 受寄贈／昭和十三年八月下浣製本之序識之／岸廻舎 |
| 8月 | 経衡集 (書陵部本の現写本) | 三七一八 | 道信朝臣(四字ミセケチ右傍書「経衡」集 一冊 図書寮本也／昭和十三年八月中書写畢／岸廻舎 |
| 11月18日 | 〔金句集〕 | 五二九七 | 昭和十三年十一月十八日於神田求之／岸廻舎／芸叢ハ一関ノ田村右京大夫家／旧蔵本也 |
| 11月23日 | *紫式部日記絵巻(複製本) | 四二九七 | 昭和十三年十一月廿三日 〔昭和13年11月17日発行／澁谷哲吉〕 |
| 11月29日 | 色葉和難集目安 | 三八五〇 | 色葉和難集目安 一冊 彰考館本也／借覽久曾神氏転写本之序依嘱／神庭氏令書写者也 神庭氏依頼／立木氏云／昭和十三年十一月廿九日識之／岸廻舎 |
| 12月上旬 | 皇国辞解 | 三一六五 | 大村光枝著作也／昭和十三年十二月上浣 岸廻舎 |
| 12月31日 | 富士の人穴草子 | 一二九七 | 昭和十三年大呂除夜巖松堂寄贈 |
| | さくらゐ物語 | 一三二二 | 昭和十三年十二月卅一日 岸廻舎 |
| | (富士山出現) 輿樗地蔵尊略縁起 | 三〇三五 | 包ミに「昭和十三年十二月廿一日」 |
| | *〔校訂／増補〕 関東往還記(複製本) | 三五二九 | 昭和十三年大冬大晦除夕／岸廻舎 〔昭和9年8月30日 編纂者・関靖 発行所・便利堂〕 |

昭和一四年己卯（一九三九）

| | | | |
|-------|----------------------------|--------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1月2日 | 古今和歌集 （伝光嚴院宸筆 本の現写本） | 三五七五 | 古今集一卷 古写鎌倉期之者也 補写伝光嚴院／御宸筆也云云／昭和十二年出於京都方面酒井氏藏待買／本也 余昭和十三年夏借覽校合焉以序／密々令書写置者也 書写人未熟書紙端無／綴扁即補紙而綴之者也／昭和十四年己卯大簇二半存書之／窗外寒風咸月発 年々人事多俗累／岸廼舍識 |
| 1月中旬 | 詩會部類 翰墨全書 | 五二七五 四六八二 | 詩會部類 三卷 以學習院本書写者也／圖書寮亦一本有焉／昭和十三年十二月中浣囑人終功矣／昭和龍集己卯一月二日夜識之／岸廼舍／作者未詳 昭和十四年一月中浣 岸廼舍 |
| 1月26日 | *華嚴縁起 | 四二七二 | 昭和十四年一月二十六日夜 野口聚成堂 〔大正11年9月15日発行／藝術資料刊行会〕 |
| 2月下旬 | 清正集 興風集 | 三六七二 | 昭和十四年二月下浣求焉 岸廼舍 |
| 2月 | 類聚雜要抄 | 三〇〇二 | 昭和十四年二月、岡倉由三郎先生本購求焉／此一冊 卷子本在學習院圖書館焉 |
| 3月上旬 | 滑稽雜談 | 四七六 | 昭和十四年三月上浣於琳琅閣求焉 岸廼舍 |
| 3月15日 | 枕草子 （鈴鹿本の現写 本） | 三四八二 | 梅林者福住道祐也又云如松子如種玉庵宗祇伝／豫章記與書松平頼寿伯飛雲閣藏本中／有田夜物語矣 予先年依頼頼寿伯嗣子頼明／君借覽之序書写一本、其本之與有梅林老／夫跋而住文又押福住及道祐之朱印。即梅林者／道祐之号也／昭和十四年三月望記枕草子校訂本解題／之序聊書置者也 |
| 4月上旬 | 四条宮下野集 （書院部の現写本） | 三七二〇 | 四条宮下野集 一卷 圖書寮藏本也／以久曾神氏轉写本書写者也／昭和十四年四月上浣／岸廼舍識 |

| | | | |
|-------|------------------------|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 6月14日 | 山田集 御形宣旨集 | 三七二四 | 〔山岸本の転写奥書〕御形宣旨集 一卷／昭和庚午竜集 大呂下浣／先年写一本而贈松井先生矣／故改映写者也〔御形宣旨に關する覚書類、省略〕〔御形宣旨集表紙模様模写、省略〕〔御形宣旨に關する覚書類、省略〕山田集与御形宣旨集先年書写者也／今茲仲冬合綴焉 昭和九年十月上浣識／岸廼舍／御形集非完本也載〔補入「于」新古今歌不見也〕〔山岸自筆奥書〕昭和十四年林鐘中浣片寄氏夫人書写焉／余先年合綴此二集藏于架上 其後為人所借失矣 不便絶于言語愛惜銘于肝胆乃片寄氏先年書写余本藏之 茲転写一本而贈於余者也 聊記来由備後日之参照而已／昭和十四年六月十四日 於 東京文理大國文学研究室／岸廼舍識 |
| 6月中旬 | 実家卿集（書陵部本の現写本） | 三五七二 | 實家卿集 一卷 凶書寮蔵本也／以久曾神氏轉写本書写者也／昭和十四年六月中浣／岸廼舍識／實家 <small>大炊御門公能男千載以下作者也</small> |
| 7月上旬 | 竹林抄 高野斑山本 （高野本の現写本） | 三九一四 | 竹林抄 一卷以斑山 高野博士蔵本 岩田氏／書写者也 余借覽于岩田氏之序／嘱人書写者也 製本、書陵部／昭和十四年夷則上浣 岸廼舍識／岩田氏 藤岡保子女史影写本也矣／（藤岡勝二夫人、相馬子爵夫人姉／土浦藩主之女也〔也〕ミセケチ、左傍書〔而〕。書家也。） |
| 7月16日 | 深秘口伝集 上 （石見女髓脳上下） | 二四七 | 〔下冊〕大正八年孟夏於牛込柳街求焉／岸廼舍 〔上冊〕深秘口伝集二冊石見女髓脳同書也／石見女髓脳 坊間希有也 言痛髓脳也／本書誤附上下矣／昭和十四年夷則既望日識之／岸廼舍 |
| 7月中旬 | 楽邦文類 | 四六三九 | 昭和十四年夷則中浣於琳琅閣求之／岸廼舍 |
| 7月29日 | 大塔物語 | 二七五〇 | 昭和十四年夷則下浣廿九日夜 岸廼舍識 |
| | 三狂志 | 三九八九 | 著者稿本歟／昭和十四年七月廿九日／岸廼舍識 |

| | | | | | | |
|--|--|--|---------|-------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | | | 7月下旬 | 百合大臣無躁退 治物語 | 一二七四 | 語物也、古淨瑠璃有之歟可調査也／百合大臣大蒙古退治 一冊 有缺歟 <small>自一段 至七段</small> 岸廼舎／ 昭和十四年夷則下浣求于伊賀国沖森書肆 |
| | | | 西院河原口号伝 | 二一〇五 | 昭和十四年七月下浣琳琅閣にて求候／即夜大塚研究室にて読了／勸化之書なり／岸廼舎 | |
| | | | 本願薬師経古迹 | 二二二〇 | 昭和十四年夷則下浣〔左傍書・朱書〕八月六日一読了〕 琳琅閣にて／岸廼舎 | |
| | | | 歳時故事 | 二九九五 | 歳時故事 完一冊／ 昭和十四年夷則下浣／於琳琅閣求焉／岸廼舎 | |
| | | | 孝道故事要略 | 四五四一 | 昭和十四年七月下浣／見說話是出典之便有焉／岸廼舎 | |
| | | | 7月 | 寄言百人一首 | 九一二 | 〔元裏表紙見返〕昭和十四年七月 目白にて求 〔後補裏表紙見返〕此本先年所求 今年秋製本者也／ 昭和十六年中浣識 |
| | | | 8月7日 | 和歌会部類 (書陵部本の現写 本) | 五二七二 | 〔一〕冊〕〔朱書〕昭和十四年南呂三十日於大塚落字対校了 〔二上〕冊〕〔墨書〕昭和十四年八月卅日正午於大塚一校了 〔二下〕冊〕〔朱書〕八月卅日一校了／秋源爽同習々兮 〔三〕冊〕〔朱書〕八月卅日午後一校了／憶昔大正中 常到函書寮／見天下良書 今日多俗事 |
| | | | 神道学則日本魂 | 五〇八三 | 〔四〕冊〕〔墨書〕此卷一冊坂田氏書写者也 但八枚目一葉／予書写焉 八月七日識之／〔朱書〕昭和十四年八月卅日一校了 〔五〕冊〕〔墨書〕和歌会部類 五卷六冊 函書寮本也／旧久我侯藏本明治十八年改入寮者也／予書写学習院本詩会部類矣爾／来有和歌会部類書写之志不果 茲有／年 今茲孟〔一字ミセケチ右傍書〕仲〕夏七月中〔一字ミセケチ右傍書〕上〕浣〔六日〕〔丸括弧ママ〕到函書寮借覽囑立本〔一字ミセケチ右傍書〕木〕書写者也但卷四一／冊囑副手坂田氏功畢／ 昭和十四年南呂上浣七日／岸廼舎識〕〔以下覚書、省略〕 | |
| | | | 縮門崇行録 | 二〇五六 | 日本魂一冊 加藤仁平氏藏刊本也／ 借覽之序囑人書写者也／ 立木氏写焉 ／ 昭和十四年八月七日／岸廼舎識 | |
| | | | 縮門崇行録 | 二〇五六 | 〔表見返〕縮門崇行録 一冊 在蒙求類中 余忘却之 再購求矣／ 昭和十四年八月上浣 | |

| | | | |
|-------|----------------------------------------|-----------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 9月4日 | 〔伝教大師／弘法大師〕 両大師利生記 | 二〇六七 | 共三冊／昭和十四年九月四日夜／於目日町求焉 岸廻舎 |
| 9月9日 | 吾妻の記 東奥紀行 日本詩故事選 年中故事節序紀 原 | 五三八一 四八六 一八二二 三〇一二 | 昭和十四年重陽／岸廻舎 昭和十四年 重陽 岸廻舎 昭和十四年重陽／岸廻舎 如松子 黒川道祐歎／／昭和十四年九月九日／岸廻舎 |
| 9月上旬 | 世説訂正 二條家和歌故実 （久我家本の現写本） | 四五五〇 三八七〇 | 昭和十四年重陽 岸廻舎 二條家和歌故実一卷／ 卷町久我家蔵本也昭和十四年夏／借覧今年南呂中流囑于中澤氏／書写了／ 昭和十四年九月上浣／ 椎名町僑居識之 |
| 9月20日 | 韓本蒙求 | 四四八六 | 〔上卷〕韓本叢求稀本也嘗見高野辰之博士蔵本矣 〔下卷〕韓本叢求少流布者余嘗借覽高野／斑山博士蔵本爾來探索年久矣遂不見予坊間／誠稀觀者也坐今茲無射十五見于名古屋／藤園堂書目中直注文乃得入手矣宿望／違焉聊記來歷于卷末云爾／昭和十四年九月廿日岸廻舎識 |
| 9月中旬 | 言塵集 句双紙 | 二七八 四八三六 | 言塵集二冊 昭和十四年九月中浣求焉／圖書寮在写本二冊 昭和十四年九月／中旬 藤園堂求焉／岸廻舎 |
| 9月24日 | 遺塵和歌集 | 三六一〇 | 遺塵和哥集 一卷 圖書寮本也／靈元天皇御宸筆者也 題簽亦同矣／ 無射既望借覧後到鶴岡八幡見流鏑馬神事／ 如例年入夜販來一浴後写六葉了 半夜雨声潜／々 十七日日曜有雨又風少々散髮 電話佐々木竹柏／ 園主人開菁萃集（ミセケチ抄）〔右傍書〕 約午後四時半之訪問云／ 午後到竹柏園見菁萃抄 鎌倉期書写粘葉／ 卷三一冊而已精査而五時廿分辭去途中過大塚／ |

| | | | |
|--------|--------------------------------------------------------------------|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 9月24日 | 遺塵和歌集 | 三六一〇 | <p>研究室版来卷二(中「補入」三葉之(一字ミセケチ)書写焉他皆写(「家書きとして」写「重ね書き」於家) 中者也十八日少雨後曇 所在豪雨之由 涼氣漸至有三省堂之会 夜田家迄書写余四葉許書 / 写十九日火、廿日水 廿一日木 廿二日金 廿三日土驟雨 / 無時有之 半夜 十葉余書之 二十四日快晴爽涼矣 午後一時写了 午前中有來客、写真屋來矣 / 昭和十四年秋季皇靈祭之日 / 岸廼舍識</p> |
| 10月7日 | 無題詩 | 一四四〇 | <p>〔上卷〕昭和廿五年五月廿二日一校了 / 蓬左文庫にて 〔下卷〕無題詩 三冊 函書寮本 / 日東官家詩集一名無題集 是蓋原名歟猶可考 / 因右函書寮本始得正卷序矣 類從本分為十卷又 / 詩多四首 別系本歟 無射之晦日一覽而聊書付焉 / 本書与函書寮本同系而良本也 往年求于関西之 / 書肆者也 / 昭和十四年十月七日、岸廼舍 / 昭和廿五年五月廿四日於蓬左文庫一校了 / 蓬左本者御本也、古写美本、《印ハ蓬左本トコノ原本トノ一致スルモノナリ / 蓬左文庫本 / 題二無題詩一古写 / 三冊也</p> |
| 10月19日 | 七家和歌集へ忠 岑 / 友則 / 遍昭 / 公忠 / 清忠 / 兼輔 / 西行 (竹柏園本の現写 本) | 三六九 | <p>七家集一卷 佐々木信綱博士藏本也(朱書右傍書「元禄頃之写本歟 無輿書焉」(元久曾神氏藏之) / 在中(転倒符あり) 西行集忠岑兼輔集等之異本矣 / 今茲十月三谷氏借覽之序 余転借而書写一本 / 者也 書中以朱書書付者 余校異也(朱書「囑立木氏(朱書)而書写」補入者也) / 昭和十四年十月十九日得閑識之 / 岸廼舍 / 余所伝来西行集曰山家心中抄(ミセケチ「集」右傍書)曰西行殘集曰 / 西行上人聞書甚不鮮、但 如本書者、蓋属稀 / 觀也 / 公忠集 定家筆と称するもの一誠堂にあり / 昭和三十八年十二月八日西行物語(統類徒本)を以て対校す 大体は西行物語の拔萃なり / 十二月五日木、於熱海西山吊佐々木信綱翁 快晴 / 同七日土 於するも葬場参加于告別式 快晴</p> |

| | | | |
|---------------|------------------------|--------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 10月19日 | 桂殿秋絶 独吟 聯句 | 四七四九 | 奉桂殿秋絶一冊／図書寮本也十月／十日閲覽之序書写／者也／独吟聯句一軸／図書寮本也右同／日於図書寮閲覽／之序書写婦来以／墨書付者也／次同十八日到図書寮／箴制云云以下書写／翌廿九日朝以墨書／付校定者也／深惠友古等之伝追而／可考矣／昭和十四年十月一九日／岸廼舍 |
| 11月7日 | 唯一神道名法要 集 | 一九三四 | 昭和十四年十一月七日／於奈良 岸廼舍 |
| 11月20日 | 曾丹集 | 二八二 | 昭和十四年十一月廿日 文檢予備會議之日 於松雲堂求焉 岸廼舍 |
| 11月28日 | 大納言物語 芥川草紙 (合綴・現写本) | 三三八四 | 〈大納言物語奥17ウ〉大納言物語一卷 三谷氏蔵本也／昭和十四年九月中浣借覽之序書写者也／於家中写者也／十一月廿八日朝 記之 霜後前裁黄菊残／落葉樹上紅柿点／岸廼舍識 |
| 12月中旬 | 蒙求統紹 | 四〇七七 | 〔芥川草紙奥〕芥川草紙 一卷 史料編纂掛藏／本也 先年後藤氏書写一本而／寄贈于余者也／昭和十五年林鐘上浣三日／夜三更聊書附焉／岸廼舍 今茲十一月上浣修行旅行於阪之序一見焉／後日求之者也／昭和十四年十二月中浣 于京都求焉 |
| 昭和一五年庚辰(一九四〇) | | | |
| 2月21日 | 長歌規則 | 三八九三 | 〈卷第一〉長歌措辭／四六之句法与相類者也／昭和十五年二月廿一日／岸廼舍 |
| 2月下旬 | 蘆沢余稿 瀨山詩集 | 七六一 八七九 | 蘆沢余稿四冊 卷三・四欠者也／昭和十五年二月下浣求焉 昭和十五年／二月下浣／求之 |
| 3月25日 | 一休水鏡 日光山八景詩集 | 四九五八 一五八〇 | 昭和十五年二月下浣於神田松雲堂求之／岸廼舍 訪小倉博士飯途求焉／昭和十五年三月廿五日／岸廼舍 |

| | | | |
|-------|---------------------|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 4月中旬 | 堤中納言物語(岩下本の現写本) | 五六三四 | 堤中納言物語 一冊 長野図書館蔵本也 / 藤田徳太郎氏借覽之序 余転借焉 / 詠人書写者也 浜臣系本文云 / 昭和十五年四月中浣 識之 / 岸廼舎 |
| 4月23日 | 洞上夜明簾 | 四七七二 | 昭和十五年四月廿三日 / 岸廼舎識 |
| 5月6日 | 一步抄 | 三一四五 | 昭和十五年蕤賓六求焉 / 三步抄七步抄等皆初学作文之便覽 / 而鎌倉期作也云 |
| 5月15日 | 海草集 | 二二九七 | 海草集上中 二冊 親王院蔵本也 下卷欠 / 「表紙端 立竹 / 白界」 鎌倉初期写本也 / 昭和十五年端午朝始校訂矣 同十五日朝訖焉 / 俗事多端偷閑一読遂校訂者也 / 岸廼舎識 / 「記号についての覚書略」 / 隣家飼雲雀味且鳴比々執筆南窓下(補入「恰」似在春郊) |
| 6月2日 | 人麻呂集(『萬葉考』のうち) | 八一③ | 昭和十七年八月廿四日訪彰考館見表白集 / 海草集完本也有綴誤矣 即知編者海惠 / 也 不堪欣喜聊附記焉 / 南呂廿五、黄昏 |
| 6月下旬 | *類聚歌合(複製本) | 三六四五 | 〔解説冊子後見返〕昭和十五年六月下浣 便利堂寄贈 〔昭和十五年5月20日発行 / 貴重図書影本刊行会〕 |
| 6月 | 習静楼遺稿 不二日記 | 七五二 三〇三八 | 昭和十五年夏六月 / 徳田氏寄贈之 岸廼舎 賀茂季鷹不二日記一卷 / 昭和十五年夏六月 / 岸廼舎 / しるす / 寛政二年七月十八日登山也 / 徳田氏寄贈焉 |
| 7月7日 | 蒙求和歌 (榊原家本の現写本) | 三八一三 | 蒙求和歌集 一冊 <small>全巻二</small> 足利末写本也恐 / 上卷歟 卷首少々缺文也 中有綴誤今 / 正之矣 惟兩冊本之上冊歟 / 榊原子爵蔵本也 六月下浣借覽而 / 七月上浣囑人書写者也 立木子也 / 初稿本也 / 昭和十五年七夕聊記之 溽暑 / 無風蚊声多少 岸廼舎 存流布初稿本以前之面目者歟 |
| 7月12日 | 種玉編次抄 (榊原家本の現写本) | 三三九二 | 種玉編次抄 一卷 榊原子爵家蔵本也 / 先年書写図書寮本矣今茲夷則七月 / 借覽榊原家本之序囑人書写畢 / 蓋良筆而可愛翫可正寮本誤写書之 / 昭和十五年夷則十二半夜識之 / 岸廼舎 |

| | | | |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|
| 7月17日 | 柳葉和歌集 (神宮文庫本の現写本) | 三六一五 | 〔黒ペン書〕昭和十五年七月十七日以神宮文庫／本写之本墨付四十二枚／小西甚一／ 〔赤ペン書〕同日加一校了 甚一 |
| とはすがたり (書陵部本の現写本) | 三五二六 | 〔上冊(巻一末尾遊紙)〕昭和十五年夷則二十二登不二山翌日下山／又同廿一日静岡県大宮町奉行強歩鍛錬会矣読売／新聞社主催也 余与金栗氏受諾招請為講師同／月廿六日午前登山午後下御殿場 而廿七日飯京／廿九日一読開始 惡筆書写多誤字難読云々／ 廿九日午後一時於研究室識之畢／八月三日更朱省有用 八月四日来客多々遂痲病／八月五日一日休臥、八月六日校訂 八月九日此卷読校了 夜雨降冷氣如秋／七時廿五分於研究〔室〕脱力〔識之〕／(以下後記か)作者、／雅忠女三条歟 | |
| 〔上冊(巻二末尾遊紙)〕八月十〔九〕に重ね書き日十一日以圖書寮〔本〕補入一読了／巻二ノ後二秋冬の事なし 尚一卷あるへきにや／昭和十六年五月九日夜、大事にやみてヨリ校訂／校訂困難 不知文字者書写焉云々／翌十日於研究室校了 夜七時四十分也／(以下朱筆)原本速筆也故却多誤字歟 〔中冊奥〕とはすかたり 五冊 圖書寮本也／昭和十四年秋十一月借覽之序囑人／書写者也 従来不知之本也／九月十六日始校訂、尔後得少閑時々加校訂之筆 | | | |
| 〔巻三末尾遊紙〕昭和十六年五月十三日 二月十八日の條より校訂をはじめ／十四日夜於研究室校訂 十一月廿五日のあたりまで／十五日午後三時一校了 今日圖書寮へ返却／ 不可能なり 乃ち電話す 〔巻四末尾遊紙〕巻四／昭和十六年五月十五〔四〕に重ね書き日校訂をはじめ研究室にて／午後六時なり。／夜少々校訂／ 昭和十六年五月十六日朝校訂於拙宅／全学〔習〕補入 院／ 夜於拙宅／十一時半一校了／／五月蕤賓夜氣涼／身世匆忙吾自老／常転差降対俗人／歳事流水〔水流〕と読むべき転倒符あり | | | |

| | | | |
|--------|----------------------|--------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 7月17日 | とはずがたり (書陵部本の現写本) | 三五一六 | 〔下冊奥〕(朱書)卷五一冊八月十日朝於研究室読了／以圖書寮本読聊書込焉云云(墨書)首尾一貫、卷五是卷尾云云／奥書有之否乎無類本不可校訂也／八月十日午後一時四十分記之／岸廼舎 |
| 8月23日 | 源承口伝 | 三八六九 | 源承口傳一卷 竹相園文庫藏本也／昭和十五年八月十九日借覽右本于久曾神氏而囑人令書写畢(廿三日夕尅也)後記補入か余南呂廿日夜至于府下青梅町 為／全日本陸上競技聯盟女子部合宿練習／監督也／廿一日朝御嶽神社參拝翌日朝參拝于／多摩御陵経村山貯水池帰青梅町／廿三日午前記録会午後開散矣／廿四日一校了、地藏講也／夜識也／憶昔少年十二時(ミセケチ「三」右傍書)／黄昏相携(二字ミセケチ「先到」右傍書)赤縮村／賽者経緯(四字ミセケチ「老郷」右傍書もミセケチ)燈(ミセケチ「華」左傍書)籠燈下／西福寺香煙(ミセケチ「華」右傍書)人賽地藏尊 |
| 10月3日 | 菓子図攷 | 四一六四 | 菓子図攷 一卷 源芳野輯／中山久四郎博士藏本也 昭和十五年秋季皇靈祭前日訪問中山邸借覽矣 依囑于／笠原七司氏書写而一校了／昭和十五年十月三日 防空演習夜識之／岸廼舎／同十六年五月七日午前一校了／十一時半也／鮮緑映日 |
| 10月5日 | 歌格新論 | 三三九一 | 昭和十五年十月五日／下谷にて 岸廼舎 |
| 10月上旬 | 不二日記 | 三〇三七 | 昭和十五年十月上流／田忠來訪于研究室而俱至上野／飯途求焉岸廼舎 |
| 10月25日 | 九想詩絵抄 伝法灌頂聞書 | 四六一九 二二四七 | 昭和十五年十月上流求焉／岸廼舎 昭和十五年十月廿五日／奈良にて求焉 岸廼舎 |

| | | | |
|--------|---------------|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 12月20日 | 三教指帰見聞 | 二〇一八 | 德川研究所之会也 |
| 12月4日 | 真言礦石集 | 一三七〇 | 〈表見返〉昭和十五年十二月四日 姫路市にて求む 自卷一次也 至卷三次也 |
| 12月1日 | 一切設利羅集 卷第四 | 二六二三 | 〈奥、墨線枠内〉一切設利羅集卷第四 龍門文庫本也旧蔵于 田中氏焉 卷第之下摩擦紙之痕或第 十四歟未審 但 全稀購(二字ミセケチ)觀本也 今年秋借 覽于川瀬氏之序依囑立木氏書写者也 原本粘葉裝而以表紙之矣 端立竹 余嘗見此種裝於大覚寺經典 說明 東伏見大妃殿下焉回顧 昭和十二年秋也 昭和十五年大呂朔黄昏識之 岸廼舎 今茲林鐘下浣製本焉 書題箋者也 昭和十六年六月廿六日於研究室記之 岸廼舎 |
| 11月26日 | 京の水 | 三〇五五 | 昭和十五年十一月廿六日 於神田求之岸廼舎 |
| 11月23日 | 古今和漢蒙求 | 四〇七九 | 百叢(補入「附」上 和漢蒙求上 トアリ 本書ハ 上欠 卷中下二卷也 昭和十五年十一月新嘗祭夜過神田街 於松雲堂求焉 岸廼舎 |
| 11月中旬 | 伊勢物語知頭抄 | 三二五六 | 和語知頭集一卷、欠本之鎌倉期写本也 以松田氏轉写本矣 伊勢物語末書也。 龍門文庫在完本 伊勢物語末書也 昭和十五年十一日中院写了 近比写本皆 囑立木氏者也 岸廼舎 |
| 11月5日 | 辞格考抄本 | 七七六 | 包紙「昭和十五年十一月五日 仕入近半(朱印)」 |
| 11月5日 | *春日驗記詞書 | 五一五九 | 昭和十五年十一月十六日 陽明文庫第二回展覽會 於霞山開館開催 受招待 次到華族開館列 榊原 政春子之結婚式 偶逢前田侯世嗣利建君而 依頼 育徳財団刊行物寄贈 云云 研究室にて記之 |
| 10月 | 狂訓彙軌本紀 | 三四〇九 | 昭和十五年十月 岸廼舎 |

| | | | |
|-------|------|------|---------------------------|
| 12月下旬 | 道の枝折 | 三八四五 | 〔表見返〕昭和十五年十二月下流 |
| 12月上旬 | 歌道伝授 | 一五二 | 〔表見返〕歌道伝授一冊 昭和十五年大呂下流／岸廻舎 |

昭和一六年辛巳(一九四二)

| | | | |
|-------|------------------------------|--------------|----------------------------------------------------------------------------------|
| 1月6日 | 三代集類言 | 三八四八 | 堀秀成著書也／昭和十六年一月六日京都細川書店にて／岸廻舎／三集類言一冊〔此行後記補入か〕／三代集類辞 二冊 |
| 1月中旬 | 詩歌御会式 | 五二七三 | 昭和十六年大簇中浣求之／岸廻舎 |
| 2月2日 | 古今伝授 (福井本の現写本) | 三八七三 | 古今伝授／高松宮家御蔵本也以福井久蔵博士／写本書之 誤字難読字等有之／他日随原本可訂正者也／昨夏以来 得閑随時書之 今茲二月二日朝書写了／昭和十六年二月／岸廻舎 |
| 2月20日 | 南牧樵夫百吟集 | 九三二 | 南牧樵夫／／ 昭和十六年二月廿日 於琳琅閣／岸廻舎 |
| 3月上旬 | 花尽平系図(平家花揃) | 一二二七 | 花尽平家系図 <small>平家花揃</small> ／ 昭和十六年三月上浣／ 巖松堂にて／岸廻舎 |
| 3月14日 | 聖材集 | 二〇二三 | 昭和十六年三月十四日 於名古屋其中堂求焉／多年求本書偶得之 岸廻舎 |
| 3月17日 | 武溪集 | 七八二 | 武溪集一卷 求于越後卷町焉 昨秋九月上浣也／ 今茲二月囑于松雲堂附表紙繕修者也／ 昭和十六年三月十七日 岸廻舎 |
| 3月下旬 | 深窓秘抄・装束着様・源氏男女装束抄(合冊) | 三三九六 | 合本一冊／ 源氏男女装束抄良本也／ 昭和十六年三月中浣求于鹿田店 _{云云} ／ 六月下浣製本者也 岸廻舎 |
| 6月上旬 | 天狗の内裏 高賀三郎頼方伝記 (諏訪の本地) | 一二八三 一二八九 | 名古屋藤園堂より、／昭和十六年六月上浣岸廻舎 昭和十六年林鐘上浣 岸廻舎／沖森にて求む |
| | 經典余師 蒙求 | 四五〇〇 | 〔表見返〕昭和十六年六月／上浣／藤園堂にて |

| | | | | | | | |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------|-------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------|-----------|
| 7月20日 | 7月10日 | 7月9日 | 7月1日 | 6月下旬 | 6月23日 | 6月20日 | 6月中旬 |
| 古調考 (三井文庫本の現 写本) | 興風集 | 歌仙家集補 | 神代正語常盤草 | 三種歌合 芳集 | 歌合 | 烏帽子折 | 蒙求標題詠 |
| 三八八六 | 九五二 | 九九 | 一九三五 | 三七三 | 三九八 | 五一七五 | 四七二四 |
| 古調考 一卷 本居内遠述作也／在戸越三井文庫蔵著者自／筆稿本矣 昭和七年春夏／之交学習院図書課備人／遣三井文庫書写了傭人／住高円寺 街日日通戸越町／車賃行厨代膳写料約半／百金也 蓋稿本難読云々 昭和十六 年仲侶中浣囑青／木子夷則中浣書写了／頃日霖雨連日气温下落夏日／猶仲秋 余損傷腸胃累々然絶食／ 昭和十六年七月廿日夕七時記之／ 陰雨蕭々終 日暗 岸廼舎 | 見別非歌集也 昭和十六年七月十日朝送来／余思三十六人集中興風集而先頃依頼之本也／披 | 岸廼舎 〈下卷奥〉学習院図書館蔵三十六人集補与此本全同／ 昭和十六年夷則九日 | 〈上卷・前見返〉古本仙集ハ西本願寺本ヲサセル也番号ハ西本願寺本ニ従ヘル 也／岸廼舎識 昭和十六年七月一日夜／ 於神田求之／卷下一冊補写省図者也 | 〈朱書〉住吉歌合 一卷 寛政頃二藤原茂利ガ自写本ニ刻シテ尚古法帖中／ニ 収メタルモノアリ／ 書苑第一号明治四十四年十一月発行／ニ写真之アリ／ ／〈墨書〉昭和十六年夷則朔神田駿河台下大屋求之／岸廼舎 | 昭和十六年林鐘下浣／岸廼舎識 昭和十六年林鐘下浣／内 歌合目錄一冊／ 歌合 卅六冊／ マヽ部類哥合合本也／岸廼舎 | 烏帽子折 一卷／幸若舞曲也 岸廼舎／先年求干坊間今茲林鐘下浣製／本也 昭和十六年六月廿日識之／ 於研究室 | 昭和十六年六月中浣 |

| | | | |
|-------|------------------------------|--------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 7月下旬 | 法性寺關白御集 (羣書類從卷第一三〇) | 五一 | 昭和十六年夷則下流 於大塚終点／岸廻舎 |
| 8月7日 | 神代紀髻華山蔭 | 一九二三 | 昭和十六年八月七日 岸廻舎 |
| 8月上旬 | *浜松中納言物語 卷六(浅野本) (感光紙複写本) | 三三二一八 | 〈中扉ウラ〉浅野本卷二ヨリ卷六マデトス 卷一ハナシ。流布本卷一ハ即チ卷二ナリ 〈複写奥〉昭和十六年八月上流 広師松永信一氏／より送り来る 岸廻舎 |
| 8月11日 | 一覽博識 古詩選 | 三〇九三 四六四九 | 昭和十六年八月十一日松雲堂にて／岸廻舎 昭和十六年八月十一日 於神田 岸廻舎 |
| 8月20日 | 醉華抄 | 四七三八 | 昭和十六年八月廿日吉田屋送附未焉 |
| 8月27日 | 千載佳句 (内閣文庫本の現写本) | 三九二 | 千載佳句 内閣文庫蔵本也 一冊本云／ 八月十五日借覽 同廿六日囑人写了。／ 同文庫千載佳句有二部(二冊本・一冊本)／ 一冊本、存古型、有乎古止点古体仮字等。／ 二冊本、林家本而弘文院林学士、記跋文矣。／ 昭和十六年南呂廿七日朝記之。／ 郷里諏訪社秋季祭礼之日也／ 憶昔少年日備舟渡鎧湖／ 森問翻祭旒 殷々(二字ミセケチ、左傍書「蓼々」聞太鼓／ 四十(補入「余」)年前從(補入)二字ミセケチ、左傍書「漆山」村至曾根時、渡鎧湖(補入「矣」也)也。／岸廻舎 |
| 9月5日 | 補注蒙求 | 四四八八 | 〈表見返〉木活九行本 <small>(慶長中刊本、甲本)</small> 、十四行本二ハ <small>元中刊</small> ／薦蒙求表、李華序・子光序ノ次ギニ別紙ニ左ノ序アリ、他本ニハ此レアルモノナシ／易之蒙曰、匪我求童蒙 童蒙求我 此蒙求／名書之義控伺顛蒙聰明不開 又安得不註／下註脚 儻發蒙之初 逐事記誦 日積月累／胸中成一部 國子監 幼而學壯而行 不待繫／蒙婦而求之有餘師 君其諸(諸)ミセケチ)問諸徐君以／為然乎否 威淳戊申菊月 前進士宋秉孫／書于掛月精舎／ソノ次ギ本文ナレリ／内閣古活本ハ／ 九行本一部・宋秉孫ノ序アリ／ 十四行本二部アリ |

| | | | |
|-------|----------|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 9月5日 | 補注蒙求 | 四四八八 | <p>〈裏見返〉昭和十六年無射五午後至内閣文庫返却／千載佳句教家摘句 泥之草而見蒙求類矣／曰 漢故事和歌、蒙求倭歌 蒙求和歌集／及 蒙求木活版三部 古写本一部 金三俊所註／李氏蒙求補註 販途過松雲堂求本書／与古活十四行本同一之故也／</p> <p>内閣文庫古活九行本一部及十四行本二部矣／ 九月五日 於研究室記之午後五時半／ 微雨蕭々而軒滴有声／岸廻舎識</p> |
| 9月9日 | 和訓押韻 | 六九五 | <p>昭和十六年重陽夜／於大塚求之／岸廻舎</p> |
| 9月17日 | 代集 (現写本) | 三八七一 | <p>本卷有切取而詞花集〈三字朱傍点〉以下至打聞之間缺矣／彰考館蔵本完全也故今挾該本補／填缺漏者也 昭和十六年九月十七日／雨夜／岸廻舎／裏在消息文。葉之事等云、女文也〈句読ママ〉</p> <p>代集／ 卷子本一軸无題簽 卷端者「代集」二字「補入のちミセケチ」順宗〈補入「之」四字／ 加藤氏蔵本也 昨冬囑川口氏影写者也／ 昭和十五年林鐘上流聊書付焉／岸廻舎</p> <p>加藤正治(文博)ナリ／佐々木信綱先生借覽中窃又借りシテ転写シタルモノナリ</p> |
| 9月25日 | 蒙求 | 四四八七 | <p>〈以下句読朱書〉此一軸、出従加藤氏字行方不明、然昭和三十七年大呂十九日、於東京美術倶楽部古書展、偶然現姿而為梅沢氏／所有、翌三十八年三月廿六日文化財審議委員〈補入左傍書「会」時、為重文、／昭和十四年九月六日重美認定、題名曰佚名抄〈三字朱傍点〉／全 三十八年三月廿六日 改重美為重文、題名亦復代集「二字朱傍点」矣、／ 昭和三十八年三月廿九日記之 岸廻舎</p> |
| 9月30日 | 小四書 | 四五一五 | <p>〈第一冊〉寛永本蒙求三冊 昭和十六年九月廿五日夜識之／十四行木活本復刻也 十月十六日於内閣文庫対校了 夜再識之</p> <p>〈第三冊〉蒙求 寛永版三冊 昭和十六年無射下流 岸廻舎</p> <p>八月中余書蒙求之事矣／昭和十六年無射晦 岸廻舎</p> |

| | | | |
|--------|-----------------------|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 9月下旬 | 竹林抄之註 (高野本の現写本) | 三九一一 | 竹林抄之註 一卷／高野斑山博士藏本也 今茲八月上浣／借覽岩田水鳥宗匠之写本而委／囑或人書写者也／昭和十六年無射下浣識之／岸廻舎 |
| | 万国蒙求校本 | 四〇九〇 | 昭和十六年無射下浣 岸廻舎 |
| | 箋註桑華蒙求 | 四〇九二 | 昭和十六年無射下浣 岸廻舎 |
| | 攷古質疑 | 四四六九 | 昭和十六年無射下浣 岸廻舎 |
| 10月13日 | 每月抄 和歌十 牀 | 一四六 | 本書亦十余年前所求也製本之序記之／昭和十六年十月十三日識之 |
| 10月17日 | 能因歌枕 | 二〇二 | 昭和十六年十月十七日夜大塚にて |
| 10月19日 | 津守和歌集(津守国基集)(武田本の現写本) | 三六一一 | 津守集 一冊 武田祐吉博士藏本也 列帳綴無元表紙／今茲八月十六日訪問之砌一覽而九月下浣借覽／之序囑人書写者也 高階一族之遺塵集／之類歟可參考読人不知矣 濱崎氏書写焉／新後拾遺迄也故可推知時代歟云云 昭和十六年応鐘十九日夜識之身世惣忙／岸廻舎 |
| | 倭漢詩歌合(現写本) | 三六三三 | 倭漢詩歌合一冊彰考館藏本也 類本稀本有之／八月中浣書写者也／昭和十六年十月十九日夜識之／鬼子母神之太鼓今年不聞之云／岸廻舎 |
| 10月中旬 | 万葉百人一首 | 三八二一 | 此本数年前所求之 今年秋製本者之／昭和十六年十月中浣識之 |
| | 文鳳抄(彰考館本の現写本) | 四八四四 | 文鳳抄卷二 一冊以水戸彰考館藏本写之者也／今茲八月十三日到彰考館而依囑書写同月／下浣写了送附来矣／文鳳抄完本稀也余今補卷二而唯缺卷七而已 昭和十六年應鐘中浣於椎名町僑居識之／岸廻舎 |
| 10月下旬 | 作文大牀(彰考館本の現写本) | 四八〇九 | 昭和十六年八月彰考館文書二依り贍写／森山』 作文大牀 一卷 彰考館本也／八月下浣 依頼書写而十月下浣送来者也／昭和十六年十月下浣／岸廻舎識 |

| | | | |
|--------|-----------------------|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 10月 | 五代簡要 (彰考館本の現写本) | 三八五五 | 五代簡要 一卷 彰考館蔵本也 / 今年八月中浣、(読点朱書ママ)訪彰考館、依嘱謄写、/ 本書多紙数、今日漸送来矣、乃記其由 / 者也 / 昭和十六年十月廿六日夜、岸廼舎 / 今日学習院運動会 / 從恒例而余走六哩 更無疲勞云云 / 同年十一月下浣於図書館 / 製本了、(読点墨書ママ) / 細川護貞氏控ニハ 幽齋公筆ノモノ在中ノ長持 / 午印卅六ノ六印ニ / (以下「細川護貞氏控」の引用三行余省略) / 昭和三十一年十一月中浣、於細川護貞氏事 / 移所、転写同氏之控。右其内、五代簡要(鉤括弧ママ)関 / 係之記載也 / 右不載于北岡文庫蔵書解説目録中、脱落歟 / 昭和三十一年三月五日記之 岸廼舎識 |
| 秋 | 酒吞童子記 | 三三七九 | 昭和十六年秋求焉、岸廼舎 |
| 11月10日 | 譚林拾葉集 夫 木和歌拾遺抄 | 六八 | 昭和十六年十一月十日 岸廼舎 |
| 11月上旬 | 漢故事和歌集 (内閣文庫本の現写本) | 三八一八 | 漢故事和歌集一冊 内閣文庫蔵本也 / 昭和十六年十一月上浣囁人写之濱崎氏也 / 十一月廿一日記之岸廼舎 |
| 11月19日 | 善光寺如来東漸録 | 二一六二 | 昭和十六年十一月十九日夜於一誠堂 / 岸廼舎 |
| 11月上旬 | 述異記 | 四五五八 | 昭和十六年十一月上浣於琳琅閣求之 / 岸廼舎 |
| 11月中旬 | 為家集 | 三三三三 | 〈第一冊〉書陵部本為家集如左 / 為家集 元禄七版 一冊 元禄七版 六冊有欠 / 為家集 江戸写 二冊 / 為家集 江戸写 二冊 禁裡本 / 為家千首 貞心二江戸写一冊 / 為家千首 嘉永七写 / 高司輔殿 一冊 / 中院詠草 一冊 / 中院集(残欠) 一冊 / 桂宮本叢書有之、 / 昭和十六年十一月中浣 / 京都にて 岸廼舎 |
| 十訓抄 | | 一三五二 | 昭和十六年十一月中浣修学旅行中 / 京都にて求む / 岸廼舎 |

| | | | |
|--------|--------|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 11月21日 | 漢故事和詞集 | 三八一八 | 漢故事和歌集 一冊 内閣文庫藏本也／ 昭和十六年十一月上浣嘱人写之濱崎氏也／ 十一月廿一日記之岸廼舍 |
| 11月30日 | 堤中納言集 | 五二〇九 | 昭和十六年黄鐘之晦於本郷街求焉／岸廼舍 |
| 12月7日 | 秋風和歌集 | 三六〇二 | 秋風和歌集 下卷 余得少閑僅書写雖然／ 遲々不撓或写卷首 又写卷末常感前途遙／ 遠 其間旅行関西 又奉仕勤勞荏苒閱時日／ 至十一月而未終乃依嘱学生諸氏十一月下浣／ 廿九(一字ミセケチ) 八廿九兩日之間遂書写残葉之功了焉／ 曰田村豊、曰古賀精一曰石橋敏男曰中野／ 薰郎曰大場正典 曰片寄助手曰坂田副手／ 廿八日午前風雨猛烈 余到内閣文庫返却／ 漢故事和歌集而見新撰万葉版途再到／ 大塚書若干葉矣／ 聊記余備他年之参攷而已云尔』 昭和十六年十二月七日黄昏記之／岸廼舍／ 同廿四年 大簇下浣頭書了／ |
| 12月中旬 | 千々廼屋集 | 九〇八 | 秋風集中二八／大納言典侍／慶政上人／藤六輔相／御形宣旨作ナドアリ |
| 12月25日 | 新明題和歌集 | 九一四 | 千々廼屋集／／ 昭和十六年大呂中浣／岸廼舍 |
| | 明題和歌全集 | 九二六 | 〔上卷表見返〕新明題和歌集 六卷 三冊／ 昭和十六年黄鐘(二字ミセケチ)〔大呂〕石傍書中浣／岸廼舍 |
| | | | 〔第一冊〕明題和歌全集十五卷為十冊者也／堀田侯旧藏本也 |
| | | | 〔第十冊〕昭和十六年大呂廿五日昏刻於浅倉文淵閣／ニテ |

昭和十七年壬午(一九四二)

| | | | |
|-------|-------|------|----------------------|
| 1月10日 | 説法用歌集 | 三八二八 | 昭和十七年一月十日於琳琅閣求之／ 岸廼舍 |
| 1月17日 | 明衡消息 | 八二一 | 昭和十七年一月十七日 岸廼舍 |
| | 狂詩礎 | 四八七二 | 昭和十七年一月十七日 文行堂にて |

| | | | |
|-------|-------------------------|------|----------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1月中旬 | 新山家集 新二 百韻 | 一〇四一 | 昭和十七年大簇中浣 岸廻舎 |
| | 名所百韻 | 九九七 | 昭和十七年大簇中浣 岸廻舎 |
| | *花柳事情 | 三〇八〇 | 昭和十七年大簇中浣 岸廻舎 〔明治13年12月26日出版 編輯人・増田繁蔵 出版人・澤佐興〕 |
| | 浄土門古歌抄 | 三八三〇 | 昭和十七年大簇中浣 岸廻舎 |
| 3月15日 | 酒吞童子 (沖森本の現写 本) | 三三七七 | 酒吞童子一卷末欠者也／雖所々有絵拙劣不足見故今略之。沖森本／一覽之序 嘱人書写焉、大友氏也一月中／昭和十七年三月十五日記之／岸廻舎 |
| | 大江嘉言集 (彰考館本の現 写本) | 三七一六 | 大江嘉言集 一卷 彰考館蔵本也／以久曾神氏写本書写者也 一月大友氏 写了／ 昭和十七年三月十五日春雨浪々／岸廻舎 |
| | 經衡家集 (彰考館本の現 写本) | 三七一九 | 經衡集 一卷 彰考館蔵本也／以久曾神氏写本嘱人書写者也 松本氏写了 ／一月中／ 昭和十七年三月十五日／岸廻舎識之 |
| 3月21日 | *飛鳥川(複製) | 三五三三 | 〔箱裏〕昭和十七年／三月廿一日 岸廻舎 |
| 4月上旬 | *宇多天皇事書 | 二七二六 | 昭和十七年四月上浣／ 檀原神宮道場より販来、岸廻舎 |
| 4月中旬 | 南無安妙地仏 (阿弥陀の本地) | 二二八五 | 昭和十七年仲呂中浣／岸廻舎 |
| | 八幡宮御本地 | 二二八八 | 昭和十七年仲呂中浣／岸廻舎 |
| 4月23日 | 松下集 (京大本の現写 本) | 三七八七 | 松下集一卷 京都帝大文学部研究室本也／ 神宮文庫本転写也(村井本)／ 昭和十七年四月上浣借覽之序嘱人〔左傍書立木氏也〕／ 書写者也／ 昭 和十七年四月廿三日朝識之／彰考館本 |

| | | | |
|-------|----------------------|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 4月24日 | 桂園翁三十六人集註 | 三八五七 | 桂園翁三十六人集註／京都帝大文学部藏本也／今茲四月上浣借覽之序嘱人〈左余白に「立木老人也」と傍書書／写者也〉／昭和十七年四月廿四日岸廻舎識／翌日房一校了／靖国神社／天氣晴朗／行幸之日也／本書ハ／桂園遺稿下二収載セリ／余求桂園遺稿者昭和四十年也矣 |
| 4月30日 | 作意躰 （高野山持明院本の現写本） | 四九九三 | 作意躰 一卷 高野山持明院本也／高野山大学図書館寄託／余昨秋訪（右傍書「十一月六日」）高野山図書館依嘱司書／香川英隆氏 荏苒巨半歳写了／今朝送附矣 昭和十三年以来（右傍書「十一月八日」）宿望／遂達焉 香川氏金剛頂院之僧也／仏果歟／本書在静嘉堂文库蔵高橋残夢／遺書中有焉 他日須校訂者也／昭和十七年仲呂晦／岸廻舎 |
| 5月16日 | 太平記 | 三四六九 | 陽滿庭樹／流鶯漂々残隣家 昭和十七年五月十六日日本橋諸学振興会中／奈良天平堂にて岸廻舎 |
| 5月中旬 | 大納言為氏集 （京大本の現写本） | 三七六八 | 大納言為氏集一冊 <small>京都帝大文学部 研究室蔵本也</small> 昭和十七年三月借覽之序／書写者也 高師竹内氏写焉／蕤賓中浣院識之／岸廻舎／大納言為氏卿集一卷在凶書寮／（朱書細字）与京大本全同／奥書亦全致 |
| 5月21日 | 天台表白集 （大谷大学本の現写本） | 一三八五 | 天台表白集 一卷 大谷大学蔵本也／余調査澄憲之作文集頃借覽言泉集之序借出本書一覽後依嘱人而書写者也／無類本故不可校訂者也／昭和十七年蕤賓下浣廿一夜識焉／窗外聽兩声 夜氣感涼冷 岸廻舎／今日皈路 松本彦、氏曰觀知院蔵／宗久物語奥云貞治六年春云……〔…〕ママ／四ノ引書／口伝法（表白集）建久七年十一月云……〔黒文庫／乙号長持ノ中〕／他日 須 一覽調査云 又曰／正像末文 可參考 |
| 5月29日 | 増基法師集 （書陵部本の現写本） | 三七七二 | 増基法師集一卷 圖書寮本也／昭和十七年蕤賓五月十七日返却書籍之際／借覽増基法師集範宗集販來嘱人（左傍書「立木氏依嘱云」）写了／昭和十七年五月廿九日為／芳野氏送別於辰好軒 而販來聊書附者也／岸廻舎 |

| | | | | | | | | | |
|-------------------------------------------|--------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------|-----------------|------------------------------------------------|-------------------|------------------|-------------------------------|-----------------------------------------------------|
| 7月9日 | 7月7日 | 7月6日 | | 7月4日 | | 6月21日 | 6月11日 | | 6月上旬 |
| 八洲文藻 | 宮国歌合 | 言泉集 (大谷大学本の現写本) | 花蝶論 | 詩歌錦聯集 | 年中御会和歌集 | 野輿日記 | 無量山了誉上人 行状記 | 萱公傳 | 伊勢詣乃記 |
| 三五三九 | 五二〇〇 | 二二九九 | 二〇二四 | 一六九九 | 九三二 | 四八五 | 二二二七 | 二七九五 | 四七二 |
| 八六冊 有之／ 夷則九 於文行堂求之 岸廼舍／ 自卷六 四冊也 至卷九 | 昭和十七年夷則四 岸廼舍 | 言泉集 一卷 大谷大学蔵本也 江戸初期古写也／今茲蕤賓上浣借覽之序 嘱人書写者也／ 大型本而縦 横／ 昭和十七年夷則六 半夜聊書付者也 ／岸廼舍／ 言泉集恐非澄憲之作歟／卷首三枚之外惡筆而文字不得読人写之／更不為文字之体 校正殆不可能也(補入「可」別書「書」ミセケチ)影写／者也 校正之勞 甚大於影写也 七月十日夜十二時閣(ママ)「攔」カ筆 | 花蝶論不知作者花鳥集之類也／昭和十七年七月四日 本郷街森江求之／諷誦 集同時也 岸廼舍 | 昭和十七年夷則四 於文行堂求之 | 昭和十七年夷則四昏刻於文行堂求／類聚名義抄 其他同時也 岸廼舍／元 祿五年自正月至十二月御会 | 裏表紙／昭和十七年七月四日 岸廼舍 | 昭和十七年林鐘廿一文行堂／岸廼舍 | 昭和十七年 林鐘十一、国学院販途／洪谷にて求之 岸廼舍言識 | 昭和十七年林鐘上浣於文行堂求之／岸廼舍 昭和十五年夏頃求焉今年製本／ 昭和十七年林鐘上浣／岸廼舍 |
| | | | | | | | | | 星拱和歌集 *和歌秘決 伊勢詣乃記 |
| | | | | | | | | | 九三 二四九 四七二 |
| | | | | | | | | | 昭和十七年林鐘上浣／於文行堂求之岸廼舍 |

| | | | |
|-------|-------------------------|-------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 7月上旬 | 讀百首和詩 類聚名義抄 詠経語和詞 | 三〇六 六一四 八九二 | 昭和十七年夷則上澆 昭和十七年夷則上澆於文行堂求焉 詠経語百首未見完本、未缺者歟／昭和十七年七月上澆 岸廼舎』 季文 北村氏也 歌書綜覽不載本／書矣 |
| 7月12日 | 和漢故事文選 | 三三三三 | 昭和十七年夷則上澆 昭和十七年夷則上澆於森江求之／岸廼舎 |
| 7月16日 | 堤中納言物語 (広島師範本の現写本) | 五五六三六 | 堤中納言物語 十冊 広島師範蔵本而 有栖川／宮家御本与本書全同者也 ／今茲林鐘上澆詠高師生書写畢／于時昭和十七年夷則十六 夜記之／岸廼舎識之 |
| 7月中旬 | 神道五部書 | 一九三二 | 昭和十七年七月中澆 |
| 8月4日 | 菅家金玉抄 (内閣文庫本の現写本) | 三六五七 | 菅家金玉集一冊 内閣文庫蔵本也 <small>依立木氏</small> ／借覽之序書写者也 旧阿波文庫本 ／三冊在徳島縣立光慶圖書館矣／別藏井上哲次郎翁蔵一本由見歌書 叢へ一字ミセケチ右傍書「綜」覽云々／昭和十七年南呂四午前溽暑 如坐甌中 岸廼舎／八月四日午後卷一春上(右傍書「校訂焉」校訂了) 彰考館有完本他日須書写者也 |
| | 堀江物語 (岡見本の現写本) | 三三九一 | 堀江物語一冊 岡見氏写本借覽之序書写者也／此物語寛文七年刊本三卷有之内閣文庫蔵之／大阪朝日新聞社長上野氏蔵絵巻焉／昭和十七年夷則上澆識之 依囑濱崎氏也／岸廼舎 |
| | 釋書蒙求 | 四〇七五 | 昭和十七年夷則上澆 於森江求之／岸廼舎 |
| | 新刻 禪苑蒙求 | 四五〇四 | 昭和十七年夷則上澆求之 |
| | 釋氏蒙求 | 四五〇七 | 昭和十七年夷則上澆於森江求焉／岸廼舎 |
| | 詩集海 | 四九九二 | 〈裏見返〉卷首 <small>白一楓林晚帆 至十二速浦版帆</small> 欠者也／昭和十七年夷則上澆、／岸廼舎識 〈帙裏〉昭和十七年夷則八日／岸廼舎 |

| | | | |
|-------|-------------------|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 8月中旬 | 長短抄 (西尾本の現写本) | 三九三七 | 長短抄 一冊 西尾氏写本借覽之序 / 書写者也 類本稀觀可珍 / 重書也云云 今西氏書写 / 昭和十七年南呂中浣 / 岸廼舍識之 / 中 下 兩卷 無内題(補入「之簽」焉 / 今当製本殊更附 内題而綴之 / 昭和廿五年三月下浣 小西氏版省之途次訪栗田氏 / 而就原本校訂了 五月二日記之 同年蕪貧五月二日夜三日雨天一読校訂云云 / 難判読所少々有之 以類本無之而不可比較午後 / 三時半了 春雨浪々一過鯉魚之風習々 / 岸廼舍識 / (朱書) 昭和二十五年四月一日以栗田元次氏所藏原本校正了 / 小西甚一 |
| 8月 | 青木賊 | 三九四三 | 昭和十八年 / 南呂 / 岸廼舍 |
| 9月10日 | 表白集 (彰考館本の現写本) | 一三八四 | 〔上卷〕表白集上 九月六日写了 病臥中校了 / 上中上〔上〕ミセケチ / 下三卷本脱中巻者也 / 他日須求中巻云云 / 昭和十七年無射十日 識之 / 岸廼舍 / 近來表紙不足製本亦不如意遅々兮 / 大谷大學藏翰林拾葉(補入「卷一・二」)所収表白集即与 / 彰考館本同而自卷一至卷六者也乃十二 / 卷本表白集今逸其卷七而已云云 / 昭和十八年三月廿二日夜半記之 |
| | 田中氏蔵書目録 | 五〇二四 | 〔下卷〕表白集 五冊 彰考館本也巻序題簽無之 / 中 二冊 海草集逸題簽者也 / 二冊 表白集而恐三冊之中欠巻中者歟 / 一冊 自卷九 古写也 同類也 / 八月廿四日残暑溽熱也余与石井氏為太平記 / 近衛本校訂本返却 到彰考館更借來 / 表白集五冊 願文集七冊練行啓一冊矣 / 親王院本同系也 / 表白集下 一冊 八月卅日書写畢 立木氏依囑云云 / 黄昏雨中而參 余補巻首一葉綴之者也 / 昭和十七年八月卅日午後七時識之 |
| | | | 〔扉ウラ〕田中氏 京都市 日野町 ■法界寺近 / 所ナリ / 先代勘兵衛 当代忠兵衛(鉛筆書右傍書「忠三郎」) / 此目録ニハ古筆 什器 等ニ属スルモノハ / 不含有ノ如シ / 又此中 龍門文庫ニ流出シタルモノモ若干 / 〔有〕の二画書さとしてミセケチ有之 / 昭和十七年無射十日 / 於研究室 識之 / 岸廼舍 |
| | | | 〔奥〕田中氏この外に什器中に古筆物多々 / 有之 / 三十五文集 平安末写 / 転芳輪抄 建治年中写 |

| | | | |
|--------|----------------|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 9月23日 | 菅贈太政大臣歌集 | 三五四 | 静嘉堂文庫ニハ本書ノ写本アリ(万延元年ナリ)昭和十七年九月二十三日求於積徳堂書店焉 菅贈太政大臣歌集別在焉 岸廼舎 |
| 9月 | 和漢研譜 | 八一九 | 昭和十七年九月越後より持来焉 三冊也 |
| 10月1日 | 天神百首(天神百詠) | 三五九 | 瑠璃壺百首神宮文庫本之系也 昭和十七年十月一日求之 岸廼舎 |
| 10月4日 | *興教大師行状 因記 | 二一〇八 | 〔押紙〕十月四日 八百年祭ニテ護国寺参拝 〔明治22年1月28日出版〕 昭和17年10月4日 大曼荼羅供修行 護国寺) |
| 10月中旬 | 夢遊集 | 三四〇四 | 昭和十七年十月中浣 |
| 10月30日 | 菅原贈太政大臣歌集 | 三六五四 | 菅原贈太政大臣歌集一卷 刊本写之 刊本安稀少也 夜八時頃始之十二時比畢之 四圍閑然台所鼠族 有密遠音校毫就眠 昭和十七年十月三十日夜 三更燈下記之岸廼舎 |
| 11月8日 | 願文集 (彰考館本の現写本) | 二二〇五 | 〔卷一〕願文集 卷一 水戸公彰考館藏本也 八月下浣借覽 与表白集同時也 九月廿日書写了 豪雨後涼風雖 巨樹梢聊有溽暑之感云云 囑立木氏也 昭和十七年無射廿識之 秋季皇靈祭日一校了 岸廼舎 永範 <small>正三位文章博士 千載 新古今 藤原永実男 続古 風雅 作者 新勅</small> 〔卷二末〕願文集卷二 一冊 今便宜分冊為本末二冊 昭和十七年無射廿九書写了余今夜從 銚子港販来云 翌無射晦警戒驚(ママ)警の誤か 報発令中識之 岸廼舎 卷二者東大寺宗性権僧都集輯也 元祿之世既有此探訪水戸修史之業又偉哉 延享八講秘録 写 卷一冊以下一二件細目、省略 〔卷三〕願文集卷三 十月四日写了 夜一校了 興教大師八百年祭日(補入)也 到護国寺 拜会式(補入)雖 有願文諷誦、貫首之声 少低調而(補入)不 可聞 三字頃終了 昭和十七年十月四日夜九時記 岸廼舎 〔卷四〕願文集 <small>明編 金沢</small> 一冊 昭和十七年十月十五日綴之 右傍書「立木氏依囑也」 去五日夜出発于近畿而十四日夜販家 廻紀州之行是為最初 十三日午後於 洛西日野村訪田中氏借覽転法輪抄 |

| | | | |
|--------|------------------------|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 11月8日 | 願文集 (彰考館本の現写本) | 二三〇五 | <p>四冊版来 出京之日残暑日中有之版家 / 之日爽涼和光有之<small>云</small> / 大谷大学龍谷大学俱有願文表白諷誦若干宜 / 他日借覽者也 / 十月十五日十三時半記之 / 于実幽谷一校了 脱缺之文字有之也</p> <p>〈卷五本〉願文集 卷五 彰考館本也 / 今分為二冊<small>云</small> / 昭和十七年十月中流写了 / <small>立木氏委</small> / 同十月廿二日夜一校了 / 岸廼舍識 / 今日〔補入〕以後之明月〔右傍書〕二更明月 / 〔左傍書〕天雲<small>云</small> / 十三夜皎月張弓半</p> <p>〔卷六末〕願文集卷六 分冊為本卷二卷 / 昭和十七年十月廿八日写了 / 即夜一校了 岸廼舍識 / 十一月六日二更綴之 / 近來中子紙抺底塵昏亦形小而不便也 / 辛得中子用紙綴之<small>云</small></p> <p>〔卷七〕願文集卷七 十一月八日書写了 立木氏也 / 全七卷悉書写了 夜一校了 / <small>自南呂廿三百至今日 一百五十九日也云云</small> 岸廼舍 / 識之 / 今朝來客有二人予定仕事悉不成 / 午後亦寄書肆人俗談數分倉皇去 / 漸逃俗人到保谷 即刻飯還帝國保亭流行 / 九時飯宅校訂畢 聊記奧書与行歷<small>云</small> / 帝國保亭留行 北尾少将用談也 岸廼舍又識</p> |
| 11月11日 | 春日社歌合 日吉社歌合 | 三六三〇 | <p>春日社歌合 住吉社歌合一冊 以久曾神氏藏古写本 / 書写了 囑小野田氏學習院 中等科教務者也 / 祝部成茂落葉歌在春日社歌合也 / 昭和十七年十一月十一日夜 記之 / 岸廼舍識 / 日吉社歌合 (慈鎮自歌合即チ七社十五番ハ俊成判也)<small>云</small></p> |
| 11月14日 | 光孝宇多兩帝記 延長記 (書陵部本の現写本) | 二七二五 | <p>延長記<small>光孝宇多</small>兩帝記 凶書寮本也 / 余 月借覽遂影写了<small>囑立木氏</small> / 昭和十七年十一月十四日夜 三更識之 / 岸廼舍</p> |
| 11月17日 | 黄葉和歌集 (烏丸光広歌集) | 三三一 | <p>今日凶書寮冷雨蕭然 午後三時四圍 / 晦陰、借範宗集 行宗集 肥後集 新国史 / 賀算記 冬恋雜百首 古今序註了譽 / 和歌師資相伝 而版來途中過松雲 / 堂求之 / 昭和十七年十一月十七日岸廼舍</p> |

| | | | |
|--------|-----------------------------------------------|--------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 11月17日 | 和歌伊勢之海 文字蒙求 泥の草 教家摘句 詩文警句 (彰考館本の現写本) | 八九四 四五二 四七六三 | 昭和十七年十一月十七日／松雲堂にて 岸廻舎 昭和十七年十一月十七日雨冷／午後訪図書館而帰途過松雲堂／求之、岸廻舎 〈表見返〉類従本の底本即是也故卷末欠脱与類従本／同焉又題泥之草再新所以也 〈泥之草〉奥10才 泥之草与教家摘借覽之序書写一部分／備干他日之參考者也 ／ 昭和十六年八月廿二日夜 従図書館 販来於研究室聊書付者也／岸廻舎識 〈卷末〉詩文警句 一卷 彰考館蔵本也／ 題名彰考館自命名而実教家摘句也 ／ 彰考館辰一九有二部 一合綴雜言奉和／ 即副本歟 一即此写本之底本而原写本歟／ 両本全同一者也／ 今茲八月廿四日訪彰考館而依囑書写／ 十一月十五日写了送来乃記奥書云云 昭和十七年十一月十七日 岸廻舎識 |
| 11月26日 | 筑紫紀行・松寫日記 | 四九一 | 〈甲一本・乙本の奥書を記した別紙、略〉〈朱書〉以上 以 二本奥書書加者也 ／ 昭和十六年黄鐘廿六日記之 |
| 11月27日 | 和歌伊勢海 | 八九四 | 昭和十七年十一月廿七日／松雲堂にて 岸廻舎 |
| 11月28日 | 蕉風無格論 | 一〇六七 | 昭和十七年十一月廿八日 岸廻舎 |
| 11月30日 | 新国史 (書陵部本の現写本) | 二七二四 | 新国史一卷 図書館蔵本也／十二月中浣借覽之際書写者也／昭和十七年十一月廿日朝記之／岸廻舎 |
| 12月9日 | 表白集九十一 十二(彰考館本の現写本) | 一三八三 | 表白集一卷 彰考館蔵本也 末欠／去八月下浣借来而十二月書写者也／末一葉余写之依囑立木氏云云／昭和十七年十二月九日早朝記之／岸廻舎／自九日校訂 七枚於研究室(東洋文庫本の仮名例、略) …十二月十四日午前十一時半一校了 |
| | 練行啓 | | 練行啓 一卷 彰考館本也 下欠者歟／ 去八月下浣探訪之序借来十月廿三日／ 依囑原田暁菴翁書写者也十二月六日書了／ 持參 云云 海草集二卷同時也／ 不聞有類本全稀觀也云云／ 昭和十七年十二月九日暁天記之／岸廻舎／ 与海草集筆者異者也／ 叡山児休事文八校正アリ 薄墨ニテ記入セリ |

| | | | | | | |
|-------|-----|----------------------|------|---------------|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 12月9日 | 練行啓 | 古今伝授譜(和歌師資相傳正統血脈道統譜) | 三八九七 | 海草集(彰考館本の現写本) | 二二二九五 | <p>大呂廿一日廿三日校訂 / 廿四日校訂午前中 / 廿五日後一時廿分 一校了 蠹蝕滿紙不容易読 / 難疑問非無以「无」補入類本不可校訂者也云</p> <p>昨日午後至図書館 借来左書云 / 山下水廿二冊 / 詩歌講師部類抄二冊 / 続万葉集異本考一冊 / 後撰集作者 一冊</p> <p>和歌師資相傳正統血脈道統圖 一卷 図書館本也 / 去十一月中浣借覽十二月上浣書写者也 / 昭和十七年大呂九早朝記之 / 《朱書》同日夕刻於研究室一校了 / 《墨書》岸廼含識</p> <p>〔上卷〕卷首二十葉者原本附下卷之後半焉今改修而補入二本〔本〕ミセケチ右傍書「十」葉復原型者也 / 第二十一葉 右造立書写云云移下卷第九葉云 / 昭和十七年大呂十一日夜一校了 / 《漢字の異体字覚書、略》</p> <p>〔下卷〕表白集 二卷 彰考館本也 / 去八月借来 十二月写了 依囑原田氏者也 / 練行啓 同時書写也云 / 昭和十七年大呂九日早曉識之 / 岸廼舍 / 本書即是海草集也 / 目次端欠今以親王院補之 又有綴誤即集成焉 / 故上下低数不同也云 / 原本 / 上卷无題簽、本文墨付三十七葉 / 目次 二葉 / 本文 六条卷阿弥陀三昧開白 以下 千手法表白建永元年五月八日迄 / 下卷 有題簽 本文墨付五十四葉 / 本文 願書啓白若宮御瘧病之時勤之 以下卅二葉まで一部也 / 三十二葉裏有奥書 三十三葉即人名等也 / 三十四葉 即、靜遍律師伝法灌頂嘆徳(大阿闍梨法印權大僧都仁隆) / 以下五十三葉殷富門院被修故御室御忌日理趣三昧表白也 / 五十四葉 右造立書写其意云何夫五輪之妙相者法界 / 円極之惣躰一乘之真理者諸乘究竟之所 / 帰也云</p> <p>今以親王院及目次正卷序修綴誤製本者也 / 海草集刊本始得之矣 / 岸廼舍 / 上(ミセケチ右傍書「下」)卷、下与上(補入「初」)綴之、下(ミセケチ右傍書「上」)卷 / 目次与下半(半)「ミセケチ」綴之者也 故改之 / 製本也 / 昭和十七年大呂十一夜一校了 / 原本蝕害甚多雖有裏打紙用紙摩擦与蝕害多之難 / 読者不鮮也</p> |
|-------|-----|----------------------|------|---------------|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

| | | | |
|--------|------------------------------------------------------------|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 12月上旬 | *寂蓮法師筆 詞花和歌集卷八 (複製本) | 三五九八 | 〔箱書〕昭和十七年十二月上浣 |
| 12月中旬 | *童蒙頌韵 | 一七八三 | 昭和十七年大呂中浣 〔明治34年11月5日發行 發行兼印刷者・小山三造〕 |
| 12月24日 | 行宗集 (書陵部本の現写 本) | 三七三二 | 行宗集 一卷 図書寮本也／昭和十七年十二月中浣 北川氏／書写者也 可 校正類従本者也／大呂廿四日 寒雨蕭々／午前中 岸廼舎識／ 行宗 <small>從三位參議 金業以下作者 源基平男</small> |
| 12月26日 | 放生報応集 | 二五九七 | 昭和十七年十二月廿六日／豊島区椎名町二一八六〇／岸廼舎 |
| 12月下旬 | 十問最秘抄 心敬僧都自句百 句 勅にしたか ふて発句を奉る 記 二百五十番 連歌合の序 | 一〇〇七 九八〇 | 次三州西尾町岩瀨文庫本影写者也／昭和十七年十二月下浣 ／岸廼舎 以三河岩瀨文庫蔵本影写焉／昭和十七年十二月下浣 岸廼舎 |
| | 心敬僧都庭訓 | 一〇〇八 | 以岩瀨文庫本影写焉 昭和十七年秋依囑高／木氏大呂下澣字了送来者也／昭和十七年十二月下句識之／岸廼舎しるす |
| | 一紙品定之灌頂 | 三九二四 | 以岩瀨文庫本書写者也 本學元来不有／連歌之書 研究不便不鮮乃慮學生便 書写／採取焉 但近来用頼不足書写不如意云云／昭和十七年大呂下浣 於研 究室識之／岸廼舎 |
| | 宗祇法師連歌伝 書 | 三九三四 | 岩瀨文庫本書写焉 近來用紙払底云云／昭和十七年十二月下浣 岸廼舎 |
| | 切字てにをは并 引句 | 三九四〇 | 以岩瀨文庫本書写者也／昭和十七年十二月下浣 ／岸廼舎識／本書題名不一定 而本々有異同／一曰、連歌奥儀 水上氏蔵本／一曰 宗牧 宗養連歌秘袖抄 上 野圖書館蔵本／ 文政九年九月石井修融写 |

| | | | |
|----------------------|----------------------------------|----------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>昭和一八年癸未(一九四三)</p> | <p>1月中旬</p> | <p>すみよし物語</p> | <p>昭和十八年一月中浣</p> |
| <p>1月23日</p> | <p>新国史 (神宮文庫本の現写本)</p> | <p>二七二一</p> | <p>續萬葉異本考 函書寮本也 / 昨冬蠟月下院借覽而書写者之 / 二本有焉伴氏校訂本也 一月五日写了 / 昭和十八年一月中浣識之 / 岸廻舎 / 續萬葉異本考収歌文珍書保存会本刊矣 / 大正六年八月刊行也</p> |
| <p>1月31日</p> | <p>請誦誦文 (彰考館本の現写本)</p> | <p>一三八七</p> | <p>請誦誦文 一卷 彰考館本也 / 昭和十七年大呂井六日到 彰考館返却 / 願文類而更借來誦誦願文類 / 翌年一月中浣 書写了 榎田氏也 / 昭和十八年大簇卅一日朝記之(借書卅九日一校了) / 岸廻舎</p> |
| <p>1月</p> | <p>山下水 (書陵部本の現写本)</p> | <p>三二九七</p> | <p>山下水 函書寮本也 / 昭和十七年十二月下浣借覽 / 同十八年一月中書写者也 / 御本二十二冊也 欠本 / 桐壺二冊 帚木 空蟬 夕顔 / 若紫 末摘花 紅葉賀 花宴 / 初音 胡蝶 螢 (常夏篝火 / 野分) / 行幸 若菜二冊 霧 夕欠ナリ / 法 御欠ナリ 幻 匂 紅 梅欠ナリ / 竹 以上 / 今為參考書写一部者也</p> |
| <p>2月5日</p> | <p>古今和歌六帖</p> | <p>二九</p> | <p>第五六、兩帖缺之者也 / 昭和十八年二月五日夜於湊川神社側書肆求之 / 兵庫縣中等学校国語教授研究会中也 岸廻舎</p> |
| <p>2月17日</p> | <p>芳野紀行 *古今和歌集 (兼行本)</p> | <p>五三七八 三五七四</p> | <p>兼行本也 / 昭和十八年二月十七日多田隅氏 / 寄贈 岸廻舎</p> |
| <p>3月22日</p> | <p>江都督願文集 (彰考館本の現写本)</p> | <p>二三〇四</p> | <p>江都督願文集 彰考館蔵本也 / 卷四原本既缺之者也 / 去歲十二月廿六日訪彰考館返却 / 願文集更借來本集今茲二月 / 迄書写畢者也 / 昭和十八年三月春季皇靈祭翌日 / 夜半書付之 岸廻舎</p> |

| | | |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 4月25日 | | 4月3日 |
| 諷誦含蔵 (大谷大学本の現写本) | 詩歌講師部類抄 (書陵部本の現写本) | (源氏物語之注解) |
| 一三八一 | 五二七二 | 三三〇〇 |
| <p>諷誦含蔵 一冊 大谷大学蔵本也 / 与表白集二冊同時借出而書写者也 / 有二帖之内上云云而無下冊焉即 / 下冊缺本歟尚可尋云云 / 昭和十八年四月廿五日夜識之 / 昨廿四日靖国神社臨時大祭 / 聖上御親拜有之 余廿四廿五 / 兩日為大掃除云云 / 仲呂廿五日夜一葉讀過校了矣 / 廿八日半夜得閑寸時十四枚讀了矣至三十六紙云云 / 十一時四十分也 / 廿九日天長節夜校定至十四紙云云 / 十二時二十分也 / 作目次一枚矣 / 四月卅日午前十時半一讀了作目次第二枚云云 / 目次与見本一葉附載焉、十一時十分也 / 岸廼舍再識之 (以下目次、略)</p> | <p>詩歌講師部類抄 図書寮本也 二部有焉 / 昭和十七年大呂下流借覽之序書写者也 / 十八年大簇中流書之 岸廼舍 / 一月五日立木氏写了也 / 三月四日の交一校了 或有誤写歟就 / 原本可校勘者也 昭和十八年四月三日雖 / 有春風猶未冷 不見櫻而空雪雲 / 岸廼舍</p> | <p>〔わか紫〕の冊 源氏物語之注解 不知書名作者 / 昭和十三年之交京都其中堂見 / 本書 元来欠本也 店主曰明書名 / 後賈却云云 尔来荏苒未明書名 / 偶々昭和十六年夏有古書展、買 / 余欲之に「収」重ね書き / 納于龍門文庫而不得遂 / 帰天理図書館之有矣 / 昨夏囑宮田氏借覽影「写」補入 / 一部為他 / 日参考者也 / 昭和十八年仲呂三記之 / 岸廼舍</p> <p>今次借覽之分八冊 / 三うつせみ 四夕かは 五わかむらさき / 八花のえん 九あふひ 十さか木 一花ちる里 / 十二須ま</p> <p>〔末摘花〕末摘花 一冊 / 昭和十八年四月中流書写了 / 小野田市也云云 / 岸廼舍しるす / 仲呂晦三字後記補入</p> <p>〔紅葉賀〕の冊 源氏註 天理本 昭和十八年于寶書写了 / 夷則二夜半記之 / 岸廼舍</p> <p>〔花のえん〕の冊 源氏註 天理本 逸名、嘗在京都其中堂矣 / 欠本云云 / 今在天理図書館、同館刊行予定云云 / 故写五冊供参考而已 / 昭和十九年六月廿六日識之</p> |

| | | | |
|------|----------------------------|---------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 5月中旬 | 赤泉太古伝(付「赤泉太古伝成文」) | 一 九 三 八 | 〔三〕の冊)昭和十八年蕙寶中浣本郷にて/岸廻舎しるす 〔成文〕の冊)昭和十六年林鐘上浣岸廻舎 |
| 7月上旬 | 近代正説碎玉話(武将感状記) | 二 七 六 一 | 昭和十八年無射上浣求之 岸廻舎 |
| 8月中旬 | 奇怪筑陽談 | 五 七 五 | 昭和十八年南呂中浣/岸廻舎 |
| 8月 | なには土産 | 三 九 五 八 | 〔表見返〕昭和十八年南呂/岸廻舎 |
| 9月上旬 | 難後拾遺(神宮文庫本の現写本) | 三 八 六 〇 | 難後拾遺 一卷 神宮文庫本也/ 昭和十八年九月上浣写了/岸廻舎 |
| 5月2日 | 祝部成仲集 成茂宿禰集(彰考館本・書陵部本の現写本) | 三 七 七 六 | 〔成仲集奥〕祝部成仲集 一冊 彰考館蔵本也/ 昭和十七年冬学習院図書館依嘱于彰考/ 館員書写一本 但誤字少々有之/ 今茲晩春以学習院本匆卒書写畢/ 他日須一校者也 他無類本焉/ 昭和十八年蕙寶二早朝写了/岸廻舎識 〔成茂集奥〕成茂宿禰集 一卷 圖書寮蔵本也/ 山田法師〔集〕補入〕之体裁也 六月十六日午前得閑/ 余匆卒写了/ 成茂歌有〔在〕重ね書き〕万葉流与古今集流、可参照者也/ 昭和十七年六月十六日記之/ 〔余白に書入〕梅雨中晴天/ 溽暑無風〕岸廻舎/ 家長日記/ 成茂ヲ成仲ガ孫/ 政中ガ子也云云/ 十九年六月廿四日記 |
| | 範宗集(書陵部本の現写本) | 三 七 五 六 | 範宗集 一卷 圖書寮蔵本也/ 昭和十八年六月書写畢/岸廻舎識/〔朱書〕八月十二日夜一校十七枚〔墨書〕迄/十一月廿四日夜一校四十枚迄/同廿五日上午十一時一校了/ 範宗/ 郁芳三品集 一冊 在圖書寮 |

| | | | |
|---------------|--------------------------|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 9月11日 | *冠句の栞 | 三九六七 | 昭和十八年九月十一日 岸廼舎〔明治34年11月4日発行 博文館〕 |
| 9月中旬 | 九弄圖解 | 六六八 | 昭和十八年九月中浣岸廼舎 |
| 10月中旬 | 本朝国史目錄及 本朝法家文書目 録 | 五三三九 | 昭和十八年十月中浣／山本信哉翁自筆歟／可尋 <small>云</small> 岸廼舎／しるす |
| 11月24日 | 後崇光院御詠 (信盛寺本の現写 本) | 三七七九 | 後崇光院宸筆歌卷一冊軸／信州上伊那郡西春近村信盛寺什物也／昭和十七〔八〕に「七」重ね書き年初夏堀日亨上人乞余鑑定未果／今茲十一月廿三日信盛寺住持佐々木隆道氏上／京持參件一軸焉 <small>云</small> ／日盛 日本橋人也 江戸求之由佐々木談也後於信盛／寺伝来至今日者也 昭和十八年十一月廿四日夜記之／岸廼舎識／〔朱書〕廿四日夜一校了／〔墨書〕看聞御記中在百日間千首事 <small>云</small> ／千首中一日■〔ミセケチ〕十首也 |
| 11月中旬 | すみよし物語 | 一二五六 | 昭和十八年十一月中浣 |
| 11月30日 | 売鉛土平伝 | 一八四〇 | 昭和十八年十一月晦求之 岸廼舎 |
| 12月5日 | 和歌覚書(和歌 及紀行) | 四九九 | 光荣紀行 一卷／扶桑残玉集卷四所収与／ 宇ち出の浜 烏丸光荣 同本也／ 昭和十八年十二月五日夜記之 |
| 12月8日 | 仏説十王経直談 | 二二二九 | 昭和十八年十二月八日依頼堀氏而／從其中堂求之 岸廼舎 |
| 12月下旬 | 濟繼卿集 姉小 路濟繼集 | 三七八六 | 姉小路濟繼集 一卷 図書寮藏本也／ 昭和十八年十一月中浣借覽之序嘱人 書写／者也／ 昭和十八年大呂下浣識之 岸廼舎 |
| 昭和十九年甲申(一九四四) | 魯寮詩私考辨抄 | 一八八八 | 〔昭和十九年一月上浣〕 「魯寮詩偈一卷大潮和尚之集也／注釈書全稀購也今年大簇上浣伊賀國仲森／書 店求之 岸廼舎識」 |

| | | | |
|-------|---------------------|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1月中旬 | 二聖極秘伝 | 一四四 | 〔墨書〕昭和十九年一月中流 岸廻舎 〔朱書〕十九年九月三日上野図書館ニテ見るに本ノ奥ヲ書込ム |
| 1月下旬 | 鳳翔集 | 七〇九 | 昭和十九年大簇下流村口書房にて／店頭相遇西脇氏 <small>云</small> 岸廻舎 |
| 1月 | 〔義正聞書〕宗匠 家御教諭 | 九九三 | 冷泉澄覚より宮部義正に授けしものなり 昭和十九年一月／岸廻舎 |
| 2月上旬 | 急就篇補注 | 四三六九 | 昭和十九年夾鐘上流 岸廻舎／今茲大簇過松雲堂注文而今月送来焉 |
| 2月15日 | 日本文典 | 三二三四 | 昭和十九年二月十五日於西荻窪街書肆／求焉 岸廻舎 |
| 2月下旬 | 仏祖歴代通載 | 二〇五三 | 仏祖歴代通載 十七冊／ 第十八冊一冊欠本也／ 昭和十九年二月下流／松雲堂にて購求／岸廻舎 |
| 3月13日 | 仏説十王経 | 二二三三 | 佛説十王経〔補入〕以〔敦煌発掘複製本書写者也〕一月以降偷閑書写一二葉乃至二三許行矣／ 今日写了／ 昭和十九年姑洗中流〔右傍書〕十三日朝〔岸廻舎識〕本文中辛未年者弘文二字ミセケチ右傍書〔天智〕帝十年歟聖武帝之天平三年歟 |
| 4月3日 | *平治物語 | 四二八九 | 昭和十九年四月三日 〔昭和4年4月1日発行／大和絵同好会〕 |
| 4月19日 | 扶桑残玉集 〔書陵部本の現写本〕 | 三九〇七 | 〔第一冊〕扶桑残玉集 圖書寮藏本也／ 昨春秋十一月借覽書写一部而未不〔一字ミセケチ〕得全卷之閱覧 偶逢圖書寮書／ 籍疎開 乃返却矣／ 去十二日返却 自卷二至卷十五 十四冊及／ 系譜一冊都合十五冊也／ 濠堤櫻花含羞 影在水底／ 城壁春草加色 緑連庭上／ 昭和十九年仲呂十九日五時半、／ 晚天微雨浪々春暖未廻、／岸廻舎識之 〔第四冊〕〔朱筆〕昭和十九年一月元日夕刻／一校了 天陰雲氣動／岸廻舎 |

| | | | |
|-------|--------------------------|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 4月中旬 | 古鈔最勝王經音義 | 三二一九 | 〔朱書〕承曆本金青最勝王經音義之所流布者悉自横山／由清本写之本出 而其本今佐々木信綱博士藏之／皆某学有模写此由清手写本以賦与予 依再模／写之以作一本 〔因云金光明最勝王義証註〔黒川真頼〕ハ川／瀬一馬氏藏之 〓 旧蔵〕／ 昭和十九年仲呂十日 於鷺宮 〔金兒祝夫〕 〔墨書〕古鈔／取勝王經音義 一卷 佐々木博士藏本也 金兒氏為余所贈者也 昭和十九年仲呂中浣／岸廼舎識 |
| 4月26日 | 作文大鉢 〔神宮文庫本の現写本〕 | 一七八一 | 拜呈岸廼舎大人 昭和十九年卯月 受業小西甚一 作文大鉢 一卷 神宮文庫本也 小西氏為余所書写而贈与者也 昭和十九年仲呂下浣〔下浣〕左傍書〔廿六日〕夜半識之 岸廼舎識 省略多少書加若干有之者也 昭和廿年十二月十九日徳川邸ニ而製本了 |
| 5月1日 | 千字文国字解 | 四三八一 | 昭和十九年蕤賓朔岸廼舎 |
| 5月18日 | 源氏物語〔桐壺・漆標〕 〔菊池本の現写本〕 | 三二七四 | 菊池本 <small>表紙 青藍</small> 全部総外題 三井寺仏地院長円筆 一、きりつほ <small>その他</small> 一条殿下内基公 一、みゆき <small>その他</small> 烏丸儀同光宣公 一、をとめ <small>その他</small> 六条宰相有広卿 一、その他 二拾七冊 <small>四冊</small> 筆者不明異論者有也 一、玉かつら 〔其〕その 一、振り仮名 他 九冊 牡丹華月樵〔行頭に前行との転倒符あり〕 元禄十一年 寅年五月十九日 古筆所 了因 池田言水老 御取次 昭和十九年五月十八日仮綴聊書附 者也 近來紙底書写不便々々 岸廼舎 昭和廿年十二月十九日製本出来 徳川邸にて製本 |
| 5月20日 | 太田道灌隨筆 | 五〇九 | 昭和十九年五月廿日 渋谷にて 岸廼舎 |
| 6月7日 | 閑居友 〔前田本の現写本〕 | 三五〇一 | 〔閑居友 二卷 前田侯藏本 伝為相筆 右本昭和十五年四月複製今日複製 本書写畢 立木氏 信州下諏訪 疎開中影写者也 昭和十九年林鐘上浣 傍書〔七日〕写了送来 云 同八日朝一校了 岸廼舎 〕 |

| | | | |
|-------|------------------|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 6月7日 | 閑居友 (前田本の現写本) | 三五〇一 | 「前田本」図書寮本／神宮文庫本／刊本 刊記異ナルモ同一本文ナリ(寛文二年刊本／刊年無記本／無刊記本／青蓮院板本)／続類徒本／六月八日 大詔奉戴日朝記之「昭和廿年十月 徳川侯家製本了」／「転法輪抄」ほか「源氏物語菊池本」まで六部書名略す／十一月三日明治節午後余与山内博士訪山梨院長而辞去／夕刻至蓬左文庫 製本既完了」 |
| 6月8日 | 撰集抄 | 一三四六 | 〈第一冊見返〉幽谷餘韻後編卷九／佐野二僧碑銘云 撰集抄非西行撰云云 〈第九冊裏見返〉撰集抄一〇冊みすや又右衛門／元禄十四年辛巳十一月刊)アリ ／ 六冊文化七年十二月／撰集抄九卷九冊無刊記也 用同板本後刷者為 ／ 四冊、卷一 ^{自第一} 卷二 ^{自第二} 卷三 ^{自第三} 卷四 ^{自第四} 卷五 ^{自第五} 卷六 ^{自第六} 卷七 ^{自第七} 卷八 ^{自第八} 卷九 ^{自第九} ／ 卷一、卷二、卷三、卷四、卷五、卷六、卷七、卷八、卷九 十九年林鐘八 岸廻舎 |
| 6月10日 | 柴の戸物語 | 一三二四 | 樵夫問答ト本書ト同一ナリ／本書は柴戸物語の外に「みよ」補入の花夜の月」とも申すにやはへらん／ 昭和三十三年六月六日記之／岸の屋／昭和十九年林鐘旬／於村口書店／岸廻舎 |
| | 須磨記 | 三五一九 | 昭和十九年林鐘旬於村口店／岸廻舎 |
| | 駅路の春 | 五三八三 | 於村口書房求焉／紫戸物語須磨記竹取物語同時也／昭和十九年林鐘旬 岸廻舎 |
| 6月上旬 | 松尾物語 | 一二六四 | 棧道物語／ 昭和十九年林鐘上浣 文行堂求之／「不」補入訪文行堂二年有半云 岸廻舎 |
| 6月14日 | 撰集抄 | 一三四四 | 本書与無刊記四冊本交換者也 南陽堂にて／ 昭和十九年林鐘中浣(左傍書「十四日」)／岸廻舎 |

| | | | |
|-------|-------------------------------|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 6月中旬 | 卅六人集（哥仙家集） | 一〇一 | <p>〔第三冊〕《朱書》昭和廿二年元日校訂 來客有之不果 二日朝⑧時半校了／岸廼舎／《墨書》伊勢集〔於圖書寮二／部有之〕／一、類従本に同じ／二、定家筆者とナリ／恐脱末尾〔下卷〕ミセケチ、「末尾」左傍書／物也 歌仙家集本也</p> <p>《書陵部本奥書書写の別紙》昭和廿二年一月四日朝記之 岸廼舎</p> <p>〔第十一冊歌仙伝〕昭和十九年林鐘中浣本書拾一冊及歌仙／家集十五冊、従柏林社讓■〔一字ミセケチ〕焉岸廼舎</p> <p>昭和十九年林鐘中浣以旧蔵本歌仙家集取替者也</p> |
| 6月22日 | 曾我物語 | 三四七八 | <p>《第五冊裏見返》曾我物語十一冊省略卷十一戸川本也／／當在麻田書店者也／一度在前田家、全受囑／到前田家而■價之／手有之云云／昭和十八年七月卅日識之／（戸川本即旧麻本ハ流布本也／但卷十一ハ古本也）岸廼舎／</p> <p>從御殿場販來而夜書之／日中來客多轉青眸対俗人云云／昭和十九年六月廿二日製本了乃記題簽</p> |
| 6月26日 | 源氏物語注（天理本）（空蟬・夕顔・末摘花・紅葉賀・花の宴） | 三三〇〇 | <p>〔夕かほ卷〕夕かほ八拾貳枚墨付八拾枚</p> <p>〔わか紫卷〕源氏物語之註解不知書名作者</p> <p>〔すゑつむ花卷〕末摘花一冊／昭和十八年四月中浣書写了／小野田氏也云云岸廼舎しるす／仲呂晦</p> <p>〔紅葉賀卷〕源氏註天理本昭和十八年蕤賓書写了／夷則二夜半記之／岸廼舎</p> <p>〔花のえん卷〕源氏註釈書逸名、嘗在京都其中堂矣／欠本云云／今在天理圖書館、同館刊行予定云云／故写五冊供參考而已／昭和十九年六月廿六日識之</p> |
| 6月22日 | 雪玉集 | 三七八五 | <p>昨冬所求二冊欠懷渡柏林畢云云岸廼舎</p> |
| 6月22日 | 文華秀麗集 | 一四二五 | <p>文華秀麗集 全二冊合本志冊／契沖自筆外題書入／門葉今井似閑 自筆本</p> <p>凌雲／文華／二冊／昭和廿三年林鐘中浣於東横百貨展求之</p> |
| 6月22日 | 哥仙家集（一十五） | 一〇二 | <p>昭和十九年林鐘中浣以旧蔵本歌仙家集取替者也</p> |

| | | | |
|-------|---------------------|--------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 7月10日 | 半偈齋稿 | 七五七 | 半偈齋 <small>大典門下後秀</small> 玉潤元寔之号也 / 寛政中妙心寺第一座二陞ル / 嘉永三年再住妙心寺、 ／安政三年五月十七日寂 / 大典禪師参照 / 自一編至三編之中途 / 昭和十九年夷則旬 / 岸廻舎 |
| 7月24日 | 閑居友 下卷 宝物集（無刊記版） | 一三九四 | 閑居友 無刊記本也 / 昭和十九年夷則孟蘭盆会中記之 / 岸廻舎 ／下卷末尾綴込の紙片／寛永廿年整版本稀觀本也 以 長友氏本 影写者也（三卷合綴／為一冊矣） / 昭和十九年七月廿四日昧旦 |
| 7月31日 | 無名集 細川幽齋和歌秘事 | 一二五 | 〈もとと表紙裏見返〉大正乙卯心鐘三 / 岸廻舎 〈もとと表紙裏〉大正五年四月 / 西蒲原郡曾根村 / 岸廻舎 〈現裏表紙見返〉先考在世中 曾根装幀者也 / 感懐不禁 二十九年 如夢泡影 ／ 昭和十九年七月卅一日於研究室記之 |
| 7月下旬 | 土佐日記（万治三年版） 俚山吟草 | 四四一 五八二 | 万治版後刷也 / 昭和十九年七月晦 岸廻舎 昭和十九年 無射上流 於其堂求之 / 岸廻舎 昭和十九年八月廿一日曾根より持參焉 |
| 8月3日 | 猿著聞集 野馬臺詩国字解 | 一三六八 五一五 | 野馬台詩作者、或五山之僧歟非古代作又非志那人之作云云 / 昭和十九年南呂 三 岸廻舎 |
| 8月上旬 | 吉村公御歌 | 八七三 | 伊達吉村著 松が浦島之記 草のゆかり、在 / 扶桑残玉集卷六 吉村ハ伊達 家主而文武達人也 / 昭和十九年南呂上流 於目白 岸廻舎 |
| 8月21日 | 西上記 清嘉録 | 四八〇四 四四〇五 | 昭和十九年南呂上流 / 岸廻舎 昭和十九年八月廿一日曾根より持參焉 |

| | | | |
|--------|------------------|--------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 9月上旬 | 半偈齋稿 | 七五八 | 昭和十九年 無射上浣 於其堂求之／岸廼舍 |
| 9月16日 | *柳宮御物集 幽蘭社画錦集 | 五〇一九 一四七八 | 昭和十九年九月上浣／周防旅行前日 岸廼舍 昭和十九年九月十六日／岸廼舍 |
| 9月25日 | 叢林貫華集 声調三譜 | 一五五八 四六三二 | (古梁禪師〔右傍書「能書也」〕之集曰南山外集有四卷〔卷「書きかけミセケ」〕冊云々／在内閣文庫、類本稀有。(昭和三十九年十一月／廿一日／嵯峨寛氏談於岩波書店)／昭和十九年無射既望 於村口求之／岸廼舍 昭和十九年九月廿五日／岸廼舍 |
| 9月26日 | 回中集 聯句詩 西山唱和詩 | 四六四三 一〇八四 | 昭和十九年九月廿五日 岸廼舍 風竹 浮山 未知其人 他日続考究者也／昭和十九年九月廿六日／岸廼舍 |
| 9月29日 | 蘭室先生詩文集 | 五四一 | 〔一〕冊後見返 日本学振第四小委員会之販途村口にて／昭和十九年九月廿九日 岸廼舍 |
| 10月3日 | 逸堂集 | 八五三 | 鶯湖稿九卷 諏訪忠休侯遺稿也／昭和十九年九月廿九日 |
| 10月4日 | 笑話出思錄 恒菴文稿 | 一八四三 五五〇 | 昭和十九年十月三日於村口店求焉／岸廼舍 昭和十九年十月四日／岸廼舍 |
| 10月上旬 | 野峯名徳伝 詩稿 | 一三〇九 二〇七一 | 於村口店求焉／昭和十九年十月四日 岸廼舍 (朱書)昭和十九年十月四日岸廼舍 |
| 10月10日 | 蒼蠅詩集 爾雅註疎 | 九一一 四三六七 | 昭和十九年十月上浣於村口店求焉 昭和十九年十月十日 赤羽販途遇 大塚駅西書店求焉 秋日昏蒼矣 岸廼舍 |

| | | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--------|---------|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | | | | | 10月16日 | 贈余雜録 | 三三三四 | 善齋 程朱学 / 京師之人受業於惺窩・羅山、後為紀州儒官而佳紀伊云 / 寛文四年四月三日歿 享年六十八 / 著書 / 文選髓二 善齋詩集 / 本朝烈婦伝十五 湧潜文集十二卷 / 文波山人満弼蔵(別筆) / 昭和十九年十月十六日 東京図書俱樂部求之 / 《朱書》内藤恥叟翁旧蔵本也 / 《墨書》岸廻舎 |
| | | | | | 10月中旬 | 伏陽客中稿 | 九二四 | 《軼裏》昭和十九年十月中浣 / 岸廻舎 |
| | | | | | 10月25日 | 蛻巖集後編 | 一二一六 | 後篇八冊 ^{詩四冊} / 後篇完本在文理大 / 文四冊欠者也 / 昭和十九年十月中浣 |
| | | | | | 10月30日 | 菅像辨 | 五二八一 | 昭和十九年十月廿五日午後雨中訪佐々木竹柏園 / 途次本郷追分街求焉岸廻舎 |
| | | | | | 10月31日 | 熊耳藁 | 六四二 | 昭和十九年十月卅一日 岸廻舎 |
| | | | | | | 白鷗莊詩鈔 | 八八一 | 《第二冊》田中芹坡古義学明治十五年歿六十八歳也 / 名栄字子順其居号白鷗莊 近江人仕彦根藩 |
| | | | | | | 梅龍先生遺稿 | 九〇六 | 《第三冊》昭和十九年十月卅一日 岸廻舎 |
| | | | | | | 黄葉夕陽村舎詩 | 七三五 | 《中卷》昭和十九年十月三十一日送来 伊賀國 冲森書林也 岸廻舎 |
| | | | | | | 東洞遺稿 | 一二三七 | 《第一冊》昭和十九年十月卅一日 / 荻窪求焉 後篇流通稀少也 / 偶然得之欣躍 何堪哉 岸廻舎 |
| | | | | | | 莫逆編 | 四七七八 | 昭和十九年十月卅一日 / 岸廻舎 文化紀年甲子晚秋念四 / 閑鷗齋東塾彦美閑院 / 昭和十九年十月卅一日 / 岸廻舎 |

| | | | |
|--------|---------------|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 10月下旬 | 平治物語 | 一二二四 | 〔上巻〕流布本而分六卷者可參考也 本郷井上店求焉 高木武氏旧藏本也 _{云云} ／ 昭和十九年十月下浣 岸廻舎 |
| 10月 | 尚不愧齋存稿 | 一〇五七 | 〔帙裏〕昭和十九年十月 岸廻舎 |
| 11月12日 | 秋苑日涉 | 三三二六 | 昭和十九年十一月十二日日本郷農大前にて／岸廻舎 |
| 11月15日 | 学山録 | 三一九七 | 昭和十九年十一月十五日沖森より／岸廻舎 |
| 12月9日 | 菅公略伝 | 二七九七 | 昭和十九年十二月九日 岸廻舎 |
| 12月上旬 | 新統著聞集 | 一三六七 | 著聞集四種有之／古今／新／新續／樵山／猿／昭和十九年大呂上浣 神田町 於大屋／岸廻舎 |
| | 水火天神御伝略 縁起 | 一九七一 | 昭和十九年十二月上 浣岸廻舎 |
| 12月11日 | 菅神頌徳詩 | 四七八一 | 昭和十九年十二月上浣／上水火天神縁起求之 岸廻舎 |
| | 忘路集 | 一三二四 | 昭和十九年十二月十一日黄昏 岸廻舎 |
| 12月中旬 | 篁墩詩鈔 | 八五二 | 昭和十九年十二月中浣 岸廻舎 |
| | よさめいと | 一〇〇九 | 連歌抄一卷 心敬自筆本 _{云云} よさめいと也／七海兵吉氏藏本也／昭和十八年大呂 上浣 小松園主人 福井氏写本／借覽之際囑人書写者也／大呂中浣自越後土 樽飯来／聊書付者也／岸廻舎識／十九年二月廿二日製本出来矣／二十六年端 午之日 以福井本 再校訂 |
| 12月下旬 | 蕉蘆詩抄 | 八二八 | 昭和十九年大呂下浣 於白雲堂／岸廻舎 |

昭和二〇年乙酉（一九四五）

1月上旬

*日本竹枝詞集

一五八四

〔帙裏〕昭和廿年大簇上浣
〔昭和14年11月3日〕發行所・華陽堂書店／印刷所・西濃印刷（株）

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------|--------------|----------------|-------------------------|--------------------|----------------------------|------------------------------------------------------|------------------|----------|-------------------------|--------|---------------|---------------|---------------|--------------|--------------|--------------------------------------|-----|---------|
| 3月中旬 | 3月14日 | | 3月上旬 | 2月 | | 2月上旬 | 1月下旬 | | 1月中旬 | | | | | | | | | |
| 柳湾漁唱 | 秋水小稿 | 皞齊存稿 | 月令粹編 | 溪含毫 | 北溪含毫 | 蕉窓吟 | 春樵隱士家稿 | 目鈔 | 桑家漢語抄 | 駢儷集 | 栗山堂文集 | 北禪文草 | 重刊冠註 | 和尚語録 | 祖英集 | 俚歌童謠之變遷 | 碧玉集 | 仏乘禪師東帰集 |
| 九二三 | 一一二七 | 七四〇 | 四四〇三 | 一八七五 | 九七一 | 六〇八 | 六一六 | 四八三四 | 八四六 | 七八六 | 五二四 | 二五五 | 三七九 | 三八八六 | 三七八三 | 一八八六 | | |
| 昭和廿年三月中浣 岸廼舍識 | 昭和廿年三月幾望 岸廼舍 | 昭和廿年三月幾望於村口店求焉 | 月令粹編 八冊 昭和廿年三月上浣求之 岸廼舍識 | 〔正冊後篇〕昭和廿年三月上浣 岸廼舍 | 蕉窓吟 二卷／那波祐英集也／昭和廿年三月上浣 岸廼舍 | 〔卷廿奥〕春樵隱士 梅丈無絃也 名字廷調 名希聲／号春樵又愷軒 小比叡 弥宣詩人之家稿十卷二十冊 岸廼舍 | 〔映裏〕昭和廿年三月上浣／岸廼舍 | 昭和二十年二月吉 | 尚可求完本也／昭和廿年二月上浣森江求焉 岸廼舍 | 駢儷集五卷也 | 昭和廿年二月上浣 岸廼舍識 | 昭和廿年二月上浣／岸廼舍識 | 昭和廿年二月上浣／岸廼舍識 | 昭和廿年大簇下浣／岸廼舍 | 昭和廿年大簇中浣／岸廼舍 | 碧玉集 六卷 冷泉政為／ 圖書寮本写一冊有之／ 昭和廿年大簇中浣／岸廼舍 | | |

| | | | |
|-------|---------------------|------|------------------------------------------------------------------------|
| 4月 | 帆足先生文集 | 一一二八 | 昭和廿年孟夏 岸廼舎 |
| 5月12日 | 謀野集刪 | 四六八〇 | 昭和廿年五月十二日於東橫求之／四月十三日空襲戰災焼失／不残一物 <small>云</small> 既経一ヶ月矣 岸廼舎 |
| 5月20日 | 補注続文章規範 校本 | 四〇七 | 〔第二冊〕昭和廿年五月廿日戰災後求之／岸廼舎 |
| 5月中旬 | 西遊紀行 | 四九三 | 昭和廿年五月中浣 岸廼舎 |
| | 鸞俗遺稿 | 五九七 | 昭和廿年五月中浣 学習院官舎仮寓之頃／岸廼舎 |
| | 赤石蛻巖先生詩集 | 一二二四 | 蛻巖集二冊／ 山本格安猷暗鋸写本有之／欲蓬左文庫調査後購求然五月廿五日空襲猛烈而東橫百貨店蒙災記畢／昭和廿年五月中浣 東横にて 岸廼舎 |
| | 童問日用集 大梵天王問仏決疑經・決疑考 | 二〇三九 | 昭和廿年五月中浣 東横百貨店內／書肆求之 岸廼舎 |
| | *類題川柳名句評釈 | 三九六八 | 昭和廿年五月中浣 岸廼舎 〔大正10年7月20日発行／町田書店〕 |
| | *新川柳 飴ン坊句集 | 三九六九 | 昭和廿年五月中浣 岸廼舎 〔大正7年5月15日発行／朝野書店〕 |
| 5月29日 | *打鼎集 | 一六四八 | 昭和廿年五月廿九日／岸廼舎 |
| | 七武首書 | 二八〇九 | 〔明治17年1月出版 編輯兼出版人・大森惟中〕 |
| 5月下旬 | 尺牘式 | 七七九 | 昭和廿年五月廿九日午後／巡回焼跡過区役所而販途求之 岸廼舎 |
| 6月29日 | 蘇東坡絶句 | 二五三 | 昭和廿年六月廿九日 岸廼舎 |
| 7月3日 | 和漢草字辨 | 八二二 | 昭和廿年七月三日神田温故堂にて 岸廼舎 |

| | | | |
|-------|-----------------------------------------|------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 7月11日 | *法隆寺伽藍縁起并流記資財帳 文久雑話 千家茶道之書 五雜俎 | 二一六七 三一九四 四二二四 四四七二 | 昭和廿年七月十一日 岸廼舎識 〔大正15年10月15日再版 古代文化研究会〕 蕭々雨何情 災後九旬夢未醒／昭和廿年七月十一日岸廼舎 本書迭〔逸〕「洗」の誤りか／題簽故今仮銘云千家茶道之書云／ 七月十一日／訪諸橋氏受領佩文韻府及字源矣／岸廼舎 昭和廿年夷則十一日 訪諸橋博士途次於／金井書肆求焉／〔補入「于」〕学習院 官舎僑居／岸廼舎識之 |
| 7月中旬 | 詩山詩草 梅坡詩鈔 *増訂平野集説 (平野縁起) | 六三六 九四六 一九八九 | 昭和廿年夷則中浣／ 目白街求焉／岸廼舎識 昭和廿年夷則中浣 〔昭和12年11月25日／編集兼発行者・官幣大社平野神社社務所 印刷所・三秀舎〕 |
| 7月20日 | *日野誌 | 三〇五七 | 昭和廿年七月廿日 岸廼舎識 〔昭和8年6月20日／発行者・田中忠三郎／印刷所・単式印刷(株)〕 |
| 7月31日 | 知連抄 | 三九二六 | 〔墨書〕以風卷轉写本影写者也／岸生 〔鉛筆書〕昭和二十五年七月三十一日／鈴木夏子 |
| 8月7日 | 新尺牘青錢廣編 續集 | 四六八七 | 〔第一冊〕昭和四十二年五月廿六日／松雲堂にて 岸廼舎 〔第二冊〕昭和廿年八月七日黄昏目白街 <small>金井にて</small> 求之／岸廼舎 |
| 8月9日 | 熊谷道行 富士の人穴草子 | 一一九〇 一二九五 | 昭和廿年八月九日東横階下にて／脱脂大豆米飯近来損腸胃／岸廼舎 昭和廿年南呂九於東横階下求之 岸廼舎識／近來体力氣力稍消沈 余戦災後 財貨書籍在家者／悉皆販鳥有心尚不平靜加之 高田本町僑居却多俗臭云／官 舎却仙境也 |

| | | | | | | |
|--|--|-------|-------|---------|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | | | 8月16日 | 朝陽詩集鈔 | 八〇七 | 昭和廿年八月十六日求之 岸廻舎／上下二卷今合一本者也 |
| | | | | 行雲樓遺稿 | 一五四 | 昭和廿年南呂十六日／ <small>故郷今日送精靈 芦荻花開負秋風</small> 岸廻舎 |
| | | | | 魯寮尺牘集 | 一七七三 | 大潮 諱 元皓 字月枝 号大潮 肥前松浦之人／少時出于江与徂徠南郭交遊而著名云云／廿二歳時入于黄檗山而参究、与顕恒万菴好 ／明年五年八月廿二日寂、九十三歳云云／松浦詩集二卷 西溟余稿三卷／ 魯寮詩偈一卷 同尺牘集二卷 同文集四卷／明四大家選集 二卷／ 昭和廿年八月十六日求之 岸廻舎 |
| | | | | 金鑑論 | 二七九〇 | 昭和廿年八月十六日 岸廻舎 |
| | | 8月17日 | | 文章歐治 | 七八一 | 文筌改題曰文章歐治 伊藤氏覆刻朝鮮本者也／昭和廿年南呂十七朝一覽了／岸廻舎 |
| | | 8月18日 | | 瓊林群芳句解 | 四五八七 | 昭和廿年八月十七日為補繕而一校了 岸廻舎 |
| | | 8月18日 | | 秉穗録 | 一八七四 | 昭和廿年八月十八日／神田温古堂にて／岸廻舎 |
| | | 8月中旬 | | 帛川詩藁 | 一一一四 | 昭和廿年八月中流囓敗戦之血泪／岸廻舎 |
| | | | | 齊民要術 | 四四四五 | 卷十欠本也云云／卷十 五檠果蔬菜茹非中國物産者／聊以存其名目記其怪異耳爰及／山沢草木任食、非人力所種者悉附於此／五檠以下至都昆 略記也／昭和廿年南呂中流 岸廻舎 |
| | | 9月6日 | | 釈迦の本地 | 三三七六 | 釈迦の本地卷三、卷一、二欠本／昭和廿年九月六日／岸廻舎 |
| | | 9月8日 | | 白雲館文野 | 七七二 | 〈朱筆〉昭和廿年九月八日米軍東都進駐之日／岸廻舎 |
| | | 9月上旬 | | 稲葉集題詠 | 九一二 | 昭和廿年九月上流／岸廻舎 |
| | | 9月12日 | | 古今歌秘傳曲文 | 一一一 | 昭和廿年九月十二日於琳琅閣にて |
| | | | | 古桐余韻集 | 六〇九 | 昭和廿年九月十二日 岸廻舎 |
| | | | | 一夜百首 | 七四五 | 昭和廿年九月十二日 岸廻舎 |
| | | | | 南陽齋誌稿 | 七八〇 | 昭和廿年九月十二日岸廻舎 |

| | | |
|-----------------------------------------------|------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>9月12日</p> <p>盃簪録</p> | <p>一八六一</p> | <p>〔卷二〕〔朱書〕昭和廿年九月十八日一読了 〔墨書〕昭和廿年九月十二日 岸廻舎 〔卷三〕九月廿四日一読了</p> |
| <p>9月14日</p> <p>夜鶴書札鈔 櫻隱詩鈔（金帚集）</p> | <p>二八九六 九八三</p> | <p>昭和廿年九月十二日 中島棕隠 金帚集 六卷／ 水流雲在樓集二卷／ 〔金帚集〕題簽模写 昭和廿一年五月廿七日記之／天保己亥年春発兌／江戸 芝神明前 岡田屋嘉七／ 全 浅草茅街二丁目 須原屋伊八／ ……（ママ） 外六名、合計八人ニテ刊行ス、後〔右傍書「慶應」〕ニ再版シタルモノ改題シタルガ本書也。／ 五月中流 学習院官舎／ 仮寓中求之于東横^云／ 学習院官舎／昭和廿年九月十四日記之</p> |
| <p>9月20日</p> <p>幽谷餘韻</p> | <p>八四一</p> | <p>〔卷十五〕後篇卷十五之来欠者也他日須補入者也／／ 昭和廿年九月廿日 於一滅堂求之、年来待望之書也矣 岸廻舎／ 今春本郷街森江書店有欠本因囑探索欠脱二三冊未購求偶遇戰災烏有^云</p> |
| <p>9月中旬</p> <p>纂 皇国名家絶句類 伊藤雅言先醒詩集</p> | <p>一七七〇 一五二二 五六四</p> | <p>昭和廿年九月廿日／ 於一誠堂 岸廻舎 〔明治17年3月出版 著述人・真木幹之助 出版人・野村米太郎〕 〔卷二〕昭和廿年九月中流</p> |
| <p>9月28日</p> <p>吸露庵歌集 麦林集</p> | <p>八八〇 一〇三二</p> | <p>伊藤雅言／字俊蔵。宜堂又ハ不如及斎ト号ス／伯耆人晚仕鳥取藩ニ任フ／亘堂詩文集アリトイフ／於藤田氏遺族販途／昭和廿年九月廿八日岸廻舎 吸露菴歌集／／松垣内／／昭和廿年九月廿八日 琳琅にて 岸廻舎 麦林集 三卷〔左傍書「卷中欠」〕 刊年来未詳／ 中川乙由之句集也／中川乙由〔左傍書「伊勢川崎人」〕／／ 昭和廿年九月廿八日琳琅閣にて 岸廻舎</p> |

| | | | |
|-------|--------------------------|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 9月28日 | 九相詩抄 | 四六一六 | 〔表見返〕昭和廿年九月廿八日 岸廼舎 〔裏見返〕九相詩諺解アリ抄ハ稀也／昭和廿年／九月廿八日 |
| 9月下旬 | 干祿字書 | 六八六 | 昭和廿年九月下浣 岸廼舎識 |
| 10月1日 | 逖庵詩集 | 五九九 | 昭和廿年十月一日於山本求之／岸廼舎 |
| 10月3日 | 撰津集 季経入道集 殘集（西行）（合綴・現写本） | 三七四五 | 〔季経入道集奥37ウ〕季経入道集 図書寮蔵本也／以久曾神氏転写本書写者也委嘱文理／大学生志村氏云 <small>去月廿日依頼殘集門</small> ／十月三日午前右三部写了志村氏而参即時／一校了後 十月溽熱南風颯々流汗有焉／校了後中食了到大学 出席教授会／夜到昭和寮入浴飯来聊書付者也時正／九時四十分也 岸廼舎識 |
| 10月上旬 | 小雲楼稿 | 七八四 | 〔六条家系譜、省略〕六条家系譜／一月十二日記之 〔卷末奥〕殘集一卷 西行法師歌也 図書寮本云云／以久曾神氏写本書写了志村氏書写／昭和廿年十月三日 一校了 岸廼舎識／殘集二部在図書寮 俱以同一原本書写者也／一本表紙如別紙 本文中以朱記之者／即〔補入此〕一本也 |
| | 盍簪録 （正編四冊） （餘録二冊） | 一八六二 | 後刷本ハ奥附刊記無ク 又表紙裏ニ毛題号其他ノ文字無シ 昭和十九年十月上浣 於村口店求焉 岸廼舎識 |
| | *弘州雨屋虫干集 弘州雨屋虫干集外篇 梅月遺影 | 三五四七 | 昭和廿年十月上浣 神田にて／岸廼舎 |
| | 増補広類願體俚諺抄 | 四四六四 | 昭和廿年十月上浣／岸廼舎 |

| | | | |
|--------|--------------------------------|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 10月28日 | 代々御集 (書陵部本の現写本) | 三六一七 | 代々御集 一卷 図書寮本也 以久曾神氏謄写本 書写了 志村氏委嘱者也 昭和廿年十月廿八日一校了聊加朱筆云 豊島区高田本町橋居記之 岸廼舎 本書製本依嘱于徳川林政史 研究所之老人也 戦後資缺乏時也乃使用 林政史研究所之資材者也 同年十一月十日製本出来云 |
| 10月31日 | 頼輔集 (書陵部本の現写本) | 三七三五 | 頼輔集 以 図書寮影写 補入「本」久曾神氏本写了 寮本有二部他本題簽及奥書如別紙云 昭和廿年十月廿五日志村氏写了 同卅一日 冷雨蕭々聊記来由尔云 頼輔集別在 補入「東京」文理大 補入「水戸」彰考館 焉云 朱書 十一月五夕刻 以朱一校了 朱者乙本也云 |
| 11月中旬 | 玉蕉百絶 | 八九八 | 昭和廿年十一月中浣 岸廼舎 |
| 11月26日 | 後拾遺和歌集 | 五一 | 昭和廿年十一月廿六日 東横ニテ求焉 岸廼舎 |
| 11月下旬 | 仁王般若經合疏・神宝記 | 二二二六 | 書店〔補入〕送 不完之合本者也 昭和廿年十一月下浣 |
| 12月3日 | 文教温故 | 三三一九 | 昭和廿年十二月三日岸廼舎 |
| 12月4日 | 中御大納言殿集 衣笠内府詠(衣笠内大臣集) 慈道親王集 | 三七六四 | 〔中御門大納言集〕奥5才 中御門大納言殿集 一卷 未欠脱者也 圖書寮本也 〔右傍書〕桂宮旧蔵本 昭和廿年十二月四日黄昏訪山内氏而供紅梅枝上鶯 鳴之日本画一覽而飯来 夕食後又帶緊急用件訪山内 岩田氏 同道也 二往復約三里強 但片道競走云 流汗腹背淋漓兮 九時廿分飯宅云 衣笠内府集及中御門大納言集書写畢十一時十分也 冬夜四圍闐而無声 兒女鼾声仄聞而已 〔衣笠内府詠〕奥 桂宮旧蔵本 本文五枚 各面八行、第五葉裏六行、空白(三十七首) 定家奥書 六行 家良奥書 四行 筆跡悉皆定家風也云 昭和廿年十二月四日夜二更 高田本町二丁目一五一〇橋居ニテ |

| | | | |
|--------|--------------------------------|--------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 12月4日 | 中御大納言殿集 衣笠内府詠(衣笠内大臣集) 慈道親王集 | 三七六四 | 〔卷末奥〕慈道親王集 圖書寮本也 以久曾神氏筆記本書写了／昭和廿年大呂十四日起筆 訪山内氏于江古田同道／経中野駅飯来 午後 於 初等科院長室 院長山内氏／及与〔与〕ミセケチ余 同席 懇談二時間許之後同車而飯来再書写／十五日朝若干葉 同黄昏訪佐久間氏〔右傍書〕雜司谷今日菴 飯来而晚餐／後書写了 戦災後諸事不如意云／大呂十五日夜六時半記之／岸廻舎識／〔中御門大納言殿集／衣笠内府詠／慈道親王集〕三部合綴之、共桂宮旧藏本也 |
| 12月6日 | 本朝俚諺 訓点復古 | 三二二三 | 昭和廿年十二月六日／琳琅閣にて／岸廻舎 |
| 12月10日 | 増鏡 | 三二三七 三四四八 | 昭和廿年大呂六本郷琳琅閣にて／岸廻舎 〔付紙〕文部省教員検定委員会第二部第一号試験用紙〕 古本増鏡／上巻／中巻 老の波前半まで／下巻 欠／右を一巻として列帖に装禎す／昭和廿年十二月十日 夜十時半／高田本町橋居にて岸廻舎／ 右は去月来 東横百貨店内 細川〔二字ミセケチ〕書店にて榮華／の残缺本と共に陳列しあり 表紙なし 余店主に告／げ十寸鏡なるを教ふ 店主別に増鏡 上巻として／陳列せり 余本日改めて精査せしに 中巻の分も前半／あり 乃ち購求し飯り 夜装禎を了するものなり／弦月沈まんとす 星斗霄間 爛干たり冷氣漆／を乾す。昭和寮にて入浴後なり〔句読点ママ〕 |
| 12月18日 | 資平集 持和卿詠(二種)(現写本) | 三七八一 | 〔資平集奥〕資平集 図書寮本也 以久曾神氏筆記本書写了／昭和廿年十二月五日夜半起筆六日未明及七日／朝偷閑書写寮 岸廻舎識／〔源資平の系譜省略〕 〔桂宮本〕持為卿詠草〔扉〕桂宮本／〔朱書〕持和也〔墨書〕題簽在 持為卿詠草 後人／貼付題簽之時誤記者也 〔持和卿詠〕奥 持和卿詠草〔右傍書補入〕二部／／永享五年／全 九年〕桂宮本也 以久曾神氏筆記本／書写了／昭和廿年十二月十八日朝写了／岸廻舎識／〔朱書〕呵秃筆近来無良筆云 |

| | | | | | |
|--|--|--|----------------------------------|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | | | 12月20日 大貳重家集 (前田本の現写 本) | 三七四六 | 太宰太貳重家集一卷 前田侯本也 無奥書云云 / 以久曾神氏筆記本書写了 / 自三四日以前每日朝又夜書写焉 / 本日午前六時訪山内氏于江古田飯来而 / 朝饗 其後到研究室 云云 / 午後志村氏同道到喜多見村購 / 入蕪菁 / 数貫 夕刻飯宅 直揮筆 / 書写晚餐後書写数葉而功畢 / 于時午後十九時 / 五十分也云云 / 昭和廿年十二月廿日夜記之 / 岸廼舍識 / 近來全無良筆呵 / 秃筆勿々書 / 写者也 |
| | | | 瀧尻王子和歌會 顯氏集(書陵 部本の現写本) | 三七六三 | 從二位顯氏集 一卷 圖書寮桂宮旧藏本也奥書無之 / 以久曾神氏筆記本 書写了 / 昭和廿年十二月廿日夜半起筆匆卒 / 翌朝九時半書写畢 岸廼舍 識 |
| | | | 1月2日 | 五三七 | 昭和廿一年一月二日岸廼舍 |
| | | | 1月上旬 | 二二九八 | 昭和廿一年一月二日 / 岸廼舍 |
| | | | 弇園摘芳 | 六八七 | 昭和廿一年大簇上浣 |
| | | | 薄游吟草 | 七〇二 | 昭和廿一年大簇上浣 岸廼舍 |
| | | | 観月臥松樓詩鈔 | 九八六 | 卷末一首不足也 / 昭和廿一年大簇上浣 |
| | | | 雪樓詩鈔 | 一一三二 | 昭和廿一年大簇上浣 |
| | | | 迂園迂語 | 一一五八 | 昭和廿一年大簇上浣 |
| | | | 学詩堂詩鈔 | 一二九二 | 昭和廿一年大簇上浣 / 岸廼舍 |
| | | | 也足窩詩鈔 | 一五五三 | 昭和廿一年大簇上浣 |
| | | | 静楽園遺稿 | | |

| | | | | | | |
|--|--|-------|-------------------------------------|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------|
| | | | 2月下旬 | 住吉物語 | 一二五〇 | 本書与千種本殆同本也／昭和廿一年二月下流 洛陽思文閣求之／岸廼舍 |
| | | | 2月下旬 | 僊月影唱和集 | 一五五六 | 昭和廿一年二月下流 岸廼舍 |
| | | | 2月下旬 | 女房文翰式 | | 昭和廿一年二月下流 岸廼舍 |
| | | 3月下旬 | *絵巻物詞書叢書（北野縁起／伴大納言・信貴山縁起／奥州後三年合戦絵詞） | 五一五八 | 〈第三巻〉〈青ペン書〉昭和廿一年三月下流 岸廼舍／古谷氏 境地出張中、吉沢氏より将来本なり 〔明治37年5月1日／著作者・荒木矩／発行所・芸艸堂〕 | |
| | | 4月7日 | 連歌奥義明鏡秘集 | 三九三九 | 連歌奥義明鏡秘集 一卷 岩瀬文庫藏本也／ 囁村松子書写者也／ 昭和廿一年四月七日夜記岸廼舍 | |
| | | 4月14日 | *評釈 紫女手簡 | 五一九一 | 〈前見返〉〈墨書〉昭和廿一年四月十四日 戦災一周年隣人会／飯途、於金井書店求焉〈青ボールペン書〉（架空ハ／木村正三郎氏也） 〔明治32年10月7日／著者・木村架空／発行者・林平次郎〕 | |
| | | 4月中旬 | 嘯月樓漫稿 | 五五九 | 昭和廿一年四月中流 | |
| | | | 温山文 | 七二四 | 昭和廿一年仲呂中流 岸廼舍 | |
| | | | 秋邨遺稿 | 八四三 | 昭和廿一年四月中流 岸廼舍 | |
| | | | 膝弼文集 | 一一七九 | 箕谷膝弼／ 昭和廿一年四月中流、伊賀沖森／書肆求之 岸廼舍 | |
| | | | 寂蓮華詩集 | 一二二九 | 昭和廿一年四月中流 岸廼舍 | |
| | | | 偷聞楽事 | 一三八八 | 昭和廿一年四月中流 岸廼舍 | |
| | | | 懷風藻 | 一四〇九 | 〈押紙〉「中原章純〔明儒経處家／京師人〕 中原章純／昭和廿一年仲呂中流 沖森書肆求之 岸廼舍 〈押紙〉〈黒ペン書〉大和五条之人小林辰書入本一冊山脇／重顕校正刊本也／介宮本氏先年借覽在篋底、今年／受返却督促状乃急據「ママ」カ、転写書入矣 ／昨夜及今夜二脱而書写畢／ 昭和三十九年十一月廿一日夜大寒之日也／ 夜十一時、岸廼舍識 | |

| | | | | | | |
|--|--|--|-------|-----------|------|-----------------------------------------------------------------------|
| | | | 5月15日 | 鼈頭 覆醬集 | 五七五 | 昭和廿一年蕤賓望於東横求之 岸廼舍 |
| | | | 5月中旬 | 虚白菴百絶 | 一一九七 | 昭和廿一年五月十五日東横にて |
| | | | 5月31日 | 玄圃先生集 | 六四三 | 昭和廿一年仲夏中浣 岸廼舍 |
| | | | 5月下旬 | 扶桑名賢詩集 | 一五九二 | 昭和廿一年五月晦 於本郷之町文雅堂求之岸廼舍 |
| | | | | 穀堂遺稿抄 | 八〇六 | 〈卷〉昭和廿一年五月下浣 於東横求之／岸廼舍 |
| | | | | 桑溪詩集 | 八八四 | 昭和廿一年蕤賓下浣於琳琅閣求之／岸廼舍 |
| | | | | 感詠一貫 | 一四五七 | 〈上卷〉昭和廿一年五月下浣 於琳琅求之／岸廼舍 |
| | | | | 金蘭詩集 | 一五〇三 | 昭和廿一年五月下浣 於琳琅求之／岸廼舍 |
| | | | | 日本書紀神代講述鈔 | 一九二一 | 昭和廿一年蕤賓下浣／於琳琅閣求之 岸廼舍 |
| | | | | *陶説 | 四二二〇 | 昭和廿一年蕤賓下浣 岸廼舍 |
| | | | | 景德鎮陶録 | 四二二一 | 〔昭和8年4月23日発行／著者兼発行人・楊井勇三〕 |
| | | | | 感詠一貫二編 | 一四五八 | 昭和廿一年五月下浣 於東横求之／岸廼舍 |
| | | | | 拾遺古徳伝 | 二二一二 | 昭和廿一年林鐘朔 於松雲堂 岸廼舍 |
| | | | | 宇野禮泉先生詩文鈔 | 六〇一 | 昭和廿一年五〔五〕ミセケチ右傍書〔六〕月一日 日本文学協会々合版途／於温故堂 岸廼舍 |
| | | | 6月中旬 | 静寄軒文集 | 一〇六二 | 昭和廿一年六月中浣 冲森求之 岸廼舍 |
| | | | | *青谷遺稿 | 一一八〇 | 〔朱書〕静寄軒詩巧也 〔墨書〕昭和廿一年六月中浣 於東横求之 岸廼舍 〔明治17年2月10日／出版人・宮崎定恒／印刷・有終社〕 |

| | | | |
|-------|-------------------|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 6月20日 | 和漢三才事始問 答 | 三二四〇 | 〈第一冊〉昭和廿一年六月廿日東橫求之 岸廼舍 |
| 6月26日 | 六芸名義解 | 四八九七 | 昭和廿一年六月廿日岸廼舍 |
| | 月なみふみ合 | 七三七 | 昭和廿一年六月廿六日 於東橫求之 岸廼舍 |
| 6月30日 | 麗藻 | 四五八九 | 昭和廿一年六月廿六日 於東橫求之岸廼舍 |
| | 春風樓遺稿 | 一〇六六 | 明德館佐竹候藩濟々々也 昭和廿一年林鐘晦 於琳琅閣求之 岸廼舍 |
| 6月下旬 | 湘夢遺稿 | 六一五 | 昭和廿一年 林鐘下浣 東横にて岸廼舍 |
| 7月31日 | 新古今集美濃の家つと | 五八 | 昭和廿一年夷則晦 於文雅堂求之 岸廼舍 |
| | 雪齋詩集 | 一〇七二 | 雪齋集全部六冊也 昭和廿一年七月卅一日 於琳琅閣求之 岸廼舍言識 |
| | 有馬本 たまきはる(複製本) | 三五一四 | 〈私製帙〉有馬本 しまきはる 昭和廿一年 七月卅一日 |
| | 文筌小言 | 四八二七 | 〈木箱裏〉昭和廿一年七月三十一日 |
| 7月下旬 | 蘊荷溪詩集 | 八五九 | 尊經閣本也 昭和廿一年七月卅一日於文雅堂求之 岸廼舍 |
| 8月9日 | 浜木綿 (書陵部本の現写本) | 三八五四 | 昭和廿一年夷則下浣求之于思文閣 岸廼舍 浜木綿 一卷 圖書寮本也 去三月展覽会出陳中有之云 八月五日躬恒集 調査終了時借來書写焉 端首及卷末予少々書之 他部家中女子揮筆云 昭和廿一年 八月九日書写了 岸廼舍識 朱書 廿二年三月十六日午後一覽了 |
| 8月10日 | 閑散余録 | 一八五四 | 從圖書寮販途坊琳琅閣酷暑流汗淋漓云 昭和廿一年八月十日岸廼舍 |

| | | | | | |
|------|---------|------------------------|----------------------|--------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | 8月上旬 | | 日本感靈録 (龍門文庫本の現写本) | 三四二五 | 久安書写時既存十五條而已 不知卷序故此十五條所屬即上卷歟／不可明也／原本五十八條 二卷上下者歟 即是缺本也 第十四話有、承和十四年秋九月之年次、／仁明帝代也 恐 嘉承若仁壽頃作歟／続類從卷七百十七所収』日本感靈録一卷 高山寺旧蔵本 今大和国龍門文庫所蔵也／右本依山岸先生御好意借覽之序病後日影写畢／先生亦一本影写之功成天下三本歟／昭和十五年十月十八日靖国神社臨時大祭之佳日／ 正義識⑩(陽刻朱印)「片寄／蔵書」 |
| | 8月18日 | 資暇録 | 嘉多糸 (書陵部本の現写本) | 四四六八 三八五三 | 昭和廿一年八月上浣於琳琅閣求之／岸廻舎 嘉多糸 一卷 以図書寮本書写焉／ 昭和廿一年南呂十三日借覽十六日写了／ 浜水綿嘉多糸兩本珍重者也果宿／望畢 八月十八日記之 岸廻舎／ 朝來客軫青眸对之／ 四戸氏 小菅氏 玉井氏 小野田氏云各対談數刻至正午云 製本ハ書陵部なり／ (朱書)廿二年三月十六日朱点附之云 |
| | 8月20日 | 錦木(俊頼髓腦) (書陵部本の現写本) | | 三八六二 | 錦木 一卷 図書寮本也 先年一覽云 八月十三日 嘉多糸与錦木借覽之序書写了／ 俊頼髓腦欠本也但有少異可參照者不少云 八月廿日朝忽卒写了 未校／ 昭和二十七年九月廿四日夜廿一年南呂中浣／岸廻舎識』 |
| 9月3日 | 天善居集 | | | 九三三 | 〔朱筆〕塚田尚徳／昭和廿一年無射三、沖森送来焉／岸廻舎識 |
| 9月9日 | 艸山集 | | | 七九三 | 〔第一冊「総目」〕昭和廿一年九月九日／於東横求焉／岸廻舎 |
| 說筆記 | 五戦図解問答講 | | | 四一八一 | 昭和廿一年重陽 於東洋求之／ 甲陽軍鑑二関スルモノナリ／岸廻舎 |

| | | | |
|--------|---------------------------------|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 9月12日 | 箋注倭名類聚抄 | 三一六〇 | 昭和廿一年無射一二 岸廼舎識 |
| 9月14日 | 杏陰集 | 一一三八 | 杏陰集 二十卷 於圖書寮生本焉 / 昭和廿一年九月幾望製本出来 / 無射望日朝記題簽者也 / 岸廼舎識 |
| 9月15日 | 賦物抄 / 享德二年十住院心敬僧都百韻 (岩瀨文庫本の現写本) | 三九四二 | 〔賦物抄〕奥14ウ 賦物抄 一卷 岩瀨文庫藏本也 / 昨冬大呂上流依嘱于村松氏今茲仲呂上流 / 写了 送来者也書写者 西尾町住村松子也 / 昭和廿一年四月上流識之岸廼舎 / 奥儀明鏡秘集亦同時也 |
| 9月15日 | 賦物抄 / 享德二年十住院心敬僧都百韻 (岩瀨文庫本の現写本) | 三九四二 | 〔卷末〕賦何路連歌 享德二年 一軸 能勢氏藏本也 / 三好氏借覽之際閱覽書写者也 / 昭和廿一年七月廿九日夜 岸廼舎識 / 〔箱書模写〕 / 別昏少々写之而左書付者也 / 〔宗砌〕他の連歌師覚書 / 昭和廿一年九月十四日至圖書寮見紫式部集 / 八月中依頼製本既完了乃持皈云 / 杏陰集四冊及本卷都合五冊也 / 九月十五日朝記之 / 岸廼舎識 |
| 9月30日 | 中古三十六歌仙伝 | 一〇四 | 昭和廿一年九月晦 岸廼舎 |
| 9月下旬 | 宏明集 | 一九九一 | 昭和廿一年無射晦於東横求之 / 岸廼舎 |
| 10月11日 | 惟宗光吉朝臣歌權僧正道我集 (書陵部本の現写本) | 三七六七 | 類従本百六十八所収 / 次郎百首 / 昭和廿一年九月卅日 東横にて / 岸廼舎 昭和廿一年九月下流 / 岸廼舎 〔光吉集〕奥 惟宗光吉集 圖書寮本也 / 昭和廿一年九月廿日午後借覽同卅日返却 / 十月十一日半夜記之 岸廼舎 / 〔光吉の覚書類、省略〕 〔道我集〕奥 道我集 圖書寮本也 / 昭和廿一年九月卅日借覽云云十月三日 / 夜半写了四月返却焉 / 十月十一日半夜記之 / 岸廼舎 / 〔道我の覚書類、省略〕 |

| | | | |
|--------|------------|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 12月27日 | 小竹斎詩抄 | 八四二 | <p>〔巻之四〕昭和廿一年大呂廿七日〔補入〕於〔松雲堂 岸廼舍</p> |
| 12月19日 | 慕風愚吟集 | 三七八〇 | <p>慕風愚吟集 一卷以圖書寮書寫畢 卷首卷末少々書寫焉 他皆依囑中村義雄氏 者也 九月末借覽焉云 表紙裏之紙有「慕風愚吟第十二」七字、〔鈎括弧・読点ママ〕十余冊者歟 昭和廿一年十二月十九日朝記之 岸廼舍 〓 〓 〓</p> <p>昭和廿二年三月十五日訪圖書寮而飯途 過池上潢店持參左記之書云 嘉多糸 連歌與義明鏡秘集 浜木綿 伊勢集 慕風愚吟集</p> |
| 11月23日 | 三教指帰文筆解 知鈔 | 二〇一七 | <p>昭和廿一年十一月廿三日 岸廼舍</p> |
| 11月20日 | 稜威道別 | 一九二四 | <p>〔第一三冊奥〕昭和廿一年十一月廿日 岸廼舍</p> |
| 11月18日 | 檀園隨筆 | 三二二三 | <p>〔上冊〕昭和廿一年十一月十八日 東横にて 岸廼舍</p> |
| 11月11日 | 菅家御一代記 | 二七九四 | <p>昭和廿一年十一月十八日 東横にて 岸廼舍</p> |
| 10月23日 | 当世模樣本 | 四三三六 | <p>昭和廿一年十月廿三日東横にて 岸廼舍</p> |
| 10月16日 | 旧本撰集抄 | 一三四七 | <p>〔前見返〕木活字第一種本巻上トアル也 〔奥〕撰集抄 木活字第二種本影写之本也 昭和廿一年十月十六日 於東横求之 岸廼舍</p> |

| | | | |
|--------|------------------------------------|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 12月31日 | 八代集秀逸 為 兼卿和歌抄 (書陵部本の現写 本) | 三六〇七 | <p>〈秀逸奥16ウ〉八代集秀逸 一卷 圖書寮本也 同本別有左三部于圖書寮 一軸／一冊／ 昭和廿一年大呂廿七日借覽囑四方氏大晦朝書了／ 全 二十二年一月二日一校了 与百人一首比較研究要有之／ 大簇二日正午 岸 廼舍識／</p> <p>鳴の羽搔 <small>写一、 八代集秀逸</small> 一・八一・三一(右傍書「旧目六」トアリ 〈卷末〉為兼卿和哥抄 一卷 列帖枕本 桂宮本也／ 珍書同好会本有誤字 少々云／ 二月十七日訪圖書寮 不問語校正 初稿来云／ 販途借覽二十 日日曜書写者也 余十一日来風氣／ 湧汁「汁」ミセケチ流不絶咳氣又不息 起又臥而緩々写焉／ 昭和廿四年二月廿日夜半十一時也／ 窗外有微風夜 氣漸温暖 風邪猶未息云／ 岸廼舍識／ 同三月廿六日合綴云</p> <p>外有文藪一冊焉云／ 昭和廿一年大呂下浣／ 沖森書店求之／ 岸廼舍</p> <p>〈第一冊表見返〉(朱書)苔洲上人／ 真宗也／ 河野天鱗／ 淡成舍遺稿一斑在真宗 全集詩文部</p> <p>〈第二冊〉昭和廿一年大呂下浣於松雲堂／ 岸廼舍識</p> |
| 12月下旬 | 詩藪 苔洲詩鈔 | 四八六 八九二 | |

| | | | |
|----------------|---------|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 昭和二十二年丁亥(一九四七) | | | |
| 3月16日 | 代々詩歌同日例 | 五二七四 | <p>「代々詩歌同日例 以函書寮本書写一校了／ 昨夜及今朝得少閑写了 早朝雪 少々有之後少雨冷寒云云／ 昭和廿二年三月十五日訪函書寮見展覽／ 書(連歌 書) 販来写之／ 三月十六日正午記之／ 岸廼舍」 「大学詠哥 一冊呂直清自筆稿 本書写了／ 昭和三十三年無射八午前於家中／ 同九日朝校訂了 岸廼舍／ 直清 の著述中にこの書の事なし／ 稀珍のものなり 九日朝記之／ 半昏十行紙也 ／ 題簽なし仮綴なり」</p> <p>〈第八冊〉昭和廿二年四月朔／ 學術研究会議帰途 於琳琅閣求之／ 岸廼舍 〈帙裏〉昭和廿二年仲呂朔／ 岸廼舍</p> |
| 4月1日 | 評選四六法海 | 四五六四 | |

| | | | |
|-------|-------------------------|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 4月5日 | 道の記 きさら ぎの記 | 四九二 | 〔朱書〕伊勢長島觀無院ノ尼 忍静ノ紀行ナリノ 閣にて 岸廼舎 昭和廿二年四月五日琳琅 |
| | 義正詠草 | 九二一 | 此本先年所持者為人所借失ノ今茲琳琅閣求之 昭和廿二年四月五日ノ岸廼舎 |
| | 日本神字考 | 三二一一 | 昭和廿二年仲呂五 琳琅にてノ岸廼舎 |
| | 辨和読要領 | 三一一三五 | 昭和廿二年仲呂五ノ琳琅閣にて岸廼舎 |
| 4月14日 | 広弘明集 | 一九九三 | 弘明集嘗求之於琳琅閣 茲 両集完全者也ノノ 昭和廿二年仲呂十四 本郷 森江書店求之ノ 戦災後滿二年也 岸廼舎識 |
| 4月16日 | 長景集 沙弥蓮 愉集 (現写本) | 三七六六 | 〔長景集〕奥ノ長景集 一卷 圖書寮本也ノノ 昭和廿二年四月十六日借覽同 十八日写了ノ七月十日一校了 岸廼舎 〔蓮愉集〕奥ノ沙弥蓮愉集 一卷 以圖書寮本書写者也先類本云云ノ 昭和廿二 年二月借覽集 三月十四日夜十五日夜以二ノ 夜得少閑写了 十六日午前校 了 岸廼舎ノ 朝来訪客頻繁云云ノ〔蓮愉系図等覚書、省略〕 |
| 4月中旬 | 連歌千四百句并 法度 | 九八八 | 昭和廿二年仲呂中浣求之ノ岸廼舎 |
| 6月18日 | *道果本 古事 記(複製本) | 二六九三 | 昭和廿二年林鐘十八 而参伴大納言絵卷ノ三卷訪七條于本郷森川街僑居製本 第ノ一之本也七条氏自綴之者云云 岸廼舎 〔昭和十八年3月25日ノ発行所・貴重圖書複製会ノ印刷所・七條印刷所〕 |
| 6月19日 | *唯心房集 (珍書同好会版 複製) | 三七三七 | 昭和廿二年林鐘十九 於東横求之 七冊ノ中 岸廼舎 |
| 7月10日 | 桂蔭 | 三八〇〇 | 昭和廿二年文月十日の午刻ノ東横をよきりて求之 岸廼舎 |

| | | | |
|-------|---------------------------------------------------|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 7月15日 | 佛鬼軍 | 三三八八 | 昭和廿二年中元之日温故堂にて岸廻舎 |
| | 風雅逸篇 古今 風謠／古今諺 俗言／麗情集／ 瑾戸録／雲南山 川志／慎載記 | 四七〇二 | 昭和廿二年中元黄昏 山本書林求之／為米塩困苦到駿台得之／一袋纔二升 足補遅缺配／岸廻舎／ 〔帙裏〕昭和廿二年七月十五日中元／神田 山本書林求之 岸廻舎 |
| 8月6日 | 猗蘭台集 | 一一四三 | 昭和廿二年南呂六求之／十数年前見在麻布六本木古書店矣今茲遂求之／于沖 森云 岸廻舎 |
| 8月上旬 | 倭語連聲集 | 七六五 | 昭和廿二年南呂上澆／岸廻舎 |
| 8月16日 | 閑居友 (村岡本の現写 本) | 五二二 | 〔上卷〕朱点及朱書書入等皆村岡氏筆也本年三月他界云云／仙台之会合屢次、 戰時中談合疎隔 今日見藏書待買感／〔補入〕昭和廿二年八月十六日 於琳 琅閣求之／ 村岡典嗣氏藏本中之一也 岸廻舎 〔下卷〕閑居友雜考、歴史と国文学〔十八卷六号／昭和十二年六月〕／ 昭和 三十年無射二十三日／沖森にて／岸廻舎 |
| | 紫史吟評 | 四七三五 | 昭和廿二年八月十六日於琳琅求之 柳兆作焉 |
| 9月4日 | 明德記 | 二七四四 | 昭和二十二年無射四 岸廻舎 |
| 10月9日 | 金槐和歌集 | 三七六一 | 〔第一冊〕為淨智妙嚴大姉供養也／ 昭和廿二年十月九日学術会議連絡会版途 ／琳琅にて／岸廻舎 |
| 10月上旬 | 石上私淑言 | 三八八二 | 先年為森氏所借失 今日又求之者也／昭和廿二年十月九日 岸廻舎 |
| 10月9日 | 古愚堂詩 茶祖珠光伝 茶 人系 | 八〇九 四一三一 | 昭和廿二年十月上澆 東横にて／岸廻舎 昭和廿二年十一月九日／学術刷新連絡委員会版途於文行堂求之／岸廻舎 |
| 11月下旬 | 鶴臺先生遺稿 | 九〇二 | 昭和廿二年十一月下澆求之于沖森云云／岸廻舎 |

| | | | |
|--------------------|--------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 12月6日 | 為信集 紫式部集 御堂関白集 (現写本) | 三六七七 | 〔為信集〕〔為信集の覚書、省略〕従三位為信集一冊 圖書寮本也／大呂二、校正桂宮本叢書之後借覽同五日写了／四日夜三更少々写焉 昭和二十二年大呂六朝／三部合綴云 岸廼舎／〔紫式部集〕紫式部集一卷 桂宮本也前半若干有錯乱／因為他日書写者也／昭和廿一年九月十六日夜十一時半写了／岸廼舎識 〔卷末〕御堂関集集(ママ) 圖書寮本也、他日(補入)須校讐丹鶴本者也／昭和廿一年十二月廿七日借覽囑四戸氏者也／此日、八代集秀逸 伊勢集二部 仲文集 御堂関白集／借覽云 皇恩無窮 天日何時復發光輝 生聚十歳云／一月二日 岸廼舎 |
| 12月24日 | 錦浦詩稿 | 七六二 | 昭和廿二年大呂廿四日 岸廼舎 |
| 12月31日 | 四季倭歌選引 水野防州の哥并 こと葉 | 一四〇 | 昭和廿二年大呂大晦文行堂にて 岸廼舎 |
| 勅撰集外歌仙 | 七〇 | 昭和廿二年十二月廿一日文行堂 岸廼舎 | |
| 仁斎先生作 | 一四〇 | 昭和廿二年大呂大晦 文行堂にて 岸廼舎 | |
| 奥義抄 | 一九一 | 昭和廿二年大呂大晦於文行堂求也 岸廼舎 | |
| 中院御百首 (土御門院百首) | 二八一 | 土御門院百首(續類従三八六)／昭和廿二年大呂大晦 於文行堂求之／岸廼舎 | |
| 遠嶋百首 定家 家隆歌合五十番 | 三〇五 | 後鳥羽院百首 続類従三八六／昭和廿二年大呂(十二月)大晦 於文行堂求之／岸廼舎 | |
| 楽洋集 | 一四七七 | 昭和廿二年大呂大晦 文行堂にて求む／卷六欠／岸廼舎 | |
| 下野国誌 | 三〇二六 | 下野國誌杜撰也卷七頼綱之歌出典等／全不可用。出鱈目也／昭和廿四年一月五日朝記又／岸廼舎／芳賀土百姓直守者浅学／真可謂土百姓云 昭和廿二年大呂大晦於東横求之／岸廼舎 | |

| | | | |
|--------|-----|------|-----------------------------------------------------------------|
| 12月31日 | 一華抄 | 三九〇四 | 題名 一華抄五玉集 等有之／類從百七五所収、句題百首 ^云 ／ 年十二月廿一日 文行堂にて求む岸廻舎 |
| | | | 昭和廿二 |

昭和三年戊子(一九四八)

| | | | |
|-------|--------------------------|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1月1日 | 唐土訓蒙図彙 | 三一〇六 | 昨年末東横求之／ 昭和廿三年一月元日修繕之／別在唐土訓蒙図会十五冊 ^云 ／ 岸廻舎 |
| 1月3日 | 堤中納言物語 (神宮文庫明静院本の現写本) | 五六三二 | 堤中納言物語一卷 慈延上人頭書 神宮文庫本也／ 昭和五歲次庚午二月上 浣借覽焉以序書写者也／ 神宮文庫本 天王寺明静院本 之転写 ^云 明静 院本 今不知 其所在也／ 昭和五年二月既望書写畢一校了／岸廻舎識 〈細字朱書〉以上余之旧写本ナリ／ 〈墨書〉余之本為人所借失(戰災焼失也)故更補給者也／右本 片寄氏転写焉因 借覽以再書写者也(細字朱書) ^{高師生徒ニ依頼ス} 三章未了ナリ 昭和廿二年五月三日夜記之 虫めつる 程々の懸想 三章未了』 灰すみ |
| 1月中旬 | 本朝続文粹 | 一三八〇 | 未書了三章 今茲一月二日夜同三日午後書了 施朱点者也／ 神宮文庫本 誤写頗多本也 只取卷序相違之点而已 |
| 2月12日 | 杜氏徴古画伝 | 四三四六 | 余之本者昭和十一年春一月上流貸片寄氏 ^云 氏既／歿 今日転写本残存矣 昭和廿三年大簇三日黄昏綴終聊書付焉／ 午前訪問鯉之画伯 ^{古瀬素石氏} 岸廻舎 于平河天満宮祠畔 ^云 |
| 2月13日 | *麓木鈔(複製本) | 三八八〇 | 昭和廿三年大簇中浣求之于冲森／岸廻舎 |
| 2月15日 | 明月記 歌道事 | 一二八 | 昭和廿三年二月十三日受領 岸廻舎 (昭和22年4月23日発行(非売品)／宮内省図書寮／便利堂) |
| 2月20日 | 日本紀文字錯乱備考 | 二七一二 | 昭和廿三年二月十五日昏刻 於琳琅求之／岸廻舎 昭和廿三年二月廿日 學術研究会議連絡委員会販途於琳琅求之岸廻舎 |

| | | | |
|-------|-------------------------|--------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 4月26日 | 高青邱詩集 | 二八〇 | 昭和廿三年四月廿六日、黄昏 於琳琅／初篇・二篇共八冊 岸廻舎 |
| 4月27日 | 退享園詩鈔 | 六一三 | 昭和廿三年四月廿七日 琳琅にて岸廻舎 |
| 4月下旬 | 赤染衛門家集 | 三一三 | 昭和廿三年四月下浣 琳琅にて 卷一欠 |
| 6月上旬 | 楯の孀手 | 三一五九 | 〈第一冊〉柳谷氏周旋本／言葉の玉緒同補遺一三／かさしあゆひ抄五／玉あられ一／本居雜考二／曙覽全集一／厨の心得一／昭和廿三年六月上浣依柳谷氏周旋而求之／岸廻舎 |
| 6月10日 | 雪岑和尚統集 槐菴遺稿 | 八七二 一一三九 | 昭和廿三年林鐘旬 東横にて／岸廻舎 昭和廿三年林鐘旬 東横にて 岸廻舎 |
| 6月13日 | 藤葉和歌集 新猿楽記 | 三三三九 五二四 | 昭和廿三年六月十三日 岸廻舎 昭和廿三年六月十三日 東横百貨店展売にて 岸廻舎 |
| 6月中旬 | 五代帝王物語 藤谷和歌集 | 三四五一 三四八 | 昭和廿三年六月十三日東横展にて 岸廻舎 昭和廿三年六月中浣 東横にて 岸廻舎 |
| 6月27日 | 文華秀麗集 寛齋先生遺稿 石梁游草 | 一四二五 五八五 七一一 | 凌雲 二冊／昭和廿三年林鐘中浣於東横百貨展求之 昭和廿三年六月廿七日大乘寺坊内野台嶺老之途次求焉岸廻舎 〈墨書〉昭和廿三年六月廿七日東横にて岸廻舎 〈朱書〉昭和廿三年六月廿五日岸廻舎 |
| 7月2日 | 指月菴詩集 三十六人撰歌 年並草 | 七四七 一〇六 三六一 | 倭版書籍考卷七指月菴集／関山派ノ僧号門義肥前諫ノ早住菴ノ時ノ詩本也好詩アリ大明董雪堂士英批評アリ／序アリ義空後二法空下改ム／昭和廿三年六月廿七日東横にて岸廻舎 昭和廿三年夷則二 於浅倉屋 岸廻舎 年並草貳拾冊平瀬家旧蔵本 浅倉屋求之稀本也 昭和二三年夷則二 岸廻舎 |
| | 為家卿集 | 三三二二 | 為家集也／昭和廿三年七月二日岸廻舎 |

| | | | |
|-------|---------------------------------|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|
| 7月2日 | 百首(沢庵百首) 二十一都懷古詩 | 三一〇 三〇二 | 昭和廿三年七月二日 岸廼舍 昭和廿三年七月二日(朱書左傍書「三日一読了」)朝倉屋にて 岸廼舍 |
| 7月4日 | 日本紀私記 | 二七〇七 | 昭和廿三年七月四日/古谷氏來訪寄贈三冊云/岸廼舍 |
| 7月18日 | *慶長以來 小 説家著述目録 | 五一〇七 | 昭和廿三年七月十八日/古谷氏寄贈 岸廼舍 〔明治26年6月5日/編輯者・中根肅治/發行所・青山堂支店〕 |
| 7月22日 | 梅翁宗因発句集 | 一〇二二 | 昭和廿三年七月廿二日東横にて/岸廼舍/午前到渋谷遇升内氏/午後又到渋谷遇河原氏飯途求之 |
| 7月下旬 | 龍川先生詩鈔 | 七五三 | 〔上巻見返題「清公續先生」著の上欄外〕江村北海/ノ子/清田儉/叟ノ嗣トナル 〔上巻後見返〕孔雀樓文集 清絢之作也 清續者清絢(朱書補入「養」)子也/昭和廿三年夷則下流 岸廼舍 |
| 8月5日 | *星巖集注 | 一一三三 | 〔帙裏〕昭和廿三年南呂五求之/岸廼舍 〔昭和4年春再版/校刊・小倉正恒/發行及印刷地・志那上海〕 |
| 8月11日 | 卜居集 | 六四五 | 大窪詩仏 名行字天民/朱子学/昭和二十三年八月十一日午前至琳琅閣/学校問題紛々時閑纒至也/岸廼舍 |
| 8月22日 | 棠陰比事加鈔 | 四四四二 | 棠陰比事加鈔六冊/昭和二十三年八月十一日於林琅閣求之/岸廼舍 |
| 9月12日 | 下学集 *国宝 善財童子 繪卷 東大寺藏(複製本) | 六九三 四二七五 | 昭和二十三年南呂二十二/本郷弓町 於文雅堂求之 岸廼舍 昭和二十三年九月二十二日 〔昭和12年3月5日發行/發行兼印刷者・七條憲三/發行所・大和繪同好会〕 |
| | 孔雀樓文集 桂源遺藁 | 七五四 一一三七 | 昭和廿三年夷則下流/岸廼舍 〔下巻奥〕楽洋集巻首凌霄閣之詩云云〔巻首〕以下一〇字ミセケチ右傍書「八本集ヨリ取レリ」/昭和廿三年七月下流 岸廼舍 |

| | | | |
|--------|----------------------------------|--------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 9月13日 | 奈良花林院哥合 | 三六二八 | 奈良花林院哥合 一卷 図書寮本也／永縁奈良房歌合借覧干飯島氏之際更借覧本書而／对校之序書写者也 本書他無類本云云／靈元院御宸翰本也 九月十日借来而同十三日返却矣／颯風豪雨之日云云／再是草初校了昭和廿三年秋 岸廼舎 |
| 9月23日 | *男衾三郎絵巻 (複製本) | 四三〇七 | 昭和廿三年無射廿二 〔昭和十七年八月十日発行／貴重図書複製云〕 |
| 9月下旬 | *広田社歌合 (上中下) (複製本) | 三六四六 | (箱裏)昭和廿三年無射下流 〔昭和八年七月廿五日発行／育徳財団 尊経閣叢刊〕 |
| 11月5日 | 書品 *東北院歌合(複製本) | 三六四七 | (箱裏)昭和廿三年九月下流 〔大正十一年十月二十五日発行／大和絵同好会〕 |
| 11月21日 | 兼山先生遺稿 | 四四四八 | 昭和廿三年十一月五日 琳琅にて／岸廼舎 |
| 11月30日 | 東遊詩集 | 七七七 | 黒田兼山 (薩摩人 古賀樸堂門人／黒田清綱之祖父云云)／昭和廿三年十一月廿一日 於琳琅閣にて／岸廼舎 |
| | *法王帝説証注 | 一〇五九 | 春 淑徳肥後人云云／此本ハ／稿本ナリ／昭和廿参年十一月卅日／東横にて／岸廼舎 |
| 12月3日 | 誹諧根源集 | 二七九一 | 昭和廿三年十一月晦 岸廼舎 〔明治43年7月25日／印刷所・秀英舎第一工場／発行所・裳華房〕 |
| 12月6日 | 漢故事和歌集 越前々司平時廣集 (書陵部本の現写本) | 一九六一 三六七五 | 本書卷三四欠歟／昭和二十三年十一月五日東横にて岸廼舎 春嶽公旧蔵本也／昭和廿三年大呂三 琳琅ニテ 岸廼舎 時広集 図書寮本也／十二月二日 桂宮本叢書再昌草校正二校也／販途借覧 為信集三部(補入「与」)時広集云云／同日於研究室及僑居写焉 午前一時写了／更写為信集(紫式部外祖父)少々写之午前二時／夜気意外温暖云云／昭和二十三年大呂六朝識之／岸廼舎／〔勅撰作者部類〕引用等の時広の覚書類省略 |

| | | | |
|--------|----------------------|----------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 12月9日 | 為信集 | 三六七六 | 為信集一卷 図書寮本 〈補入右傍書「奥書無之」本文題簽俱靈元天皇御宸筆歟／去二日借覽焉、時広集与為信集別本写了後六日及八日夜／九日午前閑写了矣 無類本焉／ 昭和廿三年大呂九 十一時半記之岸廻舎／廿一代集才子伝中在散三位之部、嘉元百首之為信云／為信集別本紫式部外祖父歟尚可考、 |
| 12月13日 | 精里三集文藁 | 八〇八 | 精里初集抄三／精里二集抄二／精里三集文稿五／ 合計十冊／ 昭和廿三年大呂十三過琳琅閣求之 三集完者稀觀也／ 故今求之供後日研究者也 岸廻舎識 |
| 12月19日 | 天降言 餐霞樓詩鈔 | 八八五 一〇八八 | 越前候旧藏本也／昭和廿三年大呂十三、琳琅ニテ 岸廻舎 吹田継志 近世漢學者著述目六大成不載云／ 昭和二十三年大呂十九日 高島屋古書店にて 岸廻舎 |
| 12月23日 | 和拾得詩 玉船集 扶桑殘葉集 | 一一九九 一四八五 五〇五七 | 昭和廿三年大呂十九日 高島屋にて 岸廻舎 昭和廿三年大呂十九 高島屋にて 岸廻舎 〈第一冊(目錄)今古殘葉集 扶桑殘葉集 異名同物也／扶桑殘玉集三十卷在図書寮、又・別種之集選也 |
| 12月25日 | 千草の花 | 九四八 | 〈第二十一冊(卷第二十)扶桑拾葉集 徳川光圀／扶桑殘葉集／今古殘葉作者未詳／ 昭和二十三年十二月二十三日於琳琅閣求之 岸廻舎 くぬが路の記二冊先考藏之、而千草能花無之、／千草能花卷四載先考十二〔有〕補入〕歳少年之日云、／友之即改友之助者也、祖母呼先考、常以友之助、蓋助之字／是官名、故一時皆省助矣云、 則先考称友之、後更改用／ 〓 (二字ミセケチ「十茂」と左傍書)能三字焉、今日見此文、感懐何堪乎／ 昭和廿三年大呂廿五半夜記之岸廻舎識 |

昭和二十四年己丑（一九四九）

| | | | |
|-------|----------------------------|----------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1月5日 | 江戸紫真実録 | 一三二一 | 昭和竜集己丑年大簇五 |
| 1月9日 | 小郡詩囊 迂園 迂語 | 一一三一 | 昭和廿四年大簇九 於琳琅求之／岸廻舎 |
| 1月上旬 | 実践和歌集 | 二〇四 | 昭和廿四年大簇上流 岸廻舎／沖森出店にて |
| 1月18日 | *天狗童子考察 | 四二七七 | 昭和廿四年大簇十八（山本直文氏を訪ふ途次） 五反田駅前百貨店にて 岸廻舎 |
| 2月4日 | 桂林先生遺稿 大ぬさ弁妄 丹鶴叢書 | 一一七一 三八八九 五〇五〇 | 昭和廿四年立春黄昏 琳琅閣にて 岸廻舎 昭和廿四年立春之日 岸廻舎〔右傍書〕琳琅ニテ〕 〔第一冊〕昭和三十年十月上流 於南陽堂求之／岸廻舎 〔第六冊〕越後北蒲原郡乙村、乙宝寺／ 昭和廿四年二月四日 琳琅ニテ岸廻舎 〔第九冊〕昭和三十年十一月中流／思文閣にて／岸廻舎 〔今昔物語〕冊〕自 ^{卷十一} 卷十二至 ^{卷卅一} 卷卅一合計廿二冊／ 昭和三十四年三月四日／於南陽堂求之／岸廻舎識 |
| 2月11日 | 牛頭天王曆神辯 | 一九六九 | 昭和廿四年二月十一日紀元節之日 東横にて／岸廻舎 |
| 2月20日 | 八代集秀逸 為兼卿和歌抄（書陵部本・桂宮本の現写本） | 三六〇七 | 八代集秀逸 一卷 図書寮本也 同本別存〔有〕に「在」重ね書き）左三部于図書寮／一軸／一冊／ 昭和廿一年大呂廿七日借覽嘱四片氏大晦朝書了／ 全二十二年一月二日一校了 与百人一首比較研究要有之、／ 大簇二日正午 岸廻舎識／ 嶋の羽搔き ^{写一} 、 ^{八代集秀逸} 〔旧目六〕右傍書〕一・八一・三一トアリ〕〔白紙〕 為兼卿和歌抄 一卷 列帖枕本 桂宮本也／ 珍書同好会本有誤字少々 云云 ／ 二月十七日訪図書寮 不問語校正 初稿来云云／ 販途借覽二十日日曜書写者也 余十一日来風氣／ 洩汁流不絶咳氣又不息 起又臥而緩々写焉／ 昭和廿四年二月廿日夜半十一時也／ 窗外有微風 夜氣漸温暖 風邪猶未息 云云／岸廻舎識／（後日補入） 同 三月廿六日合綴云云 |

| | | | |
|-------|---------------------------------------|---------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2月下旬 | 隱元和尚擬寒山百詠 | 五九六 | 擬寒山詩／張梅村 唐本有之／昭和廿四年二月下浣 沖森にて求む／岸廼舎 |
| 3月3日 | 文華秀麗集 | 一四二四 | 類従本以前書写、藤波家旧蔵本也、今日見〔見〕ミセケチ、補入「于図書寮」藤波家旧蔵管見記〔東大寺／縁起〕閱覧云云／昭和廿四年三月三日従圖書寮販途遇松雲堂／老主人健在 雑談暫時示此書乃求焉岸廼舎 |
| 3月12日 | 鴨羽搔 | 二二四 | 昭和廿四年三月十二日 南陽堂にて岸廼舎 |
| 3月20日 | 羅利留連路詞 老若五十首歌合 百首和歌寄書 後鳥羽院御集 | 三八二〇 二六一 二六五 三二九 | 昭和廿四年三月十二日村口にて岸廼舎 昭和廿四年三月廿日 琳琅にて岸廼舎 昭和廿四年三月廿日 琳琅にて岸廼舎 昭和廿四年三月廿日 琳琅にて岸廼舎 博物館一覽販途 琳琅にて岸廼舎 元曆御集三卷刊本／後鳥羽院御集二卷續類従／圖書寮本／遠島御百首／昭和廿四年三月廿日珠琅にて岸廼舎 |
| | 江吏部集 | 五一〇 | 昭和廿四年三月廿日 琳琅にて 岸廼舎 |
| | めのとのさうし | 八二七 | 昭和廿四年三月廿日 琳琅にて 岸廼舎 |
| | *竹秋遺稿 | 一三九五 | 竹秋遺稿有大槻磐溪之序故求之者也／／ 昭和二十四年三月廿日／琳琅閣にて 岸廼舎 |
| | 二四代集 | 六一六九 | 昭和廿四年三月廿日上野より販途 琳琅にて 岸廼舎 |
| 3月24日 | 十問最秘抄（福井本の現写本） | 三九二五 | 十問最秘抄 一卷 福井久藏翁蔵本也 巖島宮司野／坂氏文庫本転写也、恐 金子金次郎氏影／写而 贈于福井氏者歟、知 野坂文庫蔵本者、／金子氏松永子及余之外、無之也云云、／ 余先年囑高木翁 ^{岩瀬文庫主人} 影写岩瀬文庫／本矣、然有若干誤字、不易読者二三、因思校訂／未果、今日借覽福井本云云、原本不達筆、／夜八時起筆 十一時半写写兩聊記来由云云、 |
| | 太郎殿犬百首 | 三九八四 | 昭和廿四年三月廿四日 夜三更記 近來寒波襲／来而春分前後 朝々見薄氷 日々着厚衣／岸廼舎識 昭和廿四年三月廿四日東横にて 岸廼舎 |

| | | | |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------|-----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 3月26日 | 堀河院類聚百首 鈔（堀河院初度 百首抄） | 三〇〇 | 昭和廿四年三月廿六日 琳琅にて 岸廻舎 |
| 3月下旬 | 清輔朝臣家歌合 | 三八九 | 昭和廿四年三月下浣 琳琅にて 岸廻舎 |
| 4月22日 | 指出磯 磯の洲 崎 | 六三九 | 昭和廿四年仲呂廿二日 東横にて岸廻舎 |
| 4月23日 | 蒙求和歌 （中田本の現写 本） | 三八一四 | 蒙求和歌集 一卷 中田氏本也 卷上一冊 卷下欠／ 卷首有正意之端書焉 ／ 正意即堀正意 ^云 此底本正意筆也／滋野井文庫旧蔵本也／ 昭和廿四年 仲呂廿二日書了／ 亡祖母四十七年忌日相当／ 当时余少年 ^{小学校} 在館野村 ^云 ／ 蓼々者莪 匪莪匪伊蒿／岸廻舎識 |
| 4月28日 | 蒙求和歌（屋 代弘賢筆本の現 写本） | 三八一六 | 蒙求和歌集 屋代弘賢筆之転写本也／中田氏本也 昨冬借覽 昨今得閑書写 ／者也／昭和廿四年蕤賓廿八日朝写了／岸廻舎 |
| 4月29日 | 拾遺抄物 八代集秀逸 通光所筆（歌仙 落書） 俊成卿 九十賀記 四条 大納言新撰髓腦 三牀和歌 自 讚歌（合綴本） | 五二 一三八 | 昭和廿四年四月廿九日 琳琅にて 岸廻舎 △歌仙落書「奥」本卷他無所見今仮称通光△通光「朱傍線」卿歌論議 ^云 ／歌仙落 書ナリ／類從二百九十三ニアリ／昭和廿四年三月十七日夜十二時記之／岸 廻舎 △裏表紙見返△昭和廿四年四月廿九日 琳琅ニテ 岸廻舎 |
| | 龍門先生文集 二編 | 一一八二 | 卷五十六一冊欠本 ^云 ／／ 昭和廿四年仲呂廿三／松雲堂ニテ／岸廻舎 |
| | 袁唱庵存稿 初 編 | 八九九 | 昭和廿四年仲呂廿三／松雲堂ニテ／岸廻舎 |

| | | | |
|-------|--------------------------|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 4月29日 | 武家百人一首 寶治弘長嘉元 百首和歌 | 二八六 二九三 | 昭和廿四年四月廿九日 岸廻舎 昭和廿四年天長節之日 琳琅ニテ 岸廻舎 |
| | 兼好法師集 | 三三七 | 三条西家旧蔵本也戦後散佚者也／兼行自選家集・自筆草本附解説 前田家昭和五年複製二冊／書寮部本(朱) 兼好法師江戸写一冊／全江戸写一冊／全類從本(二六九)／内閣文庫本(朱)／：昭和二十四年四月廿九日 琳琅にて／岸廻舎 |
| | 奈万之奈 | 六二二 | 昭和廿四年仲呂廿八日 東横にて岸廻舎 |
| | 再昌草(逍遙院殿内府和歌集) | 三七八四 | 靈元院御宸筆也 与図書寮本再昌草全同筆云云 再昌草御宸翰有二部者歟／再昌草 ^{永正三四年} 欠本 ^{二卷} 桂宮本叢書所収、図書寮本有奥書／五月卅一日於図書寮与桂宮本比較焉了／昭和二十四年四月二十九日 於琳琅閣求焉 岸廻舎 |
| 4月下旬 | 不知夜記 | 三五二四 | 〔三十三丁ウ〕昭和廿四年四月下浣 琳琅にて／岸廻舎 〔三十四丁才〕不知夜記 一冊 三条西家旧蔵也 偶入余手中者也／去六月中浣依囑于圖書寮遠藤氏、尔來多忙云云／九月廿七日与東伏見伯同道而到図書寮、製本出来云云／談数分、及朱子全書裏打修理、如遠藤氏者、難得／裝潢師也云云／昭和二十四年九月廿八日、黄昏爽涼風、微月在／半天 岸廻舎識之 |
| 5月10日 | 少女巻抄注 | 一一三三 | 昭和廿四年 蕤賓旬 琳琅ニテ 岸廻舎 |
| 5月20日 | 竹前文庫 | 四七七三 | 竹前全集廿冊／十餘年前求于村口書房、先代半二(次郎)氏／在世中也／昭和廿四年蕤賓廿日追憶往時而記之／岸廻舎 |
| 5月中旬 | 小倉山莊色紙伝草稿 | 五二二九 | 昭和廿四年蕤賓中浣 於文行堂求之 岸廻舎 |
| 5月28日 | 蒙求和歌 (中田本の現写本) | 三八一六 | 蒙求和歌集 屋代弘賢筆 之転写本歟／中田氏本也 昨冬借覽、昨今得閑書写／者也／昭和廿四年蕤賓廿八日朝写了／岸廻舎 吉田幸一氏蒙求和歌集精選本奥書如左／〔吉田本奥書五行省略〕／壬申寛永九年歟／／昭和廿七年六月下浣／一覽、七月七日夜書之 |

| | | | |
|-------|--------------------|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 5月30日 | 玉の緒変格辨 | 七二〇 | 昭和廿四年五月三十日 文行堂にて岸廻舎 |
| 6月5日 | 四十二の物あらそひ(四十二物詩考証) | 一二七三 | 大槻文彦旧蔵本也/昭和二十四年林鐘五/図書倶楽部にて/岸廻舎 |
| | 文華秀麗集 | 一四二〇 | 昭和廿四年林鐘五 圖書倶楽部にて 岸廻舎 |
| | 経国集 | 一四二七 | 昭和廿四年林鐘五 岸廻舎 |
| | 標注播磨風土記 | 三〇一四 | 昭和廿四年林鐘五 於図書倶楽部 岸廻舎 |
| 6月10日 | *十才子明月詩集 | 一七六四 | 昭和廿四年六月十日 東横にて岸廻舎 〔昭和5年7月28日/編輯兼発行者・山田清作/発行所・米山堂〕 |
| 6月20日 | 二十四孝図説 | 四五二七 | 昭和廿四年六月廿日/東横にて/岸廻舎 |
| 6月中旬 | 宇都保物語新治 | 一一七二 | 宇津保物語新治二冊(著者自筆本也 自卷一五至卷二十) 巨勢家蔵本一一冊 岸廻舎 昭和二十四年五月八日訪巨勢氏而見宇都保物語新治云 行木氏同道 六月中浣求本書 二冊巖松堂 巨勢利和自筆稿本也 |
| 6月25日 | 壁草注(小西本の現写本) | 三九一七 | 壁草注上下二卷 高野斑山蔵本云/ 以伊地知氏転写本書写了 伊地知本 以 加持井宮文庫/ 及岩瀬文庫之本校訂者也 岩瀬本ハ無註本也/ 加持 〔補入「井」本 上卷欠本也今太田武夫氏所蔵焉 太田氏終戦前/ 疎開于上 田市 尔来久闊無面晤期云/ 六月十一日借覽 於家中書写了/ 昭和廿 四年林鐘廿五日夜記之/ 霖雨蕭々夜氣涼 涓々占滴暗中響/岸廻舎識 〔朱〕太……〔緑〕太田本/〔朱〕朱……岩瀬本/〔緑〕緑……小西本、壁草初稿 本歟 有異同矣云/〔墨書〕七月三日午後一校了午前閑人二三来訪転青眸対 之空費烏兔云/〔緑〕五日午後一校了 涼風入窓 〔墨書〕小西本卷頭〔卷頭丁の模写〕〔卷末の丁の模写〕同卷末、〔緑〕綠色書入 全部小西本也 七月四日午後七時半/校了書/込終了 |
| 7月6日 | 古今著聞集 | 一三五七 | 昭和廿四年夷則六 岸廻舎 |

| | | | |
|--------|---------------------------|--------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 7月10日 | 隨齋諧話 | 三九七五 | 昭和二十四年七月十日／東横にて 岸廼舎 |
| 8月下旬 | 蒲門盃簪集 | 一三三六 | 昭和廿四年 南呂下浣家ヨリ持来ル 岸廼舎 |
| 9月中旬 | 繁華集 | 九六 | 観瀾閣伊達家旧蔵本也 径年到大井町観瀾閣覽蔵書矣／昭和廿四年無射中浣求之岸廼舎 |
| 9月28日 | 大式重家集（久我家旧蔵本の現写本） | 三七四七 | 大式重家集 下巻 久我侯爵家旧蔵現在折／口信夫氏書架 重要美術也 （昭和十七年十二月十六日指定）／昭和廿四年四月借覽今茲三四月交影写了／前田侯蔵重家集与本書併合完結者也／重家集完本、只余蔵本而已／昭和廿四年無射廿八日夜記之／岸廼舎 |
| 9月29日 | 貞山公集（伊達観瀾閣本の現写本） | 三七八九 | 貞山公政宗集 一卷 伊達観瀾閣蔵本也／往年余屢到大井町伊達伯邸閱覽蔵本／今日見伊達本于東横細川店而感慨不可措云云／昭和廿四年九月廿九日 岸廼舎 |
| 9月29日 | 女学範 無冤録述 | 四〇九六 四四四四 | 昭和廿四年九月廿九日 岸廼舎 昭和廿四年九月廿九日 岸廼舎 |
| 10月3日 | 俳諧百首 | 一〇六一 | 昭和廿四年十月三日 琳琅にて 岸廼舎 |
| 10月7日 | 縣居雜録 | 三一六四 | 昭和廿四年十月七日 岸廼舎 |
| 10月10日 | 貞治中殿御会 （雲井の花） 東山翁遺文 | 九四 四八九八 | 昭和二十四年十月十日岸廼舎／（類従本ハ詞ノミ本書は歌ノミ）今併シテ完本トナルナリ図書寮本ハ完本也 本書仙臺伊達家観瀾閣蔵本中之一也。未有天狗之記事云々／昭和廿四年十月十日 琳琅ニテ 岸廼舎 |
| 10月中旬 | 万葉和歌集（万葉集） | 一〇 | 〔萬葉集刊本〕以下6行覚書省略 昭和廿四年十月中浣／（二行割注）去八月於不昧堂店頭見之／店主宮脇氏今日贈来云云／宮脇氏より 岸廼舎 |

| | | | |
|---------------|----------------------------------|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 10月22日 | 新潟富史 | 三〇四八 | 昭和廿四年十月廿二日京都其中堂にて |
| 11月15日 | 顔氏家訓 | 四四六三 | 昭和二十四年十一月十五日 伊賀國沖森店 求之 岸廻舎 |
| 12月9日 | 八居題詠 | 一五八九 | 昭和二十四年大呂九／沖森より／岸廻舎 |
| 12月16日 | 新撰菟玖波集 卷一 (東京文理大本の 現写本) | 三九〇九 | 新撰菟玖波集 四卷 東京文理大本也 今茲六月購求／余蔵本而欠卷一者也 然(ミセケチ)本書影写本(本書影写本而)と「欠卷一者也」に転倒符(故今写卷)一而補欠卷云／昭和二十四年大呂中浣 ^{自十四日} 夜書写了／岸廻舎識／十一月身世匆忙俗事紛々／十二月中浣漸得小閑矣／畠山牛庵与琴山之極札有之／ 廿五年十月製本完成／表紙梅針模様北野神社関係歟 |
| 昭和二五年庚寅(一九五〇) | | | |
| 2月12日 | 月清集(秋篠月 清集) | 三二八 | 昭和二十五、二月十二、文行堂にて 岸廻舎 |
| 2月14日 | 臥龍軒記 | 一〇五〇 | 常觀／亀文／野知齋／珍菴／和礼齋／盧人／本書无題・俳文也／昭和廿五年二月十二日 書道文化講演会於博物館小講堂／販途文行堂にて／岸廻舎 |
| 2月中旬 | *粉河寺縁起 | 一二七二 | 昭和廿五年二月十四日 文行堂にて／書道文化会の日 岸廻舎 |
| 3月3日 | 滄溟先生集 | 四二六八 | 〔箱書〕絵巻物研究の分 昭和廿五年二月中浣 (大正7年11月25日発行／粉河寺縁起刊行会／龍吟社発行) |
| | うつほ物語 | 二七八 一一六七 | 昭和廿五年三月三日／麴町四丁目 細川にて／岸廻舎 良本ならねど出版先きによりて求(虫損)者也 岸廻舎 昭和廿五年三月三日 岸廻舎 |

| | | | | |
|--|-------|-------------------------------|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | 4月1日 | 源氏物語(桐壺・慈鎮本) (現写本) | 三二七五 | 桐壺一卷／石井庄司氏知人／蔵本也 為／筆跡鑑定借覽ノ之序、書写者也 ／鎌倉初期写本／為家様有之／文字達者云云／三月廿日写了ノ 慈鎮筆円山切与異筆而慈鎮筆ニアラズ／表紙ハ後ニツケタルモノナリ 古キモノヲ求メテ修補シタルナルベシ／墨付二十八葉 白紙〔裏〕補入ノ 表紙一葉／〔原〕補入ノ 表紙ハ白紙一〔一〕右傍記、墨付一白紙三 コレ ニ修補ノ現在ノ表紙有之ノ綴誤リアリ、一、五、六、七、八、十〔一〕〔欠〕字ミセ ケチ〕二、三、四、十一、十二、十三―二十八、欠(○の中に「欠」字)ノ 二十九、三十、三十一、三十二 |
| | 5月3日 | 万葉集傍註 | 五三八七 | 〔伝慈鎮筆 天神縁起ノ慈鎮筆 詠三首和歌ノ々 消息 等有之ノ 三月 十二日借覽ノ 十八日から書写ノノ 三月廿一日、〔読点ママ〕於上野博物館古筆展、飯島氏其他一覽ノ尾上八郎氏 亦一覽云云 尾上氏鎌倉時代之筆不分明歟ノ(曰「此本永正頃歟」云云)〔丸括弧 内ママ、補入か〕ノ 昭和廿五年仲呂湖 春雨浪々早朝記之ノ岸廻舎ノ 四月〔自〕補入ノ十九日夜校了云云ノ〔至〕補入ノ廿日午前一時 |
| | 5月10日 | 夢の通ひ路物語 (卷三) (尾州家本の現写本) | 三三三九 | 〔卷一〕二、卷四ノ六は昭和五年の項に別記ノ 夢の通路物語 三 昭和廿年四月十三日戦災焼尽ノ 同廿五年自四月上流書 写 得閑写若干葉至五ノ月八日朝写了 追懐二十年前則如夢幻泡影云云ノ 昭 和二十五年蕤賓五月十日浪々初夏夜雨ノ 和風而窗前喧云云ノ岸廻舎ノ 仲呂 六日ノ 七日 金 雨ノ 八日 雨 十日ノ 十五日(青墨)十八 日(墨書)二十二日ノ 蕤賓二日自朝至夕刻 二十四葉ノ 四日木 至五時半 残葉三ノ 八日月 写了ノ(青墨)八月廿九日朝以藍一校了ノ(墨書)八月 廿九日十一時二十分於ノ蓬左文庫、一校訂了ノノ 九月中浣図書寮製本 十月十三日製本出来持参ノ 九条本堤中 二冊 夢通路卷三 一 新撰菟玖波集卷一 一 松風 一 延徳抄 一 作文大躰 童蒙頌韻 一ノ きりつほ 一ノ 佐古呂裳卷二(平瀬本)左傍書 一ノ 讚 岐下り水くらげ句集 一ノ 九部十冊 以上ノ 十月十五日朝記之ノ 原稿亦焼尽、近年身 允ノ 後日再起稿 亦難哉。々々、可憐々々ノノ |

| | | | |
|-------|-------------------------------|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 5月10日 | 夢の通ひ路物語 (巻三) (尾州家本の現写本) | 三三五九 | 此物語注解之事 先年徳川侯依囑有焉／余得閑暇 隨時進稿矣 然原稿等悉蒙戦／災而不余一物皈灰燼了矣、巻三亦燒尽、再書写／追補、為六巻者也 |
| 5月17日 | 懐風藻 | 一四〇五 | 昭和十二年十一月三日 岸廻舎 〔朱書〕昭和廿五年五月十七日以尾州家本一校了／午後五時也／岸廻舎 |
| 5月25日 | 讚岐くたり水くらけ | 三三三二 | 〔讚岐下り水くらけ／句集〕 合一冊 上野図書館蔵本也／五月十四〔ミセケチ「五」右傍書〕日借覽 同廿四日於家中写了／水くらけ 先年 希求之本也、戦時中疎開云云、今介高坂氏而借覽者也 各巻首無題簽、今便宜挿入矣／昭和二十五年蕤賓五月廿五日夜記之／二十六日朝夜一校夜二更校了 岸廻舎 〔宗固作品諸本記事四行省略〕 五月二十八日朝一校了』 〔紀行文ハ讚岐下り／句集ハ水くらげ〕タルナリ 後人誤リテ讚岐下り水くらけヲ一名トセリ |
| 5月下旬 | 作文大体 童蒙頌韻 (契沖本の現写本) | 四八一〇 | 作文大牀 童蒙頌韻 一冊 山口図書館蔵本也〔右傍書「契沖阿闍本也」〕／依頼于山口女專教授瀨利氏而写了／女專生徒寄合書也 昭和十七年之比云云 ／終戦後整理今月上浣綴之／ 昭和廿五年蕤賓下浣識之／岸廻舎 |
| 6月2日 | 源氏物語(松風) (越部尼筆の現写本) | 三二七六 | 松風卷 一卷〔伝〕補入 越部尼筆 尾州徳川家蔵本也／河内本源氏物語複製時購入松浦伯蔵本／者也外 唐鏡 竹河 総角／延徳抄 原中最秘抄 <small>長親等々</small> 自筆等々購入焉／余萬〔時〕ミセケチ「事」右傍書 時周旋之云云／蓬左文庫本来月皈千名古屋市不堪惜別／去五月三十一日〔右傍書「午前十一時ヨリ」〕左傍書「三十三葉」及六月二日〔右傍書「三時半ヨリ五時マデ」〕〔左傍書「十一葉」〕夕刻匆卒影写了／昭和廿五年林鐘二日夜雨浪々檐滴嫋々／岸廻舎識 |
| 6月上旬 | 随葉集 | 一〇〇五 | 随葉集三冊／版本活字版／二整版 三小型整版／昭和廿五年 林鏡上浣求之沖森岸廻舎 |

| | | | |
|-------|----------------|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 6月25日 | *為兼卿和歌抄 | 三六六七 | 昭和二十五年六月廿五日受領 〔昭和24年7月25日発行 宮内庁書陵部(図書寮)〕 |
| 7月8日 | 宝物集 | 一三四八 | 昭和廿五年夷則八／沖森にて／岸廼舍 |
| 7月上旬 | 西公談抄 歴世女装考 | 三〇一〇 | 昭和二十五年七月上浣／沖森にて／岸廼舍 |
| 7月13日 | 楢葉集 | 三六二二 | 楢葉集 一卷 東大寺図書館蔵本也(右傍書〔東大寺本者下巻 前出家本有上館云云〕) ／以 橘氏転写本 書写了 <small>午前中揮毫 毫者也孝道以下</small> ／昭和二十五年七月十三日記之 ／岸廼舍／昭和二十七年九月二十三日 二十四日兩日／東京文理大國語国 文学会挙行偶見石井氏借覽／楢葉集而二十四日夜借覽書写五十四葉為卷下／ 完本者也』九月二十四日夜若干葉書写／々二十五日 於家中書写 夜半猶 二十八葉殘／々二十六日 家内風氣、瀬川氏來訪 夜竹田氏來訪／書 写不能／二十七日 順宮御茶会 於侍從職云云 訪一誠堂／主人／ 二十八日 於家中書写四葉殘／二十九日 朝全書写畢 一校了／ 二十九日朝識之／ |
| 6月12日 | 延徳抄(蓬左文庫本の現写本) | 三九三八 | 〔卷末押紙〕昭和二十五年五月八日以蓬左文庫本景鈔了／為山岸先生也／甚一 ／六月十二日從小西君受領之 岸廼舍／延徳抄一卷 蓬左文庫蔵本／ 縦九寸 横六寸八分 大和綴／表紙 紺紙 <small>表薄緑 裏薄藤徳</small> ／〔綴じ・表紙の模写〕〔極 札の模写〕／昭和二十五年六月廿六日／岸廼舍記之〕 延徳抄 松浦伯旧蔵本也 昭和八年秋松浦家／売立有之 当時河内本源氏 物語複 製準備中也乃依頼于徳川侯而 購入 唐鏡 延徳抄 源氏物語 物語 <small>松風 総角</small> ／原中最秘抄 <small>長親 筆</small> 其他若干矣／右書籍与旧蓬左文庫本区別而新 入本／者皆為侯爵蔵矣／今茲 春 蓬左文庫本再販名古屋云云／五月廿 七日徳川講堂開諸本送別展、朝／来雨天五時閉会云云／六月廿八日雨夕 記之 |

| | | | |
|-------|----------------------|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 7月13日 | 檜葉集 | 三六一二 | 昭和十二年三月四日／春雨浪々行書陵部 見慶融筆本転写正応三年／拾遺集書陵部蔵慶融本之転写本同一而与高／松宮家三代集中之拾遺集同系本也／但现在叡古写拾遺集歟 価格拾六万円也云云一覽、了購入手續 而〔補入「調」後一条帝以後至 高倉帝／皇后 女御關係之事蹟矣／檜葉集 ^{自卷一} 至卷六上卷古前田家尊経閣云云他日須／書写者也 昭和二十九年三月四日夕記之／岸廼舎識 |
| 7月22日 | 檜葉和歌集 (天理本現写本の転写) | 三六一四 | 〔黒ペン書〕檜葉和歌集 一卷／天理図書館本也以橋本氏転写本安井氏／書写焉、借覽安井氏本而不違一字／不〔違〕補入〕体裁書写了 和子写了／自六月中旬至七月上旬得閑而／ 隨時書写云云／昭和二十五年七月十三日／岸廼舎記之 |
| 7月27日 | 鈍狗斎新篇(太平新詠) | 一七三九 | 〔表見返に別紙貼付「太平新詠」の見返題と卷末の模写〕表紙裏／〔図〕／鈍狗斎新篇改題曰 太平新詠／〔図〕／ 昭和廿五年七月廿二日朝〔裏見返〕本書ハ太平新詠ト改題シテ後二刊行セリ |
| 7月下旬 | 中務集(前田本の現写本) | 三七七〇 | 〔鉛筆〕昭和廿五年七月廿七日／川合久子〔墨書〕中務集一冊／ 前田家蔵本元影写／複製本者也 岸廼舎 |
| 7月9日 | 怪談実録 | 三一九三 | 怪異談叢 五冊 天明元年刊／奇異雜談集 六冊 元禄五年刊 昭和廿五年夷則下浣岸廼舎 |
| 8月30日 | 宇治大納言物語 | 一一九六 | 怪談諸國物語 固水 一夜船五冊 享保十一年 昭和廿五年夷則 下浣 岸廼舎 |
| 8月9日 | 狂詩諦志題 | 一七六二 | 昭和廿五年南呂九日 於大屋求之 |
| 9月2日 | 大和物語 | 一一九七 | 以蓬左文庫本宇治物語卷四、二校了朱筆欠卒校訂／右卷四者宇治大納言物語異本也／昭和廿五年八月卅日於蓬左文庫記之／岸廼舎 〔挟込紙片〕昭和廿五年九月二日／於蓬左文庫校訂／後 得少閑 閱覽／宇治物語 而 記綱目／大体与流不本同／若干有異同焉／ 昭和廿五年九月二日 午後記之／岸廼舎 世継物語系也 九月五日記之 |

| | | | |
|--------|-----------------------|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 10月 | 梅外詩鈔二編 | 九二八 | 昭和廿五年秋十月於東京購之 芳己枝爾樓 |
| 11月20日 | 源氏詞知 (神宮文庫本の現写本) | 五二二八 | 源氏詞知 一卷 神宮文庫本／昭和廿五年十一月十八日受領小西氏自筆／影写本云云氏不多利用故惠贈于余藏書／中矣 小鏡淺聞抄之類而也 良本也／十一月廿日朝記之 |
| 12月2日 | 大和物語 | 一一九八 | 昭和二十五年大呂二 湯島聖堂にて 岸廻舎 |
| 12月6日 | 連譚破邪顯正追加 (小西本の転写本) | 三九四一 | 連譚破邪顯正追加 一卷／小西氏書写之稀本也 為余所送焉／大正新修大藏經購入之件談合了之時、於研究室(為余所送焉)に繋げる指示線あり／于皆 昭和廿五年大呂六日黄昏／七日朝記之／岸廻舎／(朱筆)七日朝以朱一校了／(墨書)連譚破邪顯正 |
| 12月12日 | 古今集序注 | 一三 | 昭和廿五年 大呂十二日 岸廻舎／仲森より |
| 12月18日 | 甲庚秘録 | 五〇九二 | 昭和廿五年大呂旬八／沖森にて／岸廻舎 |
| | 詞の玉の緒より つき | 七〇六 | 昭和廿五年 沖森ニテ 岸廻舎 |

| | | | |
|---------------|---------------------|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 昭和二六年辛卯(一九五一) | | | |
| 2月10日 | 年中行事歌合 (年中行事五十番) | 四〇六 | 年中行事五十番和哥 三卷／年中行事歌合類従八七所収／／小西氏本／(題簽) 年中行事／内題 関白家五十番歌合) 写本一冊有之／古写／同一本也 昭和廿六年二月十日夜記之 |
| 2月11日 | 後邨居士詩(劉後村全集) | 二六五 | 劉後村全集(自卷一／至卷六)合一冊、恐五十卷二十四(四)ミセケチ「五」右傍書冊本歟／ 卷八以下欠本也／ 昭和二十六年二月十一日夜／記之 |
| 2月上旬 | 小野小町家集 | 三二五 | 《表見返》小野小町家集卷上写 《補入》「歌仙」家集本小町集全同一也 《裏見返》我邦婦人之歌体艶媚秀麗後世之人再三嘆賞者以小町爲／第一紀貫之評以爲衣通姫之流亜者不亦乎余生千歲之後／誦其歌尚使人心醉而當時公卿見其殊色、心魂飛越者豈不／宜乎古人称紅顏薄命余豈羨其才而嘆其次軻數苛云／ 昭和二十六年二月上浣 岸廻舎 |

| | | | |
|-------|-----------------------|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 3月21日 | 殷富門院大輔集 (桂宮本の現写本) | 三七五二 | 殷富門院大輔集 一卷 書陵部桂宮本也 / 以安井氏転写本書写了 余一二葉他 / 葉全部和子書写矣 他無類本云云 / 昭和二十六年三月廿一日春季皇靈祭日午後 / 記之、続類従本殷富門院集与本書別 / 本也、岸廻舎識 / 昭和廿六年九月廿八日東山文庫展參觀之日、於書陵部 / 持參、遠藤氏製本也云云 / 此日製本、宇都保物語新治五冊 殷富門院大輔一冊 / 源氏詞知 一冊、水無瀬三吟註 一冊 / 連歌破邪顯正追加一冊 九冊也矣 |
| 4月29日 | 奈良花林院歌合 (永縁奈良房歌合) | 三六二七 | 奈良花林院歌合 一卷 桂宮本也 / 靈元院御宸翰本云云 / 以或轉写本、書写者也 / 他無類本作冬偷閑遂書写畢 富美子 / 奈良花林院歌合藤原基俊判 / 永縁奈良坊哥合 源俊頼判 / 昭和二十六年四月二十九日記之 / 同日午後一校了 / 六月十七日補写落丁二葉於研究室云云・富美子 |
| 6月10日 | 水無瀬三吟註 (小西本の現写本) | 三九一〇 | 宗祇集 一卷 小西氏蔵本也 実非宗祇集 水無 / 瀬三吟百韻註也 此百韻之註元来稀少因書 / 写者也 筆者富智庵主人云云 / 昭和二十六年林鐘十日 岸廻舎識之 / 同日午前中一校了 / 非宗祇集而水無瀬三吟註也 坊間稀有之書也 / 昭和二十六年九月廿八日製本出来于書陵部 / 源氏東山文庫本展覽会參觀之日持販 / 筆者同道云云 |
| 6月16日 | 枕草子春曙抄 | 三四八五 | 春曙抄十二冊初刷本也 / 昭和二十六年林鐘既望之日赤十字病院訪田忠 / 而販途求之于病院前書肆 岸廻舎 |
| 6月18日 | 表白集 寂巖本 (南陽堂本の現写本) | 一三八六 | 表白集 一卷 五智山如幻慧旭 両和上作也 / 表紙右下 寂巖筆有焉 (寂巖筆歟 / 可尋云云) / 水道橋畔南陽堂待賈之書也 / 借覽之序、于一夜写了家中 自而 / 六月四日借覽同五日返却 / 昭和二十六年六月十八日記之 / 岸廻舎 |
| 6月25日 | *成尋阿闍梨母集 (複製本) | 三七二五 | 成尋阿闍梨母集一冊 先年為人所借失 今茲林鐘下浣偶々於琳琅閣求得焉 / 昭和二十六年林鐘下浣 ^{二十識之} / 岸廻舎 ^{有五識之} / (昭和40年1月25日発行) / 古文学秘籍叢刊 / 古文学秘籍複製会) |

| | | | |
|----------------|-------------------------|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 8月5日 | 和歌秋風抄 | 三六〇三 | 和歌秋風抄 上下二冊 以安井氏〔補入〕本、書写畢、〔読点ママ〕石崎氏写焉 ／ 昭和二十六年八月五日記之 七月末写了也 宗尊親王撰集云 岸廼 舎識 上卷六二〇首 下卷一四六二〔四字ミセケチ〕八四二〔左傍書〕首 計 一四六二首 源承口傳云 真觀東に侍りし始に集めたる哥 ^号 八代抄、名字 千載 集中二出王御上洛 之後追披露之 代集 八代抄中務卿親王撰 トアリ |
| 9月下旬 | 絲濱亭文集 | 八五〇 | 象麓 謙谷 藻海 三野知彰ハ象麓ノ子ニシテ号ハ謙谷 頼杏坪 菅茶山ニ 学ブ 昭和廿六年九月下流 岸廼舎 |
| 12月19日 | 大塔物語 後光明天皇御製 詩集 | 二七五一 八一〇 | 昭和二十六年無射下流 松雲堂 岸廼舎 〔朱書〕帝詩人也 若年而有此詩〔可〕ミセケチ 括目可見者也 昭和卅八年 林鐘六日夜一読了 岸廼舎 〔墨書〕昭和二十六年大呂十九日 沖森より 岸廼舎 |
| 12月21日 | *正信偈句題和 歌 | 三八三八 | 昭和廿六年十二月廿一日 岸廼舎 〔明治11年11月23日 出版人 赤松連城〕 |
| | *欄斎雜放 | 三二二六 | 〔卷〕昭和二十六年 〔明治42年12月4日再版 編輯兼発行者 木村正辞 発行所 光風館書店〕 |
| 昭和二十七年壬辰（一九五二） | | | |
| 1月5日 | 建擲記拔萃 | 二二二二 | 斯文会にて漢文問題会今夜 昭和廿七年一月五日岸廼舎 |
| 1月上旬 | 詠歌一鉢 | 一三〇 | 昭和二十七年大簇上流 岸廼舎 |
| 1月27日 | 重家集（上野図 書館本の現写 本） | 三七四八 | 重家集二卷 上野図書館本也 故岡田希雄本 陸士校本 上野本 云云 国学院 大学院石崎氏借覽之際請轉借而 家中書写者也 〔上卷廿日 廿四日 下卷廿五 六両日〕 昭和二十七年大簇廿七日記之 岸廼舎 余 先年 前田候本〔補入〕与 久我候本筆写焉 須対校彼此者也 〔以下〕重家 歌の見ゆるもの、覚書類省略 |

| | | | |
|-------|------------------------------|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 6月16日 | 連歌撰善集 箋釈豊後風土記 | 三〇二一 | 昭和廿七年林鐘既望神田にて求之／岸廼舎 |
| 6月15日 | 北辰妙見経和訓 図会 | 二二四四 | 昭和廿七年林鐘十五日／京都思文閣にて／岸廼舎 |
| 5月25日 | 和泉式部物語 (柳原家本の現写 本) | 三五〇九 | 和泉式部物語 旧柳原子爵家藏本也 後転紅梅文庫／今為吉田氏秘襲本也 ／余今茲蕤賓中浣借覽(十七日土皇朝文学会／源氏講演会之日)二行割注 書於家中／書写者也、匆卒写了、余卷首及卷末而已、昭和二十七年五月 二十五日記之／岸廼舎識、同日一校了、應永本系也云、(以下に原 本の帙題簽の模写あり)／帙之題簽如右、 (朱書)昭和二十七年十一月十七日到書陵部云 |
| 5月18日 | 枕草子 能因本 (富岡鉄斎旧蔵 本の現写本) | 三四八四 | 枕草紙 能因本 二冊 今分冊為四冊／吉田幸一氏藏本也 旧富岡鉄斎翁 ／蔵本矣 室町末期書写本也／今年仲呂十五日北野側訪吉田氏借覽、嘱 石崎氏書写者也 石崎氏國學院大学大／学院学生而能筆家也、蕤賓九日受 領者也、昭和二十七年五月十八日記之 岸廼舎、与三条西家旧蔵能因本須 校訂者云、富岡本基盤地紺表紙二冊也 無題簽、 (朱書)昭和二十七年十一月十七日到書陵部 本日製本出来云、四条宮調査 云、古今聞書之類山積不堪見、親行本源氏物語 明心写本一覽、再昌草卷 十五(桂宮本叢書)△底本「朱書補入」一見云、十七日夜記之 |
| 2月16日 | 西行法師家集 | 三六八 | 昭和二十七年二月十六日／漢文問題の頃 斯文舎にて／岸廼舎 |
| 1月27日 | 重家集(上野図 書館本の現写 本) | 三七四八 | 昭和廿七年一月廿七日午前中記之／岸廼舎 昭和廿七年二月十三(五)ミセケチ、右傍書「三」日到国会而飯途訪国立図書 館／見源氏物語英訳独訳而飯路 同十五(四)ミセケチ、右傍書「五」日又到 同日(又)到同日「ミセケチ」／又到国会飯路訪圖書寮、製本出来矣、和歌秋 風集 狭衣内閣本、重家集 二月十七日記之 |

| | | | |
|-------|---------------------|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 6月26日 | 和泉式部物語 (応永本の現写本) | 三五〇八 | 和泉式部物語 一卷 京大研究室本也 奥云 / 応永廿一年云 以小川氏模贍写本書写者也 / 余大正末年 昭和初年 因吉沢氏入手一本 / 其後紛失有年 今茲六月書写于家中 / 昭和二十七年林鐘下浣(二十有六日)二行割(注書) 記之 (以下、書本奥書・識語の抄写、省略) |
| 6月下旬 | 日本神字考 | 三二二二 | 昭和二十七年林鐘下浣 於日本堂 / 岸廼舍 |
| 7月15日 | 続沙石集 | 一三六六 | 〔朱書〕七月七日午後一読了加朱筆 〔墨書〕昭和二十七年夷則朔 於沖森書林求之 岸廼舍 |
| | 伊勢物語 (黒川本の現写本) | 三二五三 | 伊勢物語狩使本 実践女大黒川家旧藏本也 / 為参考書写者也 / 二十七年七月十五日 / 国文科四年生君島智子影写云 / 岸廼舍 / 狩使本七十一段以後抜書本ナルベシ。 / 可信用〔非〕補入本文也 |
| 8月1日 | 孟蘭盆経疏新記 | 二二二三 | 昭和二十七年南呂朔 / 岸廼舍 |
| | 孟蘭盆経会古通 今記 | 二二二四 | 昭和二十七年南呂朔 岸廼舍 |
| 8月28日 | 上野本 宝物集 | 三四三五 | 寶物集 上下二卷 上野圖書館藏本也 / 今合綴為一卷者也 / 本書元來圖書寮藏本而題簽 / 靈元帝自筆也往年貸付〔補入〕于上野圖書館而 / 忘却遂編入上野圖書館者也平 / 今茲春三月下浣石崎氏拝借覽書写之時余亦 / 一覽有書写之意石崎氏得閑又影写所為余 / 贈一本者也 感謝々々 / 昭和二十七年八月南呂下浣二十八日朝記之 / 岸廼舍 / 残暑溽熱半夜猶 / 如座甌中流汗淋漓遍于腹背 / 近年希有云 |
| 9月27日 | 至元法宝勘同総 録 | 二二四二 | 昭和三十七年無射廿七日 / 其中堂にて岸廼舍 |
| 10月上旬 | 西行物語 | 四二八四 | 昭和二十七年十月上浣 岸廼舍 |

| | | | |
|--------|------------------------------------|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 12月25日 | 永源寂室和尚語 | 五二三 | <p>〔乾〕卷、前見返〕寂室元光 美作國高田人也 正應三年五月望／日生 元應二〔元〕ミセケチ〔二〕右傍書〕年入元／延文五年江州佐々木氏頼猷奥鳥雷溪之地乃／建立永源寺雷溪</p> <p>〔坤〕卷奥〕元光〔永源寺開山〕寂室と号ス／元応〔元〕ミセケチ〔二〕右傍書〕年入元〕 臨濟宗 本朝高僧伝卷三十一／／昭和三十七年十月廿五日／ 京都市寺町道姉小路佃川にて求之／岸廼舎</p> |
| 11月23日 | 和歌虚詞考 *函山史詩 | 六三六 一三八二 | <p>昭和二十七年十月廿五日／京都 細川書林にて 岸廼舎</p> <p>昭和二十七年十一月廿三日／斯文会にて 岸廼舎</p> <p>〔昭和六年八月七日〕印刷者・鈴木越武／発売所・益文堂書店〕</p> |
| 11月26日 | 建久二歳辛亥十月御順礼記 | 二二四二 | <p>建久御巡礼記吉備大臣物語一冊寛保写本／天理図書館蔵本也十月上浣介中村氏／借覽之際於家中書写者也／十月十日快晴立太子式日起筆／十二日雨天二十一日写了云／昭和二十七年十一月廿五日夜記之／</p> <p>翌二十六日朝校了岸廼舎／建久御巡礼記／昭和二十九年三月四日</p> |
| 12月2日 | たむの岑の少将 (多武峰少将物語) (酒井家本の現写本) | 三三二五 | <p>〔四〇オ〕多武岑少将物語 一卷／旧若狭小浜領主酒井伯爵家世襲／什物也 抛飯島氏周旋借覽調／查之際影写者也／十一月廿五〔七〕ミセケチ〔五〕右傍書 夜借来、廿五日夜〔四字〕ミセケチ〔廿二日夜書始〕補入〔廿七日〕〔午後及〕補入 夜／〔廿八日夜〕補入〔廿九日朝 三十日午前十二月一日午後五時〕 偷閑書了／〔昭和二十七年〕補入〔十二月二日夜綴了識之 岸廼舎／現存最古写本也〕／忠勝入手之際修理歟〕〔元本の体裁・書誌あり省略〕</p> <p>此本渡于京都骨董屋後入一誠堂酒井／氏手中 価拾六万円也云云／ 昭和二十九年三月四日記／岸廼舎識</p> |
| 12月4日 | 仮名文字遣 | 六二八 | <p>昭和二十七年大呂四 岸廼舎／於南陽堂</p> |
| 12月11日 | 詩法纂要 | 四九〇 | <p>詩法度鍼上帙也 昭和二十七年十二月十一日 山本にて／岸廼舎</p> |
| 12月18日 | 龍山遺稿 | 九九二 | <p>大阪版少于関／東也／昭和二十七年大呂十八日 説二松学舎 販途／松雲堂にて 岸廼舎</p> |

| | | | |
|--------|--------|------|------------------------------|
| 12月19日 | 三賢秘決 | 一一二 | 三賢秘決一冊／八雲口伝也／昭和二十七年大呂十九日／岸廻舎 |
| 12月22日 | 音訓国字格 | 六五七 | 昭和二十七年大呂廿二日夜珠眼にて岸廻舎 |
| | 歴代詠史百律 | 六七五 | 昭和二十七年大呂廿二日於琳琅求之 岸廻舎 |
| | 文殊靈驗記 | 二六二〇 | 昭和二十七年十二月廿二日 於琳琅求之 岸廻舎 |
| 12月 | 仮名考 | 六〇八 | 昭和二十七年大呂 於南陽堂 岸廻舎 |

昭和二八年癸巳(一九五三)

| | | | |
|-------|--------------------|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1月5日 | 春の雪なぞ尽 | 三九九三 | 〈青インク・ペン書〉昭和二十八年／一月五日里村／にて |
| 1月14日 | 世継物語 | 一一九〇 | 与宇治大納言物語対校之本也／昭和二十八年大簇幾望文行堂にて 岸廻舎 |
| 1月17日 | 孝子伝 陽明文庫本(ペン書翻刻原稿) | 四五一七 | 〈表見返〉余〈補入与〉高橋貞一氏同道 入書庫搜索遂得一覧。／煩小笹氏多々／文庫内寒冷難堪。／陽明文庫本孝子伝作者未詳／今昔物語孝子伝説引用之云云／宋人之撰歟 尚可尋求者也／昭和廿八年大簇十七日／記之岸廻舎／半紙本書体〈補入「箱」〉類似于実隆筆／足利戦国時代頃之書写歟。／○辻善之助先生告別式当日逢近衛通隆君／堂君曰孝子伝目下在東京云云 昭和卅一年十月中浣／岸廻舎又識 |
| 2月2日 | 初学日本文典 | 三一一三 | 〈裏見返〉昨二十七年十月訪陽明文庫入書庫／探訪孝子伝 不遂見焉 但在「有」に「在」重書 目錄中／原本不見也／昭和二十七年大呂下浣／今野氏筆写寄贈焉／昭和二十八年大簇十七日記之／岸廻舎識 |
| 4月4日 | 仮名類纂 | 五九八 | 昭和二十八年二月二日松雲堂にて岸廻舎 |
| 4月26日 | 尺素往來 | 七四九 | 為人所借失仍再求之云云 昭和二十八年二月二日 忝雲堂にて求む 岸廻舎 |
| 4月26日 | 尺素往來 | 七四九 | 昭和二十八年四月四日 斯文会にて／岸廻舎 |
| 4月26日 | 尺素往來 | 七四九 | 昭和二十八年仲呂二十六日 釈奘之日 於斯文会求之／岸廻舎 |
| 4月26日 | 尺素往來 | 七四九 | 昭和二十八年仲呂二十六日 釈奘之日 於斯文会求之／岸廻舎 |

| | | | |
|-------|-----------------------------------|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 8月1日 | 因果応報要略 | 二五九四 | 昭和二十八年八朔 一誠堂より岸廼舎 |
| 7月18日 | 壺丘詩稿 | 一一九五 | 〔初編卷一表見返〕生瀬襲 佐伯侯庶子 字 公錦 号扶揺 又壺丘 / 大内承裕師事 著書有、制度通・書籍考 / 其他 天明丙午六年歿、五十七歳 〔二編卷一奥〕壺丘詩稿 ^{初編} 四冊 版本之転写歟 / 昭和二十八年夷則十八日訪史料編纂所 / 飯途過琳琅閣求之 梅雨後陰雨溽暑云 / 岸廼舎識 |
| 7月5日 | 秘蔵抄 新撰髓 脳 莫伝抄 和歌肝 要(合百綴) | 一二〇 | 昭和二十八年夷則五 岸廼舎 |
| 7月4日 | *年中行事絵巻 考 | 四三二八 | 昭和廿八年夷則四 於一誠堂求之 岸廼舎 〔第一書房内〕山中常盤「刊行会(日付は破損のため不明)」 |
| 6月10日 | 纂編本朝文苑筆 體集 | 四八二二 | 夕刻飯宅 / 春阿 / 浪々不霄 / 岸廼舎 見洞院撰政家百首一冊其他而 昭和二十九年三月四日於書寮(寮「ママ」部 / 本朝文苑筆牀 上下 以小西氏蔵本写之 / 卷末缺数葉者也 流布不多之書也 / 卷首少々和子写 以下今田氏写之 / 昭和二十八年六月十日黄昏記之 / 岸廼舎識 / |
| 5月8日 | ゆめ物かたり | 五四六 | 夢物語一冊 法話類也 / 昭和九年十二月卅日夜 / 於神田松盛堂受寄与 / 岸廼舎 / 松盛堂主人昔松雲堂番頭也 / 神田街上露店夜粥南古書 余時々逢之 肥大活発若者也矣 / 昭和二十八年五月八日朝記之 |
| 4月26日 | 詩文抄本 歳寒堂詠物詩 | 七八〇 一一四九 | 詩文抄本也 / 易然集等有之 / 昭和二十八年四月廿六日 釈奠之日 / 岸廼舎 昭和二十八年仲呂二十六日 於斯文会 / 岸廼舎 |

| | | | |
|------|---------------------------------|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 9月1日 | *学翼 | 三二〇八 | 〔表見返〕間に合はせ早学問の補遺也 〔裏見返〕 本歌取ト集句詩ニツキ人ノ 葉ノ調査ニ斯文会ニ行ク、 昭和廿八年九月一日〔暇途〕補入ノ持参頼山陽与日本楽府ノ校正版家校了。 ノ斯文会書店ニテ琳琅閣待買本ヲ整理ノ檢閲シテモトノ定価通りニテ求ムノ 長沢氏ト同時、九月二日夜又同ジ 〔大正8年5月18日ノ編輯者・相見繁一ノ發行所・図書刊行会・吉川弘文館〕 |
| 9月2日 | 廿一代集後談 | 七九 | 昭和二十八年九月二日斯文会書庫中にてノ岸廻舎 |
| | 平忠盛朝臣集(平忠盛集) 信實朝臣家集(信実朝臣家集)(合綴) | 三三六 | 昭和二十八年九月二日 斯文会書庫整理中より 岸廻舎 |
| 9月2日 | 童子通 | 六六五 | 昭和二十八年九月二日 斯文会 岸廻舎 |
| | 煙花小筆 | 三〇七八 | 昭和二十八年九月二日ノ斯文会書庫中ノ 岸廻舎 |
| | 縛吾集 | 四七三九 | 昭和二十八年九月二日 受領之ノ岸廻舎 |
| 9月3日 | 假字考 | 五九七 | 昭和二十八年九月三日 斯文会書庫中にてノ岸廻舎 |
| | 略年山紀聞拾遺 | 三二四四 | 年山紀聞抄出ナリ 昭和廿八年九月三日斯文会にてノ岸廻舎 |
| | 詠法華經二十八品和歌 周防内侍家集(合綴)(現写本) | 三八四三 | 〔詠法華經和歌〕本卷之複製一卷有不記複製刊記者也ノ後藤氏入手以前何人所 有歟 其人個人の複製ノ歟 複製卷子 青点七首云云ニ行不見也ノ 昭和 二十八年無射三朝記之ノ岸廻舎 |
| | | | 〔周防内侍集〕周防内侍家集一卷 池田氏蔵本也去一日密々借覽ノ 他之人典社本 而忽卒書写了(九月一日午後四葉〔表〕補入ノ四葉〔裏〕補入ノ)ノ二日夜半四葉ノ 二日夜中七葉三日早曉ニ二葉書了後早速綴之ノ 俊成自筆之転写本池田本 俊成 筆蹟有奇癖ノ 難読者多 転写之誤読誤字不鮮少余聊〔有〕補入ノ復原ノ形者 云云 鐵槍斎、青山延寿歟(五字ミセケチ)富岡鉄斎也ノ 歌員九十五首ノ 東山文庫本無名哥集一冊与此集同物歟云云ノ 昭和二十八年九月三日朝記 之ノ岸廻舎 |

| | | | | | | |
|--|--|-------|------|-------------------|------|----------------------------------------------------------------------|
| | | | 9月上旬 | | | 9月上旬 |
| | | | | 東園百絶 | 五九一 | 昭和二十八年九月上旬 岸廼舎 |
| | | | | 韻鏡求源鈔 | 六七六 | 昭和二十八年九月上浣／岸廼舎 |
| | | | | 蘿鬢 | 七〇一 | 昭和二十八年九月上浣／斯文会にて／岸廼舎 |
| | | | | 詞栞打聴 | 七一〇 | 昭和二十八年九月上浣 斯文会にて 岸廼舎 |
| | | | | 海雲禪師 拈拾 | 八五三 | 昭和二十八年九月上浣 |
| | | | | 大阪繁昌詩 | 八八〇 | 昭和二十八年九月上浣／斯文会にて／岸廼舎 |
| | | | | 龍巖集 | 九六一 | 昭和二十八年九月上浣 岸廼舎 |
| | | | | 天水抄 下 | 九八六 | 昭和二十八年無射夷則上浣 於斯文会書庫中／岸廼舎 |
| | | | | 文化響風草 | 一四八三 | 昭和二十八年九月上浣 |
| | | | | 梅か多物語 | 三四一六 | 昭和廿八年九月上浣 斯文会にて 岸廼舎 |
| | | | | 神妙集 | 三六五〇 | 昭和二十八年九月上浣 岸廼舎 |
| | | | | 新編故事旁訓 | 四三八八 | 昭和二十八年九月上浣／斯文会書庫中にて／岸廼舎 |
| | | | | 四字経 | | |
| | | | | ■坡先生百絶 (晚晴閣百絶) | 四七二九 | 昭和二八年九月上浣 斯文会にて岸廼舎 |
| | | | | 北越奇蹟詠草 | 四七四八 | 越後七不思議の記事なり／昭和廿八年九月上浣 斯文会 岸廼舎 |
| | | | | 曠南記譚后 | 四九八六 | 昭和二十八年九月二一日 斯文会にて 岸廼舎 |
| | | | | 易然集 檣葉集 | 三六一三 | 〔易然集〕易然集 一卷以学習院影写本 写了／余先年 昭和十七年七月上浣影写図書寮蔵／藤波本而保管于家中別〔令〕補入影写一本(原田氏写)／ |
| | | 9月23日 | | 十番歌合 師 | | 供学習院図書館云 余蔵本蒙戰災販／於烏有独存学習院矣感慨淋漓 再写 |
| | | | | 実集断簡 家集 | | 之／于峯 昭和廿五年六月十三日梅雨浪々兮／十五日和子以朱校了 岸廼舎 |
| | | | | 切伝公任筆 (現写本) | | 他日須写分明易然集也 |

9月23日

易然集 檣葉集
十番歌合 師
実集断簡 家集
切伝公任筆
(現写本)

三六一三

〔檣葉集〕檣葉集 東大寺図書館蔵本也 以橋氏写本 書写了〔七月十四日十五日 兩夜〕同十六日味旦 本書 抄出本歟 右図書館別蔵〔卷七以下〕右傍書云 昭和二十五年七月十六日 朝 書之 岸廼舎 昭和二十七年九月廿五日朝以原一校了 〔原本一面分模写、省略〕昭和二十七年九月廿四日夜從石井氏〔庄司〕右傍書 転借 廿五日朝未明影写一頁而示原本之面影 者也 原本物老筆 文字大小不定也矣

〔十番歌合〕十番歌合 一軸 某家秘蔵 旧大名華族中伝来也 本文用紙〔白唐紙 鉄線模様〕和製 本願寺三十六人集ノモノト同シ 昭和廿五年二月十九日夜、於飯島氏之書芸文化院 写取本文、植村氏同道〔朱書〕一軸百貳拾万円之由云 〔墨書〕同年五月十七日夜於同所見実物、新発見者也 〔自一番 至三番〕第一切 〔自四番 至七番〕第二切 以下〔自八番 至一二番〕一番宛切断 〔第一紙 一尺三寸六分 第二紙 一尺五寸八分 第三紙 一尺三寸一分〕 まにあ〔三字朱傍点〕ひ〔縦八寸五分 横一尺〇分〕

昭和二十五年九月六日写了 岸廼舎

〔師実集〕師実集断片一幅 昭和十四年十二月展 覽之際 和歌二首 而筆者云云無之 今茲展覽 和哥七首而筆者伝俊 頼云 又師実集断簡云 其後 改補表装歟 元来粘葉本也矣 本集断簡 陽明 文庫中猶有之否歟 昭和二十六年十一月三日夜記之

〔家集切〕家集切 伝公任筆 筆蹟不全、公任 別筆也 昭和二十六年十月廿八日展覽之際 筆記 同十一月三日夜記之 岸廼舎

先年書写之五部合綴者也 易然集与分明易然集別在之 檣葉集 完本〔現存本〕別写之 十番歌合 写真刊行有之 〔師実集断簡伝俊頼筆 家集切伝公任集〕陽明文庫蔵本也 昭和二十八年九月秋分翌朝記 岸廼舎 昭和二十七年三月四日止本持参云

| | | | |
|--------|-----------------------------|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 11月 | 熱田神宮踏歌 *西行記 | 四二八三 | 西行記一卷／昭和二十八年十一月京都旅行中于平安堂求焉／此絵巻元来蜂須賀侯所蔵也／昭和九年次売立于美術倶楽部／際 高松宮所望云云固害の欠一丁／宮家御謝礼八万円也云云徳川／義紀侯之談也／現在高松宮家。 岸廼舎識 〔昭和九年十一月発行／発行者 蜂須賀家／発売所 便利堂〕 |
| 11月25日 | 西行物語 | 一二七〇 | 〔前見返〕西行物語下巻一冊 京都細川にて 昭和二十八年十一月廿五日 岸廼舎 |
| 11月15日 | 堤中納言物語 (神宮文庫本の現写本) | 五六三〇 | 堤中納言物語 一冊 神宮文庫本也／ 以山田忠雄氏転写本 影写本也／昭和二十八年十一月十五日(以朱記入(四文字朱筆))／岸廼舎識 |
| 11月13日 | 新撰類林抄 巻第四 | 四二四一 | 新撰類林抄／昭和二十八年十一月十三日 |
| | 堤中納言物語 (薩道本の現写本) | 五六三〇 | 堤中納言物語 二冊 英人薩道旧蔵本也／ 後为上田万年先生蔵 更転為／ 日本大学図書館蔵本云云／ 借覧 山田氏書写者也 (昭子写焉／昭和二十八年十一月三日)／ 昭和二十八年十一月八日記之／岸廼舎識 |
| 11月8日 | 種類集 | 二一七八 | 昭和二十八年十一月八日 斯文会にて／岸廼舎 |
| | 東渡諸祖伝 | 二〇七三 | 東渡諸祖伝 釈性激 延宝版 二冊 一一一 一七三／右二冊在書陵部／昭和二十八年十月九日／斯文会にて／岸廼舎 |
| 10月9日 | 師説撰歌和歌集 石山寺縁起 奥廼橘 肥前国風土記 | 九〇二 一三一八 | 昭和二十八年十月九日 斯文会にて／岸廼舎 昭和二十八年十月九日斯文会にて岸廼舎 |

昭和二十九年甲午（一九五四）

| | | | |
|-------|------------------------------|-----------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1月5日 | 西園詞三徑 | 三一三〇 | 中末冊與「中卷一冊元來厚冊也」故今分割為本末兩冊者也／昭和二十九年大簇元日複記之／岸廼舍 西園詞三徑上中下神宮文庫藏本也／以京大研究室転写本書寫畢／昨夏介根來氏借覽而転写者也／昭和二十九年一月五日朝綴之／岸廼舍識 「原本在神宮文庫／転写本二部 京大文学部研究室／再転写本一部本写本一部 京大研究室在之」山田氏写一本云云／余昭和初年五六年借覽返却云云 去年昭子写了之 |
| 1月中旬 | 言葉の緒環 大原千句 毛利千句 真言伝 | 七〇二 一〇〇〇 一一〇五 二〇六八 | 其中堂にて／昭和二十九年一月中浣 昭和二十九年一月中浣／岸廼舍 其中堂／昭和二十九年一月中浣／岸廼舍 昭和二十九年一月中浣／於其中堂／岸廼舍 |
| 2月24日 | 詞八衢 | 七二一 | 補遺二冊附之／昭和二十九年二月廿四日 小宮山にて岸廼舍 |
| 2月下旬 | 肥前風土記 | 三〇一九 | 版本流布稀有之本也／昭和二十九年二月下浣 岸廼舍 |
| 3月上旬 | かざし抄 | 七二五 | 昭和廿九年三月上浣 岸廼舍 |
| 3月15日 | 洛陽十二社靈驗記 | 一九七五 | 昭和二十九年三月十五日思文閣より／岸廼舍 |
| 3月30日 | 連歌至要抄 李詩抄 | 九七三 四六〇九 | 昭和二十九年三月三十日／斯文会／岸廼舍 李白詩鈔也 昭和二十九年三月三十日 斯文会 岸廼舍 |
| 4月7日 | *聖武天皇宸翰 雑集 | 四一八七 | 昭和二十九年仲呂七 於水道橋畔 南陽堂求之 岸廼舍 〔大正10年10月15日発行／精芸出版〕 |
| 5月2日 | 難太平洋記 | 三四六六 | 昭和二十九年五月二日 斯文会にて／岸廼舍 |

| | | | |
|-------|----------------------|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 5月2日 | *治承二年賀茂社歌合(複製本) | 三六三二 | 昭和二十九年蕤賓二黄昏 斯文会にて岸廻舎 |
| 5月13日 | 経国集 | 一四二八 | 凌雲集文華秀麗集経国集 三冊 熊坂台州/旧蔵本也 昭和二十九年蕤賓上浣(左傍書)十三日/嘱朝倉書肆/求之 岸廻舎 |
| 5月20日 | 源義弁引抄 | 八四九 | 昭和(補入「廿」)九年蕤賓二十日沖森書店にて求之/本書版本写本共稀観也云云 /岸廻舎/註釈平凡者也 |
| 5月27日 | 藤葉和歌集 | 三四〇 | 昭和二十九年五月二十七日 思文閣にて 岸廻舎 |
| 6月7日 | *元暦万葉集(複製本) | 三五五五 | 元暦萬葉集 十五冊/全解説一冊/全附卷一冊/附附録綴一冊/昭和二十九年林鐘七日求之 本郷/六月九日朝識之/岸廻舎 |
| 7月15日 | 古題物名歌 六集古哥抄(石崎本の現写本) | 三六〇八 | 古題物名歌一冊/鳳岡源(泰)朱書補入(貞美(美)朱ミセケチ)著也 与六集古哥集同刊之本也 昭和二十九年夷則十五日中元之夜記之/来往風塵又半年 岸廻舎識 『六集古哥抄/古題物名歌』二冊 刊本二冊、(右傍書「西莊文庫蔵本ナリ」)刊記無之、/石崎氏本也借覽書写者也/昭和二十九年七月四日 昭子持參焉/十五日霖雨終日綴之/岸廻舎識/物名哥在/古今 拾遺 千載 新勅 新拾 新統古 洪引表紙出来送来 昭和三十年一月/(以下表紙)書名省略//古題物名歌ノ序ニハ宝曆辛巳十一年霜月十八日/源泰貞自叙トアリ/又自作ニ対シテ他ノ勅撰六集中ヨリ物名歌ヲ抜キタルモノヲ/六集古歌抄トシタルナリ 両冊ニテ完ナリ、自刊ノモノカ/ 昭和卅三年十月五日終日秋雨蕭々之夜/記之 |

| | | | |
|-------|----------------------------------|----------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 7月17日 | 柳菴隨筆 | 一八七九 | 昭和二十九年七月十七日 岸廼舍識之 |
| 7月31日 | 東北紀行 壺天 閣記 称念寺募 縁疏 擬古楽府 | 四七九九 二八九 | 昭和廿九年夷則十七日／沖森にて 岸廼舍 〔前見返〕李西涯廿一史楽府即李西涯擬古楽府也 <small>云</small> ／李東陽 字 賓之 号西涯 茶陵人／ 擬古楽府 収于聚德堂双書／内閣文庫／宜園近草〔清寧爾講／初集七卷（四―七欠）二集七卷擬古百首一卷〕／岸廼舍立秋之日／記之、於研究室 〔本文末尾〕花將軍歌／花將軍身長八尺 <small>云</small> 脱之矣／可參照李西涯擬古楽府／ 昭和廿九年八月八日立秋夕／ <small>云</small> 於教大研究室記之 昭和廿九年七月三十一日〔右傍書〕斯文会理事會〕／斯文会にて／岸廼舍 |
| 8月上旬 | 桃花園稿 | 六〇二 | 〔表見返〕鵜殿士寧 復古学／名孟一字士寧 号桃花園 服部南郭門之／古文辞 大家／桃花園遺稿四卷刊／天明四年刊／真淵翁之親朋也／昭和二十九年八月六日 〔奥〕昭和二十九年七月卅一日 斯文会にて岸廼舍 |
| 8月12日 | 日本書紀 源語秘決 *朝鮮三古都詩 | 二六九五 一一三〇 一三八六 | 昭和二十九年八月上浣 岸廼舍 思文閣にて／昭和二十九年南呂十二岸乃屋 昭和廿九年南呂十二／思文閣／岸廼舍 〔発行人・西村勇治 印刷所・明正堂印刷所〕 |
| 8月16日 | 漢和武将合 鉢かつき | 一四八七 一二六三 | 昭和二十九年南呂 <small>十六</small> ／思文閣にて 岸廼舍 昭和廿九年南呂中浣 <small>十八</small> 日於南陽堂求之／岸廼舍 |
| 8月18日 | 文正草子 | 三三八九 | 昭和廿九年南呂八月十八日楠陽堂にて岸廼舍 |

| | | | |
|--------|-----------------------|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 8月中旬 | 新野問答 | 三〇〇七 | 丙辰紀行／新野問答三冊 井上毅藏書也／ 昭和二十九年八月中浣為所贈、 〔補入記号、右傍書、中山泰昌氏〕 |
| 9月2日 | 后山詩註 | 二五五 | 昭和廿九年夷則〔二字ミセケチ「無射」右傍書〕二／於斯文会求之／岸廼舎／ 嘉治氏渡米送別会之夜 |
| 9月下旬 | 頌文雜句 | 四九九一 | 〔帙裏〕昭和廿九年九月下浣 岸廼舎／於沖森店 |
| 11月27日 | 明治新撰泉譜 | 五二八三 | 昭和二十九年十一月廿七日於池袋 岸廼舎 |
| 11月29日 | 房山樓集 *皇朝詠史百絶 | 八六二 九〇三 | 昭和二十九年十一月廿九日阿佐谷にて／岸廼 昭和二十九年十一月廿九日／ 阿佐谷にて／岸廼舎 〔明治11年6月8日／著述人・竹内貞／出版人・内藤伝右衛門〕 |
| 11月下旬 | 知連抄 〔東北大本の現写 本〕 | 三九二七 | 知連抄 一冊〔補入〕以久松潜一氏写本之轉写本／書写了／ 久松本之底本 者東北帝大本也云々／昭和二十九年十一月下浣写了／昭子写／岸廼舎識／ 卅 年一月廿三日綴之／／ 昭和三十一年二月十七日製本出来／ 典籍解題漢籍部編纂／ 打合会午後二 時より監理／ 課長室に開催／ 米山 鎌田 余／ 植・伊地知 橋本 ／ 大窪／ 去一月十七日書陵部委員会云 |
| 11月 | 古今墨蹟鑑定先 哲優覽 | 七九九 | 昭和二十九年十一月 |
| 12月3日 | 宗祇指南抄（長 六文） | 三九三三 | 宗祇指南抄 長六文／ 西尾光雄氏周旋／ 実践女大生書写者也／昭和廿九年 大呂三／岸廼舎識 |
| 12月4日 | 心敬作 〔西尾本の現写 本〕 | 三九二九 | 右心敬作 一冊 <small>神宮文庫本 三門二〇六八号</small> ／西尾陸軍教授之依頼ニ依リテ／影写一校了于 時昭和十九年八月六日／筆者出口櫻吉 |
| 12月10日 | 慈慧大師伝 | 二一〇六 | 心敬作／ 西尾光雄氏周旋／ 実践女大生書写者也／ 昭和廿九年大呂四日／ 岸廼舎識 〔表見返〕 <small>覚蓮原撰 藤原齊信修訂</small> 良源大僧正伝也 〔裏見返〕昭和二十九年大呂十日京都寺町通／文栄堂にて 岸廼舎 |

| | | | |
|--------|-------|-----|-------------------|
| 12月31日 | 漢字三音考 | 六六〇 | 昭和廿九年大呂大晦於斯文会／岸廼舎 |
|--------|-------|-----|-------------------|

昭和三〇年乙未（一九五五）

| | | | |
|-------|-------------------------------|--------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1月8日 | 西征詩鈔 | 三五七 | 昭和卅年一月八日 渋谷にて／岸廼舎 |
| 1月22日 | 序語類要 | 二二三九 | 昭和卅年一月廿二日／其中堂にて求む／岸廼舎／禪林小歌 聖問作 |
| 1月23日 | 日本書紀撰者弁 竹林集聞書 （福井本の現写本） | 二七一一 三九二二 | 昭和三十年一月廿二日／其中堂より／岸廼舎 竹林集聞書 一冊 <small>以福井久藏先生之写本写之</small> 昭和二十九年十二月上浣書写了／書陵部製本。〈句点ママ〉 長女昭子書了、／ 三十年大簇廿三日記之／岸廼舎 前一条関白殿 |
| 1月29日 | 六条修理大夫集 （榊原家旧蔵本の現写本） | 三七二六 | 六条修理大夫集 一冊 榊原家旧蔵本也（但表紙／無題簽）（丸括弧ママ） ／ 借覽志村氏之際書写了／ 与類従本同系云云／ 昭和三十年一月廿九日写了（右下小字「今田氏」）／岸廼舎識／ 身世匆忙冬将去云云／今以帙之題簽為題簽者也／／ 昭和三十年九月十六日／ 製本了 |
| 1月31日 | 宗祇草庵千句 （実践女子大本の現写本） | 三九一三 | 宗祇草庵千句 一冊 今田写了／以実践女子大轉写本書写了／昭和三十年一月晦記之／昨冬写本也 岸廼舎／原本者（三字ママ） |
| 2月7日 | 槻の落葉 続日 本後紀歌解 | 三五五四 | 昭和三十年二月七日 |
| 2月9日 | 一遍上人絵詞 | 二一二三 | 昭和三十年二月九日／姫路より岸廼舎 |
| 2月上旬 | 重刊註永源寂室和尚語録 | 五二四 | 昭和卅年二月上浣 岸廼舎 |

| | | | |
|-------|-------------------|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2月15日 | 沙石集 | 一三六一 | 昭和卅年二月十五日 吉沢本 岸廻舎 |
| | 辨玉あられ論 | 三一一二 | 辨玉霰論一冊借覽長沢氏写本之序書写者也／昭和二十九年十一月中浣日写了 |
| | *日本楽道叢書 | 四〇〇六 | 昭子書写／岸廻舎識／全三十年大簇廿三日綴之／全九月十六日製本持販 〈第九冊〉昭和三十年二月十五日 修学院にて／遺物分之日、記念に 岸廻舎 〔昭和5年12月25日／編輯者・羽塚啓明／発行所・楽舞研究会〕 |
| 2月中旬 | 山部赤人集 伊勢集(現写本・合冊) | 三六五一 | 山部赤人集 伊勢集 合綴一冊 以志村氏蔵本書写者也／昭和三十年二月中浣 昭子写焉／岸廻舎 |
| 2月 | 雑和集 | 五二六 | 昭和三十年二月／吉沢本、／岸廻舎 |
| | 統源語類字抄 | 一一三六 | 岸廻舎／昭和三十年二月／吉沢本也 |
| | 鳴門中将物語考証 | 三三五三 | 神文ノ事後世ニモ見ユ／／(吉沢本也)〈丸括弧ママ〉／昭和三十年二月／岸廻舎 |
| | 進國譚説 | 三八九〇 | (吉沢本中)〈丸括弧ママ〉／昭和三十年二月 岸廻舎 |
| | 花伝書 | 四〇三〇 | 〈朱書〉書写年代明記無之 江戸初期歟 〈墨書〉昭和三十年／二月京都より／岸廻舎 |
| 3月中旬 | 平家公達の草子 | 四三〇六 | 上野博物館本有九段焉 <small>云</small> ／此一軸者平松子子爵家旧蔵矣、元来無題簽、今題日平／家公達之草子、六段有之、未缺者也 昭和三十年二月記之岸廻舎 |
| | 芸林司会録 | 四七八〇 | 未欠者也／昭和三十年三月中浣／江古田三(必)にて |
| | 善通寺宝物集 | 五〇二二 | 江古田(田古)に転倒符(駅前(五文字後記補入)／岸廻舎／昭和三十年三月中浣 |

| | | | |
|-------|---------------------|--------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 3月下旬 | *將軍塚絵巻 (複製本) | 四二九六 | 〔箱書〕昭和三十年三月下浣 京都にて 岸廼舎 〔別紙〕將軍塚は青蓮院の後の山／上にあり塚あり小祠もあるとか／昭和三十年五月二十五日 〔昭和18年11月10日発行／大塚巧藝社〕 |
| 4月16日 | 月卿雲客歌合 近衛定家光悦 | 三八八 八一三 | 昭和三十三年四月十六日斯文会にて岸廼舎 昭和三十年四月十六日 岸廼舎 |
| 4月中旬 | 古今連談抄 (彰考館本の現写本) | 三二二四 三九三二 | 昭和三十年四月十六日／岸廼舎 古今連談抄 一冊 以彰考館本之轉写本／書写者也／故福井久藏翁書写本之轉写本云／昭和三十年四月中流写了 昭子也／蕤賓廿七日夜記之／岸廼舎識／ 於書陵部製本出来／全十一月九日郵送來者也 |
| 5月8日 | 源氏物語(蜻蛉卷) | 三二二七七 | 蜻蛉卷 一冊 高松宮家藏本〔一冊〕補入轉写之本也／〔前行との転倒符あり〕上野圖書館藏本者／吉沢老人轉写本有倉庫中〔二月十八日〕補入携來而綴之云／昭和三十年五月八日記之／岸廼舎識／全三十年十一月九日製本完了／送來／岸の屋又ノしるす |
| 5月上旬 | 経国集 | 一四二二八 | 凌雲集文章秀麗集経国集三冊能坂台州／旧藏本也 昭和二十九年 蕤賓上浣 囑朝倉書肆／求之 十三日 岸廼舎 |
| 5月14日 | 本朝文粹 | 一四三三三 | 昭和三十年五月十四日／沖森より 岸廼舎 |
| 5月27日 | 嵯峨物語 | 三三七〇 | 嵯峨物語一冊以黒川本書写了五月上浣。昭子影写也昭和三十年五月廿七日夜半記之、岸廼舎識 |
| 5月30日 | 大祓執中抄 繪入本朝法華伝 | 一九四五 二〇七七 | 昭和三十年五月卅日琳琅にて／岸廼舎 昭和三十年五月卅日〔右傍書〕琳琅閣にて 岸廼舎 |

| | | | |
|-------|----------------------|---------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 6月9日 | 韻鏡問答鈔 日本書紀 太平記 | 六七五 二六九四 三四六四 | 昭和三十年林鐘九於琳琅閣／岸廼舎識 慶長版本也／昭和三十年林鐘九於琳琅／岸廼舎識 片仮字整版無刊記本／寛永八年刊本アリ、此本亦寛永中之版本歟／昭和卅年林鐘九 於琳琅求之／岸廼舎 |
| 6月11日 | 徴古図録 | 八二四 | 昭和三十年林鐘十一日／琳琅閣にて岸廼舎 |
| 6月下旬 | *山中常盤 | 四三二四 | 昭和三十年林鐘下浣／共十二卷 岸廼舎 〔第一書房内「山中常盤」刊行会（日付は破損のため不明）〕 |
| 7月上旬 | 俳諧歌論 天御中主神考 | 一二九 一九二八 | 〔紀州本萬葉集／天中主神考／俳諧歌論〕同時也／ 昭和三十年夷則上浣 藤園堂にて 岸廼舎 昭和三十年夷則上浣 岸廼舎 |
| 7月中旬 | 詩山詩草 | 六三六 | 昭和卅年夷則中浣 目白街求焉／岸廼舎識 |
| 8月13日 | 堤中納言物語 （況齋本の現写本） | 五六三七 | 堤中納言物語 二冊 以山田孝雄博士蔵本書写焉／ 件本 岡本保孝旧蔵本也 昨冬依頼／ 一見而今夏借覧 云云 昭子写了／ 七月下浣／ 昭和三十年八月十三日記之／岸廼舎識 |
| 8月31日 | 人家和歌集 （大倉本の現写本） | 三九〇三 | 人家集 一冊 <small>（巻八）</small> 大倉精神文化研究所蔵本也／ 依頼水沢氏而借覧之序 令 〈補入「昭子」書写者也〉 昭和三十年八月三十一日記之／ 南呂下浣 〈補入「写」了〉 岸廼舎 人家集 <small>六条家藤原行家撰 欠本三卷也</small> 十卷歟 卷数不知 |
| 8月下旬 | 僧服記 | 三〇〇八 | 昭和三十年南呂下浣／ 思文閣にて 岸廼舎 |
| 9月6日 | 冠辞統紹 | 五九二 | 昭和三十年九月六日甲府にて卷七欠本也／岸廼舎 |
| 9月17日 | 難後拾遺 後拾遺抄 | 三八六一 | 後拾遺抄 以志村氏蔵本書写者也／ 昭和三十年九月十七日記之／ 二十九（九）ミセケチ「八」傍書）年秋写了昭子 岸廼舎／ 難後拾（左傍書 「昭」の書きかけをミセケチ）遺ナリ |

| | | | |
|-------|---------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 9月24日 | 文華秀麗集 | 一四二三 | <p>文華秀麗集 一冊〔以十一行青「青」ミセケチミセケチ右傍書「藍」罫紙書写者也〕宝永頃之写歟／岡田旧藏本也今茲四月 競賣云云／ 実践女大購求焉 経国集残簡〔左傍書「平瀬本也」〕亦同氏藏本也<small>岡田氏神戸市人沈翰引揚業者也</small>／ 昭和三十年秋分之日記之／岸廻舎識 〔補入〕如〕右二部元来 平瀬家本云云〔鉛筆書〕今田氏影写也</p> |
| 9月25日 | <p>太秦牛祭画卷 諡号勘文 兵部卿物語 (黒川本の現写本)</p> | <p>一九七四 二九七二 三三五四</p> | <p>太秦広隆寺史参照／ 昭和三十年秋分之日／沖森より／岸廻舎 〔表見返〕後花園院 御諡号也 昭和三十年秋分之日記之 兵部物語 黒川本<small>現実踐女大</small>也／ 七月中浣借覽之序書写者也／ 昭和三十年秋分之日記之、微雨蕭々／岸廻舎識／ 昭和三十一年二月十七日製本了／岸廻舎又識</p> |
| 10月上旬 | <p>東海一瀛集 亀卜伝秘事</p> | <p>一四二九 一四二六 四一五〇</p> | <p>経国集残簡 <small>卷十一</small> 恐旧平瀬家藏本歟〔歟〕ミセケチ右傍書也〕／ 後販于岡田氏藏架而今茲仲春競賣／ 於東京書籍俱樂部矣今在实践／ 女大研究室焉／ 無射中瀬昭子写了云云／ 昭和卅年無射秋分翌日記之／岸廻舎識 〃 三十一年 二月十七日／製本了〕 人家和歌集 兵部卿物語 知連抄／狭衣卷二 六百番歌合 経国集残簡／文華秀麗集／右本日製本完了 岸廻舎識 昭和三十年十月上浣／於南陽堂／岸廻舎 悠紀主基良〔良〕ミセケチ右傍書〕兩〕田卜定、一〔右傍書〕鈴鹿氏日ク〕梅樹ヲ用フトイフ／ 樺ハ明カナラズト云云／ 鈴鹿家以梅樹為禁忌／不焚 梅枝於風呂又釜下／云云 昭和三十年三月／鈴下三七氏談也 〔補入〕鈴鹿三七氏〕又曰、亀卜之甲／伊豆之海ノ亀、而生捕直／取甲、故載甲于炭火之時／臭氣充滿 不堪聞云云／明治天皇大嘗会、卜定悠紀／主基兩田之時 鈴鹿氏<small>三</small>祖父／侍立於亀卜之壇側、夜也／甲燒之臭氣、催嘔吐而眩惑云云／ 昭和三十年十月上浣〔右傍書〕於南陽堂〕岸廻舎</p> |

| | | | | | | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--------|-----------------------------|--------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | | | | | | | | | 10月中旬 | 清三家書論 | 五三一九 | 昭和三十年十月中浣 南陽堂にて／岸廼舎 |
| | | | | | | | | | 11月1日 | 多武峰破裂記 | 一九七六 | 〔表見返〕昭和三十年十一月五日朝、対校青蓮屏風色紙、知〔補入〕無〕異文／ 同一也 屏風二双有之 〔裏見返〕大職冠像破裂集〔在統類従／九六四〕／ 昭和三十年十一月朔〔補入〕於〕思文閣求之 岸廼舎 |
| | | | | | | | | | 11月6日 | *枕草子（複製本） | 四二九八 | 三十年十一月六日 〔大正15年12月31日発行／大和絵同好会〕 |
| | | | | | | | | | 11月中旬 | 玉蕉百絶 | 八九八 | 昭和卅年十一月中浣 岸廼舎 |
| | | | | | | | | | 11月12日 | 天台座主略名之次第 | 二〇五〇 | 昭和三十年十一月中浣／思文閣にて／岸廼舎 |
| | | | | | | | | | 12月13日 | 草山和歌集 精里初集抄 精里二集抄 精里三集文藁 | 三七九一 八〇八 | 〔表見返〕昭和三十年十一月十二日／琳琅にて岸廼舎 精里初集抄三／精里二集抄二／精里三集文稿五 合計十冊 昭和卅年大呂十三過琳琅閣求之三集完者稀覯也／故今求之供後日研究者也 岸廼舎識 |
| | | | | | | | | | 12月16日 | 浄土百歌仙 上代衣服考 | 三八三三 三〇〇九 | 昭和三十四年大呂十三日／南陽堂にて 岸廼舎 昭和三十年十二月十六日／古家書店より／岸廼舎 |
| | | | | | | | | | 12月18日 | 娛息齋詩文集 密厳上人行状記 | 一七六一 二一一〇 | 昭和三十年大呂十八日／岸廼舎識 昭和三十年大呂十八日／於斯文会 岸廼舎 |
| | | | | | | | | | 12月19日 | 一日百題 | 七六九 | 訥齋 日下部訥齋名崇義 薩摩人島津家臣也／有故脱藩 至常陸、為太田益習館之師、云云／ 本書之外無著述可知者也 水戸文籍考／／昭和三十年十二月十九日／思文閣／岸廼舎 |
| | | | | | | | | | | 画餅篇 * 釈門事物紀原 初篇 | 一八八三 二〇四九 | 昭和三十年大呂十九日／思文閣にて 岸廼舎 昭和三十年大呂十九日／思文閣／岸廼舎 |

| | | | |
|--------|--------------------------------------|---------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 12月25日 | 増補古言梯標註 | 六五三 | 昭和三十年大呂 大正天皇廿九年祭日於斯文会 岸廻舎 |
| 12月31日 | *こげ衣春(安田 文庫本の翻刻・ 和文タイプ本) 鑑草 | 三三三三三 一九二四 | こげ衣春一冊安田文庫本/橋氏借覽臨講時印刷 ^云 /回顧十数年前之/今日綴之。今昔成頻浦者也/昭和卅年大呂廿八日昏黄/於高田本町寓居記之/岸廻舎 中江藤樹/慶安元年八月二十五日卒四十一才之/鑑草六卷アリ/昭和三十年大呂三十一日/於斯文会求之 岸之舎 |

昭和三十一年丙申(一九五六)

| | | | |
|-------|------------------------|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1月7日 | 長歌撰格 | 三八九四 | 昭和三十一年一月七日/越後より持参/岸廻舎 |
| 1月10日 | 実語教諺解 | 七八七 | 昭和三十一年一月十日/越後より持参/岸廻舎 |
| 1月12日 | 仮名交文典 和訓考 | 六一〇 六九八 | 昭和三十一年一月十二日 岸廻舎 昭和三十一年一月十二日 岸廻舎 |
| | 三国伝記 | 二〇六三 | 余往年求三国伝記但シ粗本故複求之/同粗本也/ 昭和三十一年一月十二日/ 其中堂より求之 岸廻舎 |
| | 拾遺千字文 | 四三八六 | 昭和三十一年一月十二日 其中堂より/岸廻舎識 |
| 1月24日 | 装束図式 | 三〇〇六 | 昭和三十一年一月廿四日神田にて/岸廻舎 |
| 2月上旬 | 御茶物かたり | 八〇四 | 昭和三十一年二月上流/名古屋より岸廻舎 |
| 2月17日 | 兵部卿物語 (黒川本の現写 本) | 三三五四 | 兵部卿物語黒川本現実女子大蔵本也/七月中流借覧之序書写者也/昭和三十年秋分之日記之、微雨蕭々/岸廻舎識/昭和三十一年二月十七日製本了/岸廻舎又識 |
| 2月18日 | 顕昭陳状(現写 本) | 三六四八 | 此書昭和二年秋為能勢朝次令書写者也/依囑図書寮之人 ^云 類従本欠恋六以下/即補類従本之欠脱者也/今茲一月中流依頼製本而二月十七日製本了/余本悉製本于書陵部 同部遠藤氏製本/達人也矣 昭和三十一年二月十八日記之/岸廻舎識/野能勢為吉沢氏依囑書写于余也 |

| | | | |
|-------|-----------------------------|--------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2月 | 雑和集 | 五二六 | 昭和三十一年二月／吉沢本／岸廻舎 |
| 3月3日 | 雅語訳解 | 三一五四 | 昭和三十一年三月三日岸のや |
| 3月4日 | 怪異辨断 | 三一九六 | 昭和三十一年三月四日／城南倶楽部にて／岸廻舎 |
| 3月20日 | 古鏡図 和語筆道大意 | 四三五〇 四二五〇 | 昭和三十一年三月四日／城南図書館にて／岸廻舎 昭和三十一年三月廿日 沖森にて 岸廻舎 |
| 4月22日 | 梅松訴陳 詞華堂雜筆・字 都保年立(合綴) | 四八七七 三二六九 | 昭和三十一年三月廿日 岸廻舎／ 兵庫縣加西郡坂本古家より 〈詞華堂奥36ウ〉熱海紀行其外、細井貞憶自筆本也／昨秋〈左傍書〉十一月借 覽高橋氏本写了昭子写也／岳父老週忌之翌日、借覽飯来写也／ 昭和卅一年 四月廿二日夜記之／岸廻舎識／今仮題曰詞華堂雜筆〈卷末奥〉字都保物語年立 在紙背有〔有ミセケチ〕之 解綴而写之了云云／岸廻舎識／ 詞華堂細井貞憶之印也／有詞華堂印蜻蛉日記嘗在日野町田中／忠兵衛家 今在〔ポールペンミセケチ右傍書有〕之〔補入〕于否不識矣／岸廻舎又識 昭和三十三年二月廿一日製本了／夜半十二時半記題字矣 |
| 4月24日 | *吾妻鏡集解 | 二七二八 | 昭和三十一年仲呂廿四日沖森にて 岸廻舎 〔明治29年12月26日発行／発行兼印刷者・大日本図書〕 |
| 4月28日 | 神社祭式 | 一九八五 | 昭和三十一年四月二十八日／城南にて／岸廻舎 |
| 6月27日 | 校正装束拾要抄 | 三〇〇五 | 昭和三十一年六月廿七日／ 松雲堂にて 岸廻舎 |
| 7月4日 | 秋野流相法活要 | 四一五五 | 昭和三十一年十月四日／沖森にて／岸廻舎 |
| 7月31日 | 弟子職箋注 野馬臺詩國字抄 | 四四三九 五一九 | 昭和三十一年夷則四／沖森にて／岸廻舎 〈表見返〉昭和三十一年夷則三十一／琳琅閣主人寄贈／岸廻舎 |
| 9月15日 | 回文錦字詩抄 山家集抄 | 四七九八 三三六六 | 昭和三十一年夷則三十一日／琳琅閣主人寄贈／岸廻舎 昭和三十一年無射望 沖森にて／岸廻舎 |
| | 富士野双紙(富士の人穴草子) | 一二八四 | 沖森にて／昭和三十一年九月十五日／岸廻舎 |

| | | | | | |
|--|--------|------------------|-----------|----------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|
| | | 9月30日 | 藍園詩鈔 | 一一四一 | 城南にて求之、岸廼舎／昭昧三十一年無射晦 |
| | | 10月8日 | 譚林拾葉集 | 六七 | 琳琅主人寄贈 昭和三十一年十月八日 岸廼舎 |
| | | | 分韻故事 | 三一六八 | 琳琅にて／昭和卅一年十月八日／岸廼舎 |
| | | 10月15日 | 古言本音考 | 六二五 | 昭和三十一年十月望 神田誠信堂にて 岸廼舎 |
| | | 10月21日 | 悉曇連声集 | 七六四 | 昭和三十一年十月廿一日／斯文会にて 岸廼舎 |
| | | 11月4日 | 詠五十首和歌 | 二八〇 | 昭和三十一年十一月四日／浅倉屋にて 岸廼舎 |
| | | 11月中旬 | 天台座主略名之次第 | 二〇五〇 | 昭和三十年十一月中浣 思文閣にて 岸廼舎 |
| | | 11月25日 | 源氏物語評釈 | 一一二二 | 昭和三十一年十一月廿五日／沖森より／岸廼舎 |
| | | | 大祓詞天津菅麻 | 一九四六 | 昭和三十一年十一月廿五日／沖森にて岸廼舎 |
| | | 12月6日 | 清水物語 下卷 | 三四〇二 | 昭和三十一年大呂六琳琅にて／岸廼舎 |
| | | 12月7日 | 小竹斎詩抄 | 八四二 | 昭和卅一年大呂七日於松雲堂 岸廼舎 |
| | | 12月14日 | 集古浪華帖 | 四二五六 | 昭和三十一年大呂十四日於松雲堂 岸廼舎 |
| | | 12月20日 | *宸影光暉 | 四三三〇 | 昭和三十一年大呂二句 於京都三条河原町求之 岸廼舎 〔昭和15年3月20日発行／京都市史編纂事務局〕 |
| | 12月28日 | 詩人玉屑 | 四七六 | 〔一〕冊前見返 詩人玉屑／卷二欠／卷一、三、四五止 〔五〕冊後見返 詩人玉屑 四冊 於琳琅閣求之／ 昭和三十一年大呂廿八日黄昏／後学土会飯途 岸廼舎／廿一卷中 自五至八、四卷欠也 | |
| | | *日本書紀神代 (複製本) | 二七〇一 | 昭和三十一年大呂廿八日 於琳琅閣／岸廼舎 〔昭和3年11月3日／発行者・酒井宇吉／印刷所・民友社〕 | |

| | | | | |
|----------------|-------|--------------------|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 昭和三十三年丁酉（一九五七） | 1月1日 | 大鏡 | 一一九一 | 昨年末於書陵部一見、（一誠堂待貫本也 書陵部不求焉）／昭和三十三年一月一日夜記之／岸廼舎 |
| | 1月3日 | 紫塵愚抄 （國學院本の現写本） | 三二九四 | 昭和三十三年二月廿一日至図書館／製本完了 |
| | 1月13日 | 萬葉集美夫君志 | 三五六七 | <p>〈第一冊〉紫塵愚抄 二卷 第二卷無題簽／ 国学院大学国文研究室本也 昨冬十一月借覧 写了／ 昭和三十三年一月三日朝記之／岸廼舎識／宗長作也</p> <p>〈第二冊〉 卷一<small>至</small>桐壺 卷二<small>至</small> 卷三<small>至</small> 卷四<small>至</small>／書陵部本ハ <small>飛鳥井雅春 全雅綱</small> 写四冊〈卷「ミセケチ」冊「右傍書」アリ</p> |
| | 5月上旬 | 加階帖 | 二九七三 | 昭和三十二年一月十三日神田にて／岸廼舎 |
| | 6月16日 | 玉あられ・玉あられ論辨 | 六四三 | 昭和三十二年五月上澆洗／〈補人「沖森にて」〉 岸廼舎 |
| | | | | 昭和三十二年林鐘十六日／南陽堂より／玉霰論弁ト二冊ナリ |
| | | | | <p>〈百人秀歌奥〉百人秀歌一冊 以 久曾神氏本書写畢／ 昨冬到豊橋愛知大学、大呂廿一日也／ 見穂久邇文庫本沙石集源氏物語等云云／ 廿四日夜飯京、昭子書写了／ 昭和三十三年大簇元日 岸廼舎識</p> <p>〈踊り歌奥〉〈朱書〉踊り歌 一冊 元来无題名今仮題踊里歌云云／</p> <p>〈墨書〉 今茲四月中浣南都在往橋氏上京之際持參／ 余借覧而映写者也 今田写焉／京都府下宇治在、旧庄屋蔵本云云他蔵／ 法官物語八冊云云 他日探訪予定也／ 踊り歌 江戸中期以降の〈の「ミセケチ」写歟保存粗漏者云云／ 五月上洛之節返却了／ 昭和三十一年林鐘十七日黄昏記之／岸廼舎識</p> |

| | | | |
|--------|--------------------------|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 6月17日 | 述齋偶筆 | 三三二〇 | 昭和三十二年六月十七日／南陽堂より 岸廼舎 |
| 7月11日 | 河伯井蛙文談 | 五一七 | 〔下巻表見返〕昭和三十二年七月十一日／斯文会理事会の夜 岸廼舎 |
| 7月17日 | *世々のみけし | 四三三七 | 昭和三十二年七月十七日／平安堂にて／岸廼舎 〔昭和2年10月3日発行／今吹天摩堂〕 |
| 7月20日 | *台門行要抄 | 四九九八 | 金声堂によりて／ 昭和三十二年／ 七月廿日／岸廼舎 〔昭和26年2月20日三版／金声堂〕 |
| 7月 | 民間備荒録 | 四二二二 | 〔巻之上〕京阪書房主人寄贈／昭和三十二年夷則祇園祭日／黄昏 於京阪書房 岸廼舎 |
| 8月中旬 | 落窪物語系図伝 (黒川本の現写 本) | 三三二六六 | 落窪物語系図伝一冊 以 黒川真頼本書寫了／ 作者不詳 又無類本者也／ 昭和三十二年夏八月中浣 昭子寫了／岸廼舎識／ 同三十四年十一月中 浣 於書陵部製本了／ かやくき上下 紫塵愚抄一二／ 戊々詩歌 <small>同口例 大学詠歌</small> 堀江物語／ <small>玉虫</small> 物語 頓阿和歌東大本／ 諷案書西大寺本 中山預言七種 等／十三冊／十二月十八日記之 |
| 9月28日 | 素性集 敦忠集 | 三六六九 | 〔表見返〕冷泉家本与異本三十六人集中之素性集同一本文也 西本願寺本与此 敦忠集同一本文也 〔裏見返〕昭和三十二年九月廿八日 神田神保町にて岸廼舎 |
| 10月上旬 | 古愚堂詩 甲乙 集 | 八〇九 | 昭和卅二年十月上浣 東横にて 岸廼舎 |
| 10月15日 | 纂評春草堂詩鈔 | 一二四九 | 黄欠／／訪美術学校図書館撮影信西古楽図／版途松雲堂而求參天台五台山 記等云云／／ 昭和三十二年十月望／ 松雲堂主人寄贈／ 岸廼舎 |
| | 春草堂詩鈔 | 一二五一 | 昭和三十二年／十月十五日／於松雲堂／求之、直四百金／主人寄贈三／冊本 (黄欠本)／ 岸廼舎 |
| 10月18日 | *紙瀟重宝記 | 四二一八 | 昭和三十二年十月十八日／誠心堂にて 岸廼舎識 〔大正14年6月30日発行／製紙印刷研鑽会〕 |

| | | | |
|--------|------------------|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 12月14日 | 護法資治論 | 一九九七 | 昭和三十二年大呂幾望／斯文会にて／岸廼舎 |
| 12月10日 | 冊 和紙談叢 第一 | 四二一九 | 〔昭和十二年2月10日発行／和紙研究会／澄心堂〕 昭和三十二年大呂旬 一誠堂にて／岸廼舎 |
| | 懷風詩集 | 一四〇七 | 〔朱書〕昭和三十二年大呂朔 沖森より 岸廼舎識 |
| | 竹取翁物語解 | 一一一〇 | 昭和三十二年大呂朔 斯文会にて 岸廼舎識 |
| 12月1日 | 歌註 里村昌程追善連 | 九九九 | 〔朱書〕昭和三十二年大呂朔沖森書店より 岸廼舎 |
| 11月下旬 | 鶴臺先生遺稿 | 九〇二 | 昭和卅二年十一月下流求之于沖森 <small>云</small> 岸廼舎 |
| 11月22日 | 十三仏抄 | 二二三八 | 〔墨書〕昭和三十二年十一月二十二日／名古屋藤園堂より／岸廼舎 〔朱書〕十王ノ事、百法問答抄卷七ニ見ユ／第五王ノ閻魔ノミハ諸經ニコレヲ説ク他ハ道經ノ影響ニテ説ケルガ如シ／釈門正統卷四参照／冥報記〔法苑珠林卷二ノ六ニ引用〕經律実相卷四十九ニハ五官王ノ事アリ／仏祖統記三十三ノ三長齋ノ条／夷堅志ニ秦広王ノ事アリ 十二月一日記之 岸廼舎 |
| 11月2日 | 雲図鈔 | 二九九〇 | 永曆二条帝之代而平治二次グ年也／／昭和三十二年十一月二日／沖森にて 岸廼舎 |
| 10月31日 | *徴古館蔵 伊勢名所卷（複製本） | 四三三一 | 昭和三十二年十月晦 京都 平安堂にて 〔大正13年4月15日発行／芸術資料刊行会〕 |
| 10月中旬 | 独断 | 四四六五 | 昭和三十二年十月中浣／新文会にて 岸廼舎識 |

| | | | |
|--------|-------|------|-----------------------------------------|
| 12月31日 | 護法資治論 | 二〇三〇 | 護法資治論五冊 合綴為二冊 / 昭和三十三年十二月卅一日於斯文會 / 岸廼舎識 |
|--------|-------|------|-----------------------------------------|

昭和三十三年戊戌(一九五八)

| | | | |
|-------|----------------------------------|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1月2日 | さりざりす物語・玉虫のさうし・若草物語 (黒川本の現写本) | 三三六六 | 若草物語一冊 黒川本也 <small>昨年十一月昭子持参而元日返来者也</small> / 昭和三十二年元旦写了持参矣 昭子写也 / 一月二日夜記之 岸廼舎識 / 今日午後三笠高松両宮家二年賀参上シ / 三笠宮面謁、高松宮家二ハ吉島氏ト暫 / 時面談頂載御酒而飯家。温暖也。 / 徳川義親氏ニ源氏第一卷ヲ届ケタリ。 / 林政史研究室ニテ <small>夢通路物語 庚子通之記</small> 逸名物語ノ件 / 談合云云 |
| 1月13日 | *六道絵巻解説 | 四二八一 | 昭和三十二年一月十三日 神田、飯島にて 岸廼舎 〔昭和六年五月五日 / 大和繪同好會〕 |
| | 扇面古写経 | 四三二四 | 昭和三十二年一月十三日 |
| 1月16日 | 后山詩註 | 二五四 | 昭和三十二年一月十六日 / 斯文会理事会夜 / 岸廼舎 |
| 1月17日 | *いはでしのぶ (複製本) | 三三三五 | 〔解題冊子末〕昭和三十三年一月十七日 / 書陵部委員会日岸廼舎 〔箱書〕昭和三十三年一月十七日 / 一五〇部刷の中 / 岸廼舎 |
| | 慶安古筆手鑑 | 四二一九 | 昭和三十二年大簇十七日 / 松雲堂主人寄贈 / 岸廼舎識 |
| 1月19日 | 増冠傍註 護法論 | 二〇〇〇 | 其中堂にて 昭和三十三年一月十九日 / 岸廼舎 〔明治十八年6月15日 / 編輯人・古田梵仙 / 出版人・出雲寺文二郎〕 |
| | 護法資治論 | 二〇三一 | 此諸去冬求前編而未得後篇 今夜幸得後篇 / 昭和三十三年一月十九日 / 其中堂にて 岸廼舎 |
| | むすひの記 | 二九八五 | 昭和三十三年一月十九日 / 其中堂にて 岸廼舎 |
| | むくら(複製本) | 三三三四 | 〔箱書〕昭和三十三年一月十九日 / 岸廼舎 |
| | 本朝人相考 | 四一五四 | 昭和三十三年大簇十九日 / 其中堂 岸廼舎 |

| | | | |
|-------|-------------------------|----------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 3月21日 | 古今集撰者家集 新勅撰和歌集 | 七四 | 二二三 廿一代集之板木ニヨルモノナリ／昭和三十三年三月廿一日／琳琅にて／岸廼舎 |
| 3月10日 | 堀江物語 | 三三九二 | 堀江物語一冊 以黒川本影写了／昭和三十三年二月十六日昭子写了也／同三月十日夜記之岸廼舎 |
| 3月1日 | 湖月抄 源氏物語ひもかがみ | 三三〇二 一一四〇 | 〈第八冊「須磨明石濡標」〉〈朱書〉本居翁校訂本／昭和三十三年三月朔／岸廼舎 〈第二十六冊「手々夢浮橋」〉本居翁校訂本／昭和三十三年三月一日／洛陽細川開益堂より求之／岸廼舎 |
| 2月21日 | 身延山本 宝物 集(現写本) | 三四三六 | 宝物集抄本 身延山久遠寺蔵本也／旧石崎氏轉写本写了／卅一年／昭和三十一年夏六月借覽焉／同三十三年二月廿一日製本於書陵部了 |
| | *浄土宗法要集 | 四九九七 | 昭和三十三年二月三日／ 神田にて 岸廼舎 〔昭和14年12月25日／江藤激英編輯／浄土宗務所〕 |
| 2月6日 | 浪花帖仮名(集 巻) 古浪華帖の付 | 四二五六 | 昭和三十三年二月六日／小松茂美氏より 岸廼舎 |
| 2月1日 | 名家合作 地口 画譜 | 三九九五 | 昭和三十三年二月一日 岸のや |
| 1月25日 | 山陽詩註 本朝統文粹 侯鯖詩話 | 一二六一 一四三六 一七九二 | 昭和三十三年一月廿五日／於松雲堂 岸廼舎 昭和三十三年 大簇廿五日／於 松雲堂求之、校訂本也／岸廼舎識 松雲堂主人曰／日柳(二字振り仮名「クサナキ」)ハ博徒親分ナリシト／於松雲堂十九冊／昭和三十三年一月廿五日／岸廼舎 |

| | | | |
|-------|---------|------|--------------------------------------------------------------------------------------------|
| 3月21日 | 詠歌眼目 | 二二四 | 昭和三十三年三月廿一日／琳琅にて岸廻舎 |
| | 龍門詩集 | 五八八 | 昭和三十三年三月廿一日／琳琅にて岸廻舎 |
| | 橘園遺文初集 | 一一七三 | 昭和三十三年三月廿一日 琳琅にて 岸廻舎 発端」〔昭和三十二年大呂旬／藤園堂にて岸廻舎〕 |
| | 湖月抄 | 三三〇四 | 昭和三十三年春分之日／琳琅閣にて、岸廻舎識 |
| 4月4日 | *宿曜經占真伝 | 四一四八 | 岸廻舎識／昭和三十三年四月四日／神田誠心書房にて 〔明治41年6月25日発行／其中堂書店〕 |
| 4月19日 | 舜水先生文集 | 二八四 | 昭和三十三年仲呂十七 黄昏過松雲堂／主人示舜水先生文集曰此写本者出於 水府辺歟／版本以前写云 精写稀觀者也／ 仲呂十九日晨朝記之 岸廻舎 識 |
| | 芸閣先生文集 | 九二三 | 〔朱書〕表紙ハ後ニ附シタルナルベシ モトハ 仮綴ノママナルベシ／ 十九 日 重識之／岸廻舎 |
| | 独醒菴集 | 一〇六八 | 昭和三十三年仲呂十九日／ 松雲堂にて 岸廻舎識 |
| 4月29日 | 撰津名所図会 | 三〇五九 | 昭和三十三年仲呂十九日／ 松雲堂にて／岸廻舎 〔第一冊〕〔補入〕為〕源氏物語 須磨卷求之／／ 昭和三十三年仲呂天長節之 日／沖森より 岸廻舎識 |
| 4月30日 | 戸田茂睡註 | 九 | 本書佚題目今仮称戸田茂睡註 (割注)昭和三十三年／仲呂晦) |
| 5月1日 | 萬葉二聖集 | 六 | 昭和三十三年五月一日藤園堂／岸の屋 |
| | 釈教題林集 | 三八二九 | 昭和三十三年五月一日／藤園堂にて岸廻舎 |
| 5月10日 | 和字正濫鈔 | 六四七 | 昭和三十四年五月十日 名古屋 藤園堂にて、岸廻舎 |
| 5月25日 | 笑府 | 一八三三 | 昭和三十三年七月八日記之 岸廻舎／(王利器ノ万代笑話集ニハ墨敢齋ハ明 人ナリ。又日本藤井弥兵衛刻本云トアリ 与本書別刊也)』 昭和三十三年五月廿五日／斯文会にて／岸廻舎 |

| | | | |
|-------|-----------------------------------------------|--------------------|------------------------------------------------------------------------|
| 8月22日 | 被甲護身要訣 考 源氏物語新釈総 夢庵戯歌集 調鶴集 | 四〇四八 三九三 | 昭和三十三年南呂十二日／沖森書店にて 岸廼舎 昭和三十三年南呂十二日／沖森書店より岸廼舎 |
| 8月12日 | 嘉禎遠島御歌合 寛元河合社歌 合（群書類従卷 一九九和歌部 五四） | 三三〇八 九七〇 八六六 | 昭和三十三年南呂十二日／沖森書林にて 岸廼舎 昭和三十三年南呂十二日／沖森にて 岸廼舎 |
| 7月 | *先賢遺芳 | 四二二六 | 昭和三十三年祇園祭祀之日 岸廼舎 〔昭和3年1月10日再版／内外出版株式会社印刷部／カワイ書店〕 |
| 7月8日 | *竹秋遺稿 | 一三九六 | 昭和三十三年夷則八／松雲堂にて 岸廼舎〔昭和9年10月31日 編輯兼発行 者・三谷九八 印刷所・西濃印刷(株)岐阜支店〕 |
| 6月下旬 | 日本復古詩 本(写真製本) | 八八二 | 昭和三十三年夷則八／松雲堂にて 岸廼舎 |
| 6月12日 | 孝子伝 船橋家 梅園奇賞 | 四五一九 四三三九 | 昭和三十三年六月下浣／山田忠雄氏ニヒルムヲ貸ス氏複写シテ一／本ヲ贈ラ レタリ 岸廼舎 昭和三十三年林鐘十二 於松雲堂求之 岸廼舎 |
| 6月6日 | 烏丸前大納言光 栄卿御口授 歌式聞書 | 一一七 一二四 | 昭和三十三年六月六日／思文閣にて／岸廼舎 昭和三十三年六月六日／思文閣にて／岸廼舎 |
| 5月31日 | 永平高祖行狀記 | 二二二一 | 昭和三十三年五月蕤賓晦於琳琅／岸廼舎 |

| | | | |
|--------|------------------|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 10月31日 | 国辞解 | 六三二 | 〔裏見返〕上卷欠／昭和三十三年十月三十一日夜／大屋にて 岸廼舎 |
| 10月30日 | 中臣祓考索 | 一九五八 | 〔上巻前見返〕寢山ハ和田宗允京都ノ儒者羅山ニモ字ベリ播州龍野藩主脇坂淡ノ路守ニ任フ藩主ノ命ニヨリ本書ヲ注セリノ儒者ノ注ハ稀ニシテ参照スベキナリ／昭和三十三年十一月一日ノ岸廼舎識ノ奉納ハ幡宮 |
| 10月25日 | 求 附音増注古注蒙 | 四四八三 | 〔下巻後見返〕昭和三十三年十月三十日ノ大屋にて 岸廼舎 |
| 10月24日 | 祭具図式 | 一九四〇 | 〔挟込紙片〕昭和三十三年十月ノ古書賣立会当日下見ノ依嘱于浅倉屋書店主ノ人而 落札全九千八百六十円也ノ廿五日訪浅倉書店ノ岡田温氏在店ノ経籍訪書志之 |
| 10月20日 | 一日百首詠 | 一一四二 | 昭和三十三年十月廿四日琳琅閣にて 岸廼舎 |
| 10月10日 | 東見記 鶴のはやし | 三一七〇 二二六 | 昭和三十三年十月十日ノ思文閣にて 岸廼舎 |
| 10月3日 | *廢類大津繪節 | 四〇〇五 | 〔昭和三年一月二十日ノ著者・市場直二郎ノ発兌元・発藻堂書院〕 |
| 9月30日 | 近葉菅根集 | 九四三 | 〔第一冊〕昭和三十三年無射晦ノ藤園堂にて 岸廼舎 |
| | 増補事類統編 | 四五九二 | 〔朱書〕昭和三十三年南呂廿二日ノ琳琅閣にてノ岸廼舎 |
| | *孝行録 | 四五二一 | 〔大正11年10月20日ノ刊行者・橘井清五郎ノ印刷所・東京国文社〕 |
| | *麗氣記私抄 麗氣記拾遺抄 | 二〇二一 | 昭和三十三年南呂廿二日ノ琳琅閣にて 岸の舎 |
| 8月22日 | 増鏡 | 一一八二 | 昭和三十三年南呂廿二日 於琳琅 岸廼舎 |

| | | | |
|--------|-------------------------|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | | | 昭和三十四年己亥(一九五九) |
| 11月6日 | 手印図 改正印 | 五〇一〇 | 昭和三十三年十一月六日中京／日光堂にて 岸廼舎 |
| 11月10日 | かやくき物語 | 三二六七 | 〔上巻〕かやくき 宇都保国讓巻也以黒川本書写了／ 昭和三十三年蕤賓上浣和子写／ 同 蕤賓五月三十一日朝／岸廼舎記之／ 連日旱天、水道枯渴云云／ 前半朱筆校訂有之 〔下巻〕かやくき物語 下巻 奥書無之、半紙本二冊／ 黒川真頼旧蔵本云云 宇都保物語楼上〔楼上〕ミセケチ右傍書「国讓」巻也／ 昭和三十三年十一月三日写了 和子而参焉／ 同月十日半夜綴了 岸廼舎識／ 此巻朱筆校訂無之云云 |
| 12月4日 | 方鏡 | 四一四二 | 琳琅にて／昭和三十三年大呂四 岸廼舎 |
| 12月31日 | 爾雅註疏 二十一都懷古詩 勇盧間詩 | 四三六五 三〇三 | 昭和三十三年大呂四日 於琳琅閣雜本中求之 昭和三十三年十二月三十一日／於斯文会 岸廼舎 |
| | 教乘法数 | 二〇〇四 | 昭和三十三年大晦日斯文会にて岸廼舎 |
| | 四節会御装束図 | | 昭和三十三年大呂大晦／於斯文会 岸廼舎 |
| 1月16日 | 蹴鞠湖水記 | 四一七七 | 昭和三十四年一月十六日／於其中堂 岸廼舎 |
| 2月6日 | 歌合 | 三六四九 | 昭和三十四年二月六日於琳琅求之 岸廼舎識 |
| 2月16日 | 有節録 | 四七八四 | 南陽堂にて岸の屋／昭和三十四年二月十六日 |
| | 四英獄窓 唱和集 | 五二〇三 | 昭和三十四年二月十六日／南陽堂にて／岸廼舎 |

| | | | |
|-------|------------------|--------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 3月4日 | 心書 洞冥記 西京雜記 | 四四三二 | 昭和三十四年三月四日 南陽堂にて、岸廼舎 |
| 3月7日 | 丹鶴叢書 | 五〇五〇 | (第一冊)「昭和三十年十月上浣 於南陽堂求之・岸廼舎」 (第六冊)「越後北蒲原郡乙村 乙宝寺 昭和廿四年二月四日 琳琅ニテ岸廼舎」 (第九冊)「昭和三十年十一月中浣 思文閣にて岸廼舎」 卅一合計廿二冊／昭和三十四年三月四日／於南陽堂求之／岸廼舎識 |
| 3月11日 | 語学新書 | 七三一 | 昭和三十四年三月十一日 東横にて岸廼舎 |
| 3月15日 | 古詩聯珠 | 四〇四 | 昭和三十四年三月望／於文行堂 岸廼舎 |
| 3月下旬 | 蕉雨園集 | 九一一 | 昭和三十四年三月十五日／於文行堂 岸廼舎 |
| 4月9日 | 酒史新編 | 四一一五 | 〈上巻〉昭和三十四年三月下浣／誠心堂にて 岸廼舎 |
| 5月10日 | つれづれ草 玉霰乃論呂比 | 四一一 | 昭和三十四年仲呂九日／大屋にて 岸廼舎 |
| 6月17日 | 本事詩 | 三二五六 | 昭和三十四年蕤賓旬／名古屋藤園堂にて／岸廼舎 |
| 6月26日 | 東叡開祖 慈眼 大師御伝記 | 四五七〇 | (巻一) 本事詩 十二巻 清徐鈞輯 邵武徐氏叢書二輯 所収本也 本事詞二巻 清葉申■撰 詞話叢編所収 (巻三) 昭和三十四年林鐘十七日 斯文会より 一套四冊 岸廼舎識 |
| 7月3日 | 花伝書 | 二一三〇 一〇八七 | 昭和三十四年林鐘廿六日／於琳琅閣 岸廼舎 昭和三十四年林鐘廿六日見本書于／琳琅肆頭而夷則初三求之／岸廼舎 |

| | | | | | | | | |
|--|--------|---------------------------------|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|------|-------------------------------------------------|--|
| | | | | 7月12日 | かたはみ草 | 六九九 | 昭和三十四年夷則十二／岸廻舎 | |
| | | | | | 往生集 | 二〇五七 | 竹窓随筆／同 二筆／同 三筆／ 祿宏撰也／／ 昭和三十四年夷則十二 ／ 沖森にて 岸廻舎 | |
| | 8月28日 | 四季草 | 二九七九 | 亡母十三回忌飯國中 八月廿八日／藤園堂書店より 岸廻舎 | | | | |
| | | 陰陽方位便覧 | 四一四三 | 〈卷一〉岸廻舎／ 昭和三十四年八月廿八日記之／ 余少年之日開キン次郎 之那久焉然キン之字／ 金歎勤歎錦歎不知也／陰陽方位便覧三冊、善光寺村 庄屋 高橋金(右傍書「謹」)次郎 旧蔵書也、(朱読点なぞり書き)／金次郎氏 余之伯父親友而同道来往于江戸云。(朱句点なぞり書き) 伯父笠原源／蔵語金 次郎之経歴於余矣、(朱読点)好学之人云云、(朱読点)亡母亦知金次郎矣。／ 金次郎為余祖父知蔭翁之後字也。〉(記号二字朱筆) 本書在新保毎水翁／之蔵 書中矣 今茲八月亡母十三回忌飯國際、持参于東京云。(朱句点) | | | | |
| | 9月16日 | 空也上人絵詞伝 | 二一〇四 | 空也上人絵詞伝 三冊 沖森にて 岸廻舎／ 昭和三十四年無射十六日 | | | | |
| | 9月下旬 | 光長寺本 宝物 | 三四三四 | 寶物集卷一／以下欠本／沼津市外光長寺什物也／弘安十年写本云 此一巻先 年／石崎石造氏撮影焉／昭和三十四年九月下浣製本了／岸廻舎識 | | | | |
| | 10月10日 | 名徳百人一首 | 五二〇一 | 〈表見返〉昭和三十四年十月十日／巖松堂にて 岸廻舎識 | | | | |
| | 10月11日 | *十々烈集(写真複製) | 五〇七六 | 十々烈集 一軸 <small>總久逸文庫本也 毘沙門堂旧蔵</small> 昨冬借覽而撮影焉／ 今茲仲夏夷則製本者 也／ 昭和三十四年十月十一日記之／岸廻舎識 | | | | |
| | 10月12日 | 字考正誤 | 四三七三 | 昭和三十四年十月十二日 岸廻舎／与吟舟江川君同道於飯島／求之 | | | | |
| | 10月20日 | 蓬左文庫本源 氏物語 (桐壺卷／紹巴筆)(写真帖) | 三二七〇 | 本文は青表紙本なり／故に以下は省略す／奥書のみを存す』桐壺卷 蓬左 文庫本也／ 昨夏借覽之序写之／ 昭和三十四年夏製本焉／ 同十月廿 日記之 岸廻舎／ 本夕岩波源氏第二巻校了云 | | | | |

| | | | |
|--------|----------------------------------------------|---------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 10月24日 | 更科日記 増鏡 真宗法要典拠 | 四六八 三四四六 四九九九 | 昭和三十四年十月廿四日於南陽堂／岸廼舎識 増鏡三冊古本也／昭和三十四年十月廿四日 於南陽堂／岸廼舎識 〔朱書〕昭和三十四年〔十〕補入月廿四日／於南陽堂寄贈／岸廼舎 |
| 10月31日 | 恰野集 | 九三四 | 昭和三十四年十月三十一日／大屋にて岸廼舎 |
| 11月1日 | 曼殊院本 古今 和歌集（卷十七） （複製本） | 三五七七 | 〔箱書〕七条より 昭和三十四年／十一月一日 |
| 11月14日 | *信吉模本（年中 行事絵巻） 詞の朶打聴 摘英集（摘英和 歌集） | 四三一九 七一一 八六七 | 昭和三十四年十一月一日 訪七条為所贈云 岸廼舎 〔昭和34年8月10日発行／古典芸術刊行会〕 昭和三十四年十一月十四日／於文行堂にて 岸廼舎 昭和三十四年十一月十四日於文行堂／岸廼舎 |
| 11月15日 | 日本紀私記零本 | 二七〇六 | 昭和三十四年十一月十四日／於文行堂求之岸廼舎 |
| 11月20日 | 回文類聚 重刻書叙指南 | 四六五五 四五九三 | 〔帙裏〕岸廼舎 昭和三十四年十一月望 於寛永寺展書注文焉 昭和三十四年十一月二十日於琳琅閣 岸廼舎 |
| 11月27日 | 海道記（長明海 道記） 桂庵和尚家法倭 点 | 四三一 一八九〇 | 〔上巻奥〕昭和三十四年十一月廿七日／於琳琅閣 岸廼舎 〔表見返〕本書刊本有 種／無刊記本 〔奥〕昭和三十四年十一月廿七日見本書／于琳琅店同三十日発注大呂朔日送来 焉 岸廼舎識 |
| 11月30日 | 訓蒙要言録 *誠拙禪師影集 | 四八八八 三八四〇 | 昭和三十四年十一月晦／南陽堂にて岸廼舎 昭和三十四年十一月廿七日／於琳琅閣 岸廼舎識 〔大正2年5月13日発行／鎌倉円覚寺内仏日庵蔵版〕 |

| | | | |
|--------|-----------------------------------------|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 12月2日 | *ふるかゝみ | 四二三八 | 昭和三十四年大呂二 思文閣にて 岸廼舎 〔昭和5年6月25日発行 / 古鏡社(第十八冊目第三卷第六號)〕 |
| 12月11日 | 詩譜駢字類珠 | 四六〇一 | 昭和三十四年大呂十一日 / 琳琅閣にて 岸廼舎 |
| 12月13日 | 所南翁一百二十 回詩集 | 二七四 | 昭和三十四年大呂十三 / 於南陽堂求之 岸廼舎 |
| | 蘭亭先生詩集 | 八九七 | 蘭亭先生詩集刊本之写也 / 昭和三十四年大呂十三昏刻從書陵部販途 / 於南陽堂寄贈 岸廼舎識 |
| 12月17日 | 浄土百歌仙 | 三八三三 | 昭和三十四年大呂十三日 / 南陽堂にて 岸廼舎 |
| | 和学辨 | 三一七四 | 東海道談 亦維章著作也 / 昭和三十四年大呂上旬 / 南陽堂にて岸廼舎識 十二月十七日讀了 |
| 12月18日 | 歌集 頼阿筆 (主ある詞・八代 集秀逸)(東大本 の現写本) | 三七七七 | 伝頼阿自筆歌書不知題名(三部合綴ス)(丸括弧内ママ) / 東大研究室本也 今茲六月借覽 / 於家中書写 十日製本焉 / 仮「可」補入 題頼阿筆歌書歟 可考究者也 / 昭和三十四年大呂十八日記之 / 岸廼舎 / 一、歌集 / 一、 主ある詞 / 一、八代集秀逸 |
| 12月31日 | 八代集抄 | 七五 | 〔表見返〕古今集八冊本 他缺之 |
| | 譚林拾葉集 | 八七 | 〔奥〕昭和三十四年大呂晦 / 姫路在於古家書店 岸廼舎 |
| | 和字正濫要略 | 六一三 | 昭和三十四年十二月三十一日 / 琳琅閣にて / 岸廼舎 七八卷十二卷 |
| | 名所今歌集 | 三八二四 | 昭和三十四年大呂晦 / 古家店にて / 岸廼舎 |
| | 翰元増補字学舉 | 四三七四 | 昭和三十四年十二月卅一日 / 琳琅閣主人寄贈 岸廼舎 |
| | 偶 | | |
| | 楽遊聯唱集 説 | 四六三〇 | 為楽遊聯唱集参照求之云云 昭和三十四年大呂大晦 於琳琅 岸廼舎 |
| | 文解字旧音 | 四七七五 | 昭和三十四年十二月卅一日 / 於琳琅閣 岸廼舎 |
| | 星槎余響 | | |

昭和三十五年庚子（一九六〇）

| | | | |
|-------|--------------------------|----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1月上旬 | 大般若經 卷四百六十 | 二二八〇 | 〔前見返〕昭和三十五年大簇上浣／播磨古谷ヨリ求焉 |
| 1月13日 | 諸經要集 | 一九九四 | 釈道世 姓韓氏字玄惲 十二歳入青龍寺 研修律宗／高祖之顕慶中關係于玄奘之訳場 字識博洽与道宣等名／從事于法苑珠林百卷之編輯 弘道元年寂矣 <small>齊明天皇十二年也</small> ／諸經要集二〇卷 其他有焉／諸經要集 大乘修行ササ〔菩薩〕略字〕行門諸經要集二〇卷／做 梁ノ経律異相者也 諸宗章蔬卷上云 道宣撰云／一月幾望／半夜記之／昭和三十五年大簇十三／名古屋 藤園堂より 岸廼舎 |
| 1月中旬 | 洗眸百絶 雲如山人集 第四集 | 八七四 九五五 | 宗阿上人／／ 昭和三十五年庚子大簇中浣岸廼舎 昭和三十五年琳琅にて／大簇中浣／岸廼舎 |
| 1月24日 | 百聯抄解 | 四二四二 | 昭和三十五年一月廿四日 神田にて岸廼舎識 |
| 1月29日 | 如亭山人詩鈔 瓦釜集 | 七〇六 四六二九 | 岸廼舎／昭和三十五年一月廿九日／琳琅閣主人寄贈 瓦釜集一 卷四欠 昭和三十五年一月廿九日 琳琅閣にて 岸廼舎 |
| 3月上旬 | 賦何衣連歌 | 一〇〇一 | 昭和三十五年三月上浣／琳琅閣にて／岸廼舎 |
| 3月12日 | *明恵上人臨終記 (新成算堂叢書・第四冊) | 二二一六 | 昭和三十五年三月十二日／南陽堂にて求む 岸廼舎識焉 〔昭和7年2月1日発行／編者・徳富猪一郎／発行所・民友社〕 |
| 3月25日 | 御本日記附注・統録 | 三〇八六 | 昭和三十五年三月廿五〔五〕右傍書〔九〕日／〔後筆頭書補入〕東大之飯途〕於琳琅求之 岸廼舎 |
| 5月13日 | 手引蔓 | 九七六 | 昭和三十五年蕤賓十三／岸廼舎 |

| | | | |
|--------|----------------------------------|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 5月15日 | 心学捷経 大学 笑句 | 五一六五 | 昭和三十五年蕤賓十五日／於斯文会 岸廼舎 |
| 5月23日 | 懸物図鑑 | 三〇〇〇 | 昭和三十五年五月廿三日／於一心堂求之 岸廼舎 |
| 6月12日 | 古語拾遺句解 | 一九五四 | 昭和三十五年林鐘十二／於斯文会岸廼舎 |
| 7月10日 | *天文板論語 (複製本) | 四三六一 | 〔帙裏〕昭和三十五年七月十日／神田 大屋にて／岸廼舎 〔裏見返〕昭和三十五年夷則旬 於大屋／岸廼舎識 〔大正5年8月30日／編輯兼発行者・梅山秀／発行所・南宗寺〕 |
| 7月上旬 | *孝子伝 (複製本) | 四五一八 | 昭和三十五年夷則上浣／岸廼舎識 〔昭和34年12月11日／京都大学付属図書館／印刷者・便利堂〕 |
| 7月16日 | *論語善本書影 (複製本) | 四三六二 | 〔帙裏〕昭和三十五年七月十六日夜／於斯文会求之販途／見領国花見茗溪橋／岸廼舎 〔奥付〕昭和三十五年夷則既望／於斯文会求 岸廼舎識 〔昭和6年6月3日発行 編纂・大阪府立図書館 発行所・貴重図書影本刊行会〕 |
| 7月25日 | 爾雅蒙求 | 四五一三 | 〔茗溪橋畔〔畔〕ミセケチ右傍書〔上〕見両国花〕／昭和三十五夷則既望／於斯文会 岸廼舎 |
| 8月5日 | 三代集 三体詩法(増註) 唐賢絶句三体詩 法) | 三五六八 三一四 | 〔帙裏〕昭和卅五年七月／廿五日其中堂にて／岸廼舎 明心版覆刻第四種也 昭和三十五年南呂五日沖森書林にて岸廼舎識 〔帙裏〕岸廼舎／阿佐井野版の事など書きたる頃偶然にこの本を／求め得たり 八月七日不二登山八日下山九日朝記之 |
| 9月19日 | *ささめこと (複製本) | 三九三〇 | 〔箱裏〕昭和三十五年九月十九日 岸廼舎識 〔昭和34年2月5日発行 宮内庁書陵部／便利堂〕 |
| 10月13日 | 拾異類編 説法 事林伝 | 二五九八 | 今春注文ノ書也／昭和卅五年十月十三日／沖森ヨリ 岸廼舎 |

昭和三十六年辛丑（一九六一）

| | | | |
|--------|--------------------------|--------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| 10月中旬 | 撰集抄 | 一三四五 | 昭和三十五年十月中浣／於誠心堂求之 岸廻舎 |
| 10月下旬 | *やまかつら | 五一九六 | 昭和三十五年十月下浣神田にて／岸廻舎 〔大正13年8月／春日神社社務所・発行〕 |
| 12月16日 | 舜水先生文集 六七 | 二八七 | 昭和三十五年大呂既望、岸廻舎識／過松雲堂々主語舜水先生文集欠本、云云 |
| 12月24日 | 名所栞 京本音釋 註解 書言故事大全 | 三八二五 四五八三 | 昭和三十五年／大呂既望 於松雲堂求焉 岸廻舎 昭和三十五年大呂廿四日於學士会分館／有清水書店之会合有焉矣。飯途過琳浪／雑談 微雨 蕭々陰暗黄昏求之矣／岸廻舎 |
| 12月29日 | 大和名所図会 | 三〇五七 | 昭和三十五年／大呂廿九日／藤園堂より 岸廻舎識 |
| 1月15日 | 天朝墨談 | 四二五二 | 昭和三十六年一月望／思文閣にて 岸廻舎 |
| 1月16日 | 馬引図 | 四一八六 | 昭和三十六年一月既望／岸廻舎 |
| 1月24日 | 裝束図 | 三〇〇六 | 昭和三十六年一月廿四日神田にて／岸廻舎 |
| 1月31日 | *孔子二千四百年祭記念 先儒遺墨帖 | 四二二五 | 昭和三十六年大蔭三十一日／於一誠堂／岸廻舎 〔大正12年4月15日発行／法書會出版部／西東書房〕 |
| 2月6日 | 梅花百律 | 一一六九 | 静一道人 上毛人 姓三上氏 医家也／医家而詩人 梅花百律一卷有焉而已 ／／ 昭和三十六年二月六日／文行堂にて 岸廻舎 |
| 2月18日 | 南遊稗載録 古今選 | 一五七九 四〇 | 昭和三十六年二月六日／文行堂にて 岸廻舎 昭和三十六年二月十八日／文行堂にて岸廻舎 |
| | 土御門院御百首 | 三三八 | 昭和三十六年二月十八日／岸廻舎識 |
| | 実陰公集 | 八七九 | 昭和三十六年二月十八日／於文行堂 岸廻舎 |
| | 説法因縁集 | 一三七三 | 昭和三十六年二月十八日／文行堂にて／岸廻舎 |

| | | | | | | | | | | | |
|-------------|--------------------------------|----------------------------------------------|----------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------|------------------------------------------------------------------|-----------------|----------------------------------------------------|---------------------------|--------------------------|--------------------|
| 7月12日 | 7月1日 | 6月30日 | 6月29日 | 6月2日 | 5月28日 | 5月中旬 | 3月30日 | 3月18日 | 3月7日 | 3月1日 | |
| 録 華頂山大法会図 | 諺鈔 莊子口義大成俚 | 春風館詩鈔 梅松訴陳 | 旧儀裝飾十六式 図譜 | 皇朝名家百絶 (江目氏詩録) | 嘉永年中行事 | *好古事彙 | 説文解字双声疊 韻譜 | 萬葉手鑑 濟継卿集 | 定家卿読方集 | 常語數 | 左氏蒙求 |
| 五三五〇 | 四四二一 | 四八七八 一二四八 | 三〇〇一 | 一四六七 | 五三六九 | 四三四二 | 四三七一 | 三五六六 三二四 | 一六二 | 五一一一 | 四五〇八 |
| 昭和三十六年七月十二日 | 俚諺鈔共内篇而已／昭和三十六年夷則朔／於誠心書房求之 岸廼舎 | 芳宜園即橘千蔭旧蔵書印也／／ 昭和三十六年林鐘晦 昭和三十六年夷則朔 誠心堂にて 岸廼舎 | 昭和三十六年林鐘廿九日／斯文会にて岸廼舎 | 林式部大輔 江目芳太郎 雑抄録也／林鐘二 為求九成宮■〔言〕豊〔旁〕酉〔入〕れ替え記号〕醴泉銘 至楠陽堂云々／江目芳太郎ハ江戸牛込北御徒町住人ナリ、 ／／ 昭和三十六年林鐘二／ 楠陽にて 岸廼舎 | 昭和三十六年五月廿八日／思文閣にて 岸廼舎 | 〔表見返〕昭和三十六年蕤賓中浣／岸廼舎／移し鞍の事ありければ／求む 〔明治42年4月22日發行／好古社出版部／青山堂書房〕 | 昭和三十六年三月三十日／岸廼舎 | 昭和三十六年七月十七日／於松雲堂求之／岸廼舎識 昭和三十六年七月十八日昏黃於文行堂求之／岸廼舎 | 昭和三十六年姑洗十〔八〕補入日／於文行堂求之岸廼舎 | 昭和三十六年三月七日／誠心堂にて下欠卷也／岸廼舎 | 昭和三十六年姑洗朔／誠心堂にて岸廼舎 |

| | | | |
|--------|-----------------|------|--------------------------------------------------------------------------------------------|
| 7月17日 | 詠史絶句 *新鈔西清古鑑 | 九四一 | 昭和三十六年夷則十七日／於松雲堂求焉 岸廻舎識 〔卷〕昭和三十六年夷則十七日／松雲堂にて 岸廻舎 〔明治25年8月20日出版〕著作兼発行人・吾妻健三郎／發行所・東陽堂〕 |
| | *翻刻銅鑄箋註 蒙 | 四四九六 | 〔上卷〕銅版蒙求 三冊／以〔補入「如」〕謄写版之鉄筆針刻銅版／与銅活字版異也／昭和三十六年七月十七日／松雲堂主人語焉云云／岸廻舎 〔明治12年3月発兌〕翻刻人・北川喜太郎〕 |
| | 金聲巧聯 | 四六四〇 | 松雲堂主人／寄贈／昭和三十六年七月十七日 |
| 7月中旬 | 日本釈名 | 三二二〇 | 昭和三十六年夷則中浣／大阪中尾松泉堂にて／岸廻舎 |
| 8月1日 | 安豆麻宇多（東歌） | 二四 | （上册）昭和三十六年南呂朔／古家書肆より／岸廻舎 |
| | 偏格詠例 | 一四五 | 大愚法師／／昭和三十六年南呂朔／古家書店より／岸廻舎 |
| 8月29日 | 蒙求 | 四四七九 | 〔卷末押紙〕蒙求 一冊 木活本／正倉院御物同系無注文／者也 即菅家本也／本書原本不知所在者也／他日宜調査云云／昭和三十六年八月廿九日記入／岸廻舎識 |
| 9月18日 | *東雅 | 三二二一 | 昭和三十六年無射十八／誠心堂にて 岸廻舎 〔明治36年3月13日／発行者・吉川半七／印刷者・野村宗十郎〕 |
| 10月8日 | 扶桑略記 | 二七二三 | 昭和三十六年十月八日／誠心堂にて／岸廻舎 |
| 10月15日 | 新勅撰和歌集 | 七二 | 昭和三十六年十月望 松雲堂にて岸廻舎 |
| 10月16日 | そしりぐさ（譏草） | 五二二 | 本書ハ伝平賀源内述作トモ云フ／ 昭和三十六年十月十六日松雲堂にて／岸廻舎 |
| | 武用弁略 | 四一七八 | 松雲堂にて／昭和三十六年十月既望 岸廻舎 |
| 10月18日 | 七書直解 | 四四三四 | 七書直解 祖父之遺書有之欠本也／故今求完本者也／昭和三十六年十月十八日／松雲堂にて岸廻舎識 |

| | | | | |
|--------|----------------|-------------|------|-------------------------------------------------------------|
| 1月14日 | 昭和三十七年壬寅(一九六二) | *談笑花間録 | 三九七二 | 昭和三十七年大藤十四〔五〕重ね書き〔四〕日／思文閣にて 岸廼舎 〔昭和十四年7月28日発行／紫水文庫刊行会〕 |
| 10月20日 | | *論語秘本影譜 | 四三六三 | 昭和三十六年十月廿日／南陽堂にて 岸廼舎 〔昭和十年3月13日／編纂兼発行人・三澤安二／印刷人・春山治部左衛門〕 |
| 10月下旬 | | 都名所図会 | 三〇五六 | 昭和三十六年十月廿日白雲堂にて／岸廼舎 |
| 11月14日 | | 箏曲大意抄 | 七九七 | 昭和廿六年十月下浣岸廼舎 |
| 11月14日 | | 古書疑義举例 | 三〇九六 | 昭和三十六年十一月十四日／思文閣にて 岸廼舎 |
| | | 愚雑俎 | 三二二二 | 昭和三十六年十一月十四日／思文閣 岸廼舎 |
| | | 〔星祭行事次第〕 | 五〇〇〇 | 昭和三十六年十一月十四日／思文閣にて岸廼舎 |
| | | 覚寿法尼蘇生記 | 二一三七 | 昭和三十六年十一月十四日／思文閣にて岸廼舎 |
| 11月17日 | | 新撰九品往生人行状絵詞 | 二〇九一 | 昭和三十六年十一月十七日／琳琅閣にて 岸廼舎 |
| | | 歌林襍考 | 三八八七 | 昭和三十六年十一月十七日／琳琅閣 岸廼舎 |
| 11月 | | 日本書紀通証 | 二七一〇 | 楠陽堂にて岸廼舎 昭和三十六年十一月日 |
| 12月5日 | | 世の中善悪鑑 | 三四一一 | 昭和三十六年大呂五 藤園堂にて 岸廼舎 |
| 12月9日 | | 古今偽書考 | 三〇九九 | 昭和三十六年大呂九／斯文会にて 岸廼舎 |
| 12月10日 | | *続高僧伝 | 二〇五一 | 昭和三十六年大呂旬／楠陽堂にて／岸廼舎 |
| 12月23日 | | 承陽大師傘松道詠集 | 三八三九 | 岸廼舎／／昭和三十六年十二月廿三日誠心堂にて |
| 12月下旬 | | 呉子国字解 | 四四二六 | 白雲堂より／昭和壬寅大呂下浣／岸廼舎 |

| | | | |
|-------|--------------------------------|---------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1月16日 | 菅家遺誠 過去現在未来千 仏名経 | 四七一〇 二一九一 | 昭和三十七年大簇既望／思文閣にて 岸廻舎識 昭和三十七年大簇既望／其中堂にて 岸廻舎 |
| 2月2日 | 玉あられ論 | 六四四 | 昭和三十七年丙寅夾鐘二誠心堂にて岸廻舎 |
| 2月15日 | 年中行事目次 | 五三六八 | 昭和三十七年二月望／於楠陽堂 岸廻舎 |
| 3月10日 | 独吟八十五曲 | 四〇二一 | 〈巻七巻末〉巻八一冊欠本也／昭和三十七年三月十日黄昏／琳琅にて 岸廻舎 〈巻八巻末〉獨吟八十五曲巻八以法政大学能研／藏本書写畢 仲呂朔日 _云 ／仲呂二於岩波書店加點者也／昭和三十七年仲呂五／岸廻舎識 |
| 3月31日 | 法然伝絵詞畧 | 四二七四 | 昭和三十七年姑洗晦 於南陽堂求之 岸廻舎識 |
| 4月13日 | 南遊集 | 五二〇 | 東歸集一冊／南遊集一冊／昭和三十七年四月十三日／誠心堂にて 岸廻舎 |
| 4月15日 | 書札調法記 諸国里人談 瓦礫雑考 | 七三九 三〇二三 三二二七 | 昭和三十七年仲呂望／沖森にて 岸廻舎 昭和三十七年仲呂望／沖森にて 岸廻舎 昭和三十七年仲呂望沖森にて／岸廻舎 |
| 4月21日 | 三国伝記 | 二〇六五 | 昭和三十七年仲呂望／沖森にて岸廻舎 |
| 5月13日 | *新撰 小口あはせ *大斎院前の御集 (複製本) | 三九〇二 三九九六 | 昭和三十七年仲呂廿一日／大屋にて 岸廻舎 〔昭和2年8月28日／編輯兼発行者・山田清作／発行所・米山堂〕 〔箱裏〕昭和三十七年蕤賓十三日 岸廻舎 〔奥付に貼紙〕昭和37年3月15日発行 日本大学図書館／便利堂〕 |
| 5月14日 | 二十三問答 | 一三〇一 | 〔前見返〕昭和三十七年蕤賓幾望／於一誠堂 |
| 5月16日 | 天厨禁臠 | 四六八九 | 昭和三十七年蕤賓既望／一誠堂にて 岸廻舎 |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------------|----------------------|--------------------|--------------------|-------------------|----------------------------|---------------------------------------|---------------|---------------------------------|--------------------|-----------------------|---------------------|------------------------------|-----------------------------|--------------------|----------------------------------|---------------------|-------|
| | | | 6月30日 | | 6月29日 | | 6月9日 | 6月7日 | 6月6日 | 6月3日 | 5月中旬 | | | | | | |
| 山路の露 | 地名字音転用例 | 被甲弁 | 図解単騎要略 | 天八衢 | 然上人和歌集(法) | 空花和歌集(法) | 風流地口絵手本 | (沢海落城根元記) | 大栄寺通夜物語 | 本) | *鹿野武左衛門口伝はなし(複製) | *新板なぞつくし(複製本) | 末戸外記刃傷之始末申渡之覺 | 製本) | *男色狐敵討(複製本) | *勸学院物語(複製本) | 往生礼賛偈 |
| 三三五七 | 三二一五 | 二九八〇 | 一九二七 | 八七二 | 三九九七 | 二七七二 | 一三〇三 | 一二九八 | 五三六四 | 一三〇〇 | 一二四五 | 一三〇二 | 一三〇二 | 一三〇二 | 一三〇二 | 一三〇二 | 一三〇二 |
| 昭和三十七年六月晦／熊本より 岸廼舎 | 昭和三十七年六月三十日／熊本より 岸廼舎 | 昭和三十七年林鐘晦／熊本より 岸廼舎 | 昭和三十七年林鐘晦／熊本にて 岸廼舎 | 昭和三十七年六月晦／熊本より岸廼舎 | 〈表見返〉昭和三十七年六月廿九日／文行堂にて／岸廼舎 | 大栄寺 中蒲原町 沢海村ナリ 曹洞、禅宗也／昭和三十七年六月廿九日／岸廼舎 | 昭和三十七年林鐘九 岸廼舎 | 〔昭和2年5月28日／編輯兼発行者・山田清作／発行所・米山堂〕 | 昭和三十七年林鐘九／大屋にて 岸廼舎 | 昭和三十七年林鐘七日／於文行堂求之 岸廼舎 | 昭和三十七年林鐘六／文行堂にて／岸廼舎 | 〔昭和32年7月1日／監修・林美一／発行所・江戸芸術社〕 | 〔別冊解説奥〕昭和三十七年六月六日／文行堂にて／岸廼舎 | 昭和三十七年林鐘三／於白木屋 岸廼舎 | 〔昭和5年10月28日／編輯兼発行者・山田清作／発行所・米山堂〕 | 昭和三十七年五月中浣／文行堂にて岸廼舎 | |

| | | | |
|-------|----------------------|--------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 7月7日 | 古今偽書考 墨色伝 | 三〇九八 八一六 | 昭和三十七年七夕／沖森にて岸廼舎 沖森にて／昭和三十七年七月七日／岸廼舎識 |
| 7月10日 | 参考太平洋記 | 三四六八 | 七月十日夜四十卷一読了／昭和三十七年夷別九／沖森より 岸廼舎識 |
| 7月22日 | 玉山先生遺稿 | 五四七 | 玉山先生詩集三冊六卷 与本書同形版而與在左記之刊記(右傍書)稍小形有焉 余藏本即小形也)／ 宝曆四年甲戌秋九月朔 東都書房須原屋茂兵衛梓行 ／／余嘗藏玉山先生詩集／故今求遺稿而已 昭和三十七年夷則二十二日 於琳琅閣求焉 岸廼舎識 |
| | 連歌茶談 後編 | 九七五 | 連歌茶談 前編 一卷 僧無相(下段余白「白雲堂／モト泊瀬ニアリキ／後二 江戸ノ油島／ノ某院ニ住セリ／連歌百句／々三十六句／俳諧三十六句／ナド アリ」補入)／全 後編 一卷 々／全 続編 一卷 々／全 残編 一 卷 々／全 別集 一卷 々／々／々 昭和三十七年七月廿二日／於琳琅求焉 岸廼舎 |
| | 東鑑三代將軍 *新撰和歌論語 | 一三〇四 一三〇五 | 琳琅にて／昭和三十七年七月廿二日／岸廼舎 昭和三十七年夷則二十二／琳琅にて 岸廼舎 〔昭和六年九月20日／編者・徳富猪一郎／発行所・民友社〕 |
| | *興教大師行狀 図記 | 二一〇八 | 昭和三十七年七月廿二日 琳琅にて『岸廼舎 〔明治22年1月28日出版／昭和17年10月4日／大曼茶羅供修行 護国寺〕 |
| | 白門新柳記 | 四五六六 | 昭和三十七年七月廿二日／琳琅にて 岸廼舎 |
| 7月26日 | *伏見宮旧藏 古今和歌集(複製本) | 三五八二 | 昭和三十七年文月廿六日／書陵部より／岸廼舎 |
| 9月27日 | 江府年中行事詩 空華談叢 | 一三四六 二〇二六 | 昭和三十七年無射廿七／誠心堂にて 岸廼舎 昭和三十七年／九月廿七日 其中堂にて／ 岸廼舎 |

| | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------------------------------------------------|--|-----------------------------------------------------|-----------------|--------------------|----------------------------|--------------------------------------------------|-------------|--------------------|---------------------------------------------------------------------------|---------------------|-----------------------|----------------------|----------------------|---------------------------|
| 12月31日 | | 12月26日 | 12月25日 | 12月10日 | 12月6日 | 11月30日 | | 11月21日 | 11月中旬 | 秋 | 10月27日 | 10月16日 | 10月12日 | 9月27日 |
| * 樹色紙 | | すみれ草 | 和歌 詠法華經廿八品 | 新撰五言狂詩面譜 | 大師遊方記 | * 大日本校訂 大藏經 | (複製本) はせ | * 新撰 小口あ | 狭衣 | 大疏一愚草 | 竹窓隨筆 | 經典雜抄 | 經典雜抄 | 武經七書合解大 成俚諺抄 七書 俚諺抄 |
| | | 一一一九 | 三八四一 | 一七五二 | 四九〇九 | 二〇〇七 | | 三九九六 | 一二三六 | 二二三四 | 二〇〇六 | 二〇二七 | 二〇〇八 | 四四三六 |
| 〈解説冊子〉昭和三十七年大呂大晦 岸廻舎 〈箱書〉飯島氏より 昭和三十七年十二月三十一日正午 岸廻舎 | | 大呂廿六日／記之 岸廻舎識 董草三冊去年貸筑摩書房店員為所失／上巻畢 乃別求一本焉 昭和三十七年 | 〈箱書〉昭和三十七年大呂廿五日 | 昭和三十七年大呂旬／大屋にて 岸廻舎 | 農学部より販途／昭和三十七年大呂六／琳琅にて 岸廻舎 | 〔明治18年12月出版／校訂出版・弘教書院〕 昭和三十七年十一月卅日／藤園堂 寄贈／岸廻舎 | | 昭和三十七年仲冬廿一日大屋にて岸廻舎 | 松雲堂老人ヨリ <small>老人三十七年三月末日</small> ／昭和三十六年十一月中浣／田島道治氏周旋ニテ茜部氏／藏書ヲ松雲堂老人ニ談合云云 | 昭和三十七年秋／其中堂にて求む／岸廻舎 | 昭和三十七年十月二十七日藤園堂にて／岸廻舎 | 昭和三十七年十月十六日 巖松堂にて岸廻舎 | 昭和三十七年十月十二日 巖松堂にて岸廻舎 | 昭和三十七年九月廿七日 誠心堂 岸廻舎 |

昭和三十八年癸卯（一九六二）

| | | | |
|-------|--------------|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1月中旬 | 予州安西往生記 | 二一三六 | 昭和三十八年一月中浣／文行堂にて岸廼舎 |
| 1月26日 | 誉田宗廟縁起 | 四二六二 | 昭和癸卯三十八 大蔭二十六日 於一誠堂 岸廼舎 |
| 2月13日 | 紹述先生文集 | 五六五 | 昭和三十八年二月十三日／於琳琅閣求焉岸廼舎 |
| 2月25日 | 釈氏稽古略 | 二〇五四 | 昭和三十八年二月廿五日／於沖森求之 岸廼舎 |
| 2月27日 | 日用曆談 | 四一〇〇 | 於文行堂／昭和癸卯夾鐘二十七／岸廼舎 |
| 3月16日 | *蜀山人詩集 | 六六一 | 昭和三十八年三月既望／駿台古書展にて〔補入〕春〕雨浪々／岸廼舎 〔昭和11年3月29日／岩垂憲徳・編著／大日本図書株〕・発行兼印刷 |
| 3月20日 | *塙檢校伝 | 二八〇四 | 昭和三十八年姑洗二旬／於明治堂にて 岸廼舎 〔明治25年11月24日／編纂兼発行者・渡邊知三郎／発兌所・黄眉山房〕 |
| 3月27日 | 桂園一枝拾遺 | 九五六 | 昭和三十八年三月廿七日／於文行堂 文化財委員会販途／岸廼舎 |
| 4月15日 | 松阜吟草 | 一三一 | 鞍馬寺 隆鼻山人／松阜草／昭和三十八年 仲呂望／岸廼舎 |
| | *天狗名義考 | 五〇七五 | 昭和三十八年仲呂望／駿台古書展にて／岸廼舎識 〔編輯者・壬生書院編輯部／發行所・壬生書院〕 |
| | 二見のうら | 五三二七 | 昭和三十八年仲夏望／岸廼舎 |
| 4月18日 | *短冊拾葉帖考 証 | 三九〇五 | 昭和三十七（ミセケチ右傍書）八〕年仲呂十八日／飯島にて 岸廼舎 |
| 5月15日 | 盤溪文鈔 | 六六四 | 〔墨書〕欠現存集与松浦家蔵平家物語、〔朱点〕而注文焉／中央大学也、〔朱点〕外在〔補入〕庫〕左傍書〕本朝書籍目録三部／注文中大研究室用也〔朱書〕此本八 実践ニ譲レリ／ 昭和三十八年蕤賓望／於一誠堂 岸廼舎 |
| 6月1日 | 漁隱叢話 | 四七四 | 昭和三十八年林鐘朔 誠心堂にて岸廼舎 |

| | | | | | | | |
|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------------------------------------------------|------------------------------------------------|--------------------------------------------|----------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
| 8月15日 | 7月 | | 7月5日 | | 6月5日 | 6月3日 | 6月1日 |
| 緑竹園詩集 | 第四刻 洞城絃歌余韻 | 建殊録 鉅雨亭隨筆 | 五楽斎遺稿 三堂集 東江先生南遊詩 才田詩抄 | 旗山集 | 法界次第初問 八居題詠附録 越溪遺稿 竹外二十八字詩 | 夢亭咏史百絶 柿園詠草拾遺 勸学院物語 | 翁問答 |
| 五六三 | 一五七一 | 一九一五 | 八三四 八五四 八五二 | 七〇四 | 一九九二 一五九〇 一三九三 | 一三〇二 八八四 一〇六五 | 一九二三 |
| 昭和三十八年南呂望／沖森より 岸廼舎 | 昭和三十八年夷則 藤園堂にて／岸廼舎 | 於藤園堂／昭和三十八年夷則五／岸廼舎 | 於藤園堂 岸廼舎／昭和三十八年夷則五 於藤園堂／昭和三十八年夷則五岸廼舎 於藤園堂／昭和三十八年夷則五岸廼舎 | 瓶花菴集附瓶話檉田北岸撰／大田元貞編／一冊天明五年刊「昭和三十八年夷則五／於藤園堂 岸廼舎」 | 八居題詠同附録二部有焉／今又求附録一冊矣／／ 昭和三十八年林鐘五／於駿台展 岸廼舎識 | 昭和三十八年林鐘五 於駿台展 岸廼舎 昭和三十八年林鐘五 於駿台展 岸廼舎 昭和三十八年林鐘五 於駿台展 岸廼舎 | 〈卷一〉藤樹先生著／翁問答／鑑草／江西文集字一／中井原／通称与右衛門 ／慶安元年八月廿五日歿／享年四十一 〈卷四〉昭和三十八年林鐘朔／於誠心堂求焉岸廼舎識 |

| | | | |
|--------|---------------------------|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 8月15日 | 黄葉夕陽村舎詩 | 七三四 | 〔前見返〕〔朱筆〕信卿 名晋寶茶山弟号恥菴 通称圭二 生来多病而／不能 従学 長入西島蘭溪塾学経史業成而講説／ 寛政十二年八月二十七日歿 享年三十有(芸備偉人伝)／ 昭和三十八年南呂下洗早雲山下客舎記焉／岸 廼舎 |
| | 薑花集評語 | 一一二九 | 富士登山第九十七回目下山之日也／ 昭和三十八年南呂望／沖森より 岸廼舎 |
| | 頭字韻 | 四三九二 | 昭和三十八年南呂望／沖森にて／岸廼舎 |
| 8月27日 | *研志堂詩鈔 | 一一四七 | 昭和三十八年南呂望／沖森にて 岸廼舎 |
| 9月8日 | *続南紀風雅集 | 一五六一 | 〔大正8年5月3日発行／発行者・佐伯元吉／印刷所・上村印刷所〕 昭和三十八年無射十〔十〕ミセケチ八日／誠心堂にて 岸廼舎 〔昭和16年10月1日／発行者・福田紀一／印刷所・林正文行〕 |
| 9月14日 | *諧韻珊瑚 〔崇文叢書第二 輯之44〕 | 三二一七 | 昭和三十八年九月十四日／誠心堂にて 岸廼舎 〔昭和6年4月28日／編輯兼発行者・崇文院／印刷所・関印刷所〕 |
| 9月19日 | 尾藤水竹文集 | 一〇六三 | 〔表見返〕〔朱書〕尾藤積高 号 水竹 二洲之長子／学殖不及于父 不肖之子 也 雖然豪邁不事産業／赤貧如洗、寄食之徒常有数十人云云 赤貧如洗／ 昭和三十八年無射十九日于岩波記之 |
| 9月21日 | 翠雨軒詩話 | 一七九六 | 昭和三十八年九月廿一日／於松雲堂 岸廼舎 |
| 9月27日 | 五臺詩抄 | 一一六八 | 昭和三十八年無射二十七日／松雲堂にて 岸廼舎 |
| 9月28日 | 山陽詩鈔集解 | 一二六三 | 昭和三十八年九月廿八日／於松雲堂 岸廼舎 |
| 10月7日 | 方丈記流水抄 | 四三四 | 昭和三十八年十月七日／於京都其中堂 岸廼舎 |
| 10月16日 | 西行法師家集 | 三七二 | 昭和三十八年十月十六日／於琳琅閣求之 岸廼舎 |

| | | | |
|--------|----------------------|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 12月 | *日本工業史対 照図 輔教編 | 四三三八 | 昭和三十八年大呂／飯島書店にて 岸廻舎識 |
| 11月21日 | 惺窩文集 | 一一二〇 | <p>〈第八冊裏見返〉惺窩文集版本有二類焉 一無刊記 二有刊記(承応三甲午歲云々) / 一、無刊記本之本文、無送仮名及返点焉、料紙亦稍厚字画明確也恐自費版敷 / 二有刊記本者模写無刊記本也但文字稍小則重兩本而不一致也、 / 教育大学図書館本無刊記本与有刊記也、別有惺窩先生文集七冊矣 / 三十八年大呂二十四日夜記 /</p> <p>惺窩先生文集七冊無刊記、 / 一、総目録 二、卷一―二 三、卷三―四 四、卷五―六 五、卷七―八 / 六、卷九―十 七、卷十一―十二 / / 昭和三十八年大呂二十一日 / 大阪中尾書店にて 岸廻舎識</p> |
| 11月28日 | 東江先生書話 | 四二四九 | <p>重文委員会販途御徒町にて 昭和三十八年十一月二十八日 岸廻舎</p> <p>〔第一冊表見返〕初版本ニハ振(二字ミセケチ右傍書「送」)仮名ナシ、教大初刊本ハ 行状記・序跋ノ順序ナリ</p> <p>〔朱書〕 教大有刊本ハ 序・行状・跋ノ順序ナリ / 朱書之(補入「確按」云々) / トアリ</p> |
| 11月8日 | 音訓国字格 | 六五六 | <p>重文委員会販途御徒町にて 昭和三十八年十一月廿八日 岸廻舎</p> <p>昭和三十八年十一月廿七(二字ミセケチ右傍書「八」)日 岸廻舎 / 京都 其中堂にて / 岸廻舎</p> |
| 10月31日 | *猫尾百絶 | 一三九一 | <p>昭和三十八年十月卅一日 / 駿台展にて 岸廻舎</p> <p>〔明治19年6月出版〕編輯人・藤森修蔵 / 出版人・前園道)</p> |
| 10月28日 | 茶事秘録 | 四二二五 | <p>於大磯滄浪閣、朝二長女温子婚(姻)の旁に「昏」重ね書き)縁 / 当日受惠興矣 / 昭和三十八年十月廿八日 / 吉沢朝二氏より / 岸廻舎</p> |

昭和三十九年甲辰（一九六四）

| | | | |
|-------|-----------|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1月上旬 | わかくさ（和漢草） | 五二二四 | 昭和三十九年大簇上流／駿台展にて岸廼舎 |
| 1月16日 | *櫛紅葉 | 九五〇 | 〔旧〕補入〕松浦伯家蔵本也 素氏 <small>一昨年亡</small> ／ 昭和三十九年大簇十六日／駿台展にて／岸廼舎 〔明治45年6月4日〕編輯兼発行者・三田佑／非売品〕 |
| 1月24日 | 蒙求 | 四四八九 | 〔仁〕冊表見返〕謹呈／山岸先生／伊東万貴子／ 伊東氏佐賀人而学習院大／学也 卒業論文蒙求和歌集／研究矣余指導焉／昭和三十九年一月廿四日受領／岸廼舎 |
| 2月3日 | 西涯館詩集 | 八一四 | 昭和三十九年二月三日 岸廼舎／其中堂 |
| | 雪楼先生詩鈔 | 九八七 | 中島雪楼 古注学／那波魯堂 岡龍州二師事 文政八年三月八日歿／享年八十一／雪楼文集十卷アリ／ 昭和三十九年二月三日／沖森より 岸廼舎 |
| | 東湖遺稿 | 一一一六 | 昭和三十九年二月三日／其中堂より岸廼舎 |
| | 薑花集 | 一一三〇 | 昭和三十九年二月三日／其中堂より岸廼舎 |
| | 幽室文稿 | 一二四〇 | 昭和三十九年二月三日／其中堂にて 岸廼舎 |
| | 過庭紀談 | 三二〇〇 | 昭和三十九年二月三日／沖森にて岸廼舎 |
| 2月23日 | 長安宮詞 | 三〇一 | 昭和三十九年二月廿三日／於琳琅閣求焉 岸廼舎 |
| 3月3日 | 竹雪山房詩鈔 | 五九八 | 〔乾〕冊〕宇都宮龍山名靖字好直伊豫人 始受業于山田東海／後入古賀洞菴之門業成仕宇大洲藩／明治十九年八月歿年八十四 〔坤〕冊〕昭和三十九年姑洗三／其中堂より岸廼舎 |
| | 友松存稿 | 八〇三 | 昭和三十九年姑洗三／其中堂より 岸廼舎 |
| | 秋錦山房詩鈔 | 一三八九 | 昭和三十九年姑洗三／其中堂にて／岸廼舎 |
| | 心学捷徑大学笑句 | 一八四六 | 昭和三十九年三月八日／豊橋にて 岸廼舎 |

| | | | |
|-------|--------|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 3月15日 | 樺島石梁遺文 | 七二四 | 昭和三十九年三月十五日／駿台展にて 岸廼舎 |
| 3月24日 | 鳴齋先生詩鈔 | 七一八 | 〔表見返〕善身堂詩鈔 〔補遺部分十四枚増紙有之、〕ミセケチ〕／三卷／下巻補遺也 |
| | 堰篋小集 | 一五〇八 | 〔末尾〕昭和三十九年三月廿四日於文行堂／岸廼舎 |
| | 鉄研余滴 | 三二〇六 | 昭和三十九年三月廿四日於文行堂／岸廼舎 |
| 3月25日 | 佛山堂詩鈔 | 一一八六 | 甲集刊本有而已／／ 昭和三十九年三月廿四日／於文行堂求焉岸廼舎 |
| 4月11日 | *啓運録 | 二七七八 | 昭和三十九年三月廿五日／重文委員会販途駿台展にて／岸廼舎 |
| | 佔畢波及 | 三五五一 | 〔明治30年11月20日／発行者・田中治兵衛／印刷者・山鹿善兵衛〕 〔第一冊〕佔畢〔フリガナ〕「ラン ヒツ」／佔 祝也 畢簡〔右傍書〕竹簡也〕也 〔不〕補入〔解〕経義而唯読経文字耳也〕之意／礼 学記、「今教者呻其佔畢、多其訊、言及于数云云／波及 如波擊〔補入〕及〕潤之次第 義也 〔第五冊〕古訓抄也／先考蔵書中／有古訓抄異題／名 故求焉而已／昭和三十九年仲呂十一日／於誠心堂求焉 岸廼舎 |
| 4月23日 | 佛山堂詩鈔 | 一一八八 | 昭和三十九年仲呂廿三日／於沖森求焉 岸廼舎 |
| | 喪儀略 | 一九四一 | 昭和三十九年四月廿三日／於大屋岸廼舎 |
| | 幽谷余韻 | 四七四六 | 昭和三十九年仲呂廿三日／沖森より 岸廼舎 |
| 5月2日 | 難太平記 | 三四六六 | 昭和三十九年五月二日斯文会にて岸廼舎 |
| 5月11日 | 俊成九十賀記 | 三六三四 | 昭和三十九年五月十一日 学習院職員送別会矣／於斯文会 岸廼舎 |
| 5月12日 | 白石詩草 | 五五六 | 正徳本 初刷歟 版式頗明確佳良／昭和三十九年五月十二日 以北野氏本影社刊記年／岸廼舎 |

| | | | |
|-------|-------------------|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 5月16日 | 竹外二十八字詩 | 一〇九八 | 昭和三十九年五月十六日／於松雲堂求之 岸廻舎 |
| | *萬庵集 (崇文叢書第二輯) | 一一六六 | 昭和三十九年五月既望黄昏 <small>今井巖藏氏同道也</small> ／於山本書店求焉 岸廻舎 〔昭和5年 月 日 編輯兼発行者・崇文院／印刷所・大參社印刷所〕 |
| 5月23日 | 竹外二十八字詩 | 一〇九一 | 昭和三十九年五月廿三日山本にて岸廻舎 |
| 5月30日 | 竹外二十八字詩 | 一一〇二 | 昭和三十九年五月卅日／松雲堂にて／岸廻舎 |
| 6月7日 | 竹外二十八字詩 | 一〇九三 | 昭和三十九年六月七日沖森にて岸廻舎 |
| 6月9日 | 鐵心遺稿 | 六三九 | 昭和三十九年林鐘九夜／於誠心堂求之 岸廻舎 |
| 6月12日 | 神代卷(日本書紀) | 二七〇二 | 昭和三十九年林鐘十二／於誠心堂求之／岸廻舎 |
| 6月20日 | 須磨日記 | 五〇三 | 昭和三十九年林鐘廿日／於大屋求之 岸廻舎 |
| | *乾齋詩鈔 | 一三七二 | 昭和三十九年林鐘廿日／於大屋求焉／岸廻舎 〔刊行年次不記載／非売品／乾齋詩鈔刊行会〕 |
| | 法道和尚行狀記 | 一一三三 | 与店主語五山文学全集再刻 <small>云</small> ／昭和三十九年林鐘廿日／於小官山書店／岸廻舎識 |
| 7月1日 | 金帚集 | 九八二 | 昭和三十九年夷則朔 於南陽堂／梅雨小康 岸廻舎 |
| | 東湖遺稿 | 一一一七 | 昭和三十九年夷則朔／於南陽堂求焉 岸廻舎 |
| | *星巖詩集 | 一二一〇 | 〔朱書〕昭和三十九年夷則朔黄昏／於南陽堂求焉／主人病心臆矣 <small>云</small> 近來快癒 <small>云</small> 、岩波書店販着／老來互憂衰弱〔弱〕ミセケチ身／記紅蘭集注〔補入〕矣〕岸廻舎 |
| | 春水遺稿 | 一二四六 | 〔明治29年7月20日再版／発行者・金刺源次／印刷者・前野茂久次〕 〔刊記上欄〕山田茂助ハ／三刷マデ出シ／タルガ如シ／表紙三類アリ／其〔ミセケチ左傍書〕藏本ノ〕外ニ黒味アル／蝦魚茶色ノ／表紙モアリ／初版ノ刊記ハ〔ママ〕 |
| | | | 〔刊記左隅〕昭和三十九年夷則朔黄昏 於南陽堂にて／岸廻舎 |

| | | | | | | | |
|--|--|--|------|----------------|-------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| | | | | 7月11日 | 備字例 | 六二三 | 昭和三十九年七月十一日／於誠心堂 岸廻舎 |
| | | | | 7月13日 | 山陽文詩 かたいと | 七〇九 | 昭和三十九年七月十一日／於誠心堂／岸廻舎 |
| | | | | 7月20日 | 利窓隨筆 *彦火々出見草 紙 (複製本) | 三二六九 | 恵空紀州浄福寺住侶／別有実語教童子教諺解三卷／三十九年七月十三日朝記之／岸廻舎 |
| | | | | 7月26日 | *竹外二十八字 詩 | 一一〇五 | 〔大正13年10月1日發行／田中文庫／山田芸艸堂〕 沖森にて／昭和三十九年七月廿六日／岸廻舎 〔明治13年1月16日翻刻御届／3月刻成／翻刻人・寺沢松之助〕 |
| | | | 8月4日 | 望野亭詩鈔 菅茶山詩鈔 | 七二七 七三八 | 昭和三十九年南呂四／於松雲堂求焉 岸廻舎 昭和三十九年南呂四／於松雲堂／岸廻舎 | |
| | | | | 暢斎詩抄 | 七六三 | 三十九年南呂四 松雲堂にて／岸廻舎 | |
| | | | | 山園雜興 | 九三四 | 月形鶴窠 名質字君璞 』 昭和三十九年南呂四於松雲堂／岸廻舎 | |
| | | | | 因山亭百律 | 一二四一 | 昭和三十九年南呂四／松雲堂にて岸廻舎 芳川波山／名俊逸字公晦／通称善治後改万助／武藏人師〔補入右傍書「事于」 山本北山仕／〔補入「于」〕忍藩 | |

| | | | |
|-------|---------------------------------------|--------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 8月4日 | 桐陽詩鈔 | 一三〇五 | 槃寬者璜玉民之父也／此書有再版、再版者表紙裏白紙也且黃／表紙而版式疲矣／昭和三十九年南呂四／松雲堂にて 岸廻舎 |
| 8月5日 | 肖像画 山名貴 義模（清和天 皇／寛平法皇／ 安部清明） | 四三五二 | 昭和三十九年／南呂五／古家書店にて |
| 8月6日 | 吉野朝懷古詩 *竹外二十八字 詩 | 四七三六 一一〇六 | 昭和三十九年南呂五／白雲堂にて岸廻舎 昭和三十九年南呂六／松雲堂にて 岸廻舎 〔明治13年1月16日翻刻御届／3月刻成／翻刻人・寺沢松之助〕 |
| 8月21日 | 醉華抄 | 一〇八二 | 〔乾〕冊昭和三十九年南呂廿一日／熊本にて 岸廻舎 |
| 8月28日 | *竹外二十八字 詩 *慊堂遺文 | 一一〇七 一一五三 | 熊本舒文堂より／昭和三十九年南呂廿八日／岸廻舎 〔明治26年1月16日翻刻御届／3月／出版人・川勝鴻宝堂〕 昭和三十九年南呂廿八日／熊本にて 岸廻舎 |
| 9月6日 | 枕山詠物詩 *頭書註釈 山 陽詩鈔 | 一二五七 六七〇 | 〔明治34年5月15日／編輯兼発行人・松崎健五郎／印刷所・元真社〕 熊本にて／昭和三十九年／南呂廿八日岸廻舎 〔明治14年11月／註釈人・谷壯太郎／出版人・松田幸助〕 昭和三十九年九月六日／鷺宮にて／岸廻舎 |
| | 日本詠史百律 | 六七三 | 於鷺宮／昭和三十九年無射六／岸廻舎 |
| | 枕山先生遺稿 | 六七六 | 昭和三十九年九月六日／鷺宮にて 岸廻舎 |
| | 惺堂先生遺稿 | 七三九 | 昭和卅九年無射六／鷺宮にて 岸廻舎 |
| | 紅蘭小集 | 二〇五 | 鷺宮にて昭和三十九年九月六日／岸廻舎 |
| | 星巖詩鈔 | 二〇六 | 昭和三十九年九月六日／鷺宮にて 岸廻舎 |
| | 詩法授幼鈔 | 一八一六 | 昭和三十九年九月／六日 鷺宮にて／岸廻舎 |

| | | | |
|--------|---------|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 10月28日 | 自娛集 | 七〇一 | 昭和三十九年十月廿八日／誠心堂にて 岸廻舎識 |
| 10月27日 | 妙祐往生伝 | 二一三四 | 昭和三十九年十月廿七日／藤園堂にて／岸廻舎 |
| 10月25日 | *南豊名家詩選 | 一五七八 | 昭和三十九年十月廿五日／於誠心堂 岸廻舎 〔大正4年12月1日／発行所・豊南書堂／取次所・古後忠文堂〕 |
| | 雅遊漫録 | 三一九八 | 廿一日／白雲堂にて岸廻舎 〈第一冊〉第十八回オリソニック陸上競技終了見物販宅後／昭和三十九年十月 |
| 10月21日 | 四時雜興一百首 | 六一二 | 昭和三十九年十月廿一日 白雲堂／岸廻舎 |
| 10月20日 | 田園襍集 田園 | 四八八二 | 昭和三十九年無射二十日 辰巳屋にて 岸廻舎 |
| 10月12日 | 漢訳伊蘇普譚 | 五八一 | 昭和三十九年十月十二日／於松雲堂 岸廻舎 |
| | 縹山吟草 | | |
| | *本佐録 | 四〇四三 | 史学雑誌 第十二編 第三号 明治三十四年三月 本佐録考(中村勝麿)／／本佐録ノ諸本ヲ見合ハスベシ コノ刊本珍稀ナリ 序文亦多ク参考トナル也／三宅玄賀ノ事未ダ嘗テ論及ノ人ナシ、／ 昭和三十九年十月九日於松雲堂／岸廻舎 |
| | 日本政記考証 | 二六八六 | 昭和三十九年十月九日松雲堂にて岸廻舎 |
| | 静寄余筆 | 一八七二 | 昭和三十九年十月九日於松雲堂求之／書込書簡松野尾氏歎 岸廻舎 |
| 10月9日 | 南郭尺牘標注 | 一七七五 | 雲堂にて 岸廻舎 自南郭先生文集第一編／至第四編書牘抄出也／／昭和三十九年十月九日／松 |
| 9月30日 | 俗神道大意 | 一九三七 | 昭和三十九年無射晦／沖森にて岸廻舎 |
| 9月24日 | 日本逸史考異 | 二七一六 | 昭和三十九年九月二十四日／大屋にて 岸廻舎 |
| 9月20日 | *漢訳伊蘇普譚 | 四八八二 | 昭和三十九年無射二十日／辰巳屋にて／岸廻舎 |
| | 文会雜記 | 五〇六四 | 昭和三十九年九月六日／鷺宮渡辺書店にて／岸廻舎 |
| 9月6日 | 静寄余筆 | 一八七一 | 昭和三十九年無射六／鷺宮にて 岸廻舎求 |

| | | | |
|--------|---------------|------------|----------------------------------------------------------------------------|
| 12月30日 | 角毛偶語 | 一八八二 | 昭和三十九年十月卅日／於松雲堂岸廼舎 |
| 10月31日 | 千字文国字解 | 四三八〇 | 昭和三十九年／十月晦松雲堂にて／岸廼舎 |
| 10月 | 諸乘法数 | 二〇〇五 | 江戸初期刊復刻也／昭和三十九年十月／白雲堂より 岸廼舎 |
| 11月4日 | *花の友 第壹集 | 一七六六 | 昭和三十九年十一月四日／神保町角古本市にて／岸廼舎 〔明治21年5月30日発行／発行所・花友社〕 |
| 11月7日 | 冠註一鹹味 | 四九七四 | 昭和三十九年十一月七日／誠心堂にて／岸廼舎 |
| 11月8日 | 皇朝詠史 梅癡詠物詩 | 五三四 八九三 | 昭和三十九年十一月八日／鷺宮渡辺書店にて／岸廼舎 昭和三十九年十一月八日／鷺宮にて岸廼舎 |
| | 杞憂菴五十六字詩 | 九四九 | 昭和三十九年十一月八日／鷺宮にて岸廼舎 |
| | *佛山堂遺稿 | 一一八九 | 昭和三十九年十一月八日 鷺宮にて／飯途十条駄頭富士眼鏡店にて一覽了／岸廼舎 〔大正3年7月16日／編輯兼発行者・末松謙澄／印刷所・東京国文社〕 |
| | 詠史絶句 | 一四六三 | 昭和三十九年十一月八日／鷺宮にて 岸廼舎 |
| | 日本咏物詩 | 一五八一 | 昭和三十九年十一月八日／鷺宮にて 岸廼舎 |
| | 詩家推敲 | 一八一〇 | 昭和三十九年十一月八日／鷺宮にて岸廼舎 |
| 11月29日 | 房山樓集 初編 | 八六二 | 昭和三十九年十一月廿九日阿佐谷にて／岸廼舎 |
| | *憐堂全集 | 一一五二 | 昭和三十九年十一月廿九日／於松雲堂求之 岸廼舎識 |
| | (崇文叢書第一輯) | | 〔大正15年10月10日／編集兼発行者・崇文院／印刷所・円谷印刷所〕 |
| 12月4日 | 閑散餘録 | 一八五三 | 昭和三十九年大呂四／沖森にて 岸廼舎 |
| 12月14日 | 孝経棲漫筆 | 一八六〇 | 昭和三十九年大呂幾望／誠心堂にて 岸廼舎 |

| | | | |
|---------------|---------------------------------|--------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 12月25日 | 仮名交文典 唐詩平仄考 | 六一〇 四八四五 | 昭和三十九年大呂廿五日／駿台展にて 岸廼舎 昭和三十九年大呂廿五日／誠心堂にて岸廼舎 昭和三十九年大呂廿六日／駿台展にて岸廼舎 |
| 12月26日 | 松屋外集 仮名性理 | 三二二八 四八八五 | 岸廼舎／昭和三十九年大呂／鷺宮渡邊にて |
| 昭和四〇年乙巳（一九六五） | | | |
| 1月21日 | 松谿集 | 八三七 | 〔朱書〕円超叙景詩人也 律巧妙也／／ 〔墨書〕昭和四十年大簇廿一日／其中堂にて岸廼舎 |
| 1月26日 | 樂我室遺集 遠帆樓詩鈔 | 五四八 九三九 | 昭和四十年大簇廿六日／其中堂にて 岸廼舎 〔坤〕巻表見返 恒遠醒窓 名和字子達 真卿又頼母号醒窓／ 別号轟谷樗 川遠帆樓 豊前人 受業于広瀬淡窓／ 業講説 文久九年五月三日歿 年 五十七 〔尾題頭書〕武富定保肥前人／名元謨 号把南／密菴初受業／于古賀侗庵〔二字 ミセケチ左傍書「穀堂」〕後出於江戸師事／古賀侗庵／業成仕于佐賀藩〕 |
| 2月16日 | *源氏物語絵巻 （複製本） 以呂波声母伝 上 | 四三〇〇 六〇七 | 不二子ハ高田早苗夫人なり 箱の蓋の題字も高田早苗氏筆 昭和四十年一月 廿六日 黒田氏より頂戴す 前島密一不二子 御博高田夫人 起久子 松島 夫人 弥 前島家二嗣ケ一寛ケ一陸子 工博市瀬夫人一確子 工博（黒田夫 人）由理子 文博吉沢夫人一トシ（山岸夫人） 岸廼舎 〔大正4年11月15日 發行／國華社〕 昭和四十年二月既望／於楠陽堂寄贈／岸廼舎 |
| 2月16日 | 鍔湯之図 | 五三三九 | 昭和四十年二月既望／楠陽堂にて 岸廼舎 |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|----------------------|----------------------|-----------------|--------------------|---------------------------|----------------------------------------------------------------------------|-------------------------|----------------------|---------------------------------|------------------|------------------|------------------------|----------------------|-----------------------------|------------------------------|---------------------|--------------------------------|---------------------|-----------------------------|-------------------------------|-----------------------|----------------------|-------|-------|------|
| 4月27日 | 望野亭詩鈔 | 西征詩鈔 | 古今諺 | 和漢分類 諸家 名数 | 3月 | *源三位頼政集 | 3月29日 | 善導大師別伝註 卷之二 | *幼童教訓蒙求 | 3月27日 | 松月亭主人詩集 | 中古甲冑製作辨 | 3月26日 | *幼童教訓蒙求 | 3月20日 | 悉曇 | 3月3日 | *権中納言敦忠 集 | 3月2日 | 国史仏法抄 | 2月26日 | 男信 | 神武権衡録 | 2月20日 | 管子全書 |
| | 七二六 | 五三六 | 四五六五 | 三一〇七 | 二〇五九 | 三七三六 | 四〇九四 | 四一八五 | 四〇九四 | 一三一〇 | 四一八五 | 二一七六 | 二一七六 | 二〇四八 | 二〇四八 | 三六七〇 | 二〇四八 | 二〇四八 | 一九八六 | 六二一 | 四四三八 | | | | |
| | 昭和四十年仲呂廿七日／松雲堂にて 岸廻舎 | 昭和四十年仲呂廿七日／松雲堂にて 岸廻舎 | 昭和四十年仲呂五駿台展／岸廻舎 | 昭和四十年仲呂五／駿台展にて 岸廻舎 | 岸廻舎／昭和四十年三月廿九日／姫路市外古家書店にて | 〔紙笥〕 阪本龍門文庫 複製叢刊之五 永祿六年山科言継筆 源三位頼政集 昭和四十年三月刊〔昭和40年3月1日発行 阪本龍門文庫 複製叢刊之五〕 | 〔明治十八年五月八日出版／編者出版人・村井清〕 | 昭和四十年三月廿七日 松雲堂寄贈 岸廻舎 | 松月亭主人／赤田先生／古家書店にて岸廻舎／昭和四十年三月廿七日 | 昭和四十年三月廿六日／松雲堂寄贈 | 昭和四十年三月廿六日／松雲堂寄贈 | 〔明治十八年5月28日／編者出版人・村井清〕 | 岸廻舎／昭和四十年三月廿六日／松雲堂寄贈 | 昭和四十年姑洗二旬／於松雲堂求焉／店主之寄贈也／岸廻舎 | 〔昭和14年12月1日雄山閣発行〔書之友十二月号附録〕〕 | 昭和四十年三月三日 一誠堂にて 岸廻舎 | 富岡鉄斎旧蔵本也／昭和四十年三月二日上巳／一誠堂にて 岸廻舎 | 昭和四十年三月三日 一誠堂にて 岸廻舎 | 〔裏見返〕吉田書店にて／昭和四十年二月／廿六日 岸廻舎 | 〔表見返〕松下郡高著也 郡高兵学者云云 伝未詳也／岸廻舎記 | 昭和四十年二月廿六日／吉田寓居にて 岸廻舎 | 昭和四十年二月廿日 於松雲堂求之／岸廻舎 | | | |

| | | | |
|-------|--------------------|------|-----------------------------------------------------------------------------|
| 4月27日 | 竹外二十八字詩 | 一一〇三 | 昭和四十年四月廿七日／松雲堂にて 岸廼舎 |
| | 籥天集 | 二二〇八 | 昭和四十年仲呂廿七日／松雲堂にて 岸廼舎 |
| | 続知道詩篇 | | 昭和四十年仲呂廿七日／松雲堂にて 岸廼舎 |
| 4月28日 | 永源寂室和尚語 | 五二二 | 永源寺蔵版別有焉／昭和四十年仲呂廿八日／松雲堂にて 岸廼舎 |
| 4月 | 西山禪師落日稿 | 六二〇 | 西山惠亮／昭和四十年仲呂駿台展にて岸廼舎 |
| 5月15日 | 百富士 | 三〇四〇 | 昭和四十年五月望／鷺宮にて 岸廼舎 |
| | 軍林宝鑑 | 四四三七 | 布治能夜 斯斗伽多 昭和四十年五月十五日 鷺宮にて 岸廼舎 |
| 5月16日 | 来青閣集 | 一三七八 | 卷末有填詞五首焉／故求之而已／昭和四十年五月十五〔五〕ミセケチ右朱書傍書〔六〕日／鷺宮にて 岸廼舎／〔朱書〕十六〔朱書補入〕日〔半夜一見了 |
| | 釣天楽 | 四六九四 | 去三月中旬見目錄而注文本書 今日訪渡辺書店而持参焉 昭和四十年五月十六日 鷺宮にて 岸廼舎 |
| 5月27日 | 覆醬集 | 五七三 | 昭和四十年蕤賓下浣 海軍記念日 山本書店求焉 岸廼舎 |
| 5月28日 | 類題 亮々遺稿 | 八六四 | 昭和四十年五月廿八日文行堂にて 重文委員会販途 岸廼舎 |
| | 伊布伎廼屋歌集 (氣吹舎歌集) | 八八六 | 〔表見返〕伊布伎廼屋歌集 一卷 平田篤胤之集也 文行堂にて岸廼舎／小田清雄校訂本／昭和四十年蕤賓廿八日／重要文化財委員会販途／若狭彦神社神人系図之件云 |
| | 道歌百人一首麗 枝折 | 九七一 | 昭和四十年五月廿八日／上野にて岸廼舎 |
| 5月31日 | *太古山房詩鈔 | 一三九〇 | 昭和四十年五月卅一日／於松雲堂受寄贈 岸廼舎 |
| | 槐南集 | 一四〇三 | 〔大正3年7月5日／発行兼編集人・福原節介／印刷所・合資商報会社〕 昭和四十年五月卅一日／松雲堂にて 岸廼舎 |
| 6月9日 | 古学先生碣名行 状 | 五六六 | 昭和四十年林鐘九／誠心堂にて 岸廼舎 |

| | | | |
|--------|-------------------|------|---------------------------------------------------------------|
| 7月8日 | 婦正漫録 | 二〇二五 | 〈表見返〉昭和四十年夷則／八日誠心堂にて／岸廻 |
| 7月10日 | 土佐日記 | 四四二 | 昭和四十年夷則旬楠陽舎にて 岸廻舎 |
| | 曾杵好忠家集 (曾禰好忠集) | 三三三 | 昭和四十年夷則旬／於楠陽堂求焉／岸廻舎 |
| | 閑雲遺稿 | 九二二 | 昭和四十年夷則旬／於楠陽堂 岸廻舎 |
| 7月12日 | 秋屋詩鈔 | 二六四 | 昭和四十年七月十二日一誠堂にて／岸廻舎 |
| 7月19日 | 陽谷詩稿 | 一一四四 | 〈天〉卷表見返馬杉陽谷先生之集也／本国寺日綱上人知意云々 詩在南溪集／二編中卷 昭和四十年夷則十九日記之／岸廻舎 |
| 8月9日 | 統孝感編 | 四五四〇 | 謹呈 山岸德平先生／今野／・先生富士百回登山の日／昭和四十年八月九日 ／(於御殿場大黒屋／受領) |
| 8月26日 | 橘門韻語 | 五四三 | 橘門 折衷学派之人也／天放者橘門之長子而／有天放存稿一卷焉／父子俱学淡窓云々／昭和四十年南呂廿六日記之／誠心堂にて 岸廻舎 |
| 9月16日 | 竹外亭百絶 | 一一一〇 | 冲森にて／昭和四十年無射十六日岸廻舎 |
| 9月22日 | 鳴溪先生詩集 | 一三八〇 | 松雲堂にて昭和四十一年九月廿二日／岸廻舎 |
| 10月1日 | 韓村先生遺稿 | 七四一 | 昭和四十年十月朔／松雲堂にて／岸廻舎 |
| | 冊定譯注聯珠詩 格 | 四六五七 | 昭和四十年十月朔 於松雪堂求焉 岸廻舎 |
| 10月2日 | 笑堂福聚 | 三四一七 | 昭和四十年十月二日於松雲堂／与嵯峨氏対面、堂主寄贈／岸廻舎 |
| 10月12日 | 唐土名山図会 | 三〇六七 | 昭和四十年十月十二日／辰巳屋にて 岸廻舎 |
| | 淡海名寄 | 三八二二 | 辰(身)ミセケチ(巳屋)にて／昭和四十年十月十二日／岸廻舎 |
| 10月15日 | 文家小笠 | 四八二六 | 昭和四十年十月望 松雲堂にて／岸廻舎 |
| 10月16日 | 信州大田山洞雲 禪師不忍止稿 | 九五九 | 昭和四十年十月既望／誠心堂にて／岸廻舎 |

| | | | |
|--------|----------------|------|----------------------------------------|
| 12月6日 | 護園隨筆 | 一八五七 | 昭和四十年大呂六日中尾にて岸廻舎 |
| | 刊謬正俗 | 四八二四 | 昭和四十年十一月十九日／松雲堂にて岸廻舎 |
| | 弇州尺牘国字解 | 四六八一 | 昭和四十年十一月十九日／松雲堂にて岸廻舎 |
| | 遊名山記 | 三〇六五 | 昭和四十年十一月十九日／松雲堂にて岸廻舎 |
| | 漫筆 | | |
| | 桂館野乘・桂館 | 一八五六 | 昭和四十年十一月十九日／松雲堂にて岸廻舎 |
| | 続文話 | 一八三〇 | 昭和四十年十一月十九日／松雲堂にて岸廻舎 |
| 11月19日 | 作詩志藪 | 一八〇五 | 昭和四十年十一月十九日／松雲堂にて岸廻舎 |
| | 遺山先生詩鈔 | 四六二一 | 昭和四十年十一月十日 藤園堂にて岸廻舎 |
| | 藏山集 | 九四一 | 昭和四十年十一月十日／藤園堂にて岸廻舎 |
| 11月10日 | 麦の舎集 | 八九八 | 昭和四十年十一月十日／藤園堂にて岸廻舎 |
| | 三草雜筆 | 九〇〇 | 昭和四十年十一月四日於誠心堂／岸廻舎 |
| | 後言(しりょうご と) | 五一六 | マ 昭和四十年十一月四日於誠心堂／末葉与刊記脱落者也。岸廻舎(句点マ) |
| 11月4日 | 清話抄 | 三九七六 | 昭和四十年十一月一日斯文会にて岸廻舎 |
| | 竹外二十八字詩 | 一一〇〇 | 昭和四十年十一月一日斯文会にて岸廻舎 |
| 11月1日 | 雲井龍雄詩文集 | 七七五 | 昭和四十年十一月一日於斯文会求焉／岸廻舎 |
| 10月29日 | 性靈集 | 四九四 | 昭和四十年十月廿九日黄昏／於琳琅閣求之岸廻舎 |
| 10月23日 | 蘆菘集 | 九三五 | 昭和四十年十月廿三日木内にて岸廻舎 |
| 10月20日 | 善身堂一家言 | 七二〇 | 誠心堂にて 昭和四十年十月廿日／岸廻舎 |
| 10月18日 | 芸苑談 | 一七九〇 | 昭和四十年十月十八日／松雲堂にて岸廻舎 |

| | | | |
|--------|------|------|----------------------|
| 12月26日 | 西陽雜俎 | 四五五九 | 昭和四十年大呂廿六日／於山本書店 岸廼舎 |
|--------|------|------|----------------------|

昭和四一年丙午（一九六六）

| | | | |
|-------|-----------------------------------|---------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1月25日 | 嵯峨のしをり 東洞建殊録（讀 建殊録） 和漢茶誌 | 二八九 一九一六 四二二三 | 昭和四十一年大簇廿五／於駿台展求焉／岸廼舎 昭和四十一年大簇廿五日／駿台展にて求む 岸廼舎 岸廼舎識／昭和四十一年大簇廿五／於駿台展求焉 |
| 1月26日 | （山家心中集 対校本） （原稿用紙製本） | 三七四二 | 山家心中集 対校本／昭和三十五年十月書写了 昭子写了也／昭和三十六年辛丑大簇元旦／岸廼舎識／昭和四十一年一月廿日有遠藤氏報告、製本完了云云／同一月廿五日、書陵部委員会之日於書陵部製本室／受領、二十冊也。 〈句点ママ〉 同廿六日誌之。岸廼舎 |
| 1月28日 | *茶人言行録 | 四一三二 | 昭和四十一年大簇廿八日／誠心堂にて／岸廼舎 〔昭和12年9月3日発行／石田文庫（石田龍介）〕 |
| | 好古日録 | 四三四〇 | 昭和四十一年大簇廿八日／誠心堂にて岸廼舎 |
| | 好古小録 | | 昭和四十一年大簇廿八日／誠心堂にて岸廼舎 |
| 2月上旬 | 如亭山人遺稿 | 七〇七 | 昭和四十一年二月上浣／山本より岸廼舎 |
| 3月7日 | 紫明抄 （南葵文庫本の現 写本） | 三二八六 | 昭和四十一年二月上浣／山本より岸廼舎 （二九ウ（卷六奥）昭和歳次戊辰薙賓製綴焉／同年三月以南葵文庫本書写焉 〈後遊紙才〉紫明抄 南葵文庫本也／昭和三年戊辰夏以南葵文庫本書写卷六 ／及卷九 未終全卷書写而放置矣／回顧則執筆後既經過四十許年也／ 今年二月五山及江戸詩之注解完了乃／得閑暇整理草本而聊記焉／于時昭和 四十一年三月七日朝春雨浪々／冷氣猶残矣 岸廼舎識／昭和四十二年大 簇廿五日製本人手矣／岸廼舎 |

| | | | |
|-------|--------------------|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 3月7日 | 紫明抄 (南葵文庫本の現写本) | 三二八六 | 〈後遊紙ウ〉当日千本入手如左／一(酒天童子絵巻物考／葉月物語)／一、住吉物語浅野本／一、浜松中納言物語浅野本／一、聯珠詩格／一、容與園百詠／一、在中将集／一、定頼家集／一、紫明抄／一、雨窓欲集／一、山家心中集／一、助語喘／一、／／別有／山家集二冊／去年十一月製本完了／以上廿二部(五字ミセケチ) |
| 3月13日 | 竹外二十八字詩 | 一〇九二 | 昭和四十一年三月十三日』 於鷺宮求焉 岸廼舎 |
| 3月23日 | 三王外記(三王秘録) | 二七七〇 | 於文行堂 昭和四十一年三月廿三日 重文委員会飯途 岸廼舎識 |
| 3月25日 | 合類大節用集 | 五二一二 | 廿七日午後、伊豆田子 村歴訪飯来一覽了／昭和四十一年姑洗廿五日雨中に柳町大垂堂にて／岸廼舎 |
| 3月27日 | 梅園日記 | 三三二四 | 昭和四十一年三月廿五日／重要文化財委員会後御徒町／駄畔書肆にて岸廼舎識 |
| 4月5日 | 近葉和歌六帖 | 九五七 | 近葉和歌六帖 恐六冊歟／今求春部一冊、他巻須探求者也／昭和四十一年三月廿七日／於黒門街 文行堂求也／岸廼舎 |
| 4月5日 | 駿淵詩稿 | 一一六五 | 昭和四十一年仲呂五／思文閣にて岸廼舎 |
| 4月5日 | 和漢分類 諸家名数 | 三一〇七 | 昭和四十一年仲呂五／駿台展にて岸廼舎 |
| 4月24日 | 清音楼遺稿 | 一二二七 | 昭和四十一年仲呂廿四日／釈奠之午後、於松雲堂求焉／岸廼舎 |
| 4月24日 | 明治偉臣金玉音譜 | 四七八六 | 昭和四十一年仲呂廿四日／於松雲堂求焉岸廼舎 |
| 4月30日 | 真山民詩集 | 二六七 | 昭和四十一年仲呂晦 雨中 於琳琅閣求焉／岸廼舎 |
| 4月30日 | 山家集類題 | 三六七 | 昭和四十一年仲呂晦 於琳琅／岸廼舎 |
| 4月30日 | 惺窩先生文集 | 一一二一 | 昭和四十一年仲呂晦 琳琅閣求焉／雨天黄昏 岸廼舎 |

| | | | |
|-------|----------------------------------|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 5月16日 | 白山集 | 一〇七〇 | 白山集 <small>四冊</small> 共七冊 独醒庵集三冊先年既購入／于松雲堂 <small>云</small> ／昭和 独醒庵集 <small>三冊</small> 共七冊 古書入札／十六日下見東京美術倶楽部／朝倉屋入札 <small>云</small> 岸 四十二年蕤賓 展有之 |
| 5月20日 | 芳野新詠 紫芝園国字書 | 五五三 一七七四 | 昭和四十一年五月廿日沖森より岸廻舎 昭和四十一年蕤賓廿日 沖森にて岸廻舎 |
| 5月21日 | 勸心往生慈訓抄 * (倭漢朗詠集) 太田切(複製本) | 四一九九 | 昭和四十一年五月廿日／沖森にて 岸廻舎 昭和四十一年蕤賓廿一日求 米山寅太郎氏持参 岸廻舎 〔昭和29年5月31日発行〕国立国会図書館支部静嘉堂文庫／編輯者(責任者) ／米山寅太郎 国立国会図書館管理部／便利堂 |
| 5月25日 | 独醒庵集 | 一〇六九 | 昭和四十一年五月廿五日朝倉屋持参／岸廻舎 |
| 6月8日 | 枕山詩鈔 | 六六八 | 枕山詩鈔 <small>二初</small> 第六冊／／昭和四十一年林鐘八／松雲堂にて岸廻舎 |
| 6月24日 | 徂徠集(卷三十) | 六九一 | 〔前見返〕徂徠集卷三十／余藏本缺補遺矣依頼／補遺附載卷三十于松雲堂主 人、今日探索而寄贈于余輩矣／昭和四十一年林鐘廿四日 |
| 7月6日 | 真山民詩集 | 二六九 | 昭和四十一年夷則六 斯文会にて 岸廻舎 |
| 7月18日 | 鐵網珊瑚 | 二八三 | 昭和四十一年夷則十八日／於楠陽堂求焉 岸廻舎識 |
| 8月19日 | 総持兩祖行術録 (諸嶽開山二祖禪 師行実) | 五三三二 | 昭和四十一年南呂十九日誠心堂にて岸廻舎 |
| 8月26日 | 崎人詠 | 六八五 | 昭和四十一年南呂廿六日／於誠心堂求焉 岸廻舎 |
| 8月27日 | 名山楼詩集 | 八四九 | 昭和四十一年南呂廿七日／於松雲堂 岸廻舎／〔補入「主人曰ク」山形縣 鶴岡方面ヨリノ入荷也ト〕〔括弧ママ〕 |

| | | | | | | |
|--|--|--|--------|-------------------|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | | | 9月22日 | 醉華吟 | 一〇八三 | 越前人物志ニ鳥道ノ伝アリ 昭和四十一年十月廿二日／松雲堂にて 岸廼舎 |
| | | | | 海内十洲記 | 四五五四 | 松雲堂にて／昭和四十一年九月廿二日／岸廼舎 |
| | | | | 唐詩金粉 | 四六〇三 | 小出君(旧侍従)ト会合ノ飯途／昭和四十一年無射二十二／松雲堂にて 岸廼舎 |
| | | | 10月2日 | 諸子百則 | 四八九九 | 昭和四十一年十月二日／松雲堂にて 岸廼舎 |
| | | | 10月4日 | 静斎文集 | 五八七 | 昭和四十一年十月四日／於松雲堂求焉／岸廼舎 |
| | | | | *孝行録真本 | 四五二二 | 飯島忠夫先生 ^{学習院中 等科長} 談話之際孝行録真本之事矣／余昭和初年頃購入・(補入)其本寄贈于山田忠雄氏矣。／昭和四十一年十月四日再求焉／松雲堂にて 岸廼舎 |
| | | | 10月12日 | 蓮月式部 二女 和歌集 | 八七一 | 昭和四十一年十月十二日辰巳屋にて／岸廼舎 |
| | | | 10月20日 | (別本山家集) | 三七三九 | 山家集別本 去三十八年借覽久曾神本及対校本而書写／者也 多煩今田氏矣云。／今茲春候依頼于遠藤氏、秋候十月七日製本了、明八日／於和歌文学会(東洋大学)講演 流布本山家集者隆／信撰歟之題云。／昭和四十一年十月廿日。／於実践女子大学長室／岸廼舎識写 |
| | | | 10月27日 | *楽我室遺稿 | 五四九 | 昭和四十一年十月廿七日／沖森書肆にて 岸廼舎 〔昭和7年1月25日／崇文院・編集兼発行所〕 |
| | | | 10月28日 | 栗園文鈔 | 九九〇 | 昭和四十一年十月廿八日／沖森にて 岸廼舎 |
| | | | | 北山随筆(孝経 棲漫筆) | 一八五九 | 昭和四十一年十月廿八日／誠心堂にて岸廼舎 |
| | | | | 正志斎稽古雜録 | 一八七三 | 昭和四十一年十月廿八日誠心堂にて／岸廼舎 |
| | | | | 草偃和言 | 二九九八 | 昭和四十一年十月廿八日／誠心堂にて 岸廼舎 |

| | | | |
|--------|---------|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 11月13日 | 黙々余声 | 一〇八七 | 昭和四十一年十一月十三日／藤園堂にて／岸廼舎 |
| | 一華五葉 | 四七七七 | 昭和四十一年十一月十二日／誠心堂にて 岸廼舎 |
| | 麗句集 | 四五九九 | 昭和四十一年十一月十二日、琳琅閣書店主／推薦乃求焉 犬養木堂旧蔵本之 題簽者木堂筆也 |
| | 蘭室集略 | 一二九六 | 協屋蘭室 名長之 字子善 通林儀一郎 号蘭室／豊後人 初受業于三浦梅園 後遊于肥後而師事／藪孤山 更到大阪入門（補入左傍書「子」中井竹山）後年仕熊本藩為儒員 文化十一年十月三日歿享年五十有一／私諡文恭先生云々 ／昭和四十一年十一月十二日／於琳琅閣求焉 岸廼舎 |
| | 橘園遺文 初集 | 一一七四 | 昭和四十一年十一月十二日琳琅閣『岸廼舎』 |
| | 庸軒詩集 | 一一二三 | 本書稀覯也京都市／武者小路官休菴千氏蔵一本。／昭和四十一年十一月十二日／於琳琅閣求焉／岸廼舎識 |
| 11月12日 | 長嘯物語 | 八七四 | 〈前見返〉・長嘯物語一冊 挙白集中／／ ・山内・東塔・南谷・浄教房 真如蔵本ハ／昭和廿四五年頃 京大文学部研究室ニテ購入／セラレタリ、連歌其他多教有之。／昭和四十一年十一月十二日琳琅閣にて／岸廼舎 |
| 11月1日 | 東海漫遊稿 | 六五三 | 昭和四十一年十一月一日於 斯文会求焉／岸廼舎 |
| | 錦城百律 | 四八九五 | 昭和四十一年十月廿八日／誠心堂にて岸廼舎 |
| | 退食間話 | 四八九四 | 昭和四十一年十月廿八日／誠心堂にて岸廼舎 |
| | 迪彝篇 | 四八九五 | 昭和四十一年十月廿八日／誠心堂にて 岸廼舎 |
| 10月28日 | 集 | 三八〇四 | 昭和四十一年十月廿八日／於誠心堂／岸廼舎 〔昭和13年5月18日六版〕編輯者・佐久良東雄・大久保要顕彰会出版部／印刷所・大行堂印刷所〕 |

| | | | |
|--------|----------------------------|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 3月1日 | 鴻爪詩集 小丘園集 初編 | 六九八 | 昭和四十二年三月一日山本書店にて求焉／岸廻舎 落合廣石 名廣 字子載 称敬助号雙石 日向人／／程朱学／昭和四十二年三月一日／購入于山本書店 岸廻舎 |
| 1月27日 | 定頼家集 (義倉文庫本の 現写本) | 五三四 | 定頼家集一卷 倉敷市義倉文庫蔵本也 廣島師範学校教諭松永信一氏複写者也 昭和十六年頃世昨春嘱遠藤氏製本了 昭和四十二年一月廿七日記之 浅野本住吉浜松同時也云 岸廻舎 |
| 1月25日 | 住吉物語 (浅野図書館本の 現写本) | 三三四八 | 住吉物語一卷 広島浅野家図書館／蔵本也松永氏謄写為余所贈者也／昭和十九年五月十六日仮綴了／岸廻舎識／昭和四十二年大蔭廿五日製本受取／同廿七日記之 岸廻舎識 |
| 1月27日 | 浜松中納言 卷 六(浅野本の複写 製本) | 三三一八 | 昭和十六年八月上浣 広師松永信一氏より／送り来る 岸廻舎 浜松中納言卷六 一冊 与尾上本同卷也／同物語者 従来無卷六 只尾上本与浅／野本有之而已 乃為参考以感光紙／謄写焉／昭和四十二年大蔭廿五日即書陵部／委员会受取製本于書陵部矣／同大蔭廿七日於実践女子大記之／岸廻舎 |
| 1月25日 | 在中将集 | 三六五三 | 昭和四十二年一月廿五日製本入手于 書陵部 矣 岸廻舎 |
| 11月16日 | 温泉遊草 再草 | 七九五 | 昭和四十一年十一月十六日於誠心堂／岸廻舎 |
| 11月20日 | 質疑篇 | 四八九一 | 昭和四十一年十一月十六日／於誠心堂 岸廻舎 |
| 12月13日 | 寂蓮華雜冊 初編 | 一八八四 | 昭和四十一年十一月二十日仏教説話文学会日／於竹苞樓求焉／岸廻舎 |
| 12月13日 | 侗庵非詩話 (崇文叢書第一輯 之56) | 一七九八 | 昭和四十一年大呂十三日／松雲堂にて岸廻舎 〔昭和2年10月15日／編輯発行者・崇文院／印刷所・円谷印刷所〕 |

昭和四二年丁未(一九六七)

| | | | |
|-------|----------------------|--------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 3月29日 | 桃岡雜記 | 五〇八五 | 重文委員會版途 昭和四十二年三月廿九日／文行堂にて 岸廼舎 |
| 5月24日 | 誠齋詩話 | 四八三 | 〔誠齋詩話／古窗詩草／宋三家詩話〕三部 米納津／赤川氏旧蔵本也／昭和四十二年五月廿四日 曾根より持参／岸廼舎 |
| 5月26日 | 古学先生碣銘行状 故事俚諺補闕鈔 | 五六七 四四九八 | 昭和四十二年五月廿六日／於松雲堂にて求焉 岸廼舎 毛利虚白、貞齋之字也 程朱学／名瑚珀 通称香之進 大坂人 講説于京師也／岸廼舎／／昭和四十二年五月廿六日求于松雲堂／卷一・二・三・四欠本也 岸廼舎識 |
| | 李滄溟尺牘国字解 | 四六七八 | 昭和四十二年蕤賓廿六日／於松雲堂求焉岸廼舎識 |
| | 新尺牘青錢廣編 | 四六八七 | 昭和四十二年五月廿六日／松雲堂にて 岸廼舎 |
| 7月 | *日本名筆全集 | 四二三九 | 昭和四十二年夷則七又ハ 於楠陽堂求焉 岸廼舎 |
| 7月8日 | 古文書集 | | 〔昭和9年1月10日再版／發行所・雄山閣／印刷所・山泉製本印刷〕 |
| 7月12日 | 三教指帰 | 二〇一二 | 昭和四十二年夷則十二／沖森にて 岸廼舎 |
| 7月18日 | 芸苑名言 緑芋村莊詩鈔 後編 | 四八七 二二八一 | 於楠陽堂 岸廼舎／昭和四十二年夷則十八 淡窓門人 折衷学／下卷欠者也／昭和四十二年夷則十八／於 楠陽堂 岸廼舎 |
| 7月24日 | 草訣辨疑 くず花 | 四四五二 一九八四 | 昭和四十二年夷則十八日 楠陽堂にて岸廼舎 くず花二冊 寛政十年写 橋本琴雄 在書陵部／／ 名古屋飯島書店にて／ 昭和四十二年夷則廿四／岸廼舎 |
| 7月26日 | 湖東三僧略 相宅小鑑 | 二〇七五 四一五一 | 〔前見返〕昭和四十二年夷則廿六日／松雲堂にて岸廼舎 昭和四十二年七月廿六日 岸廼舎／松雲堂にて |
| 9月7日 | 篁墩詩鈔 | 八五一 | 昭和四十二年九月七日／白雲堂にて 岸廼舎 |

| | | | |
|--------|---------------------------|--------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 9月8日 | 省賃録 | 一八七〇 | 昭和四十二年無射八／白雲堂にて岸廼舎 |
| 9月16日 | 秋の初風 元祖 大河御歌 * 旭川詩鈔 | 三八二七 六四四 | 昭和四十二年無射八／白雲堂にて 岸廼舎 昭和四十二年九月十六日／沖森にて 岸廼舎 〔明治37年11月10日／著作者・大賀賢勳／発行兼印刷者・門脇任賢〕 |
| 10月29日 | * 牧山樓詩鈔 黙々余声 | 八二〇 一〇八六 | 〔上巻〕昭和四十二年九月十六日／沖森にて 岸廼舎 〔明治23年7月26日 発行者・佐藤雲韶／印刷者・坂次助〕 昭和四十二年九月十六日／沖森にて 岸廼舎 |
| 10月30日 | 含錫紀事 楽家録 | 一八四九 四〇一一 | 〔表見返〕昭和四十二年九月十六日／沖森にて 岸廼舎 昭和四十二年十月二十九日／斯文会にて 岸廼舎 |
| 11月28日 | 新居帖 蘿軒變古箋譜 | 四二〇六 七九六 | 昭和四十二年十月卅日時枝君送葬／販途過岩波書店訪松雲堂求焉／岸廼舎 於松雲堂／昭和四十二年十一月廿八日岸廼舎 |
| 12月4日 | 星巖丙集 聚分韻略 | 一二〇七 六八二 | 昭和四十二年十一月廿八日／於松雲堂 岸廼舎 〔第一冊〕松雲堂にて／昭和四十二年／十二月四日岸廼舎 〔第四冊〕昭和四十二年十一月廿八日／於松雲堂求之 岸廼舎 |
| 12月上旬 | 近世歌人師弟一覽 * 柳北遺稿 | 九五五 | 昭和四十二年十二月上浣／窪田本 岸廼舎 |
| 12月16日 | 古註蒙求 | 四四八四 | 昭和四十二年大呂上浣／窪田氏遺書／岸廼舎 〔明治25年10月10日／編輯兼発行者・大橋新太郎／博文館〕 |
| 12月27日 | 住吉物語（浅野本の現写本） | 五一六四 | 昭和四十二年大呂既望／岸廼舎／於一誠堂 住吉物語一卷廣島浅野家図書館／蔵本也／松永氏謄写為余所贈者也／昭和十九年五月十八日飯綴了／岸廼舎 昭和四十二年大呂廿五日製本受取／同廿七日記之岸廼舎識 |

昭和四三年戊申（一九六八）

| | | | |
|-------|------------------|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1月17日 | 藐姑射秘言 北里十二時（現写本） | 五一六四 | 昭和四十三年十一月十七日／大屋書店にて 岸廻舎 |
| 1月20日 | 今四家絶句 | 一四九二 | 昭和四十三年大簇廿日／松雲堂にて 岸廻舎 |
| 1月31日 | 不二紀行詩 | 六七七 | 昭和四十三年大簇大晦／鷲宮渡辺書店にて岸廻舎識 |
| 2月21日 | 子規亭詩 | 六八二 | 園田一齋父守彝字君秉通祢宣客一齋号也／伊勢之人内宮祢宣守諸之子津藩藩師／嘉永四年九月没／／昭和四十三年二月廿一日沖森にて 岸廻舎 |
| 2月22日 | 離屋学訓 | 七九三 | 丹羽最〔又〕の「上」力「重ね書き」、／／昭和四十三年二月廿二日／於誠心堂求焉 岸廻舎 |
| 2月23日 | 鉗狂人 | 五一〇〇 | 昭和四十三年二月二十三日／誠心堂にて 岸廻舎 |
| 3月1日 | 小丘園集 | 五四四 | 〔第一冊前見返〕秋本時憲 字習之 号小丘園 服元喬門下 岡崎藩文学／本姓菅原 自修称菅 元来間部之家臣云 |
| | 南狩録 | 二七三〇 | 〔第五冊奥〕昭和四十三年三月一日 山本書店にて求焉／岸廻舎 |
| 3月12日 | 三五挑事抄 | 三七九三 | 昭和四十三年三月一日／松雲堂にて 岸廻舎 |
| 3月23日 | 梅岡詠物詩 | 一一五九 | 〔四冊目〕重文会議後与是沢氏同道にて／昭和四十三年三月十二日／文行堂にて 岸廻舎 |
| 4月9日 | 義経記 | 三四七三 | 昭和四十三年三月廿三日／思文閣にて／岸廻舎 |
| 6月8日 | 雨新菴詩集 | 七七九 | 昭和四十三年四月九日／松雲堂にて岸廻舎 |
| 6月27日 | 寸碧樓詩稿 | 六九五 | 昭和四十三年六月八日／於木内求焉／岸廻舎 |
| | | | 奥山小山字温夫弥太郎卜称し小山又ハ寸碧樓と号ス／大阪人篠崎小竹二師事三上藩儒安政五年八月廿日歿五十九（儒林源流・浪華人物誌）別有 小山堂文鈔二卷刊／劉誠意文鈔五卷校／小山堂詩鈔二卷刊／昭和四十三年林鐘廿七日夜記之／思文閣にて求焉 岸廻舎 |

| | | | |
|--------|------------------------|-------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 6月28日 | 子規亭詩 春帆樓百絶 臨川全集 | 六八二 八九四 九四七 | 昭和四十三年六月廿八日／沖森にて 岸廼舎 昭和四十三年林鍾廿八沖森にて／岸廼舎 寺田半蔵名草字士豹号臨川 受業于味木立軒 業成／仕廣島藩而為藩学講堂館長 延享元年十一月下浣歿六十七歳／ 昭和四十三年六月廿八日／沖森書店にて求む／岸廼舎 |
| 6月29日 | をしまのとまや *野跡秋萩帖(複製本) | 三三三七 四一九五 | 昭和四十三年六月廿八日／沖森より 岸廼舎 昭和四十三年六月廿九日 竹苞楼より 岸廼舎 〔西東書房発行(発行年他なし)〕 |
| 7月5日 | 先達遺事 鈴録 | 一八九七 四一八三 | 於中尾松泉堂求之／昭和四十三年七月五日岸廼舎 昭和四十三年夷則五日 於中尾書店求焉／岸廼舎識 |
| 7月18日 | 嚶々筆語 | 三二二一 | 昭和四十三年七月五(ミセケチ)十八「右傍書」日於誠心堂求之／岸廼舎 |
| 8月3日 | 肥前国風土記 | 三〇一七 | 昭和四十三年南呂三／於七条氏邸 受領／岸廼舎 〔貼紙〕肥前国風土記 一冊 鎌倉写本／猪熊信男本なるへし〔なるへし〕ミセケチ、ボールペン右傍書「なり」／「ボールペン書」太田晶二郎君改題を書く予定の所／「墨書」昭和四十三年南呂三与飯島氏／「ボールペン書」まだ書かず、頒布せざりし本なり／「墨書」訪七条邸 受領 七徳舞／肥前風土記 三十六人集拾遺その／他。飯途 ホテル大谷にて中食／天婦羅 如例 飯途 ハイッ下ま／で送らる／三日 天気晴朗風涼し／一筆を染めたり／于時午後四時なり／岸廼舎識 |
| 9月14日 | 秘註誹諧七部集 | 一〇二九 | 昭和四十三年九月幾望 岸廼舎識之 |
| 10月5日 | 知命開宴集 | 一五六三 | 昭和四十三年十月五日／松雲堂にて 岸廼舎 |
| 10月15日 | 方阜百絶 仮名性理 | 一〇八五 四八八六 | 昭和四十三年十月望／藤園堂にて 岸廼舎 昭和四十三年十月望沖森にて 岸廼舎 |

| | | | |
|--------|--------------------------|---------------------|----------------------------------------------------------------------------------|
| 10月19日 | *寂室遺芳 | 五二五 | 昭和四十三年十月十九日、京都／大丸古書展にて 岸廼舎 〔昭和41年4月5日／発行者・高野俊郎／発行所・寂室遺芳刊行会〕 |
| 10月22日 | 蒙求居敬説 清廿四家詩 | 四五〇一 三八三 | 昭和四十三年十月十九日京都四条大丸／古書展にて 岸廼舎 昭和四十三年十月廿二日／松雲堂にて 岸廼舎 〔明治30年4月求版／編録人・中島一男／万巻堂〕 |
| 10月 | 孫子国字解 | 四四二七 | 昭和四十三年十月記之 藤園堂にて 岸廼舎 |
| 11月2日 | 明律国字解 | 四四〇七 | 明律国字解・十六巻 木活四文樓活版／八冊又ハ四冊也 木活拙修斎／昭和四十三年十一月二日／誠心堂にて岸廼舎 |
| 11月9日 | *泰山集 | 九一八 | 昭和四十三年十一月九日琳琅閣にて岸廼舎 〔明治43年12月27日／発行者・谷干城／印刷所・成章堂〕 |
| 11月23日 | 濟北集 | 五一七 | 濟北集／五山版／慶安版 二十巻 一一冊、慶安三年 中野是誰／貞享版（慶安版復刻也）／濟北集註 二〇巻／／ 昭和四十三年十一月廿三日 ／ 思文閣にて 岸廼舎 |
| 12月10日 | 緇林宝訓 | 一九九九 | 〔表見返〕緇林宝訓 一冊 宋 扨賢撰、五山版アリ／寛永十六年 京都田原仁左門衛〔門衛〕に転倒符／刊アリ 〔裏見返〕昭和四十三年大呂旬／琳琅にて 岸廼舎 |
| 12月28日 | をしまのとまや 杉のしつ枝 蕉窓雑話 | 三五三六 三七九五 四一〇 | 藤浪剛一医博旧蔵本也／昭和四十三年大呂廿八日／思文閣より 岸廼舎識 昭和四十三年大呂廿八日／大分にて 岸廼舎 |
| | 畧可法 | 四二四七 | 昭和四十三年大呂廿八日／岸廼舎 |
| 5月31日 | 神国決疑編考証 | 一九三〇 | 昭和四十四年五月卅一日誠心堂にて 岸廼舎 |

昭和四十四年己酉（一九六九）

| | | | |
|--------|-----------------|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 6月1日 | 前篇鳩巢先生文集 | 一一九四 | 〔第一冊〕序目「表見返に押紙」伊藤〔右傍書〕東〕澹斎 名貞 字智量 号澹斎 通称／貞右衛門 又号悠斎 長門豊浦之人〔補入〕也〕後為／伯父伊藤好義斎之養子 受業于室鳩巢／為松平周防侯及土屋侯所優遇 宝曆中纂／鳩巢之文集而梓行矣 明和元年九月廿一日／歿享年六十有六云 昭和四十四年林鐘朔早晚記之／岸廻舎 |
| 6月7日 | 菅家遺識 | 四〇三五 | 昭和四十四年六月七日／沖森にて 岸廻舎 |
| 6月20日 | 貞丈家訓 | 四一六五 | 昭和四十四年六月七日／沖森書店にて／岸廻舎 |
| 7月17日 | 樅軒稿 | 四〇四四 | 昭和四十四年六月二十日 沖森書店にて 岸廻舎 |
| 9月30日 | 可笑記(巻五のみ) 複写製本) | 一三二二 | 昭和四十四年七月十七日勿々一読加朱点畢／「近世漢詩皆俗悪云云」伊佐早翁之詩／晚唐詩〔補入〕詞云傍記ミセケチ、行頭にさらに補入「調」有焉如類〔補入〕于左傍書〕杜牧之詩也。表現／練熟矣、岸廻舎 |
| 10月1日 | 文文山文鈔 | 五二〇 | 可笑記巻五以長澤規矩也氏蔵本複／写者也 囑于深沢君(法政大出)而複写 |
| 10月19日 | 文文山文選 | 二七〇 | 昭和四十四年九月三十日識之／岸廻舎 |
| | *楽斎遺稿 | 二七一 | 昭和四十四年十月一日 松雲堂送来／岸廻舎 |
| | 節斎遺稿 | 二七二 | 文々山者文天祥也選出文天祥之詩也／／ 昭和四十四年十月一日 松雲堂より送来／岸廻舎 |
| | 百合雅錦嶋 | 一一九六 | 昭和四十四年十月十九日／仙台市田町万葉堂にて岸廻舎 |
| | 清原宣賢中臣祓 | 二二〇一 | 〔明治23年10月29日／編輯兼発行人・星野郁／印刷人・田部晋〕 |
| | 抄 | 二二七五 | 〔上巻〕昭和四十四年十月十九日／仙台 万葉堂にて 岸廻舎 |
| | 粹 | 一九五七 | 卷五欠巻也／百合若錦島／／ 昭和四十四年十月十九日／仙台市 田町二テ／岸廻舎 |
| | 舊事本紀玄義抜 | 五〇七九 | 昭和四十四年十月十九日／仙台市 万葉堂にて／岸廻舎 |
| | | | 昭和四十四年十月十九日／仙台市田町 万葉堂にて 岸廻舎 |

| | | | |
|--------|-----------------------|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 10月23日 | 離屋学訓 | 七九二 | 丹羽最〔又〕の「上力」重ね書き／／本書旧藏者名古屋人／藤波剛医博也／昭和四十年十月廿三日／於木内書店求焉／岸廼舎 |
| 11月19日 | 堤中納言物語 〔藤井乙男本・一冊本〕 | 五六三七 | 藤井乙男 号紫影 淡路人 第四高教授／後京大教授、乙翁即藤井先生也／〔余白に清水泰未亡人住所を書いた紙片貼付〕／ 昭和四十四年十一月十九日／ 清水泰氏未亡人より 岸廼舎 |
| 11月23日 | 堤中納言物語 〔藤井乙男本・二冊本〕 | 五六四三 | 藤井先生旧藏本也 為清水泰君未亡人所贈云々／記念之書也 昭和四十四年十一月廿三日記之／岸廼舎識 |
| 11月26日 | 蜀山自筆百首狂歌 | 一〇五一 | 蜀山百首一冊版本複写也／白石忠氏寄贈 世田谷区下馬二丁目一二七／昭和四十四年十一月廿六日／岸廼舎識 |
| 11月30日 | 玉造小町子将衰書 | 五〇〇 | 〔青ボールペン書〕 玉造小町子壮衰書一卷 借鈔于 水母山人家〔鼓自塙／勾当〕伝写／ 之久文字訛謬魯魚難弁 其〔共〕に〔其〕重書しさらにミセケチ〔其〕右傍書〕著明者稍加是正既無異本／ 可訂故疑者闕加以従原本一字一画不敢臆断云／ 安永七年戊戌孟夏念六日 南畝主人誌／以大学院学生複写之国会図書館本 校訂了／ 昭和四十四年十一月卅日／岸廼舎識 |

昭和四五年庚戌（一九七〇）

| | | | |
|-------|------------------|------|---------------------------------------|
| 1月8日 | 西往詩艸 | 一一五一 | 昭和四十五年大簇八／思文閣より 岸廼舎識 |
| 1月15日 | 三王外紀 | 二七六九 | 昭和四十五年大簇望／神戸市生田区 多聞にて／岸廼舎 |
| 1月24日 | 古学二千年 | 一八八一 | 昭和四十五年大簇二十四日／白雲堂にて岸廼舎 |
| 1月30日 | 人物略画式 | 四三四五 | 昭和四十五年一月三十日 白石氏寄贈 岸廼舎 |
| 2月12日 | *隆能源氏絵詞 （複製本） | 四三〇一 | 岸廼舎 昭和四十五年二月十二日 実践女子大 複写係主任より受領（渡辺主人） |

| | | | |
|--------|--------------------|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 3月15日 | *菅家須磨記(複製本) | 三五二〇 | すまのまき／中尾書店目録には源氏断簡／とあり、取りよせたるに菅家須磨記／なりきのち返却せり。為念復写して参考とせり。／ 昭和四十五年三月十五日／岸廻舎 |
| 3月20日 | 言葉の玉緒縁接 | 七〇三 | 昭和四十五年三月廿日／中尾書店にて 岸廻舎 |
| 3月25日 | 詞玉緒縁接 | 七〇八 | 昭和四十五年三月廿五日／沖森にて 岸廻舎 |
| 4月5日 | 本朝麗藻 (菅原在家本) | 一四三二 | 〔表紙見返〕《青色ボールペン書》以国会図書館鴉軒文庫本校訂、同本重野安禪旧蔵本也／《墨書》応制之詩起〔於〕李唐云云故事成語考集注卷下二十四丁〔裏見返〕以土肥慶蔵医博旧蔵本／昨冬以降〔補入〕毎〔得閑校訂〔補入〕而今日〕遂校了云云／昭和四十五年四月五日 岸廻舎 |
| 4月10日 | *牧山樓詩鈔 附録 | 八二一 | 昭和四十五年仲呂旬／於沖森書店 岸廻舎 〔明治14年3月／選評人・佐藤楚材／出版人・辰巳守〕 |
| 10月1日 | *津藩斎藤拙堂 和歌集 | 三八〇三 | 昭和四十五年十月一日／沖森にて 岸廻舎 〔著者兼発行者・鈴木敏雄／印刷所・共昌社〕 |
| 10月9日 | 江関筆談 | 五二四七 | 〔表見返〕江関筆談写一冊／於江戸本願寺筆談云云／佐村八郎国書解題曰有室鳩巢之跋云云／本書無跋者原本歟 昭和四十五年十月九日記之／岸廻舎 〔裏見返〕昭和四十五年十月八日／沖森書店より岸廻舎 |
| 10月上旬 | 焉瘦篇 | 五三〇一 | 本書収于日本文庫／孟子離婁章句上／孟子曰存乎人者莫良眸子…／聽其言也觀其眸子焉瘦哉／沖森書店より／昭和四十五年十月上流／岸廻舎 |
| 11月28日 | 伊勢物語題号考 黄葉夕陽村舎詩 | 一一四八 七三六 | 昭和四十五年十月古流／以実践女子大黒川本作之 岸廻舎 前編五冊／後編四冊／遺稿四冊／卷四ノ部分缺ナリ他日須求他本也／多情景融合作／星巖詠景与理作多／卷四以沖森待賣本／補×了昭和四十五年十一月廿八日 |

| | | | |
|--------|--------------------|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 11月下旬 | 作文志穀 | 一八〇六 | 昭和四十五年十一月下浣／実践女子大大学院学生翠川子／寄贈 岸廻舎 |
| 12月3日 | 蒙求和歌 (松平本の複写製本) | 三八一七 | 松平本一冊 昭和四十三年二月上浣借覧／同四十五年九月上浣訪松平頼明氏而返却矣／其間複写而領布于有志数氏了／蒙求精撰本系也／昭和四十五年十二月三日於実践女子大記焉／岸廻舎 |
| 12月14日 | 土佐日記舟の直路 | 四三三九 | 昭和四十五年大呂幾望／于斯文会 求之／岸廻舎 |
| | *佛山堂遺稿 | 一一九〇 | 昭和四十五年大呂十四日于斯文会求之／岸廻舎 〔大正3年7月16日／編輯兼発行者・末松謙澄／印刷所・東京国文社〕 |
| 12月19日 | 凌雲集(写真複製製本) | 一四二二 | 〔青ペン書〕昭和四十五年十月十七日／撮影 翠川 〔墨書〕凌雲集 一冊／肥前島原松平文庫本也／大大学院学生翠川文子氏／撮影而寄贈者也／昭和四十五年大呂十九日／岸廻舎識 |
| 12月23日 | *聾聵指帰 | 二〇一一 | 〔上下巻〕昭和四十五年大呂二十三黄昏／于一誠堂求焉 岸廻舎 〔昭和40年／金剛峯寺〕 |
| 1月下旬 | 凌雲集(複製本) 複製本) | 一四一七 | 昭和四十六年一月下浣／大学院学生翠川女史寄贈／岸廻舎 |
| 3月3日 | 詩藻行潦 | 一八二五 | 嵯峨氏寄贈／昭和四十六年三月三日 岸廻舎 |
| 3月5日 | 詩語群玉 | 一八二二 | 嵯峨氏より 昭和四十六年三月五日受領〔月〕以下に右傍書「三日学校二而参」／岸廻舎 |
| | 武道初心集 | 四〇四七 | 〔表見返〕武道初心集 三冊 天保五年刊本裕焉／モト武備見聞雜記ト称シタルカ。ソレハ稿本ナルベシ／部類稿本而整理文章者武道初心集歟。／昭和四十六〔五〕ミセケチ〔六〕右傍書一月下浣記之(右二書大戦前求矣) |

昭和四十六年辛亥(一九七二)

| | | | |
|-------|--------------------------------------|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 3月23日 | 国歌八論／国歌 八論再論／国歌 論臆説／再奉答 金吾君 | 三八八一 | 文行堂にて求之／昭和四十六年三月廿三日 重要文化財委員会販送、／岸廼舎識 |
| 4月8日 | 遍照發揮性靈集 | 四九三 | 〔刊記前に別紙貼付〕（複製本、奥附）〔刊記の図、省略〕復刻本二八大覚寺蔵版ノ朱印ナシ 本文ノ後ニ広告ノ紙四ノ葉アリ刊年時ナシ。 昭和四（補入「十六」）年四月八日記ノ複製本ハ三冊ナリノ一ハ巻四マデ 二ハ巻八マデ 三ハ巻十 〔刊記奥〕京都市 其中堂にて／岸廼舎 |
| 4月15日 | 更級日記 御物 本 （複製本） | 三五一二 | 〔解説冊子〕橋本不美男氏寄贈なり／昭和四十六年四月十五日／笠間書院より受領／岸廼舎 |
| 6月12日 | 南里遺稿 | 五九四 | 巖村南里 受業中井竹山讃岐人ノ／昭和四十六年六月十二日／於書林会 依頼于 琳琅閣求之ノ岸廼舎 |
| 7月24日 | 白蓮池館詩鈔 | 七三一 | 〔前見返〕白蓮村上仏山門人而古文辞学派也 〔後見返〕昭和四十六年七月廿四日ノ竹苞樓にて 岸廼舎 |
| 8月6日 | 西行法師家集 二 | 三七一 | 昭和四十六年八月一日ノ松雲堂にて／岸廼舎 |
| 8月20日 | 山家集（複写製本） | 三七四〇 | 山家集 真本 穂久迹文庫本也ノ 余先年借覽謄写焉 今年三月嘱于渡ノ辺氏複写 六月下浣完了矣ノ 真本又曰別本流布稀少也 此一本外ノ 余不知其处在也ノ 昭和四十六年南呂廿又四記之ノ岸廼舎識ノ本文末天永四年云者文永之誤写歟 |
| 12月上旬 | 近世歌人師弟一覽 | 九五五 | 昭和四十六年十二月上浣ノ窪田本 岸廼舎 |

昭和四十七年壬子（一九七二）

| | | | |
|-------|---------------------------|--------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1月下旬 | *赤城梅花記（複写本） *錦城詩稿（複写本） | 六五八 六五九 | 此一篇在春草堂集中 <small>云</small> ／／ 昭和四十七年一月下浣／大学院学生翠川氏周旋ニヨル／岸廼舎 岸廼舎／昭和四十七年一月下浣／大学院学生翠川氏周旋 |
| 2月8日 | 御遺告聞書 賢宝記 | 五三五一 | 賢寶 京都観智院僧／東寺泉宝者其師而稟受密乘入於其堂奥矣／悉曇創学記 其他有歟泉宝口説・賢宝増補者 <small>云</small> ／／昭和四十七年二月八日／其中堂にて岸廼舎 |
| 2月25日 | 閑居草 和漢茶誌 | 三二二五 四一二二 | 昭和四十七年二月廿五日／京都白洲堂にて／岸廼舎 昭和四十七年二月廿五日／白洲堂にて 岸廼舎 |
| 3月10日 | 曾我復讐記大全 | 一三三二 | 昭和四十七年三月十日／白州堂にて 岸廼舎 |
| 3月15日 | 伏見宮本 文机談 卷第二、二卷（複製本） | 四〇〇八 | 昭和四十七年三月十五日受領 |
| 4月1日 | 楊誠齋詩鈔 | 二六一 | 昭和四十七年仲呂朔 京都白州堂にて／岸廼舎 |
| 4月21日 | 得齋詩文鈔 | 九九七 | 昭和四十七年四月二十一日／於 松雲堂求焉 岸廼舎識 |
| 4月26日 | 石湖先生詩鈔 | 二五八 | 昭和四十七年仲呂廿六日沖森にて／岸廼舎識 |
| 5月8日 | 眠雲札記（付文章書式） | 一八七六 | 〔上卷〕昭和四十七年四月廿六日／沖森書店より 岸廼舎 〔下卷〕朝川月齋 ■人 本姓横江氏・（眠雲札記二卷 文章書式一卷）合刻 第一卷／昭和四十七年仲呂廿六日 岸廼舎 |
| | 南宮詩鈔 | 七三三 | 昭和四十七年蕤賓八／於池袋東武展求之／岸廼舎 |
| | 声文私言 | 一〇五二 | 五月十五日午後一読了／／昭和四十七年五月八日／池袋東武展にて岸廼舎識 |
| | 也足齋詩鈔 | 一二九三 | 昭和四十七年蕤賓八／於池袋東武展求焉／岸廼舎 |

| | | | |
|-------|-----------------------------|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 5月15日 | 新三玉和歌集類題 つらつらふみ | 八八八 | 昭和四十七年五月十五日白洲堂にて／岸廼舎 |
| 5月26日 | 醒齋先生語録 | 一七九七 | 〈表見返〉淡窓名健字子規基 号淡窓別称遠思楼 入テ亀井塾 安政三年 (一八五六)卒／七十五才 〈裏見返〉淡窓全集中載醒齋先生語録矣 与本書不同。本書別本而／善本也／ ／ 昭和四十七年五月廿六日／琳琅閣にて／岸廼舎 |
| 7月11日 | *大乘理趣六波 羅蜜經釈文 | 二一八四 | 昭和四十七年夷則十一日／岸廼舎識 〔昭和47年3月1日／発行者・神田喜一郎／印刷・中村印刷〕 |
| 7月15日 | *四十二の物詠 祐徳神社本 (紙焼き写真) | 五一五四 | 広島 鍋島家／祐徳稻荷神社蔵本也／ 昭和四十七年七月十五日／大学院生翠川子寄贈／岸廼舎 |
| 8月2日 | 本朝人鑑(正・統) | 五三六五 | 昭和四十七年八月二日求于一誠堂焉／國文学資料館評議員会販途／見源氏物語古写別本矣 岸廼舎 |
| 8月16日 | 玉林和歌集 | 八五九 | 〈表見返〉本書七名 釈教〈和歌〉補入 玉林集／大谷派先啓撰 真宗〈之〉補入 宗義関係と歌抄出／仏教大辞彙四寛政十一年出版云 〈裏見返〉昭和四十七年八月十六日求焉／於京都白州堂、〈読点ママ〉岸廼舎 |
| 9月中旬 | *浜松中納言物語 (複製本) | 三三一九 | 浜松中納言物語 四冊 神戸女子高校蔵／ 本也昨冬中古文学会秋季大会際介紫藤氏借覽而今茲復写者也 復写之人技術／拙類而不明部分不少遺憾々々。／ 昭和四十七年九月中流 岸廼舎識／岩下貞融者長野人 貞融書入本提中納言物語一冊在／長野市県立図書館焉。 |
| 10月1日 | 帯経堂詩話 | 四八八 | 〈後補表紙見返〉余偶然願氏家訓卷三勉学篇矣／中有左語乃記焉／ 古人勤学有照雪聚螢握錐投斧／ 鋤則帯経牧則編簡云／ 昭和四十七年十月一日三更夜中記／岸廼舎識 |

| | | | |
|----------------|------------------------------|--------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 10月29日 | *高遠大式集(複製本) | 三六八六 | 〔付紙〕昭和四十七年八月下旬文部省ノエレベ／ータにて 伊臣能氏令嬢瑠子君ノ二逢也 大貳高遠集ノ事調査タノム／十月廿日云夜電話アリ／父モ少々毫碌云ノ絵ノ類ノシモ古筆ハ多カラズ／大貳高遠集ノミ父に記憶ニナシト即チ団氏ニハナシトナリ。／清水文雄氏ニ週知セリ。／瑠子今ハ西尾氏三十年学習院大卒ナリ 十月廿九日夜記之 〔昭和10年3月25日発行ノ尊経閣叢刊〕 |
| 11月12日 | 菅家遺識 山谷演雅詩図解 | 四〇三六 四六二〇 | (本書ハ真本也)昭和四十七年十一月十二日ノ竹苞樓にて 岸廻舎識 昭和四十七年十一月十二日ノ於竹苞樓求焉 岸廻舎 |
| 12月19日 | *蒙古寇紀 室町殿日記 | 二七四一 二七五六 | 昭和四十七年大兄(二字ママ)十九 於文行堂求焉ノ重文会議販途也 岸廻舎 〔昭和6年7月1日ノ発行者・元寇弘安役六百五十年記念会ノ印刷社・文章院出版部〕 〈表見返〉室町殿日記ノ書陵部本、写十二冊 同 徳山毛利久三本 二十冊ノ松岡本 五冊ノ内閣文庫本ノ(内務省本 十冊(十卷)ノ室町殿ものがたり(十二卷)五冊) 同(嘉永元写(十卷)ノ神谷三園手校本)六冊ノ(昭和四十七年ノ大呂十九日夜) 〈裏見返〉(朱書)昭和四十七年十二月廿四日夜一読ノ岸廻舎 |
| 12月21日 | 詩語群玉 | 一八一 | 〔前遊紙〕松雲堂にて嵯峨氏と邂逅。ノ昭和四十七年十二月廿一日午後、 |
| 昭和四十八年癸丑(一九七三) | 1月30日 瓶史国字解 (袁中郎流插花図会) | 四一三五 | 瓶史 明 袁宥道撰 一卷 又ハ二卷ナリノ 說郭統卷大四十(一卷) 宝顏堂松篔正函(一卷) 温(一字ミセケチ、右傍書「澤」)古齋重鈔第十集二卷ノ 広百川学海癸集(二卷) 群芳清玩(二卷) 美術双書初集第六輯(二卷)ノ借月山房彙鈔第十集二卷ノ書陵部十本左ノ如シ、内閣文庫□□(鉛筆右傍書「ナシ」ノ袁中郎流插花図会(有欠) 祥雲齋秀英 掬雲齋帛本画 文化六版(鷹)八冊 二六六 三九 (卷一欠本)ノ 昭和四十八年大簇卅日ノ 京都白州堂にて求む岸廻舎 |

| | | | |
|----------------|----------------------|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2月10日 | 高青邱詩集 金華先生詩刪 | 二八一 一〇七五 | 思文閣／昭和四十九年二月十日於高島屋大古書展、岸廼舍 八木書店二 依頼 昭和四十九年二月十日高島屋大古書店にて／岸廼舍 |
| 昭和三十九年甲寅(一九七四) | | | |
| 3月13日 | 一休諸国物語(卷五)(駒沢大本の現写本) | 三四〇一 | 絵入一休諸国物語卷五(右傍書「表紙薄藍也」駒澤大学図書館本也／今年一月中山介飯田利行博士借覧矣／余蔵本卷五欠本云云 依嘱(補入「于」)今田昭子映／写者也、二月廿三日昭子持参焉 初春以来尔／身世匆忙(補入「殆」)無閑暇 三月十三日夜改訂欠字／及誤写了 飯田博士専修大教授駒沢大講師／昭和四十八年三月十三日記 ^{夜三更前} ／岸廼舍識 |
| 3月22日 | 草訣辨疑 | 四四五三 | 昭和四十八年三月廿二日 是沢氏同道也／重文会飯途於文行／堂求焉 岸廼舍 |
| 6月6日 | 後光明天皇御製詩集 | 八一〇 | 〈朱書〉帝詩人也若年而有此詩括目可見者也／昭和四十八年林鐘六月夜一読了岸廼舍／昭和二十六年大呂十九日 沖森より 岸廼舍 |
| 7月20日 | 西裨雜纂 | 四〇九五 | 本書、／模蒙求之態者也／／ 昭和四十八年七月廿日／ 竹苞楼にて／岸廼舍 |
| 9月25日 | 新刊音釋校正標蒙求 | 四五一一 | 此蒙求ハ／内閣文庫一冊アリ／昭和四十八年七月廿日(補入「京博保管、朗詠集」)調査中／京都 竹苞楼書店にて／岸廼舍識 |
| 10月28日 | 国学入門 香雲閣詩鈔 | 五〇九八 五七六 | 昭和四十八年九月廿五日 北州堂にて 岸廼舍 昭和四十八年十月廿八日金沢市にて 岸廼舍識 |
| | 龍樹菩薩伝 | 二〇五八 | 昭和四十八年十月廿八日／金沢市 近八書店にて／岸廼舍 |
| | 滄溟尺牘国字解 | 四六七九 | 昭和四十八年十月廿八日夜於／金沢市近八書肆求焉／下卷欠本也岸廼舍 |
| | 伊呂波歌邪正辨 | 四九〇一 | 昭和四十八年十月廿八日／金沢市近八書店にて／岸廼舍 |

| | | | |
|-------|--------------------|------|------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2月14日 | 入水往生伝／専 念往生伝 | 四九〇六 | 昭和四十九年二月幾望／其中堂にて 岸廻舎 |
| | あや布 | 九〇一 | 文布一冊 弓屋倭文子之集也／／ 昭和四十九年二月幾望／辰巳屋書店にて／岸廻舎識 |
| | 弥勒三部経 | 二一九七 | 昭和四十九年二月幾望／其中堂にて 岸廻舎識 |
| 2月17日 | *釈奠誌 | 二九九九 | 昭和四十九年二月十七日／斯文会にて／岸廻舎識 〔大正9年6月27日／編輯兼発行者・岡本昇／印刷所・一新印刷部〕 |
| | 和漢孝子蒙求 | 四〇八五 | 昭和四十九年二月十七日／至斯文会求焉／岸廻舎 |
| 3月20日 | 調鶴集 | 八六五 | 井上文雄翁家集 調鶴号也 岸本由豆流門人 著書多焉／ 明治四年歿 七十二歳、慶応三年刊也、〈読点ママ〉／／ |
| | 渡海記 | 五三六〇 | 昭和四十九年三月廿日 重文会販途／文行堂にて 岸廻舎 |
| 3月27日 | 同人集 二編 | 一五一七 | 昭和四十九年三月廿七日朝送来焉／去廿日午後訪文行堂〔補入「一」〕見本書。 家有〔補入「第」〕一編／故注発〔二字転倒符あり〕矣。後日須求〔補入「第」〕三編 也／岸廻舎 |
| 4月13日 | *露殿物語 | 四三二五 | 昭和四十九年四月十三日／岸廻舎識 〔勉誠社 昭和49年1月発行〕 |
| 5月8日 | 蓮月／式部 二 女和歌集 | 八七〇 | 昭和四十九年五月八日／白州堂にて／岸廻舎 |
| | (増訂／續) 日本 名家史論鈔 | 二七八九 | 昭和四十九年五月八日白州堂にて岸廻舎 |
| 7月29日 | *兔峯遺稿 | 八〇二 | 昭和四十九年七月廿九日沖森より／岸廻舎 〔大正3年2月25日／小菅嘉三・発行者／合資商報会社・印刷所〕 |

| | | | |
|---------------|-----------------------|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 7月29日 | *牧山楼詩鈔 | 八一九 | 昭和四十九年七月廿九日／沖森にて 岸廼舎 〔明治23年7月26日／発行者・佐藤雲韶／印刷者・坂次助〕 |
| 10月14日 | *僧良寛歌集 | 三七九六 | 昭和四十九年十月十四日／巻町森川喜一郎翁来訪実践女大／而為余所贈呈焉 岸廼舎識 〔昭和48年9月10日／編輯・村山半牧／発行所・野島出版〕 |
| 11月17日 | *曾我物語 | 五一四七 | 岸廼舎／昭和四十九年十一月十七日／京都市河原町通 ^{キクオ} 書店にて |
| 12月19日 | 古文真宝抄 | 四六四七 | 〔書類一冊欠本也 巻十欠也〕 〔昭和九年十二月下浣於一誠堂／為口語研究求者也 岸廼舎〕 〔帙裏〕「観無量寿経一冊／古文真宝之抄十二冊／岸廼舎／昭和四十九年大呂十九日／勉誠社寄贈帙 |
| 昭和五〇年乙卯（一九七五） | | | |
| 2月26日 | 法性寺関白詩集（群書類従巻一三〇文筆部九） | 五一一 | 昭和〔四〕〔ミセケチ〕五十年二月廿六日病中／於白州堂にて 岸廼舎 |
| 3月中旬 | 春燈詞 続刊 | 三〇〇 | 昭和五十年三月中旬／（脳血栓中ナリ）（丸括弧内ママ） 岸廼舎 |
| 4月24日 | 菅家寔録 | 二七九三 | 昭和五十年仲呂廿四日／沖森より／岸廼舎識 |
| | 野史竟宴詩歌 | 四七八三 | 昭和五十年仲呂廿四日／沖森書店より 岸廼舎 |
| 7月8日 | *應永本 和泉式部日記（複製本） | 三五〇七 | 此書一部 昭和十年頃受小川寿一氏之寄贈矣而／為東京文理科大学国文学研究所貸失畢、今茲京／都大地書店目錄中見本書存在乃発註書也／昭和五十年七月八日送来／ 脳血栓療養中〔脳血栓中療養〕と書き、「中／療養」に転倒符号を付す） 岸廼舎識 〔昭和12年1月29日発行／趣味講座出版部〕 |

| | | | |
|--------|-------------|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 8月19日 | 近世詩史 | 一四九六 | 昭和四〔四〕に「五」重ね書きしてミセケチ」五十年南呂十九日／北川白州堂にて岸廼舎 |
| 9月5日 | 稜威言別 | 三五五三 | 昭和五十年九月五日 京都白州堂北川店より求む／岸廼舎識 |
| 9月18日 | 曾我物語 | 三四七五 | 〔第五冊〕曾我物語十卷 伊東子爵家〔右傍書（日向沃肥藩主）（大正十三年學習院高等科一年生徒、余授業矣）〕藏本也 元来妙本寺什物／ 後為伊東家之有 昭和五六年之交借覽於學習院／委囑于原田氏影写者也／ 昭和廿二年六月下浣持参于図書寮而製本者也／ 九月八日製本完了 記題簽云／岸廼舎識 ／ 原田穀穂氏肥後住人／史料編纂所写字員、後為學習院図書館司書矣、作詩堪能 祐淳君 日向地方大演習際、供于天覽祐淳氏説明矣／ 余為祐淳君、書説明書矣／昭和四十八年九月十八日、勉誠社撮影於東博内書跡室、／余午後到書跡室 再見 本書原本矣感慨淋漓。／ 但施裏打、改製本（二字ミセケチ）綴而新面目矣 十八日夜記之／岸廼舎 |
| 10月2日 | 俳林小伝（複写製本） | 三九八二 | 俳林小伝 横本一卷 中央大学国文学研究室本也／余曾借覽書而有益之書云云、今茲九月廿六日日本古典文学会合〔補入右傍書会〕ミセケチ、左傍書合〔夜、於同事務所、複写者也。右事務所在山菱美留六階矣、九月廿九日製本〔補入〕ミセケチさらに右傍書了〕焉。／ 昭和五十年十月二日、終結綴、聊記来由矣／ 夜十時二十分也脳血栓未全快則連日碌々、／岸廼舎識 |
| 10月3日 | *菅家須磨記（複製本） | 三五二一 | 此須磨記雖寄贈之記不知何人又何時之寄贈也 故不明所有者、本日雜書／堆裏中見出 本書矣聊記由来／而已 昭和五十年十月三日昏刻／岸廼舎 |
| 10月13日 | 古学辨疑 | 四八九二 | 昭和五十年十月十三日／琳琅閣にて岸廼舎 |
| 1月 | *校定 今鏡読本 | 五一三七 | 〔上卷〕むかし師の翁のすませたまひけん西尾町の／あたりにさ迷ひて今か、み〔今〕ミセケチ）求め出てぬ／ 丙辰春一月 岸廼舎 〔明治29年10月8日／編纂者・関根正直／發行所・六合館書店〕 |

昭和五十一年丙辰（一九七六）

| | | | | |
|-------|----------------------------|------------|----------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 8月 | 今和歌集 | *標注参考 古 | 三九〇一 | 昭和五十一年八月卅一日 北川白洲堂にて 岸廻舎 〔明治38年7月28日十一版／發行所・文学俱樂部／印刷所・東京活版〕 |
| 5月6日 | 長歌軌範 歌格類選 | | 三八九五 三八五二 | 長歌軌範／主文一冊／參攷文二冊／昭和五年八月刊行ノ／長歌軌範三卷 三冊ト同一ナリ／本書ハソノ原本ナルベシ序文モナシ／昭和五十一年五月 六日／京都 白州堂より 岸廻舎 歌格類選／正編二冊／続編二冊／昭和五十一年五月六日／京都白州堂より 岸廻舎 |
| | 詩韻含英異同辨 纂評春草堂詩鈔 鯢山詩稿 | | 四六九〇 一二五〇 一二一九 | 昭和五十一年四月九日／仙台市万葉堂寄贈 岸廻舎 〈巻五表見返〉仙台市万葉堂寄贈 昭和五十一年四月九日 仙台市万葉堂寄贈／岸廻舎／昭和五十一年四月九日 仙台市万葉堂寄贈／岸廻舎 |
| | 翻刻 古詩韻範 宕陰存稿 | | 九〇九 八四〇 | 昭和五十一年四月九日／仙台市万葉堂寄贈／岸廻舎 仙台市萬葉堂寄贈 ^{昭和五十一年四月九日} ／岸廻舎 |
| 4月9日 | 霞村詩鈔 | | 六一一 | 仙台市 萬葉堂寄贈／岸廻舎／昭和五十一年 四月九日／ |
| 3月13日 | 辛酉革命国字解 遺稿 | | 二九六九 | 昭和五十一年三月十三日／山本書店より 岸廻舎識 |
| 3月8日 | 松霽遺稿（松霽 山房遺稿／松霽 | | 九六五 | 昭和五十一年三月八日沖森より／岸廻舎 |
| 2月26日 | 疎梅詩存 春雨樓詩集 | | 一四〇一 一一二五 | 昭和五十一年二月廿六日／高島屋大古書市にて／岸廻舎 昭和五十一年二月廿六日／高島屋大古書市にて／岸廻舎 |
| 2月10日 | 房山樓集 | | 四七四一 | 昭和五十一年二月十日 沖森書店にて求む／岸廻舎 |
| 2月2日 | 結網集 | | 四九〇七 | 昭和五十一年二月二日／其中堂にて 岸廻舎 |

| | | | |
|--------|---------|------|--------------------------------------------------------------------------------------------|
| 11月22日 | *勅点百首詠草 | 三九〇六 | 勅点百首詠草 一冊／羽倉敬尚翁寄贈也／寄贈年月日忘却矣／昭和五十一年十一月廿四日愛住／町藏書推裡見出焉 <small>云云</small> 『 目白橋にて 午後七時 岸廼舎識 |
|--------|---------|------|--------------------------------------------------------------------------------------------|

昭和五二年丁巳(一九七七)

| | | | |
|--------|-------|------|---------------------------------------------------------------------|
| 10月22日 | 心経和歌集 | 三八四四 | 心経和歌集 一卷 借覧久曾神氏本而複写者也／穗久邇文庫藏本歟 稀購之書也 先年借／覽時複写焉 昭和五十二年十月廿二日追憶而記之／岸廼舎 |
|--------|-------|------|---------------------------------------------------------------------|

昭和五三年戊午(一九七八)

| | | | |
|-------|-----------|------|----------------------|
| 3月20日 | *紀家集(複製本) | 五〇九 | 〈解題冊子〉昭和五十三年三月廿日／岸廼舎 |
| 5月31日 | 永平高祖行状記 | 二二二一 | 昭和五十三年五月筵賓晦於琳浪岸廼舎 |

〈付記〉 年紀が錯綜して右の一覧に掲載を見送ってしまったものがある。山岸文庫《三三〇一》の『湖月抄』である。東山文庫本・七毫源氏を校合した一本で、昭和一五年(一九四〇)以前に購入していたものらしいが、その後、昭和二三年頃に吉沢義則が校訂していた東山文庫本を転記・校合したり、三二年・四〇年に再校したり、数次にわたって校合・校訂の手が加えられ、その都度識語が付せられているため、いずれの年次を基準にすべきか定めがない。次にその識語を掲載して、参考に供しておきたい。

なお、二〇一七年六月一〇日の中古文学会関西西部会での口頭発表「山岸徳平博士の『源氏物語』研究一斑——実践女子大学図書館山岸文庫所蔵本の識語調査から」(於大阪府立大学)において、この識語について言及した。

〈桐壺〉〈挟込紙片〉吉沢校訂本ノ見返しナリ／表紙裏ノ文左ノ如シ／

東山御文庫御整理ノ砌／門人数人ノ助力ヲ得テ／御文庫本ニ対校セシ／ム 義則

〈桐壺奥〉以吉沢氏校訂東山文庫本対校了／吉沢本之校訂者未熟者歟、不完全者有之／

昭和廿三年三月廿六日朝 病後〔左傍書・朱書〕風邪也〔安靜中云云〕

〈帚木・前見返〉〔朱書〕以飯島本校訂 朱／

〔墨書〕昭和十五年四月十日ヨリ 得閑少々校訂五月卅日了／〔後記補入〕朱ハ飯島本〔青表紙ヤ

〔青墨〕東山文庫本 以藍色校訂／〔墨書〕昭和廿三年三月廿九日午後開始、二時半外出版來校訂夜十時校了

〔朱書〕以赤鉛筆再校

〈帚木奥〉〔墨書〕昭和四十年四月五日頃再校 和子援助余亦／校訂著^{マツ}十冊也但猶多少誤有脱歟假名漢字。／本文殆

無誤脱歟 〔朱書〕昭和四十年三月十四日夜再校了

〔青墨〕昭和廿三年三月廿九日夜、東山文庫本校了 岸廼舎
校訂本多少〔補入可〕有誤記歟従本而已

〔墨書〕昭和廿五年四月上浣借覽飯島本矣／ 〔朱書〕月下浣一校了／卅日校了ス。

〈空蟬〉〔鉛筆書〕昭和三十二年七月二十三日以東山御文庫本再校了青色□印也／ 東京教育大学大学院 永喜宏識／

〔墨書〕昭和十五年五月卅日一校了／ 午後七時也／ 此本付有河内又青表紙別本也／ 不忍文庫本ニモ不合也

〔葵〕〔墨書〕昭和四十年五六月之交再校了／ 原本之校訂不必完全也 書陵部有／写真可參昭者也 昭和四十年夷則九

日／ 記之 岸廼舎／／

〔朱書〕昭和四十年五月廿四日和子再校了持參

〈墨書〉全 年七月六日夜再校了五月以降閑暇之夜校訂也

〈青墨〉東山文庫本一校了／昭和廿三年三月廿九日朝了廿八日／此頃多用意味之校訂而已也矣